

羽 曳 野 市

障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画

の策定等にかかるアンケート調査

結 果 報 告 書

令和3年3月

羽 曳 野 市

目 次

I 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収状況	1
4. 報告書の見方	2
II 調査結果〔18歳以上の障害のある人に対するアンケート調査〕	3
1. 回答者の属性	3
2. 日常生活の状況	6
3. 障害の状況	14
4. 住まいや暮らしについて	20
5. 日中活動や就労について	22
6. 障害福祉サービス等の利用について	30
7. 通院について	39
8. 地域活動への参加について	41
9. 悩みや相談相手について	43
10. 権利擁護について	46
11. 災害時の避難等について	51
12. 障害福祉行政などについて	55
III 調査結果〔18歳未満の障害のある人に対するアンケート調査〕	58
1. 回答者の属性	58
2. 障害等の状況	61
3. 学校のこと、将来のこと	68
4. 福祉サービス等の利用について	75
5. 権利擁護について	81
6. 災害時の避難等について	85
7. 障害福祉行政などについて	91
8. 主に介助・支援している人について	94
9. 本人の状況と家族について	97
10. 主な介助者の状況	106
IV 調査結果：自由意見〔障害のある人に対するアンケート調査〕	111

V	調査結果〔関係団体アンケート調査〕	112
1.	団体の活動における課題	112
2.	福祉サービス等について	112
3.	発達支援、保育、教育（学校生活など）について	113
4.	就労や社会参加について	113
5.	地域住民組織による地域福祉活動への参加や協力関係について	113
6.	相談支援体制について	114
7.	住まいや生活環境について	114
8.	総合的な推進について	114
VI	調査結果〔事業者アンケート調査〕	115
1.	療育、保健・医療、教育の充実について	115
2.	雇用・就労の支援について	115
3.	福祉サービス等の充実について	116
4.	地域住民組織との関係性の構築について	116
5.	相談支援の充実について	117
6.	総合的な推進について	117
7.	その他、障害者福祉施策全般について	118
VII	資料編（調査票）	119
1.	18歳以上の障害のある人に対するアンケート調査	119
2.	18歳未満の障害のある人に対するアンケート調査	135
3.	関係団体アンケート調査	151
4.	事業者アンケート調査	158

I 調査概要

1. 調査目的

本調査は、市内在住の障害のある方の生活や福祉サービスの利用状況に関する現状や意見を把握し、第4期障害者計画及び第6期障害福祉計画、第2期障害児福祉計画の策定のための基礎資料とするほか、今後、羽曳野市が障害者福祉施策を進める際の参考とするために実施した。

2. 調査設計

(1) 障害のある人に対するアンケート調査

- ・調査対象：羽曳野市内にお住まいの身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者等から無作為抽出
- ・調査方法：郵便
- ・調査期間：令和2年9月17日（木）～令和2年10月2日（金）
（締切後の回答も集約可能分まで反映）

(2) 関係団体アンケート調査

- ・調査対象：羽曳野市内で活動している障害者関係団体
- ・調査方法：郵便及び電子メール
- ・調査期間：令和2年10月27日（火）～令和2年11月5日（木）
（締切後の回答も集約可能分まで反映）

(3) 事業者アンケート調査

- ・調査対象：羽曳野市内における障害福祉サービス提供事業所
- ・調査方法：郵便及び電子メール
- ・調査期間：令和2年10月27日（火）～令和2年11月5日（木）
（締切後の回答も集約可能分まで反映）

3. 回収状況

		発送数	回収数	回収率
障害のある人に対する アンケート調査	18歳以上	2,450人	1,660人	67.8%
	18歳未満	506人	319人	63.0%
関係団体アンケート調査		6団体	2団体	33.3%
事業者アンケート調査		60事業者	32事業者	53.3%

4. 報告書の見方

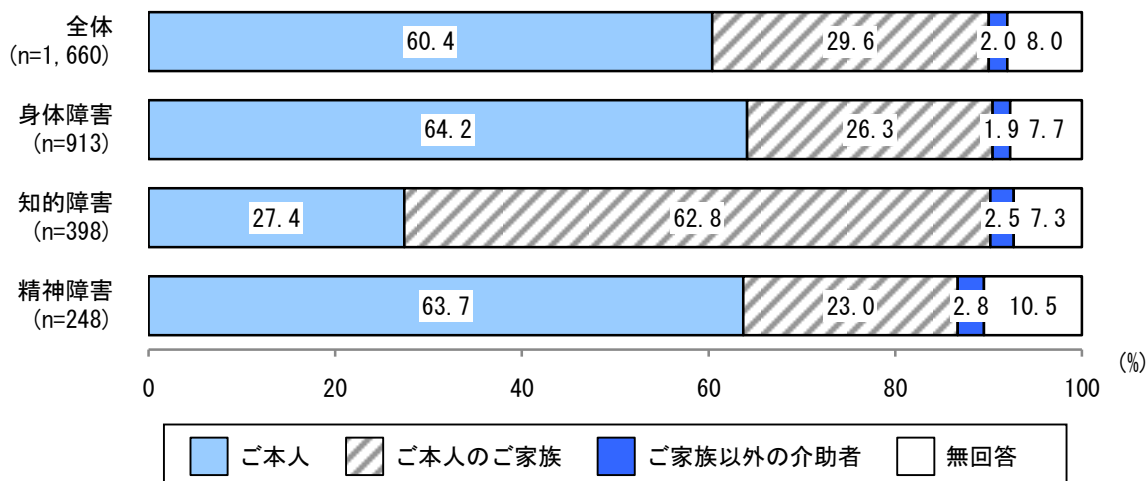
- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③ 図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④ 図表のn値が少ない場合、見方には注意が必要である。

Ⅱ 調査結果〔18歳以上の障害のある人に対するアンケート調査〕

1. 回答者の属性

(1) 調査の回答者

【図1-1 調査の回答者】

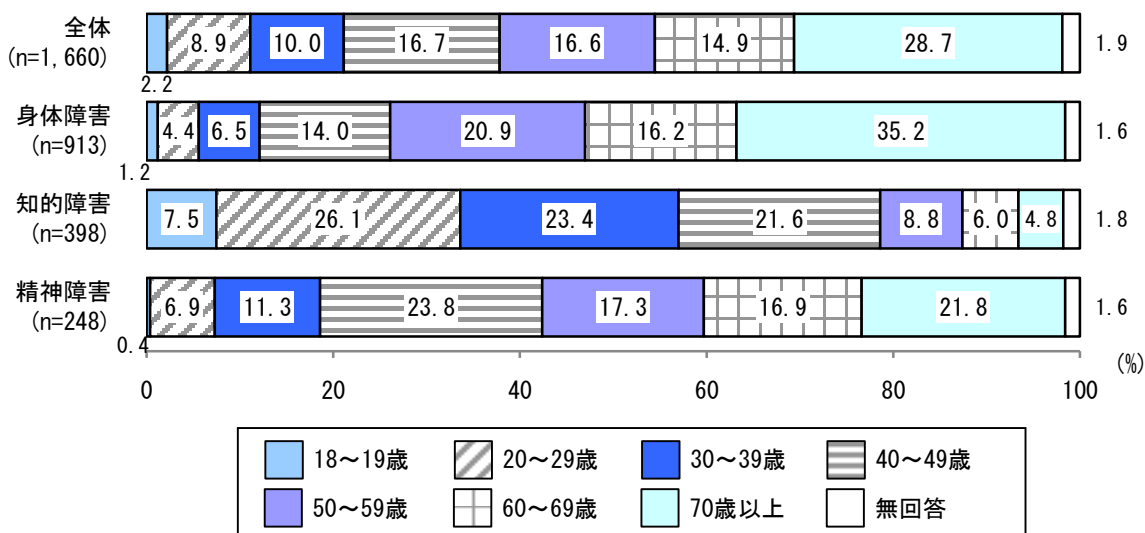


調査の回答者は、「ご本人」が60.4%で最も多く、次いで「ご本人のご家族」が29.6%、「ご家族以外の介助者」が2.0%となっている。

障害種別でみると、知的障害は「ご本人のご家族」(62.8%)が最も多いが、身体障害・精神障害は「ご本人」(身体64.2%、精神63.7%)が最も多くなっている。(図1-1)

(2) 年齢

【図1-2 年齢】

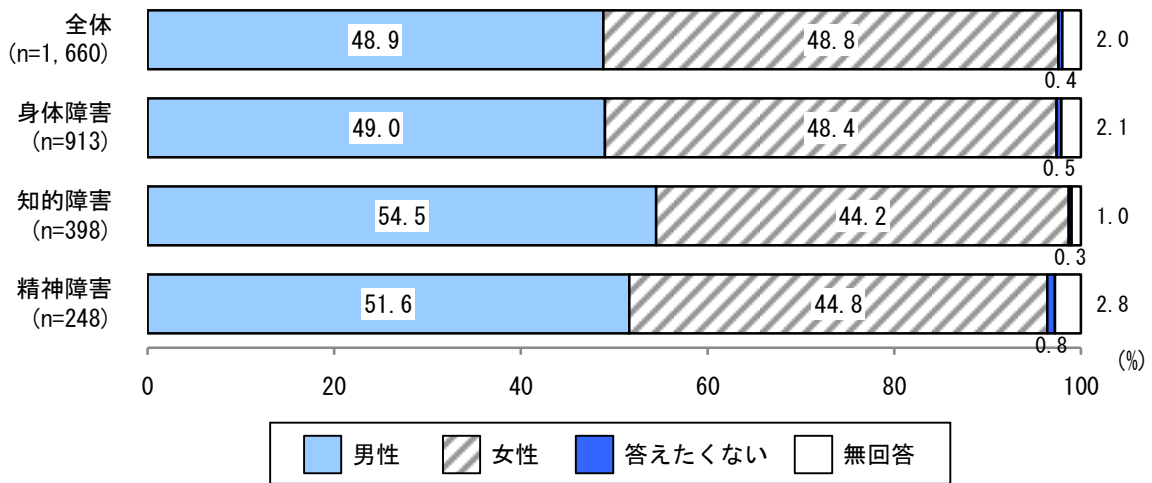


対象者の年齢は、「70歳以上」が28.7%で最も多く、次いで「40~49歳」が16.7%、「50~59歳」が16.6%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「70歳以上」(35.2%)、知的障害は「20~29歳」(26.1%)、精神障害は「40~49歳」(23.8%)が最も多くなっている。(図1-2)

(3) 性別

【図1-3 性別】

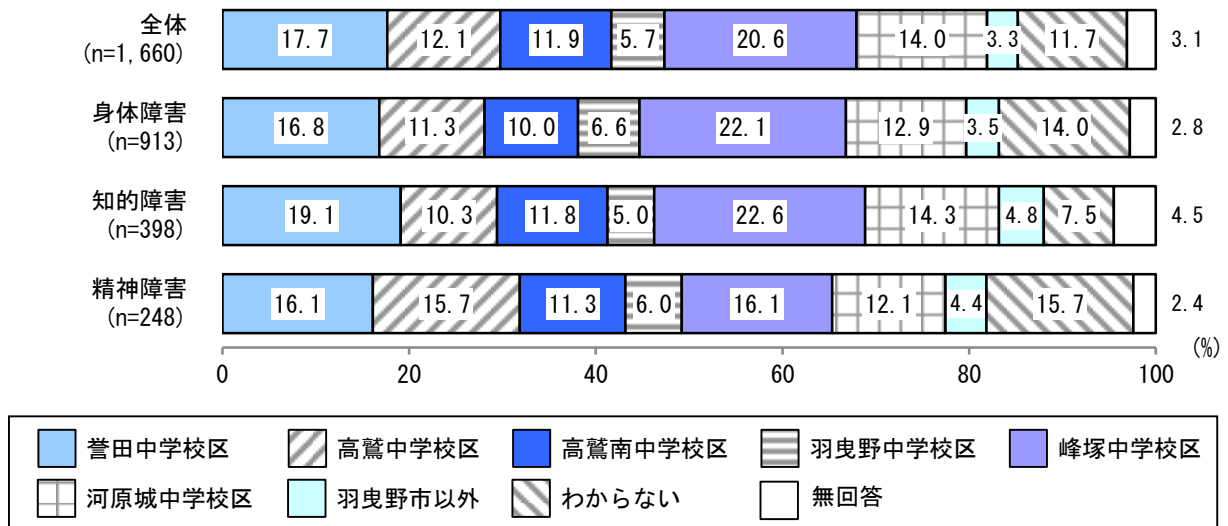


対象者の性別は、「男性」が48.9%、「女性」が48.8%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「男性」が49.0%、「女性」が48.4%、知的障害は「男性」が54.5%、「女性」が44.2%、精神障害は「男性」が51.6%、「女性」が44.8%となっている。(図1-3)

(4) 居住地域

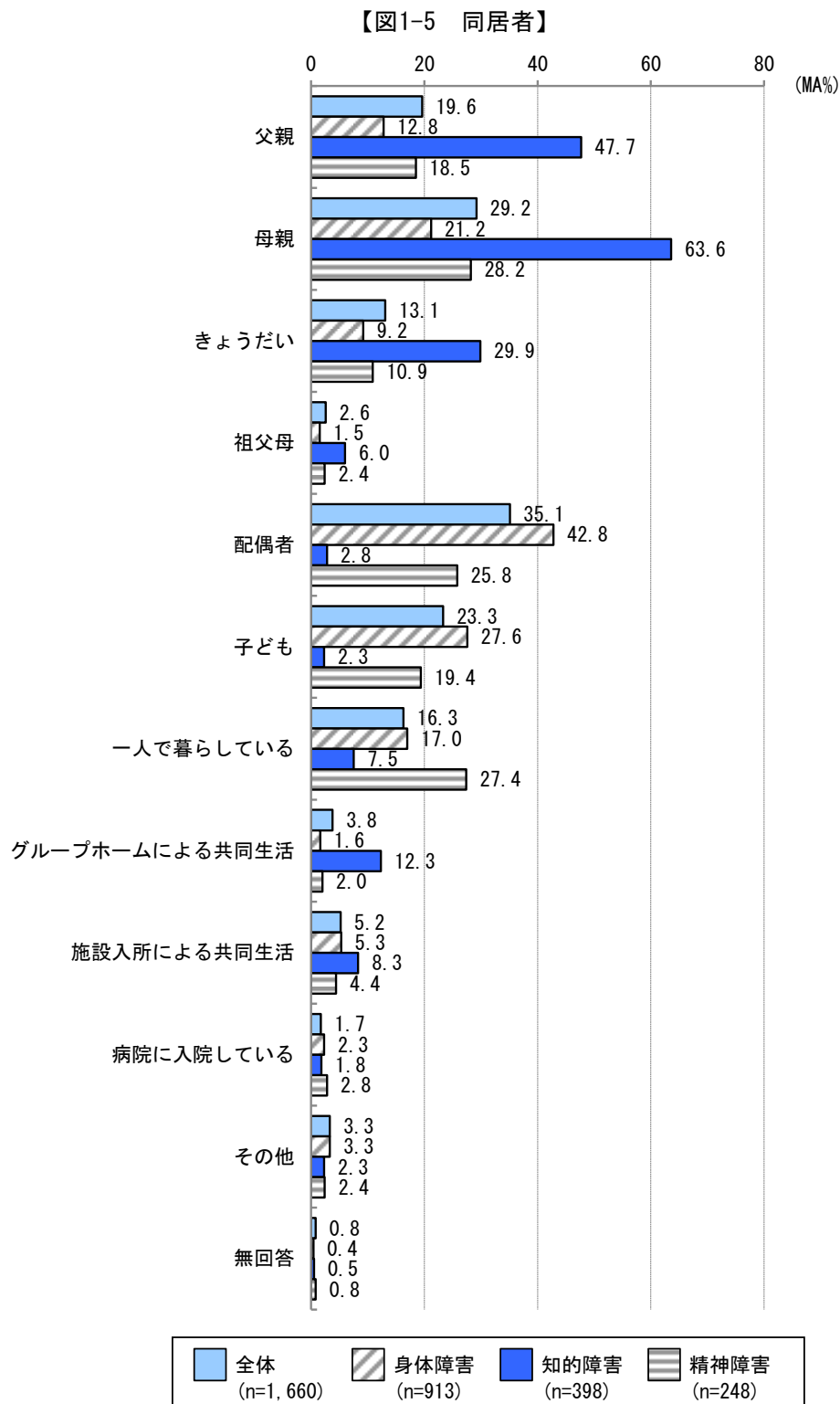
【図1-4 居住地域】



居住地域を中学校区でみると、「峰塚中学校区」が20.6%で最も多く、次いで「誉田中学校区」が17.7%、「河原城中学校区」が14.0%となっている。

障害種別でみると、身体障害・知的障害は、「峰塚中学校区」(身体22.1%、知的22.6%)が最も多く、精神障害は「誉田中学校区」と「峰塚中学校区」がそれぞれ16.1%で最も多くなっている。(図1-4)

(5) 同居者



同居者は、「配偶者」が35.1%で最も多く、次いで「母親」が29.2%、「子ども」が23.3%、「父親」が19.6%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「配偶者」(42.8%)、知的障害・精神障害は「母親」(知的63.6%、精神28.2%)が最も多くなっている。また、「一人で暮らしている」は精神障害(27.4%)で最も高く、身体障害・知的障害に比べて1割以上高くなっている。(図1-5)

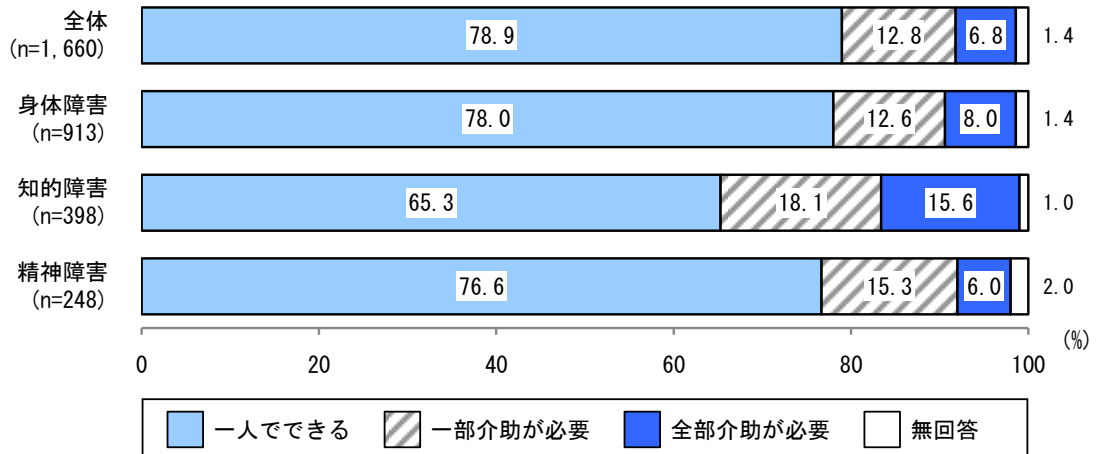
2. 日常生活の状況

(1) 日常生活での自立度

問6 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。(①から⑩それぞれに○を1つずつ)

① 食事

【図2-1-1 日常生活での自立度 ①食事】



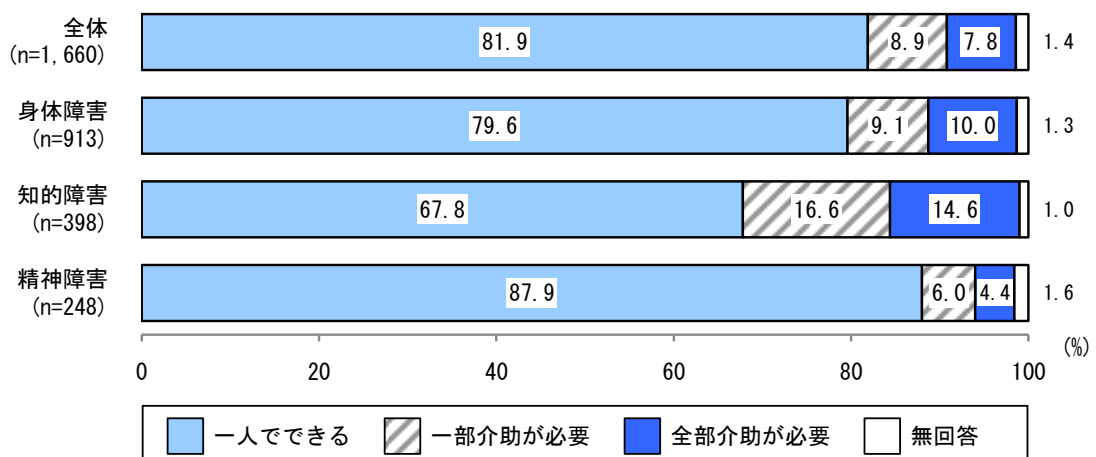
日常生活での自立度についてたずねた。

食事については、「一人でできる」が78.9%で最も多く、次いで「一部介助が必要」が12.8%、「全部介助が必要」が6.8%となっている。

障害種別でみると、いずれも「一人でできる」が6割以上を占めているが、「全部介助が必要」は知的障害（15.6%）で最も高い割合となっている。（図2-1-1）

② トイレ

【図2-1-2 日常生活での自立度 ②トイレ】

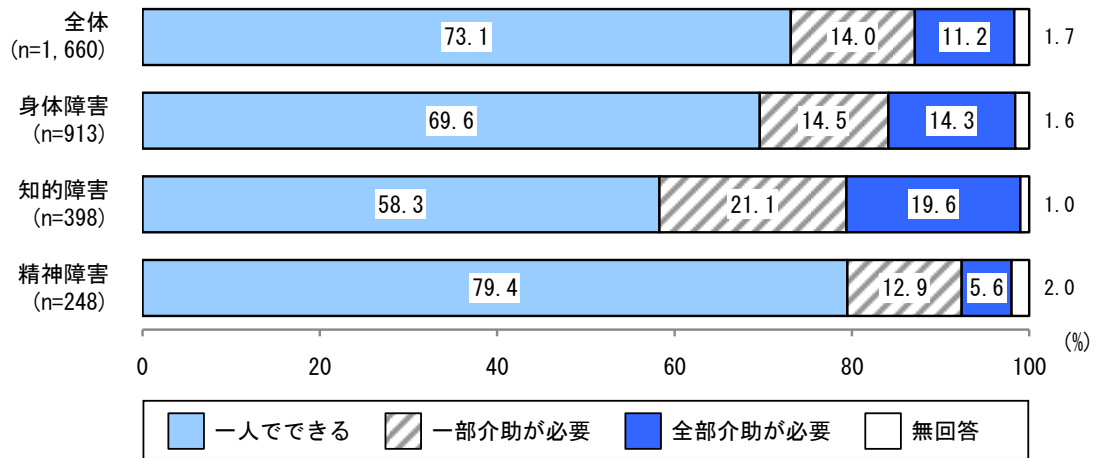


トイレについては、「一人でできる」が81.9%で最も多く、次いで「一部介助が必要」が8.9%、「全部介助が必要」が7.8%となっている。

障害種別でみると、いずれも「一人でできる」が6割以上を占めているが、「全部介助が必要」は知的障害（14.6%）で最も高い割合となっている。（図2-1-2）

③ 入浴

【図2-1-3 日常生活での自立度 ③入浴】

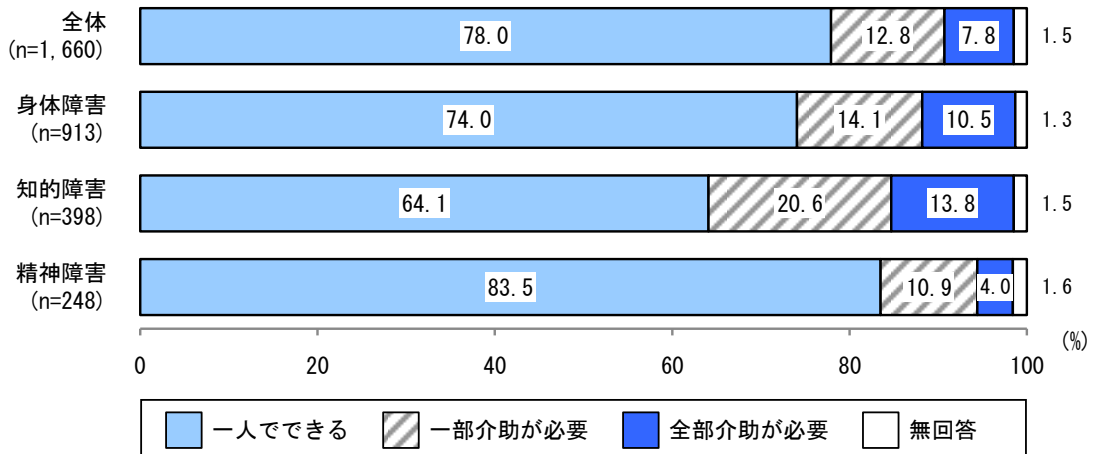


入浴については、「一人でできる」が73.1%で最も多く、次いで「一部介助が必要」が14.0%、「全部介助が必要」が11.2%となっている。

障害種別でみると、いずれも「一人でできる」が5割以上を占めているが、「全部介助が必要」は知的障害（19.6%）で最も高い割合となっている。（図2-1-3）

④ 衣服の着脱

【図2-1-4 日常生活での自立度 ④衣服の着脱】

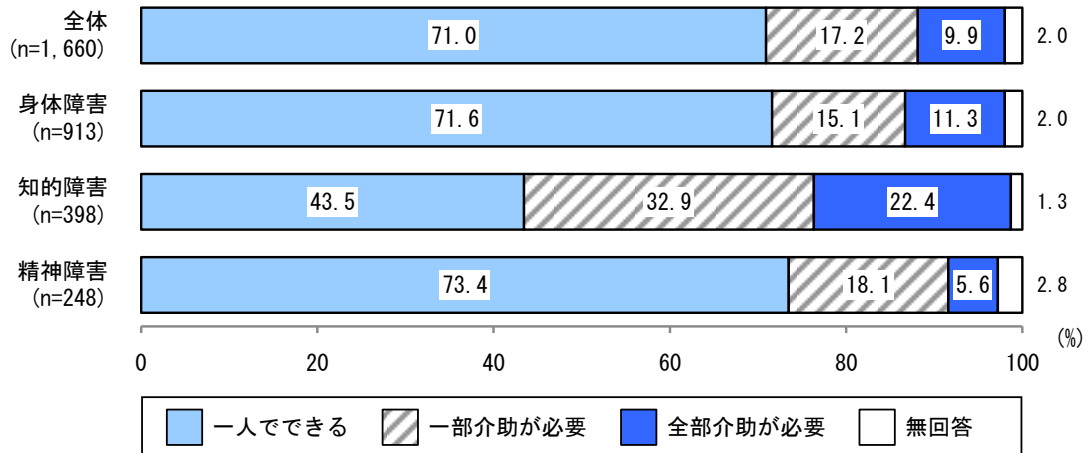


衣服の着脱については、「一人でできる」が78.0%で最も多く、次いで「一部介助が必要」が12.8%、「全部介助が必要」が7.8%となっている。

障害種別でみると、いずれも「一人でできる」が6割以上を占めているが、「全部介助が必要」は知的障害（13.8%）で最も高い割合となっている。（図2-1-4）

⑤ 身だしなみ

【図2-1-5 日常生活での自立度 ⑤身だしなみ】

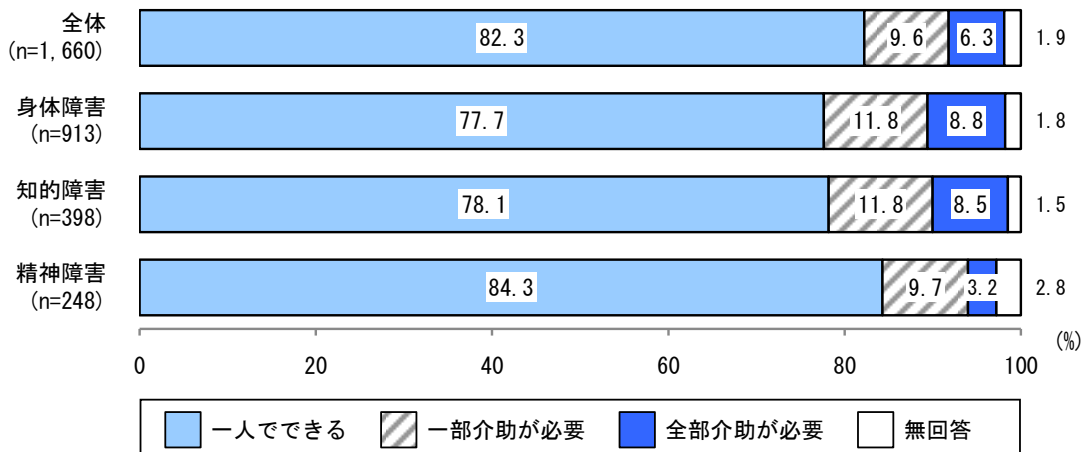


身だしなみについては、「一人できる」が71.0%で最も多く、次いで「一部介助が必要」が17.2%、「全部介助が必要」が9.9%となっている。

障害種別でみると、身体障害・精神障害では「一人できる」(身体71.6%、精神73.4%)が約7割を占めているが、知的障害では43.5%と低く、「一部介助が必要」(32.9%)と「全部介助が必要」(22.4%)が身体障害・精神障害に比べて高くなっている。(図2-1-5)

⑥ 家の中の移動

【図2-1-6 日常生活での自立度 ⑥家の中の移動】

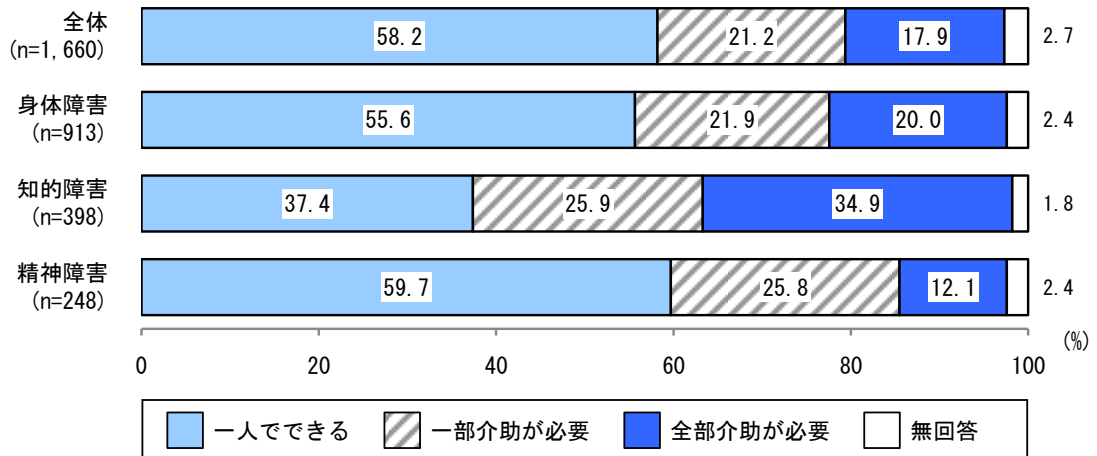


家の中の移動については、「一人できる」が82.3%で最も多く、次いで「一部介助が必要」が9.6%、「全部介助が必要」が6.3%となっている。

障害種別でみても、大きな差はみられない。(図2-1-6)

⑦ 外出

【図2-1-7 日常生活での自立度 ⑦外出】

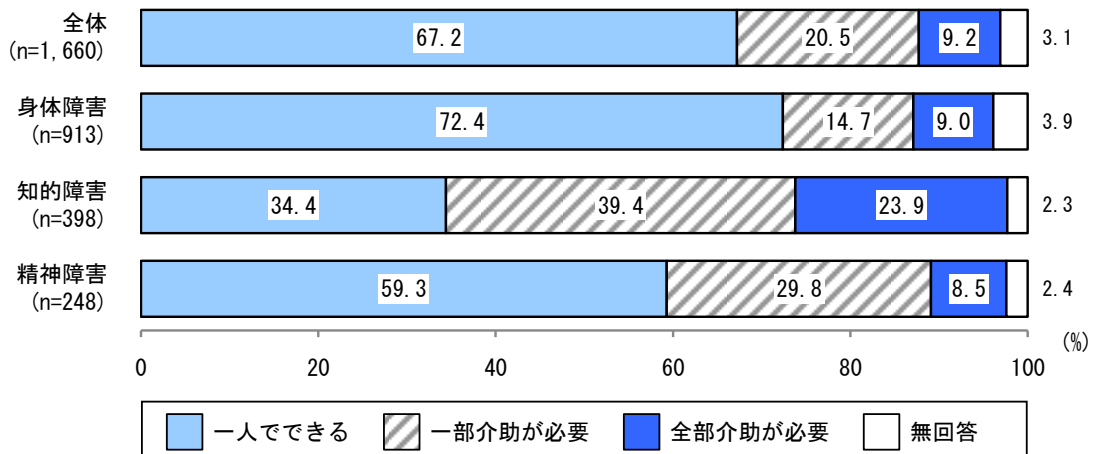


外出については、「一人ができる」が58.2%で最も多く、次いで「一部介助が必要」が21.2%、「全部介助が必要」が17.9%となっている。

障害種別でみると、「全部介助が必要」が知的障害で34.9%と最も多くなっている。(図2-1-7)

⑧ 家族以外の人との意思疎通

【図2-1-8 日常生活での自立度 ⑧家族以外の人との意思疎通】

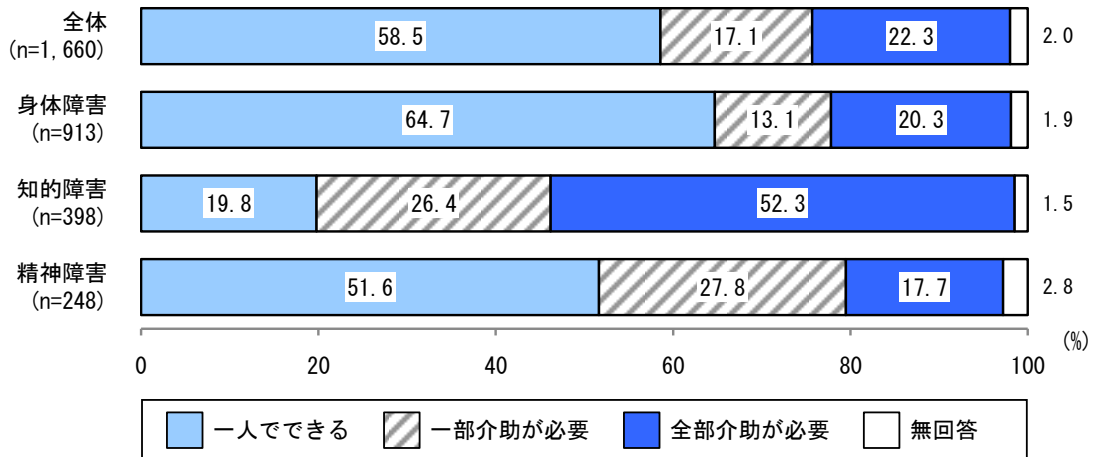


家族以外の人との意思疎通については、「一人ができる」が67.2%で最も多く、次いで「一部介助が必要」が20.5%、「全部介助が必要」が9.2%となっている。

障害種別でみると、知的障害では「一部介助が必要」が39.4%で最も多く、次いで「一人ができる」が34.4%、「全部介助が必要」が23.9%となっている。(図2-1-8)

⑨ お金の管理

【図2-1-9 日常生活での自立度 ⑨お金の管理】

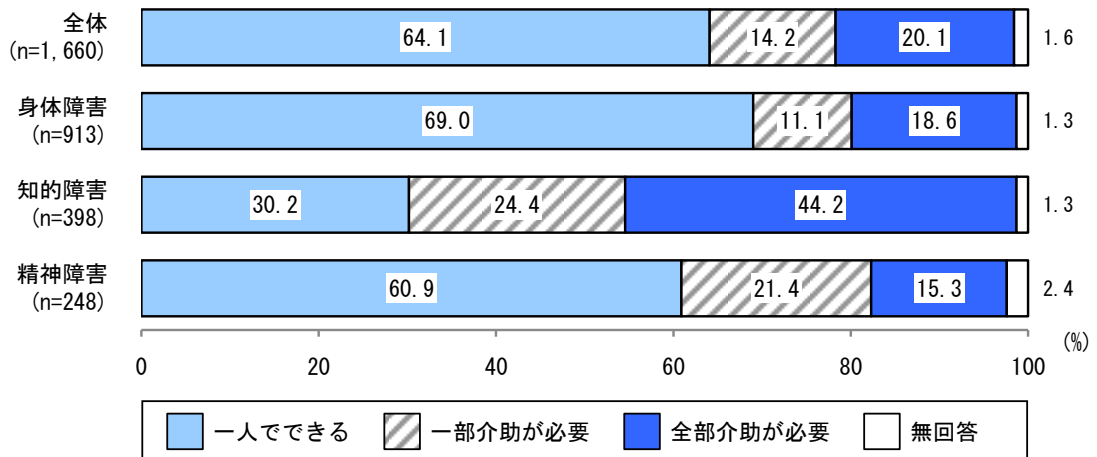


お金の管理については、「一人できる」が58.5%で最も多く、次いで「全部介助が必要」が22.3%、「一部介助が必要」が17.1%となっている。

障害種別でみると、知的障害では「全部介助が必要」が52.3%で最も多く、次いで「一部介助が必要」が26.4%となっている。(図2-1-9)

⑩ 薬の管理

【図2-1-10 日常生活での自立度 ⑩薬の管理】



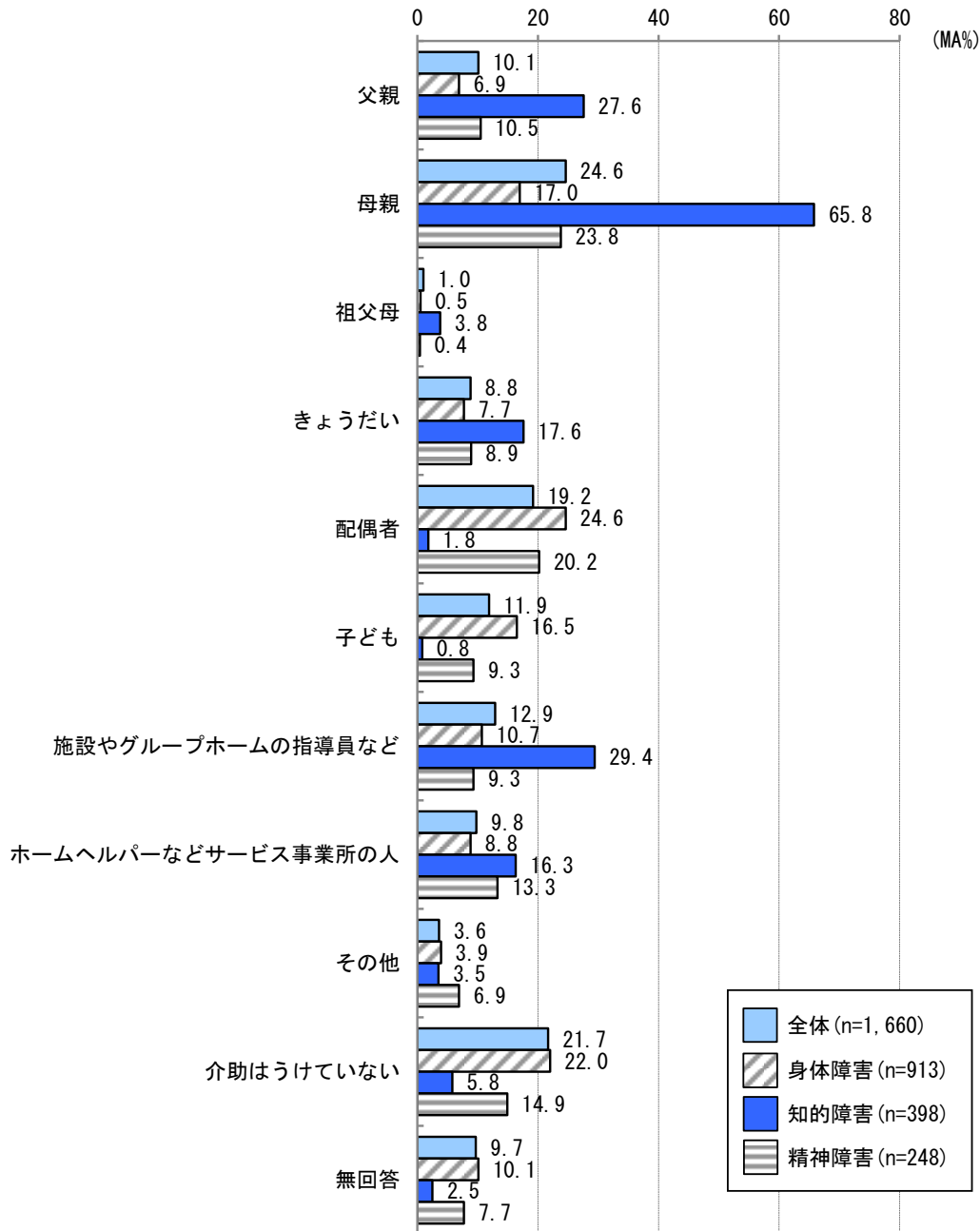
薬の管理については、「一人できる」が64.1%で最も多く、次いで「全部介助が必要」が20.1%、「一部介助が必要」が14.2%となっている。

障害種別でみると、知的障害では「全部介助が必要」が44.2%で最も多く、次いで「一人できる」が30.2%、「一部介助が必要」が24.4%となっている。(図2-1-10)

(2) 主な支援者

問7 あなたが一人でできないことを支援している方は主に誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)

【図2-2 主な支援者】



主な支援者については、「母親」が24.6%で最も多く、次いで「配偶者」が19.2%、「施設やグループホームの指導員など」が12.9%、「子ども」が11.9%となっている。

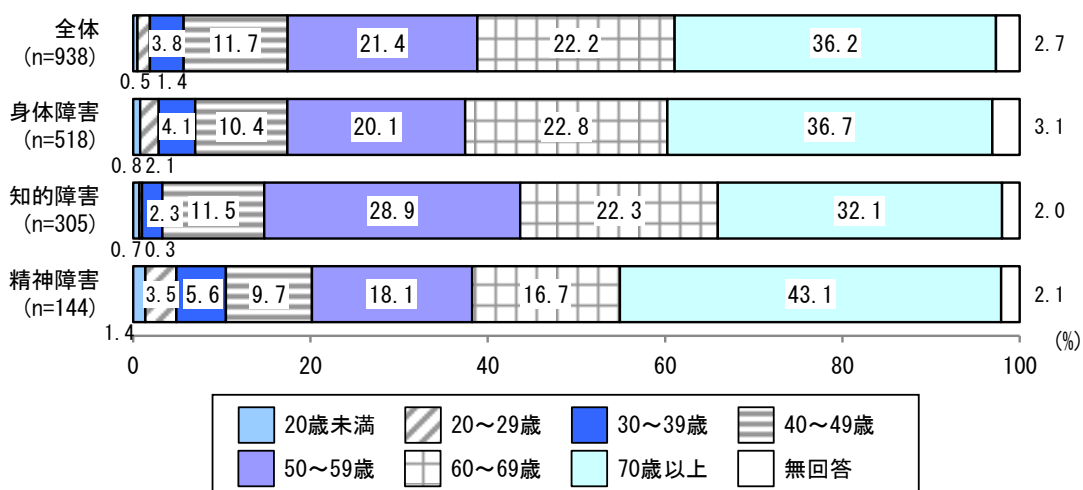
障害種別で見ると、身体障害は「配偶者」が24.6%で最も多く、次いで「母親」が17.0%となっている。知的障害は「母親」が65.8%で最も多く、次いで「施設やグループホームの指導員など」が29.4%、「父親」が27.6%となっている。精神障害は「母親」が23.8%で最も多く、次いで「配偶者」が20.2%、「ホームヘルパーなどサービス事業所の人」が13.3%となっている。(図2-2)

(3) 主な支援者の年齢と健康状態

問8 (問7で1.～6.を答えた方) あなたを支援している家族で、特に中心となっている方の年齢、健康状態をお答えください。

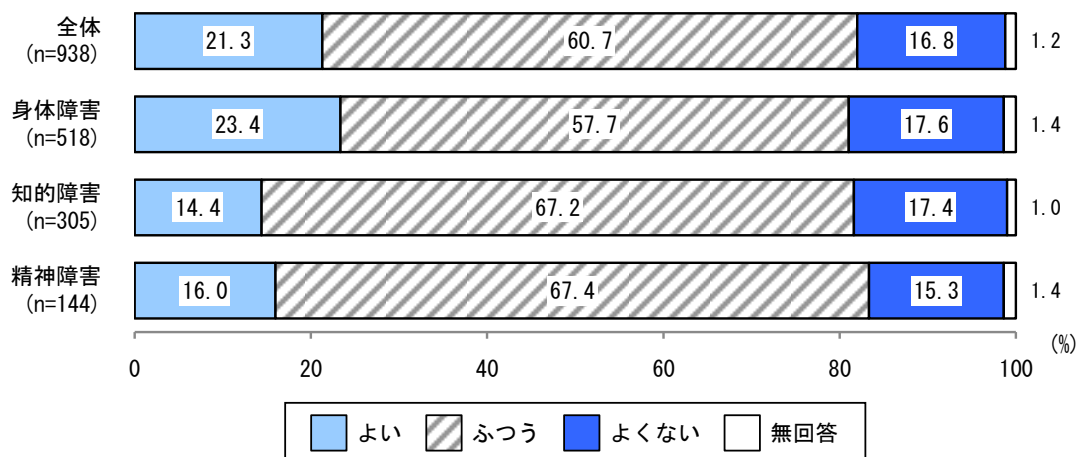
①主な支援者の年齢

【図2-3-1 主な支援者の年齢】



②主な支援者の健康状態

【図2-3-2 主な支援者の健康状態】



主な支援者が家族と回答した人に、特に中心となっている支援者の年齢及び健康状態についてたずねると、年齢は、「70歳以上」が36.2%で最も多く、次いで「60～69歳」が22.2%、「50～59歳」が21.4%となっている。

障害種別でみると、いずれも「70歳以上」が最も多くなっている。(図2-3-1)

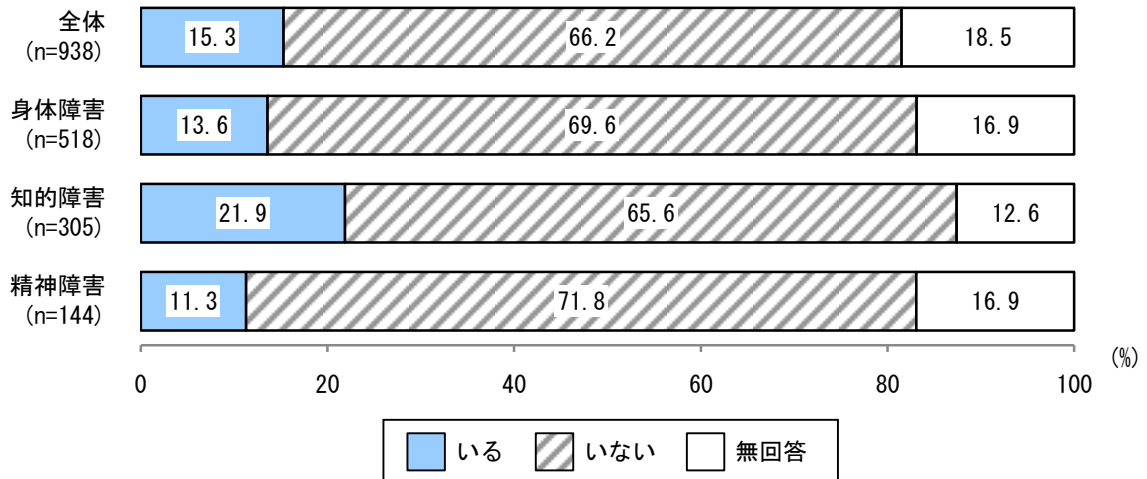
健康状態は、「ふつう」が60.7%で最も多く、次いで「よい」が21.3%、「よくない」が16.8%となっている。

障害種別でみると、「よい」は身体障害(23.4%)で最も高い割合となっている。(図2-3-2)

(4) 同居の家族の中で、本人以外に支援が必要な人の有無

問9 同居の家族の中で、あなた以外に支援を必要とする方はいますか。(〇は1つだけ)

【図2-4 同居の家族の中で、本人以外に支援が必要な人の有無】



同居の家族の中で、本人以外に支援が必要な人の有無については、「いる」が15.3%、「いない」が66.2%となっている。

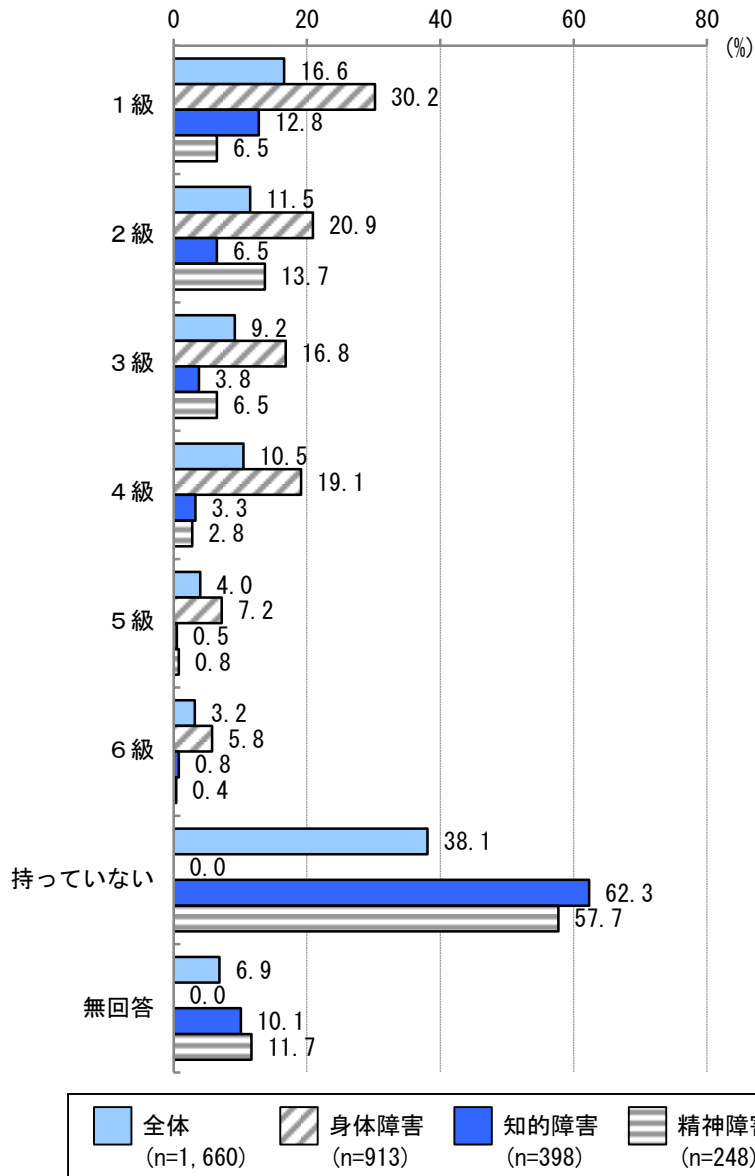
障害種別でみると、「いる」は知的障害（21.9%）で最も高い割合となっている。（図2-4）

3. 障害の状況

(1) 身体障害者手帳の有無

問10 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

【図3-1 身体障害者手帳の有無】



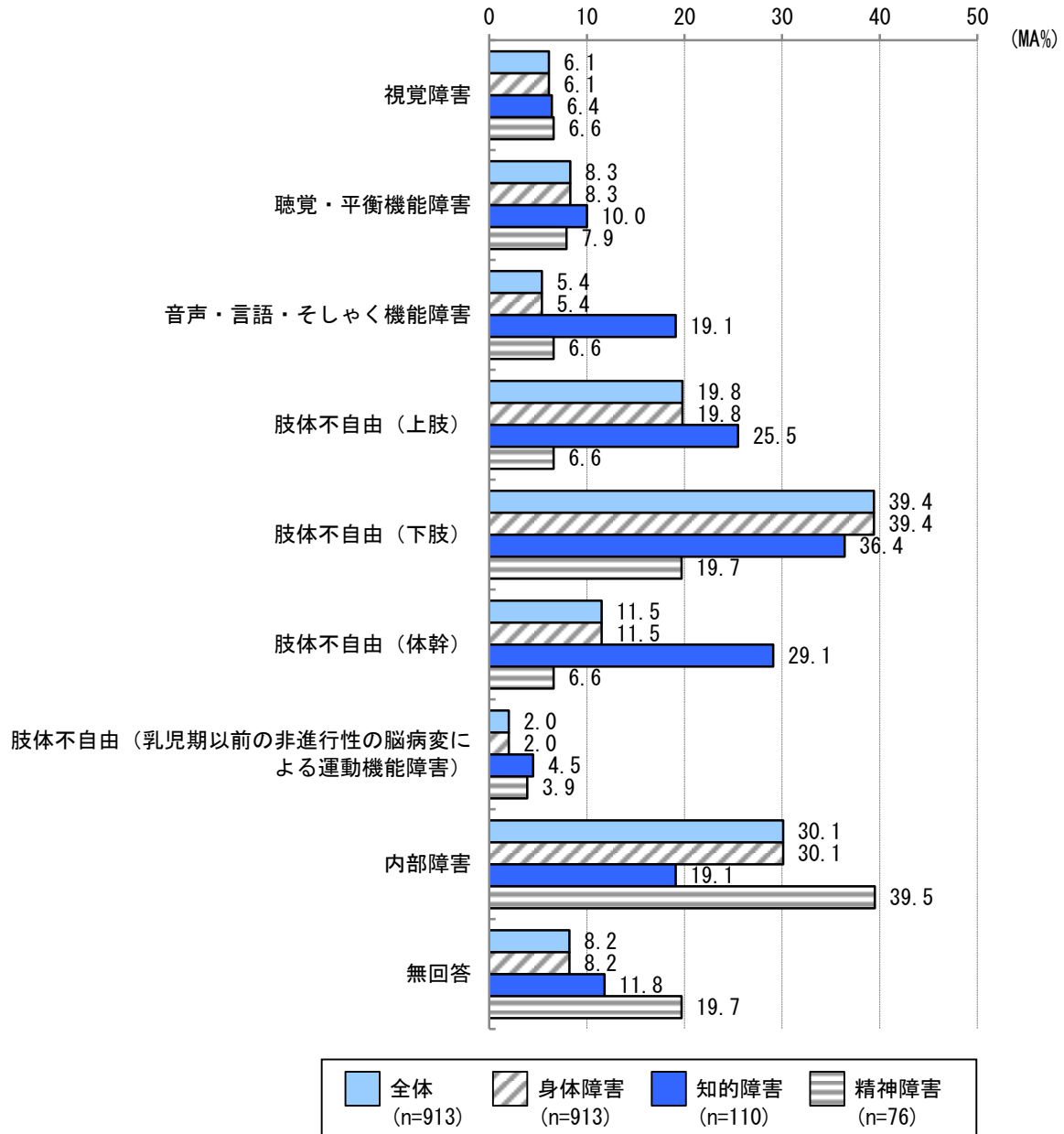
身体障害者手帳の有無については、「持っていない」が38.1%で最も多く、持っている人では「1級」が16.6%で最も多く、次いで「2級」が11.5%、「4級」が10.5%となっている。

障害種別でみると、身体障害では「1級」が30.2%で最も多く、次いで「2級」が20.9%、「4級」が19.1%となっている。(図3-1)

(2) 身体障害の内容

問11 (問10で1.～6.を答えた方) 身体障害者手帳をお持ちの場合、その障害をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

【図3-2 身体障害の内容】



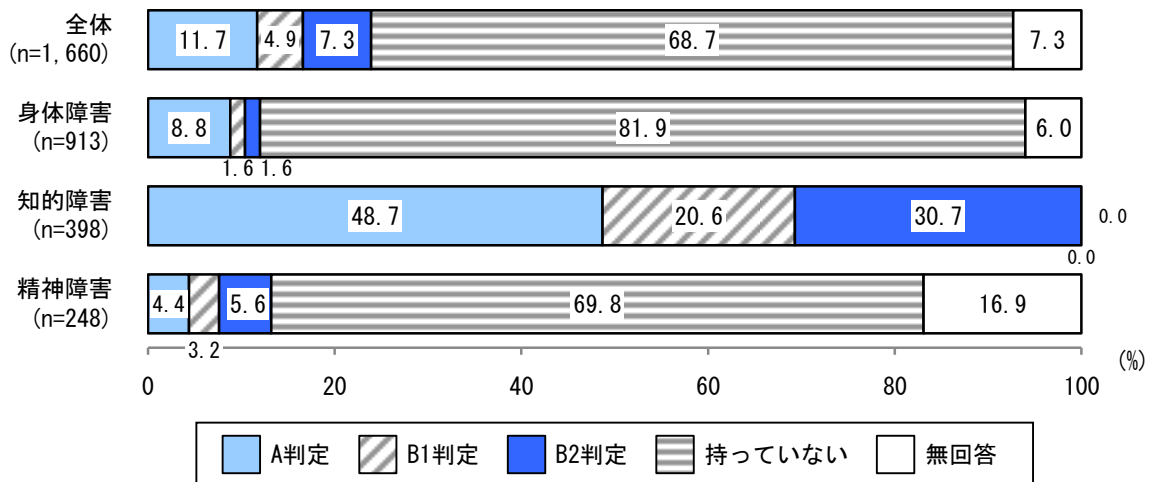
身体障害者手帳を持っていると回答した人に、身体障害の内容についてたずねると、「肢体不自由 (下肢)」が39.4%で最も多く、次いで「内部障害」が30.1%、「肢体不自由 (上肢)」が19.8%、「肢体不自由 (体幹)」が11.5%となっている。

障害種別でみると、身体障害・知的障害では「肢体不自由 (下肢)」(身体39.4%、知的36.4%)が最も多いが、精神障害では「内部障害」が39.5%で最も多くなっている。(図3-2)

(3) 療育手帳の有無

問12 あなたは療育手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

【図3-3 療育手帳の有無】



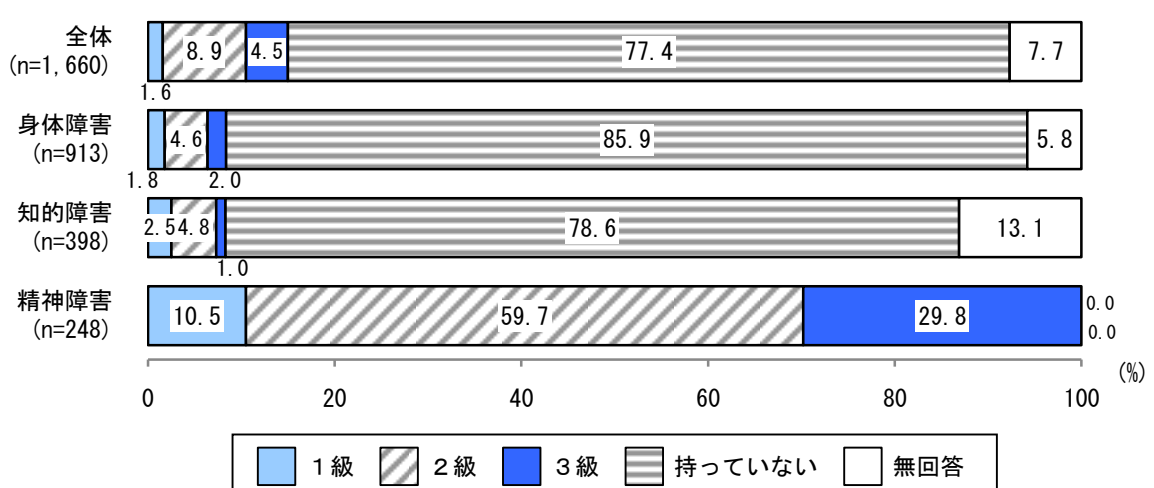
療育手帳の有無については、「持っていない」が68.7%で最も多く、次いで「A判定」が11.7%、「B2判定」が7.3%、「B1判定」が4.9%となっている。

障害種別でみると、知的障害では「A判定」が48.7%で最も多く、次いで「B2判定」が30.7%、「B1判定」が20.6%となっている。(図3-3)

(4) 精神障害者保健福祉手帳の有無

問13 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

【図3-4 精神障害者保健福祉手帳の有無】



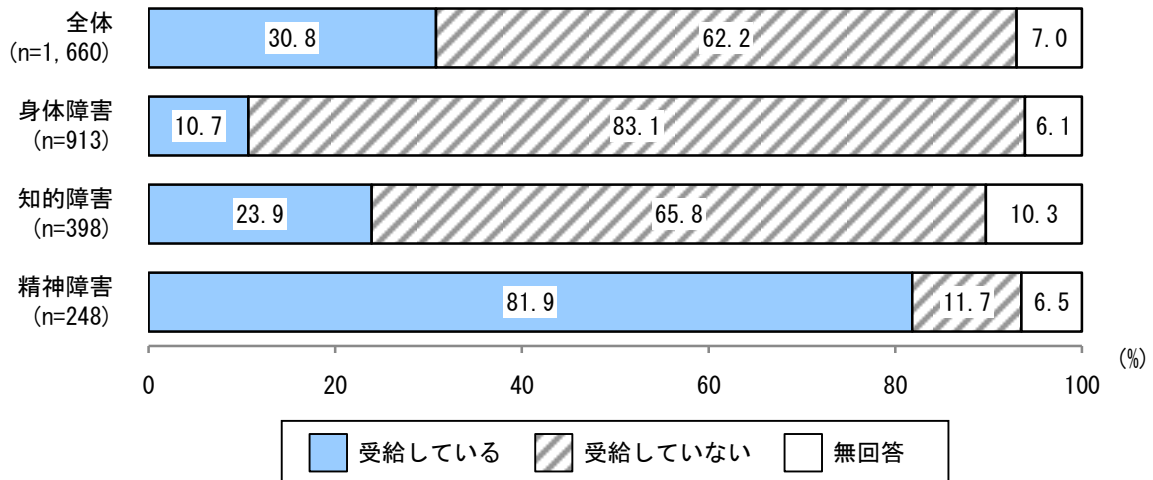
精神障害者保健福祉手帳の有無については、「持っていない」が77.4%で最も多く、次いで「2級」が8.9%、「3級」が4.5%となっている。

障害種別でみると、精神障害では「2級」が59.7%で最も多く、次いで「3級」が29.8%、「1級」が10.5%となっている。(図3-4)

(5) 自立支援医療の受給状況

問14 あなたは自立支援医療（精神通院医療）を受給していますか。（○は1つだけ）

【図3-5 自立支援医療の受給状況】



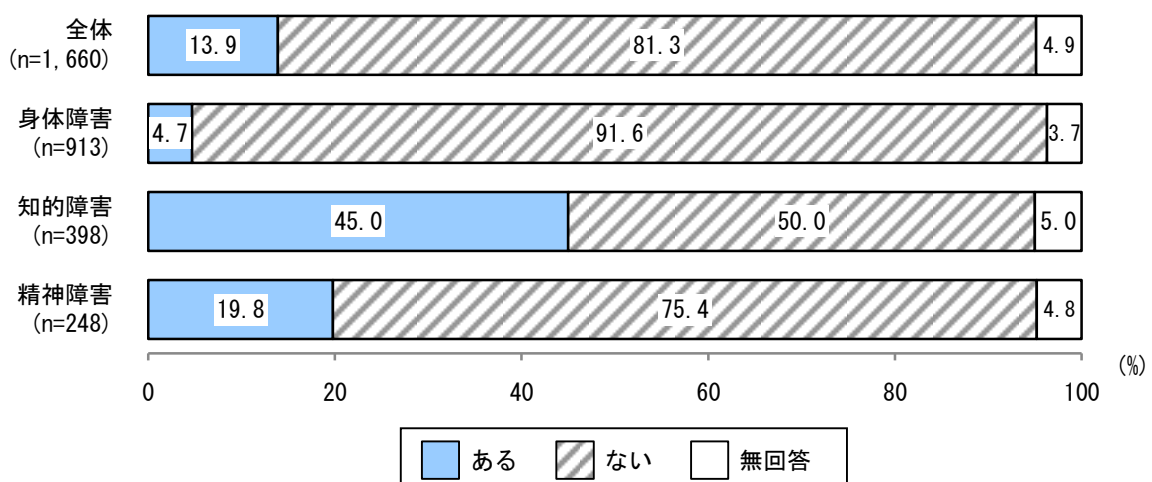
自立支援医療の受給状況については、「受給している」が30.8%、「受給していない」が62.2%となっている。

障害種別でみると、「受給している」は精神障害（81.9%）で最も高く、次いで知的障害（23.9%）、身体障害（10.7%）となっている。（図3-5）

(6) 発達障害の診断

問15 あなたは発達障害と診断されたことがありますか。（○は1つだけ）

【図3-6 発達障害の診断】



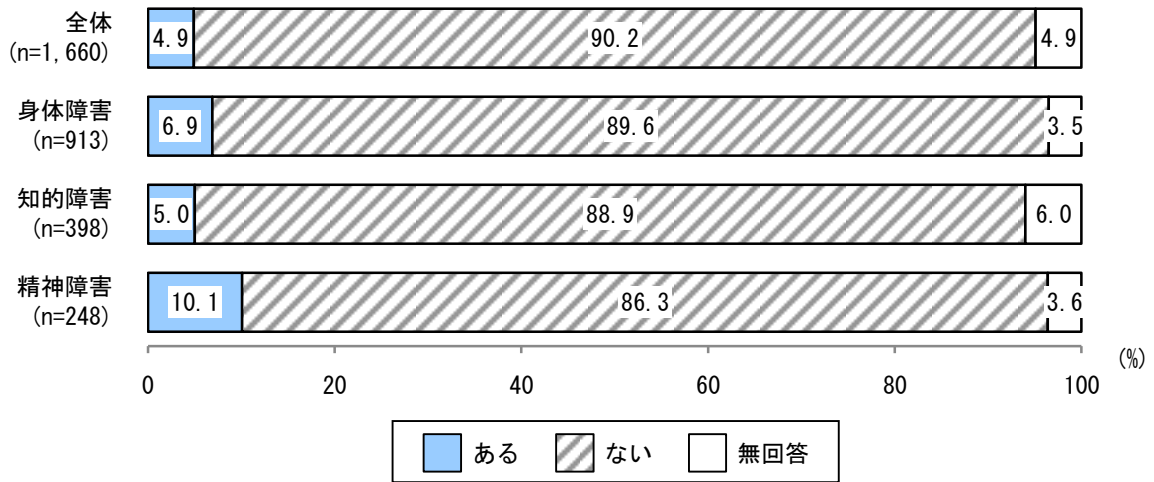
発達障害と診断されたことについては、「ある」が13.9%、「ない」が81.3%となっている。

障害種別でみると、「ある」は知的障害（45.0%）で最も高く、次いで精神障害（19.8%）、身体障害（4.7%）となっている。（図3-6）

(7) 高次脳機能障害の診断

問16 あなたは高次脳機能障害と診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

【図3-7 高次脳機能障害の診断】



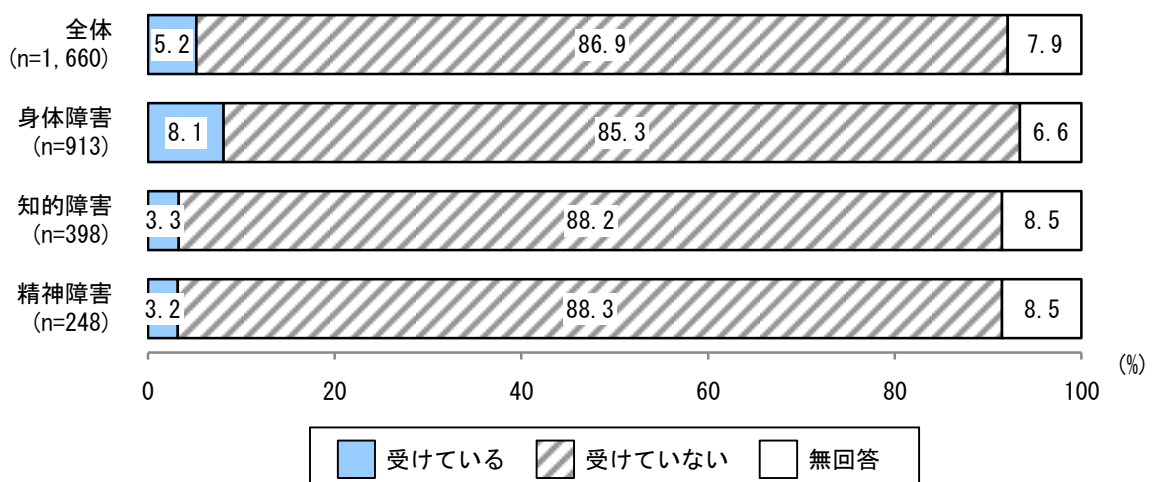
高次脳機能障害と診断されたことについては、「ある」が4.9%、「ない」が90.2%となっている。

障害種別でみると、「ある」は精神障害が10.1%で最も高い割合となっている。(図3-7)

(8) 障害者総合支援法の対象となる疾病の認定

問17 あなたは障害者総合支援法の対象となる疾病（難病）の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

【図3-8 障害者総合支援法の対象となる疾病の認定】



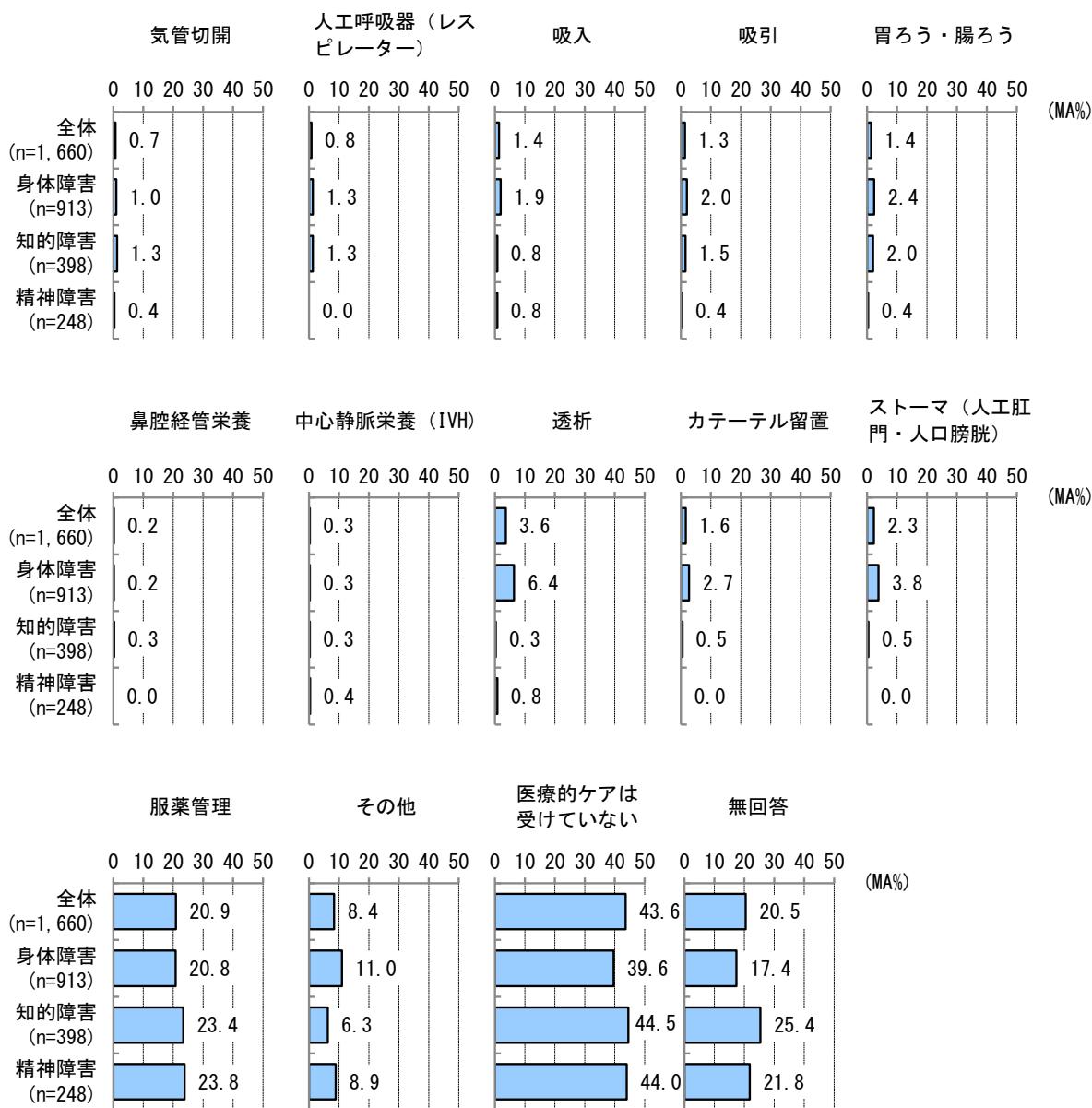
障害者総合支援法の対象となる疾病の認定を受けているかについては、「受けている」が5.2%、「受けていない」が86.9%となっている。

障害種別でみると、「受けている」は身体障害が8.1%で最も高い割合となっている。(図3-8)

(9) 現在受けている医療的ケア

問18 あなたが現在受けている医療的ケアをご回答ください。
(あてはまるものすべてに○)

【図3-9 現在受けている医療的ケア】



現在受けている医療的ケアについては、「服薬管理」が20.9%で最も多く、次いで「透析」が3.6%、「ストーマ (人工肛門・人口膀胱)」が2.3%となっている。一方、「医療的ケアは受けていない」は43.6%となっている。

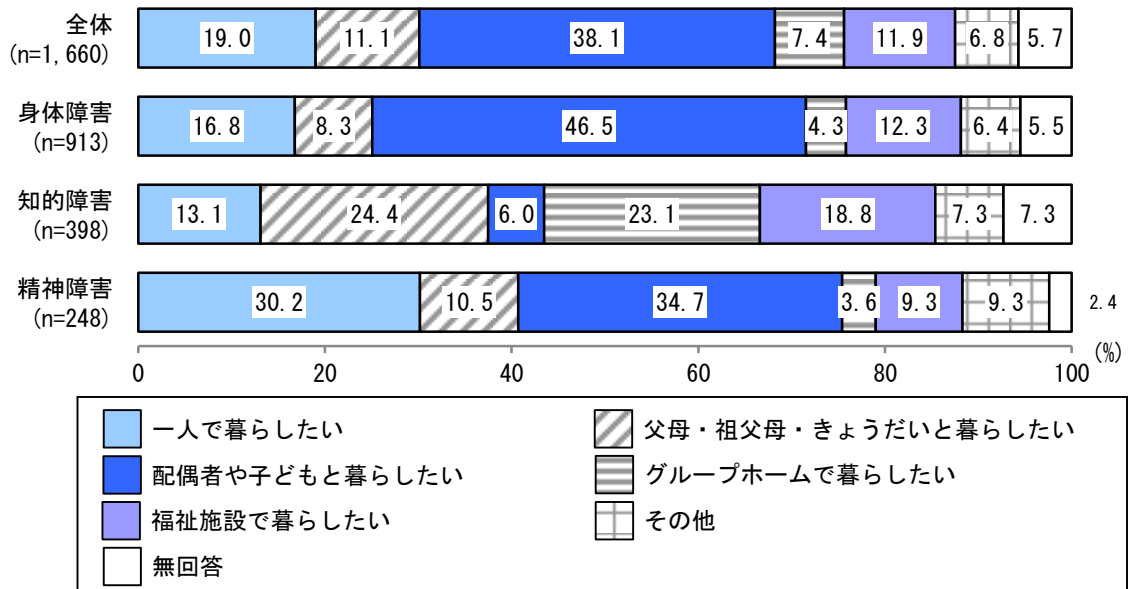
障害種別でみると、いずれも「医療的ケアは受けていない」が最も多いが、受けている医療的ケアでは、いずれも「服薬管理」が最も多くなっている。(図3-9)

4. 住まいや暮らしについて

(1) 将来の暮らしの希望

問19 あなたは将来どのように暮らしたいと思いますか。(○は1つだけ)

【図4-1 将来の暮らしの希望】



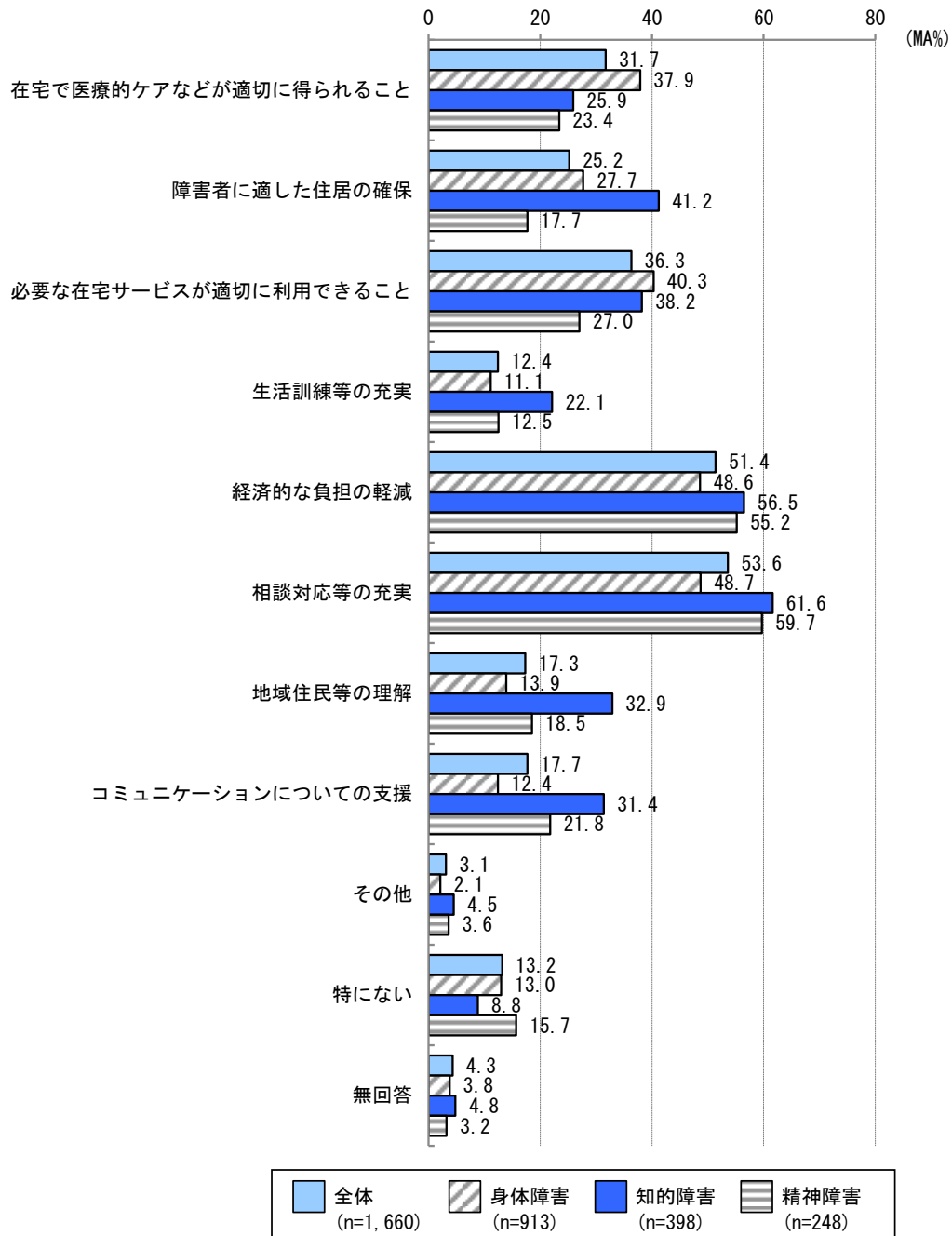
将来どのように暮らしたいかについては、「配偶者や子どもと暮らしたい」が38.1%で最も多く、次いで「一人で暮らしたい」が19.0%、「福祉施設で暮らしたい」が11.9%となっている。

障害種別でみると、身体障害と精神障害は「配偶者や子どもと暮らしたい」（身体46.5%、精神34.7%）が最も多く、次いで「一人で暮らしたい」（身体16.8%、精神30.2%）となっている。知的障害は「父母・祖父母・きょうだいと暮らしたい」が24.4%で最も多く、次いで「グループホームで暮らしたい」が23.1%、「福祉施設で暮らしたい」が18.8%となっている。（図4-1）

(2) 地域で生活するためにあればよい支援

問20 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図4-2 地域で生活するためにあればよい支援】



地域で生活するためにあればよい支援については、「相談対応等の充実」が53.6%で最も多く、次いで「経済的な負担の軽減」が51.4%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が36.3%となっている。

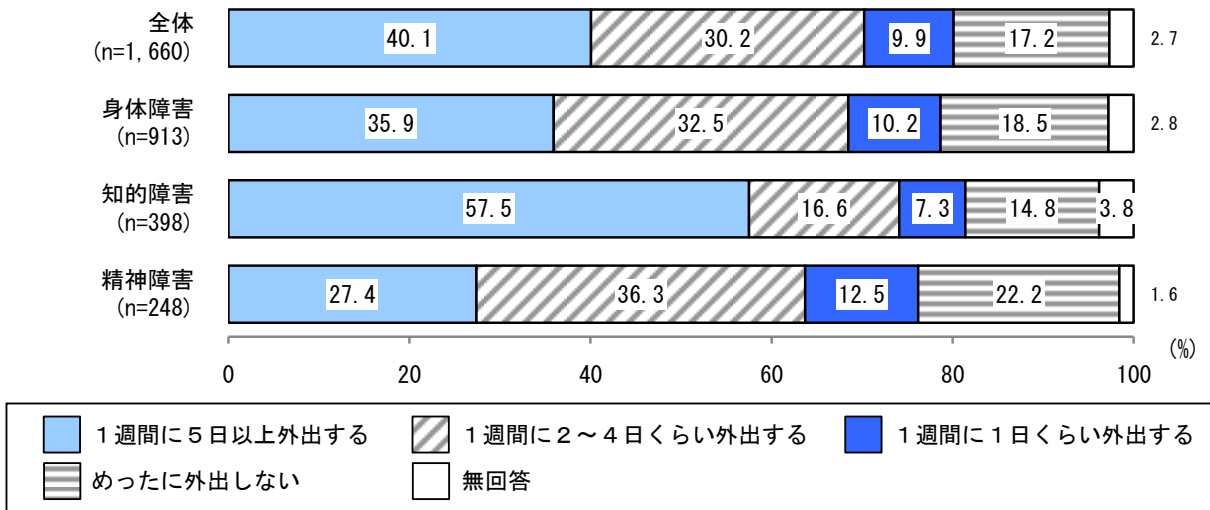
障害種別でみると、いずれも「相談対応等の充実」が最も多く、次いで「経済的な負担の軽減」となっている。また、知的障害では「障害者に適した住居の確保」(41.2%)、「地域住民等の理解」(32.9%)が他の障害に比べて1割以上高くなっている。(図4-2)

5. 日中活動や就労について

(1) 1週間の外出頻度

問21 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(○は1つだけ)

【図5-1 1週間の外出頻度】



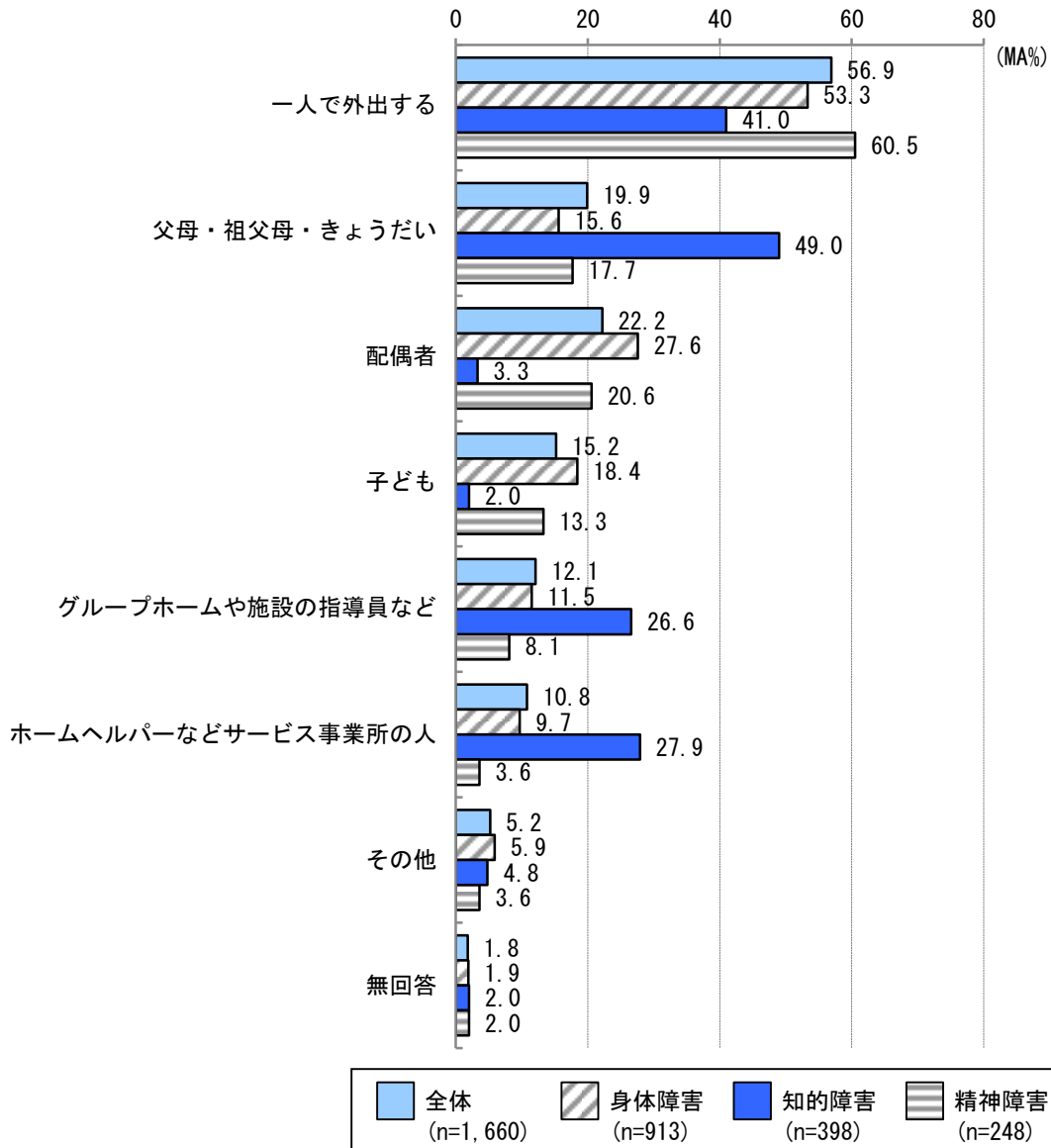
1週間の外出頻度については、「1週間に5日以上外出する」が40.1%で最も多く、次いで「1週間に2～4日くらい外出する」が30.2%、「めったに外出しない」が17.2%、「1週間に1日くらい外出する」が9.9%となっている。

障害種別でみると、身体障害・知的障害では「1週間に5日以上外出する」(身体35.9%、知的57.5%)が最も多く、精神障害では「1週間に2～4日くらい外出する」(36.3%)が最も多くなっている。一方、「めったに外出しない」は精神障害(22.2%)で最も高い割合となっている。(図5-1)

(2) 一緒に外出する人

問22 あなたは、外出する際に、誰と外出することが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

【図5-2 一緒に外出する人】

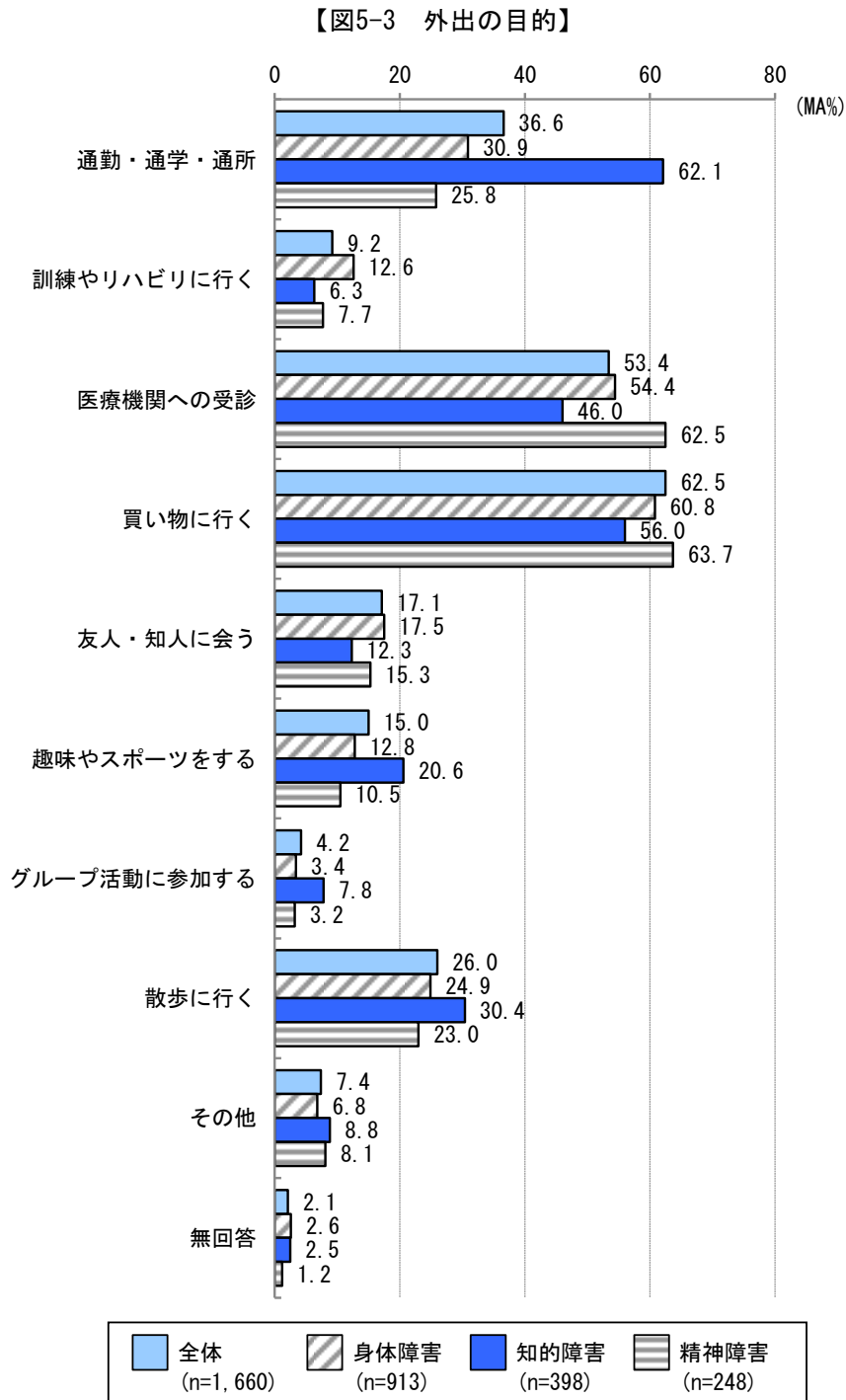


一緒に外出する人については、「一人で外出する」が56.9%で最も多く、次いで「配偶者」が22.2%、「父母・祖父母・きょうだい」が19.9%となっている。

障害種別でみると、身体障害・精神障害は「一人で外出する」(身体53.3%、精神60.5%)が最も多いが、知的障害では「父母・祖父母・きょうだい」(49.0%)が最も多く、「ホームヘルパーなどサービス事業所の人」(27.9%)や「グループホームや施設の指導員など」(26.6%)も他の障害に比べて高い割合となっている。(図5-2)

(3) 外出の目的

問23 どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)



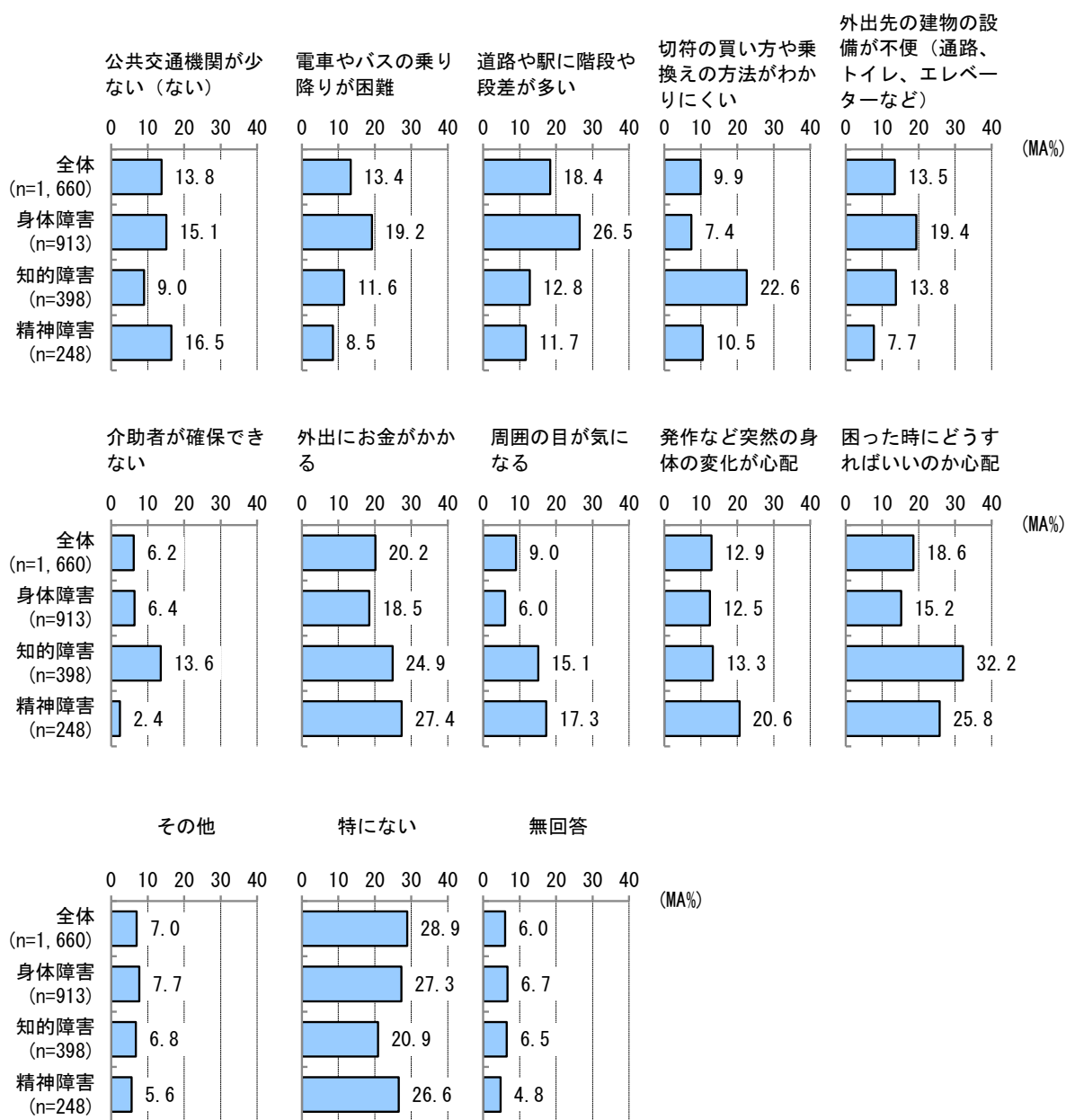
外出の目的については、「買い物に行く」が62.5%で最も多く、次いで「医療機関への受診」が53.4%、「通勤・通学・通所」が36.6%となっている。

障害種別でみると、身体障害・精神障害は「買い物に行く」(身体60.8%、精神63.7%)が最も多く、知的障害では「通勤・通学・通所」が62.1%で最も多くなっている。(図5-3)

(4) 外出する時に困ること

問24 外出する時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図5-4 外出する時に困ること】



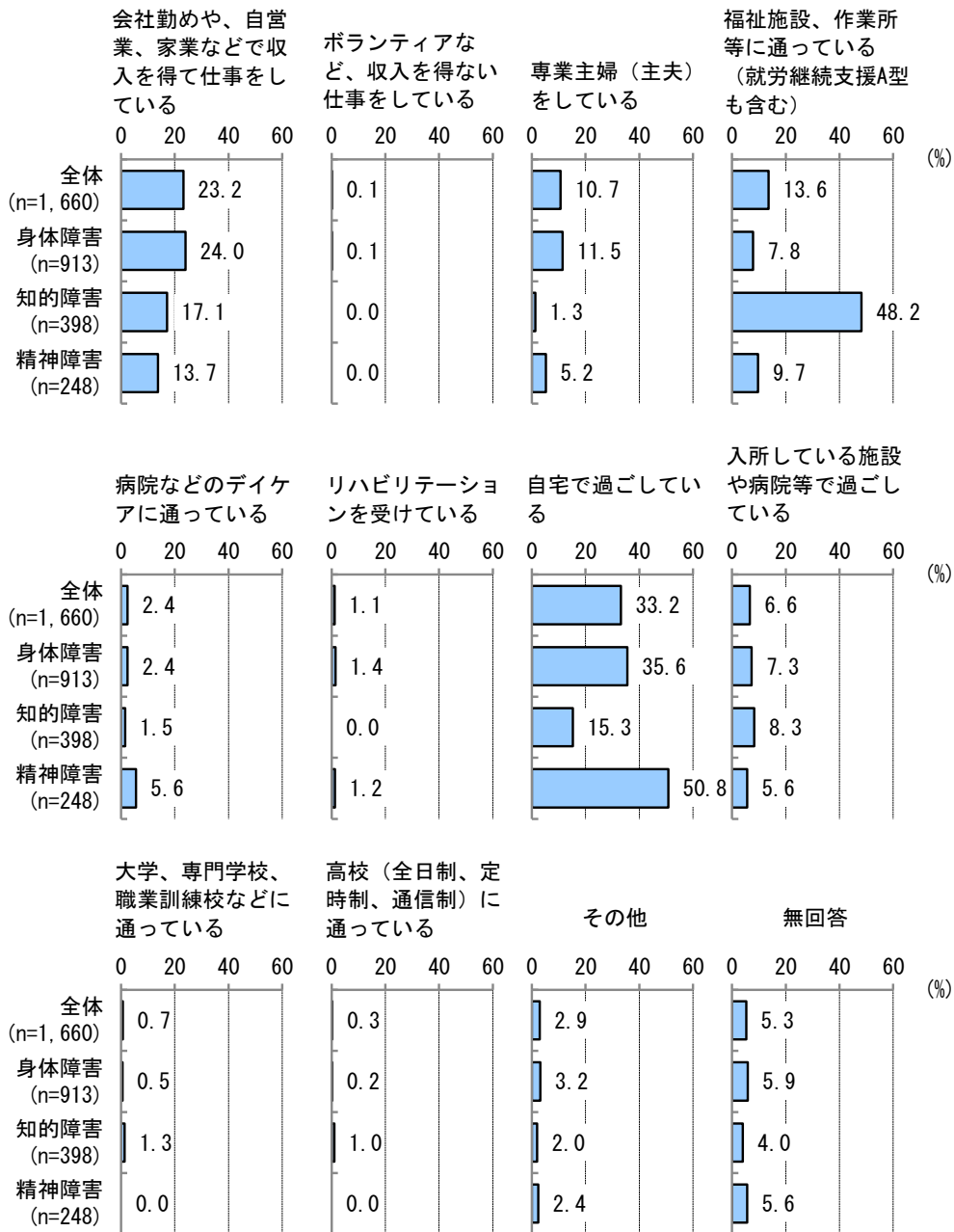
外出する時に困ることについては、「外出にお金がかかる」が20.2%で最も多く、次いで「困った時にどうすればいいの心配」が18.6%、「道路や駅に階段や段差が多い」が18.4%となっている。一方、「特にない」は28.9%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「道路や駅に階段や段差が多い」が26.5%で最も多く、次いで「外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)」が19.4%となっている。知的障害は「困った時にどうすればいいの心配」が32.2%で最も多く、次いで「外出にお金がかかる」が24.9%となっている。精神障害は「外出にお金がかかる」が27.4%で最も多く、次いで「困った時にどうすればいいの心配」が25.8%となっている。(図5-4)

(5) 平日の日中の過ごし方

問25 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つだけ)

【図5-5 平日の日中の過ごし方】



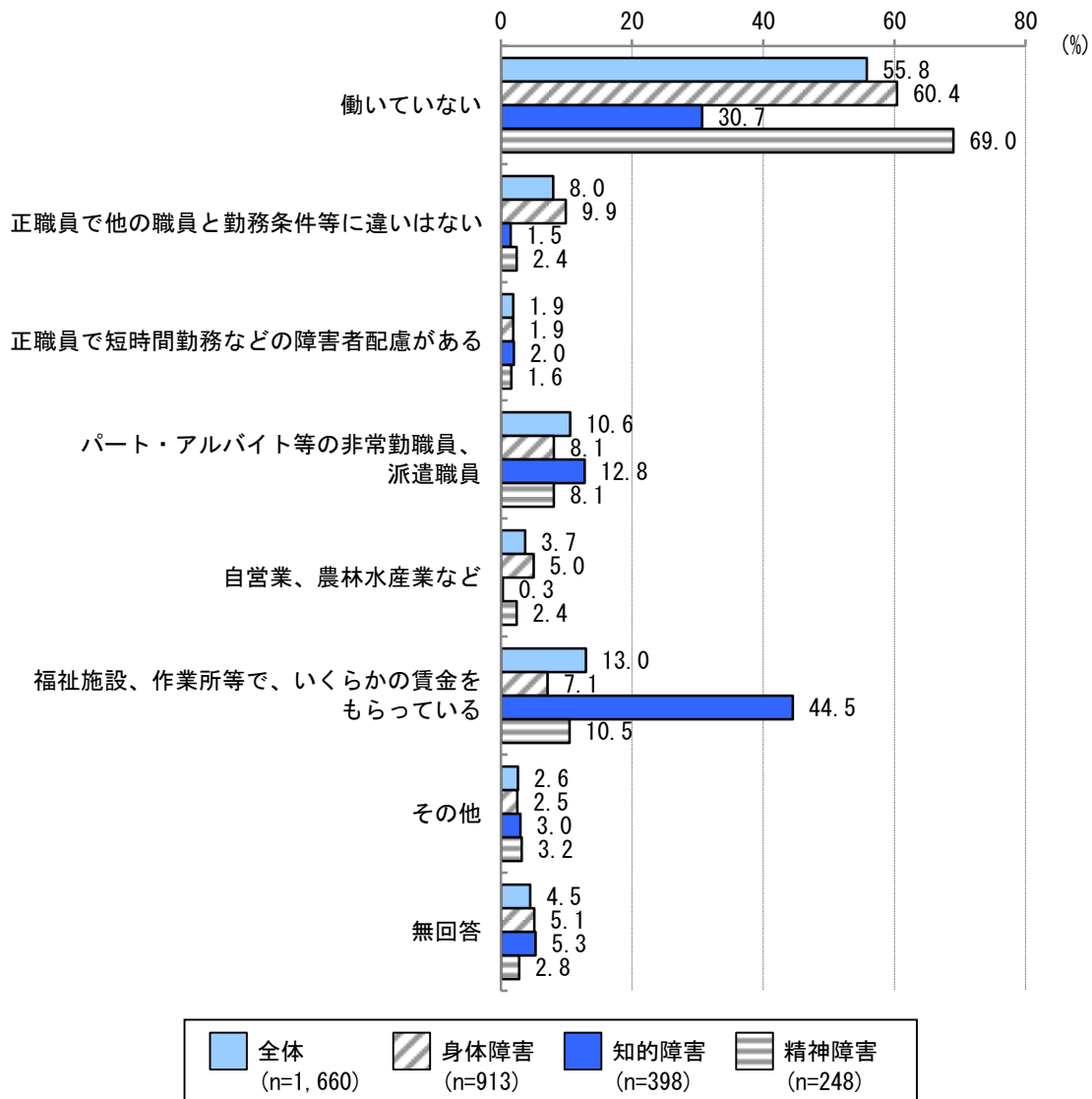
平日の日中の過ごし方については、「自宅で過ごしている」が33.2%で最も多く、次いで「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が23.2%、「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が13.6%となっている。

障害種別でみると、身体障害・精神障害は「自宅で過ごしている」（身体35.6%、精神50.8%）が最も多く、知的障害では「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」（48.2%）が最も多くなっている。（図5-5）

(6) 勤務形態

問26 あなたは、どのような勤務形態で働いていますか。(○は1つだけ)

【図5-6 勤務形態】



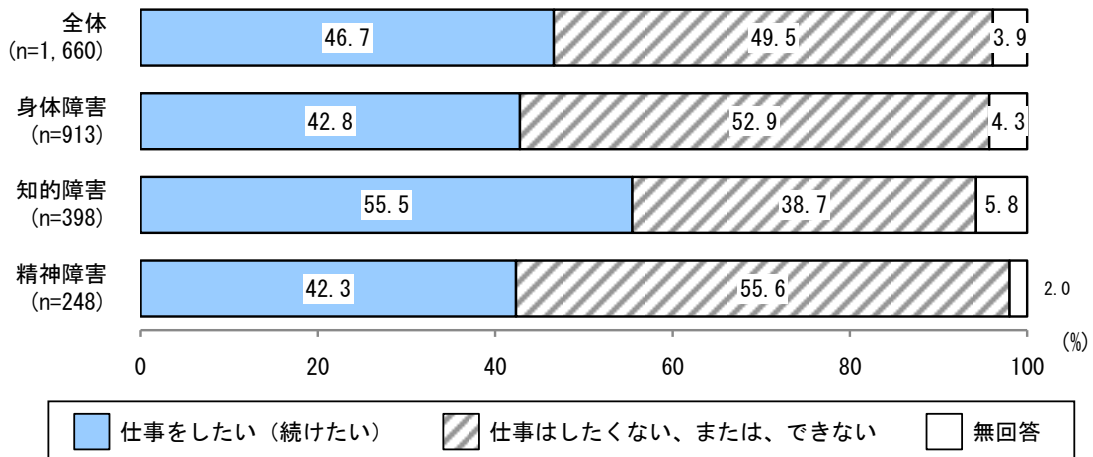
勤務形態については、「働いていない」が55.8%で最も多く、次いで「福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている」が13.0%、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が10.6%となっている。

障害種別でみると、身体障害・精神障害は「働いていない」（身体60.4%、精神69.0%）が最も多く、知的障害では「福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている」（44.5%）が最も多くなっている。（図5-6）

(7) 今後、収入を得る仕事の希望

問27 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(○は1つだけ)

【図5-7 今後、収入を得る仕事の希望】

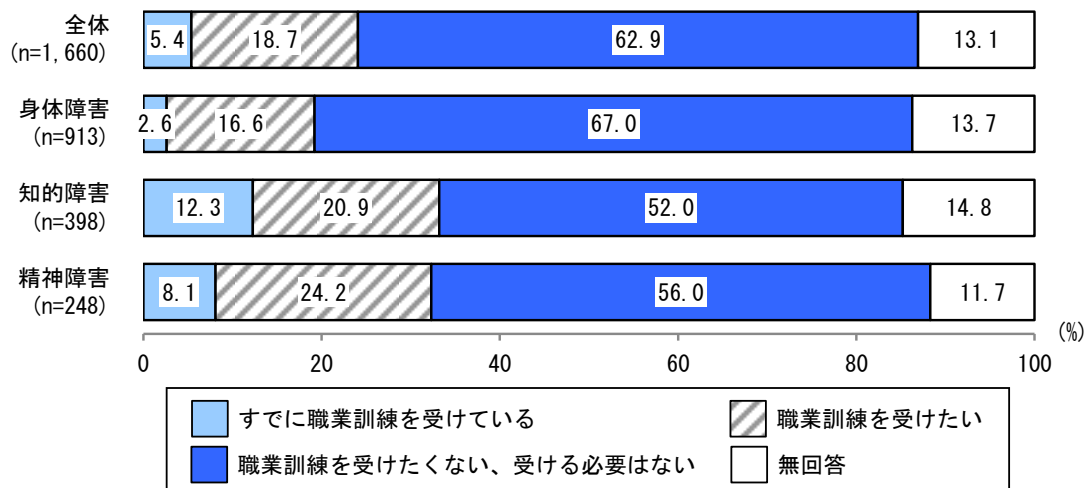


今後、収入を得る仕事をしたいかについては、「仕事をしたい (続けたい)」が46.7%、「仕事はしたくない、または、できない」が49.5%となっている。
 障害種別でみると、「仕事をしたい (続けたい)」は知的障害が55.5%で最も高い割合となっている。(図5-7)

(8) 職業訓練の希望

問28 収入を得る仕事を得るために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(○は1つだけ)

【図5-8 職業訓練の希望】

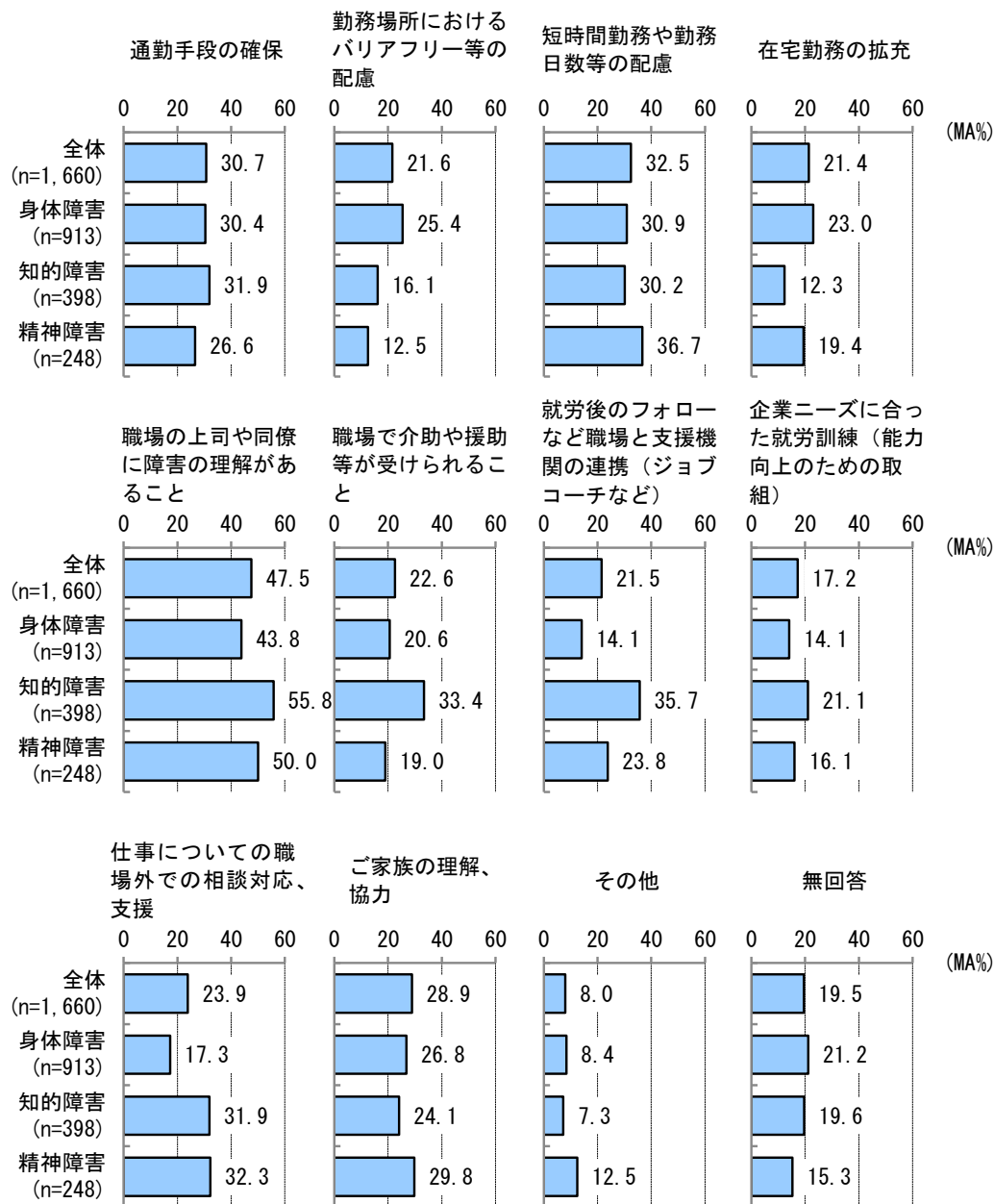


収入を得る仕事を得るために、職業訓練などを受けたいかについては、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が62.9%で最も多く、次いで「職業訓練を受けたい」が18.7%、「すでに職業訓練を受けている」が5.4%となっている。
 障害種別でみると、「職業訓練を受けたい」は精神障害が24.2%で最も高い割合となっている。(図5-8)

(9) 障害者の就労支援として必要なこと

問29 あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図5-9 障害者の就労支援として必要なこと】



障害者の就労支援として必要なことについては、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が47.5%で最も多く、次いで「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が32.5%、「通勤手段の確保」が30.7%となっている。

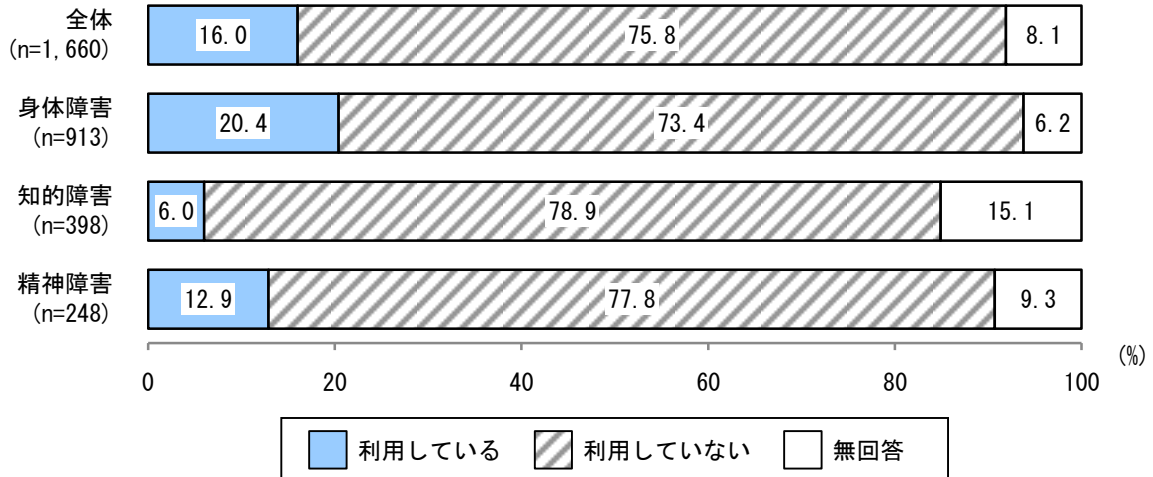
障害種別でみると、いずれも「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が最も多く、次いで身体障害・精神障害は「短時間勤務や勤務日数等の配慮」(身体30.9%、精神36.7%)、知的障害は「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携(ジョブコーチなど)」(35.7%)となっている。(図5-9)

6. 障害福祉サービス等の利用について

(1) 介護保険サービスの利用状況

問30 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(○は1つだけ)

【図6-1 介護保険サービスの利用状況】



介護保険サービスの利用状況については、「利用している」が16.0%、「利用していない」が75.8%となっている。

障害種別でみると、「利用している」は身体障害が20.4%で最も高い割合となっている。

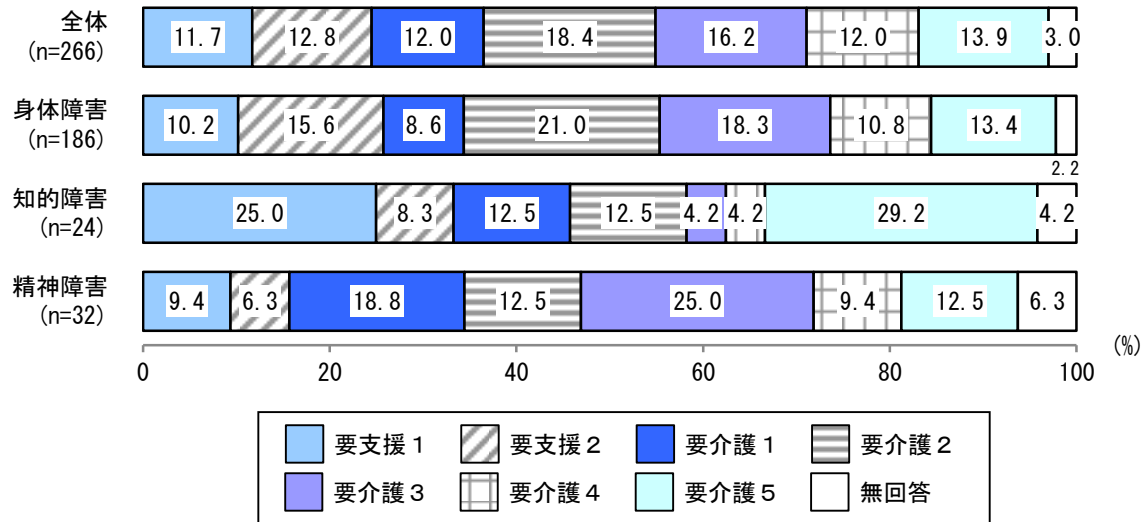
(図6-1)

(2) 要介護度

【問30で、「1. 利用している」を選択した方にお聞きします。】

問31 該当する要介護度はどれですか。(○は1つだけ)

【図6-2 要介護度】



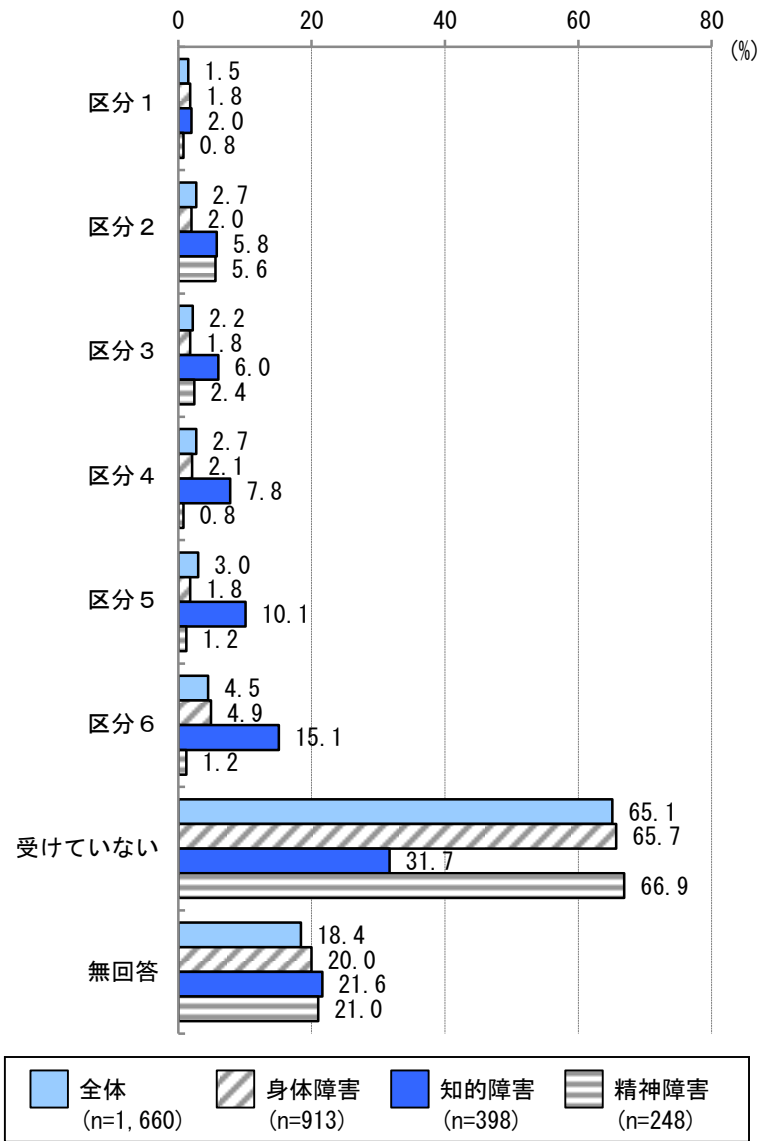
介護保険サービスを利用していると回答した人に、要介護度をたずねると、「要介護2」が18.4%で最も多く、次いで「要介護3」が16.2%、「要介護5」が13.9%となっている。

障害種別で見ると、身体障害は「要介護2」が21.0%で最も多く、次いで「要介護3」が18.3%となっている。知的障害は「要介護5」が29.2%で最も多く、次いで「要支援1」が25.0%となっている。精神障害は「要介護3」が25.0%で最も多く、次いで「要介護1」が18.8%となっている。(図6-2)

(3) 障害支援区分の認定

問32 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

【図6-3 障害支援区分の認定】



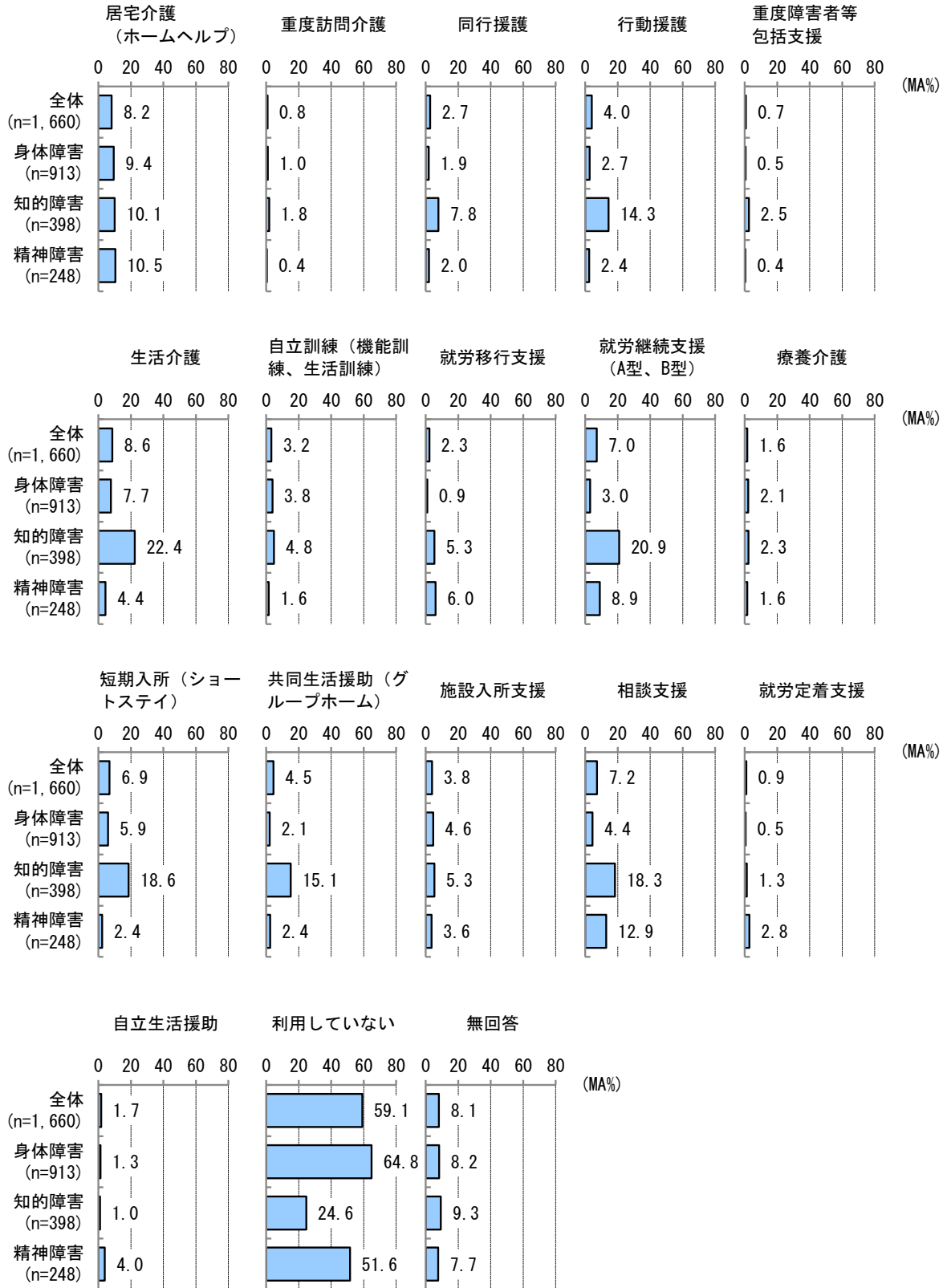
障害支援区分の認定については、「受けていない」が65.1%で最も多く、次いで「区分6」が4.5%、「区分5」が3.0%となっている。

障害種別でみると、いずれも「受けていない」が最も多く、受けている人では身体障害・知的障害は「区分6」（身体4.9%、知的15.1%）、精神障害は「区分2」（5.6%）が最も多くなっている。（図6-3）

(4) 1年以内に利用したことのある福祉サービス

問33 あなたは以下の福祉サービスを利用していますか。過去1年以内に利用したことのあるサービスすべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

【図6-4 1年以内に利用したことのある福祉サービス】



Ⅱ 調査結果〔18歳以上の障害のある人に対するアンケート調査〕

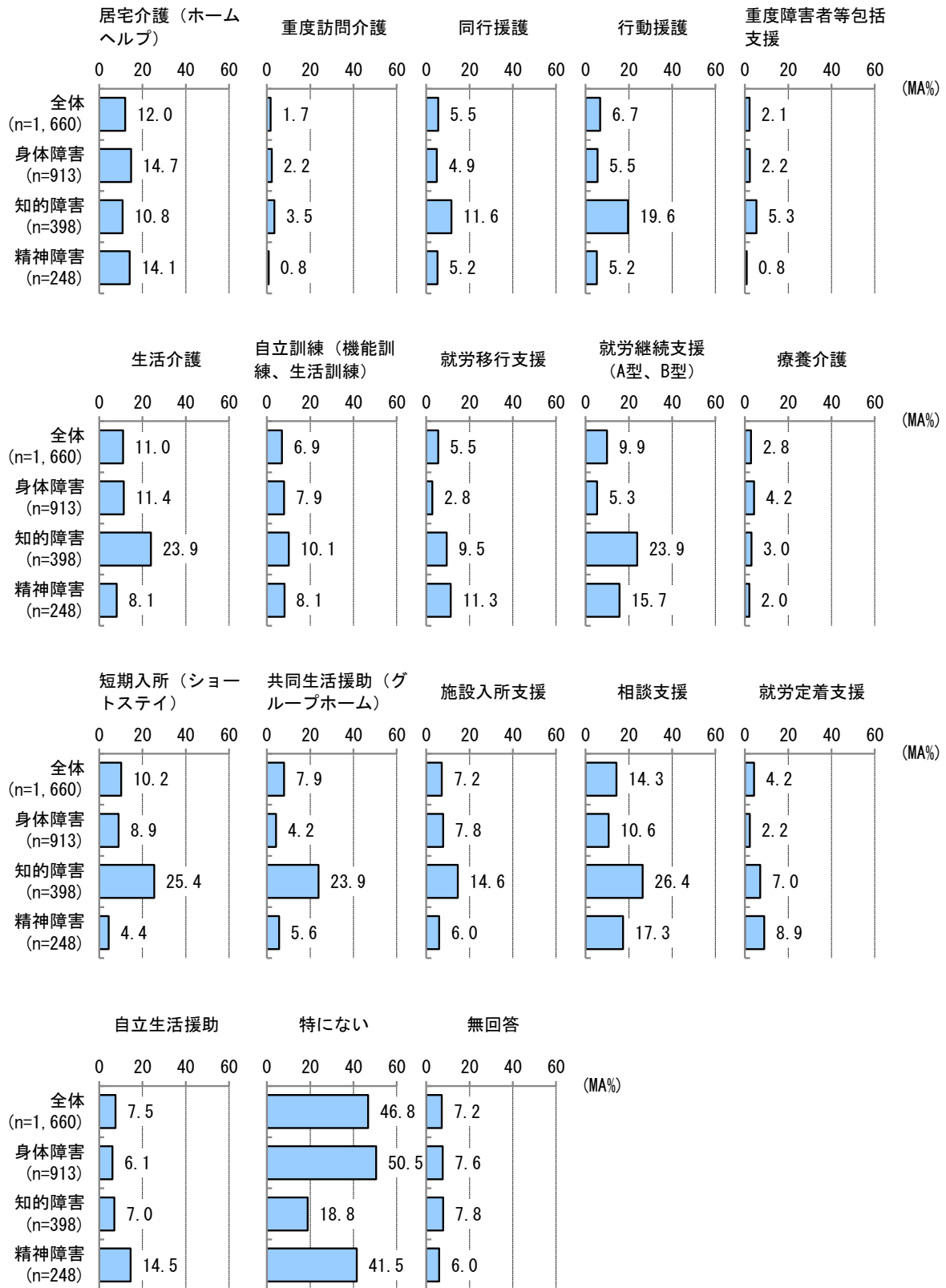
1年以内に利用したことのある福祉サービスについては、「利用していない」が59.1%で最も多いが、利用したことがある福祉サービスでは「生活介護」が8.6%で最も多く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」が8.2%、「相談支援」が7.2%となっている。

障害種別でみると、利用したことがある福祉サービスは、身体障害は「居宅介護（ホームヘルプ）」(9.4%)、知的障害は「生活介護」(22.4%)、精神障害は「相談支援」(12.9%)が最も多くなっている。(図6-4)

(5) 今後3年間で利用したいサービス

問34 あなたは以下のサービスを今後3年間で利用したいと思いますか。現在利用しているサービスも含め、これから利用したいと思うサービスすべてに○をしてください。
(あてはまるものすべてに○)

【図6-5 今後3年間で利用したいサービス】



Ⅱ 調査結果〔18歳以上の障害のある人に対するアンケート調査〕

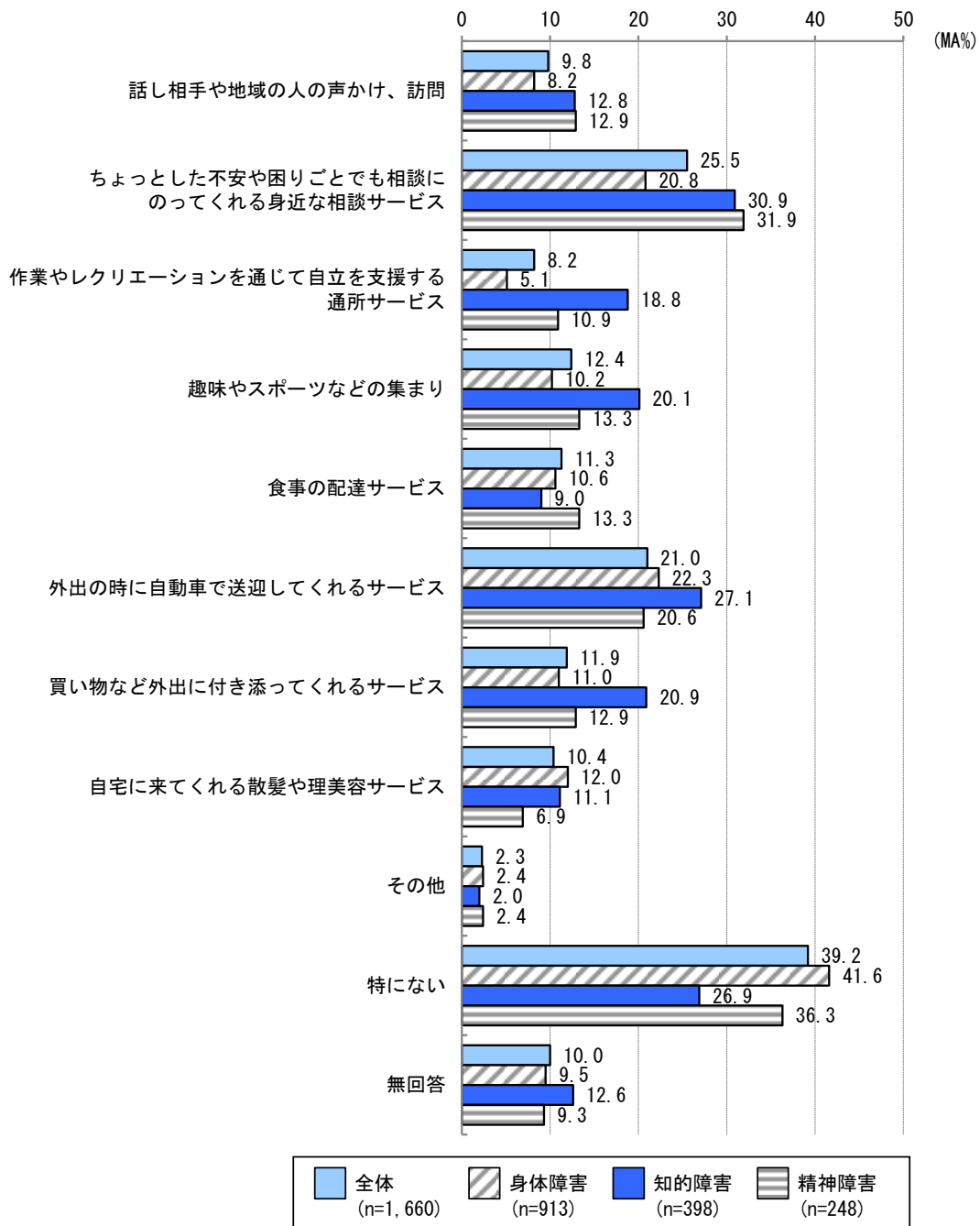
今後3年間で利用したいサービスについては、「特にない」が46.8%で最も多いが、利用したいサービスでは「相談支援」が14.3%で最も多く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」が12.0%、「生活介護」が11.0%、「短期入所（ショートステイ）」が10.2%となっている。

障害種別でみると、利用したいサービスは、身体障害は「居宅介護（ホームヘルプ）」（14.7%）、知的障害・精神障害は「相談支援」（知的26.4%、精神17.3%）が最も多くなっている。（図6-5）

(6) 利用したいサービス以外で必要な支援

問35 問34のサービス以外で、必要な支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

【図6-6 利用したいサービス以外で必要な支援】



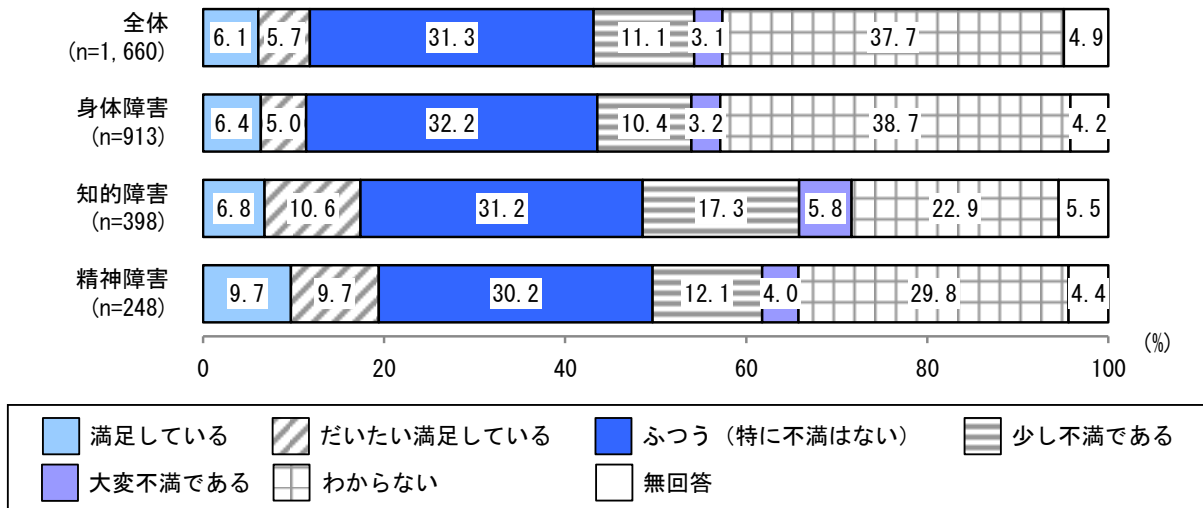
利用したいサービス以外で必要な支援については、「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」が25.5%で最も多く、次いで「外出の時に自動車で送迎してくれるサービス」が21.0%、「趣味やスポーツなどの集まり」が12.4%となっている。一方、「特にない」は39.2%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「外出の時に自動車で送迎してくれるサービス」(22.3%)、知的障害・精神障害は「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」(知的30.9%、精神31.9%)が最も多くなっている。(図6-6)

(7) 羽曳野市の障害福祉サービスの満足度

問36 羽曳野市の障害福祉サービスについて、全体としてどのように感じていますか。(〇は1つだけ)

【図6-7 羽曳野市の障害福祉サービスの満足度】



羽曳野市の障害福祉サービスの満足度については、「ふつう (特に不満はない)」が31.3%で最も多く、次いで「少し不満である」が11.1%となっており、「満足している」(6.1%)と「だいたい満足している」(5.7%)をあわせた『満足』は11.8%となっている。一方、「少し不満である」と「大変不満である」(3.1%)をあわせた『不満』は14.2%となっている。

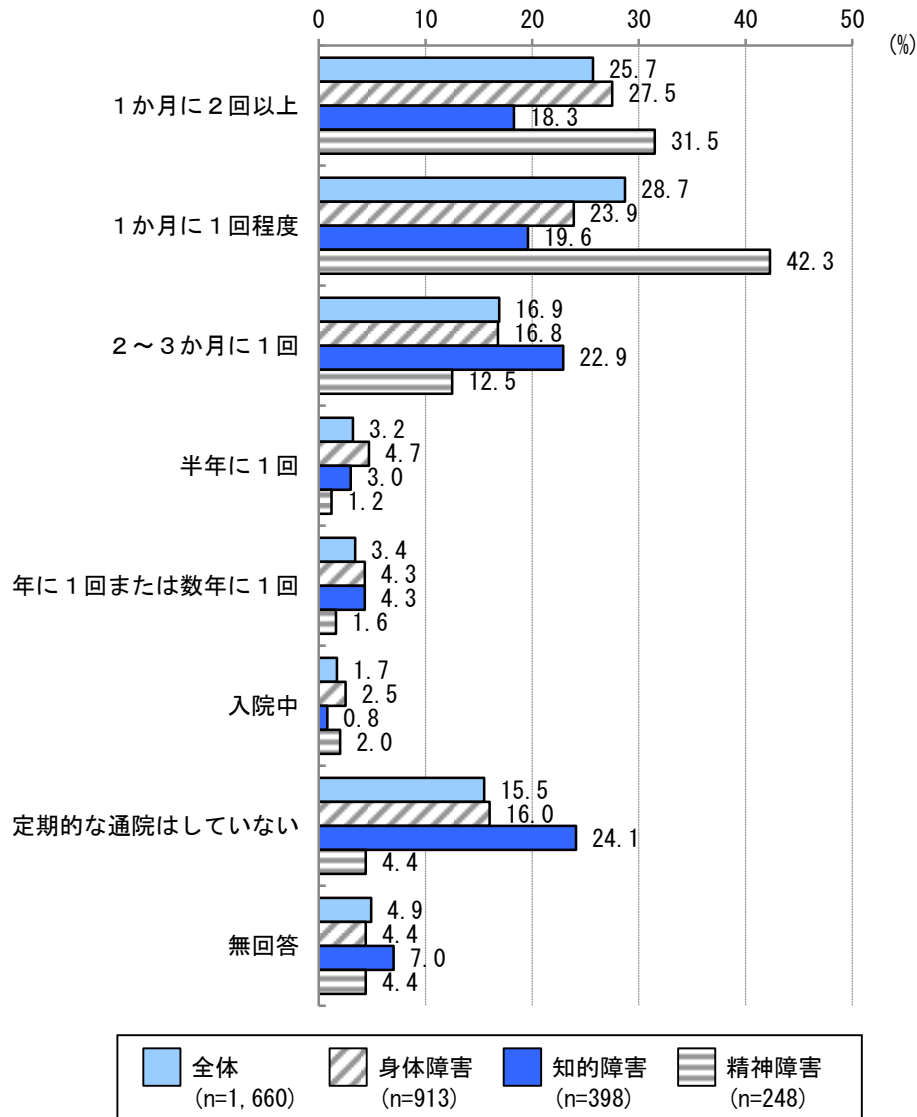
障害種別でみると、『満足』は精神障害が19.4%で最も高く、次いで知的障害(17.4%)となっている。(図6-7)

7. 通院について

(1) 現在の通院状況

問37 あなたの現在の通院状況（リハビリを含む）は次のどれですか。（○は1つだけ）

【図7-1 現在の通院状況】



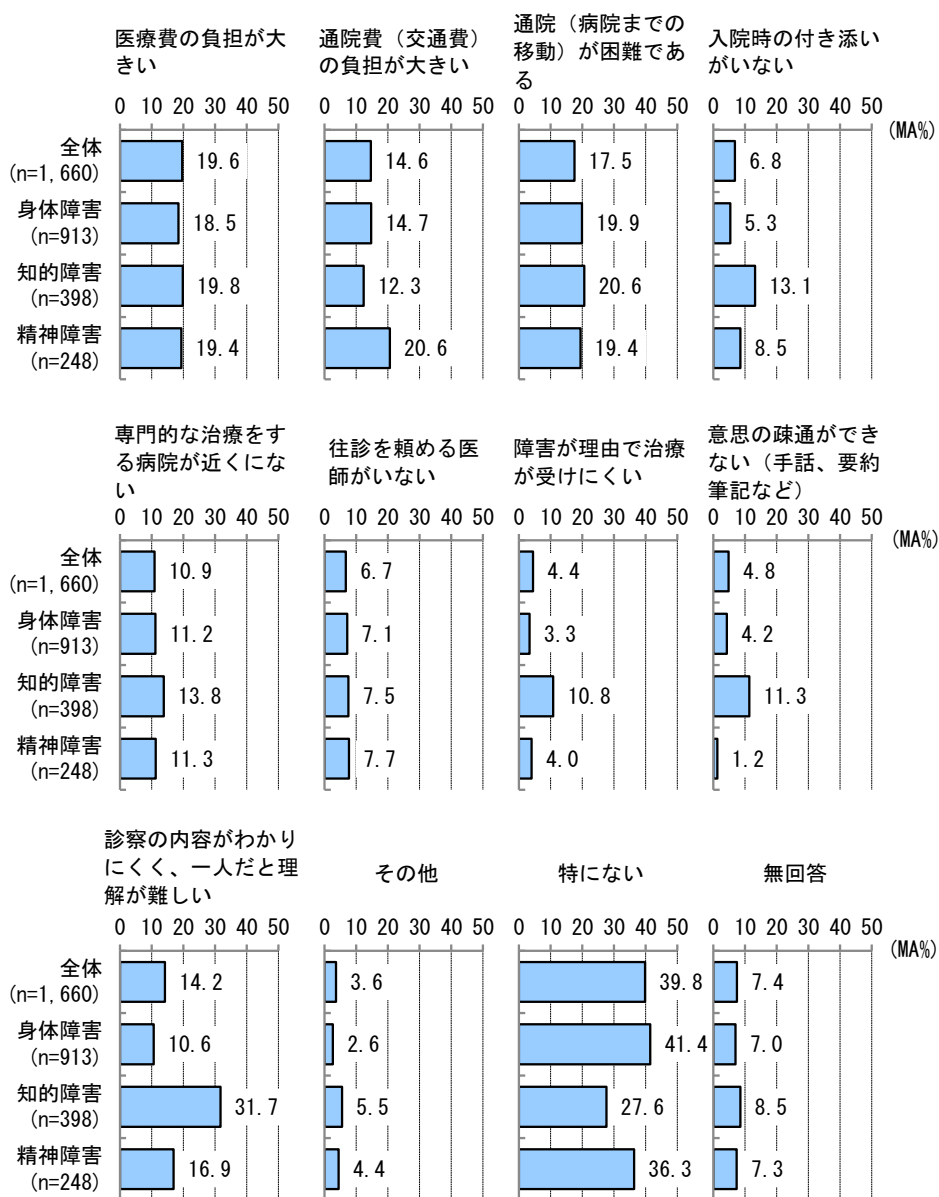
現在の通院状況については、「1か月に1回程度」が28.7%で最も多く、次いで「1か月に2回以上」が25.7%、「2～3か月に1回」が16.9%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「1か月に2回以上」が27.5%で最も多く、次いで「1か月に1回程度」が23.9%となっている。知的障害は「定期的な通院はしていない」が24.1%で最も多く、次いで「2～3か月に1回」が22.9%となっている。精神障害は「1か月に1回程度」が42.3%で最も多く、次いで「1か月に2回以上」が31.5%となっている。（図7-1）

(2) 医療を受けるうえで困っていること

問38 医療を受けるうえで困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【図7-2 医療を受けるうえで困っていること】



医療を受けるうえで困っていることについては、「医療費の負担が大きい」が19.6%で最も多く、次いで「通院(病院までの移動)が困難である」が17.5%、「通院費(交通費)の負担が大きい」が14.6%、「診察の内容がわかりにくく、一人だと理解が難しい」が14.2%となっている。一方、「特にない」は39.8%となっている。

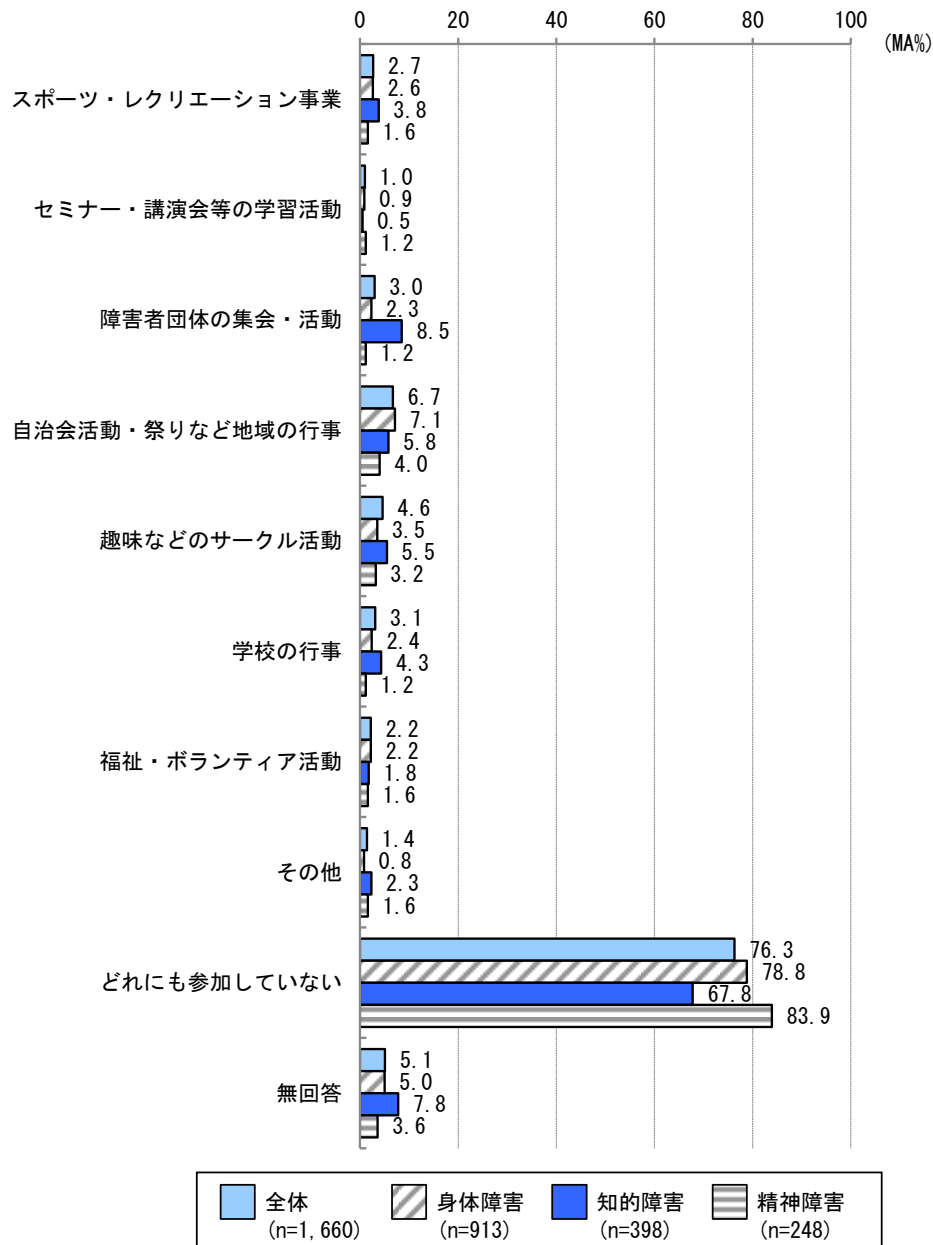
障害種別でみると、身体障害は「通院(病院までの移動)が困難である」が19.9%で最も多く、次いで「医療費の負担が大きい」が18.5%となっている。知的障害は「診察の内容がわかりにくく、一人だと理解が難しい」が31.7%で最も多く、次いで「通院(病院までの移動)が困難である」が20.6%となっている。精神障害は「通院費(交通費)の負担が大きい」が20.6%で最も多く、次いで「医療費の負担が大きい」、「通院(病院までの移動)が困難である」がそれぞれ19.4%となっている。(図7-2)

8. 地域活動への参加について

(1) 1年間で参加した地域の行事や活動

問39 最近1年間に、あなたは、地域の行事や活動に参加しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

【図8-1 1年間で参加した地域の行事や活動】



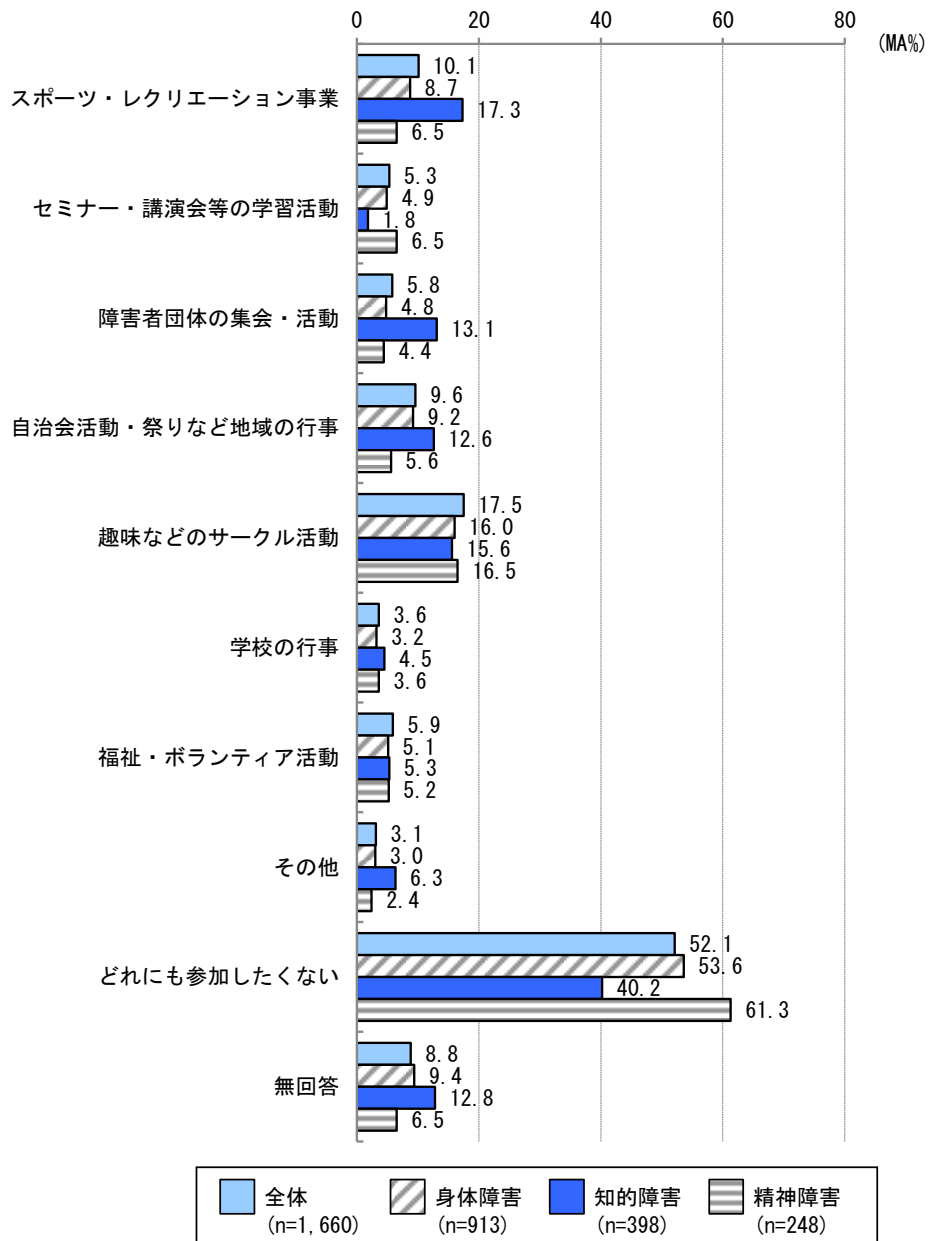
1年間で参加した地域の行事や活動については、「どれにも参加していない」が76.3%で最も多いが、参加した人では「自治会活動・祭りなど地域の行事」が6.7%で最も多く、次いで「趣味などのサークル活動」が4.6%、「学校の行事」が3.1%となっている。

障害種別でみると、参加した人では、身体障害・精神障害は「自治会活動・祭りなど地域の行事」（身体7.1%、精神4.0%）、知的障害では「障害者団体の集会・活動」（8.5%）が最も多くなっている。（図8-1）

(2) 今後参加したい地域の行事や活動

問40 今後、あなたは、どのような地域の行事や活動に参加したいですか。
 (あてはまるものすべてに○)

【図8-2 今後参加したい地域の行事や活動】



今後参加したい地域の行事や活動については、「どれも参加したくない」が52.1%で最も多いが、参加したい人では、「趣味などのサークル活動」が17.5%で最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション事業」が10.1%、「自治会活動・祭りなど地域の行事」が9.6%となっている。

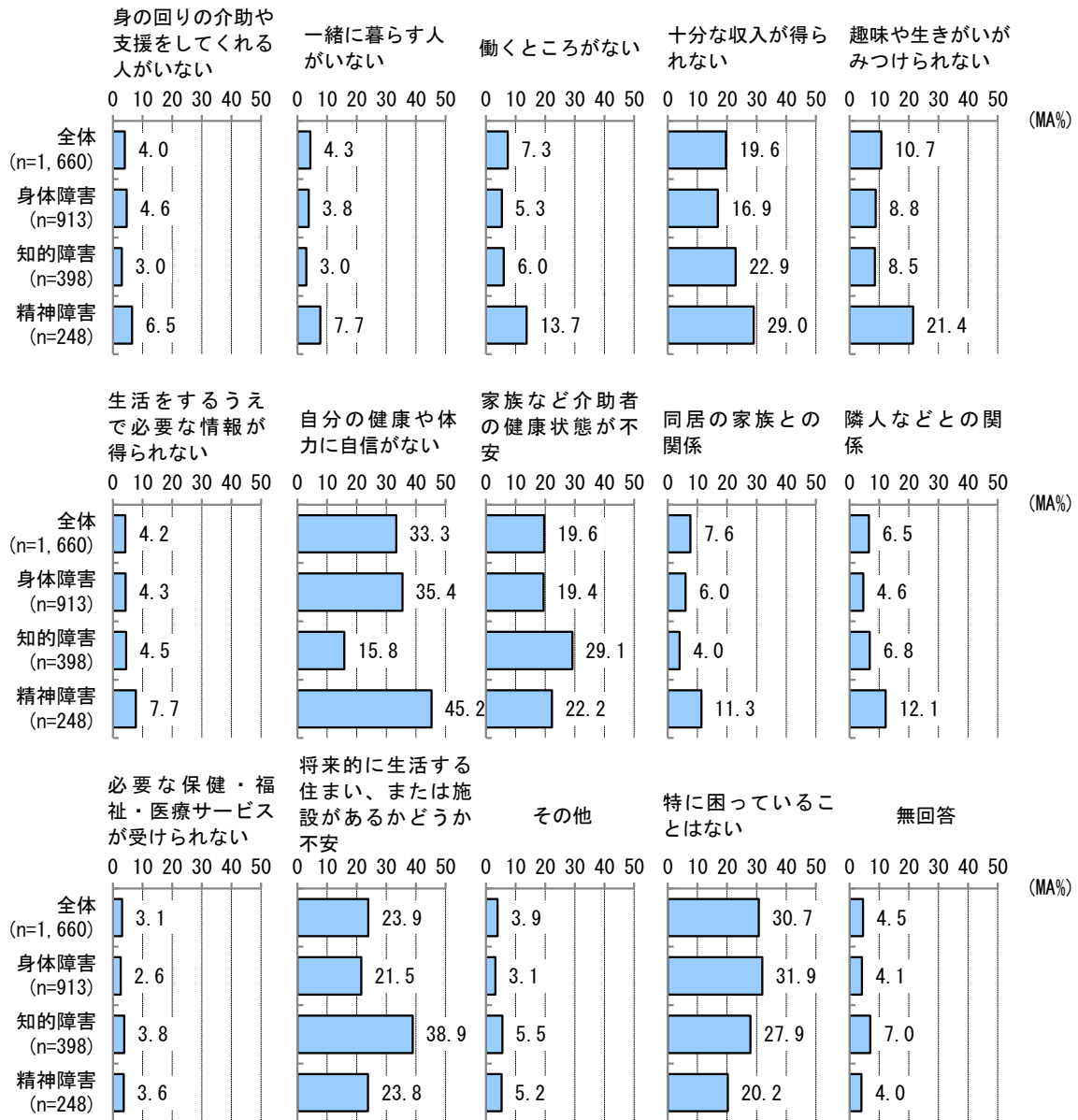
障害種別でみると、参加したい人では、身体障害・精神障害は「趣味などのサークル活動」(身体16.0%、精神16.5%)、知的障害は「スポーツ・レクリエーション事業」が17.3%で最も多くなっている。(図8-2)

9. 悩みや相談相手について

(1) 現在の生活で困っていることや不安に思っていること

問41 あなたは、現在の生活で困っていることや不安に思っていることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図9-1 現在の生活で困っていることや不安に思っていること】



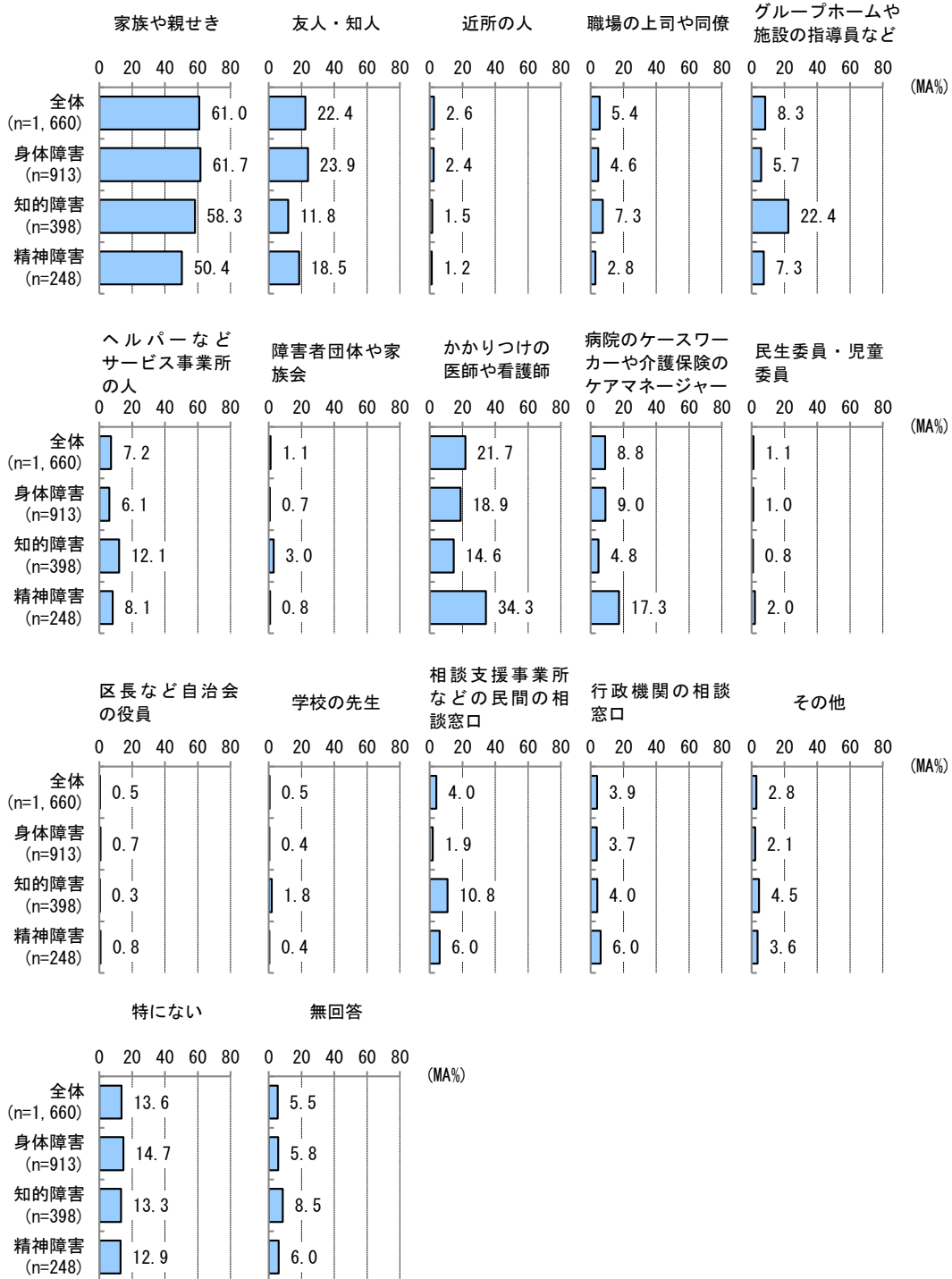
現在の生活で困っていることや不安に思っていることについては、「自分の健康や体力に自信がない」が33.3%で最も多く、次いで「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」が23.9%、「十分な収入が得られない」、「家族など介助者の健康状態が不安」がそれぞれ19.6%となっている。一方、「特に困っていることはない」は30.7%となっている。

障害種別でみると、身体障害・精神障害は「自分の健康や体力に自信がない」(身体35.4%、精神45.2%)、知的障害は「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安」(38.9%)が最も多くなっている。(図9-1)

(2) 悩みや困ったことの相談相手

問42 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図9-2 悩みや困ったことの相談相手】



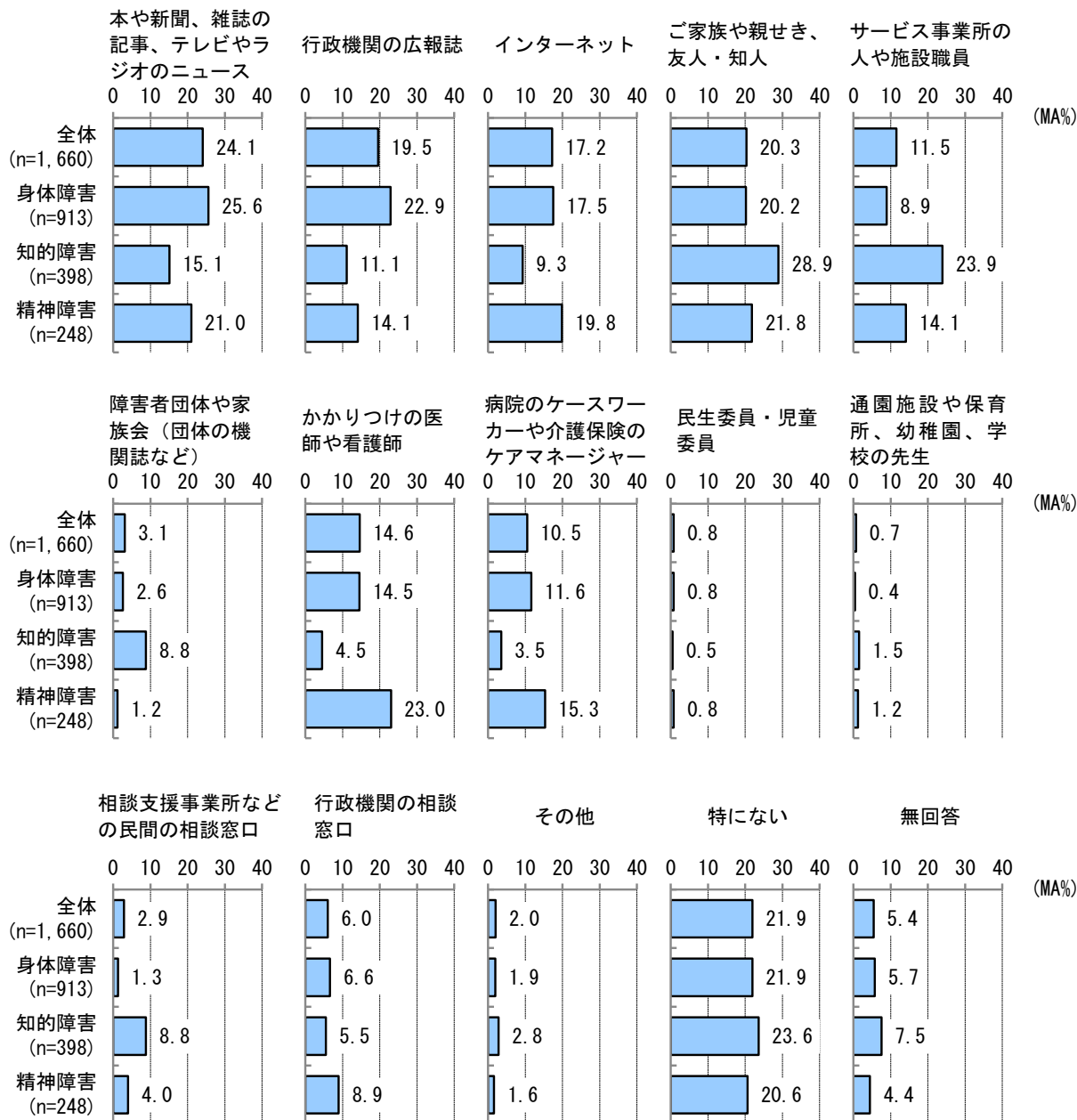
悩みや困ったことの相談相手については、「家族や親せき」が61.0%で最も多く、次いで「友人・知人」が22.4%、「かかりつけの医師や看護師」が21.7%となっている。

障害種別でみると、いずれも「家族や親せき」が最も多く、次いで身体障害は「友人・知人」(23.9%)、知的障害は「グループホームや施設の指導員など」(22.4%)、精神障害は「かかりつけの医師や看護師」(34.3%)となっている。(図9-2)

(3) 障害や福祉サービスなどに関する情報の入手先

問43 あなたは障害のことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

【図9-3 障害や福祉サービスなどに関する情報の入手先】



障害や福祉サービスなどに関する情報の入手先については、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が24.1%で最も多く、次いで「ご家族や親せき、友人・知人」が20.3%、「行政機関の広報誌」が19.5%となっている。一方、「特にない」は21.9%となっている。

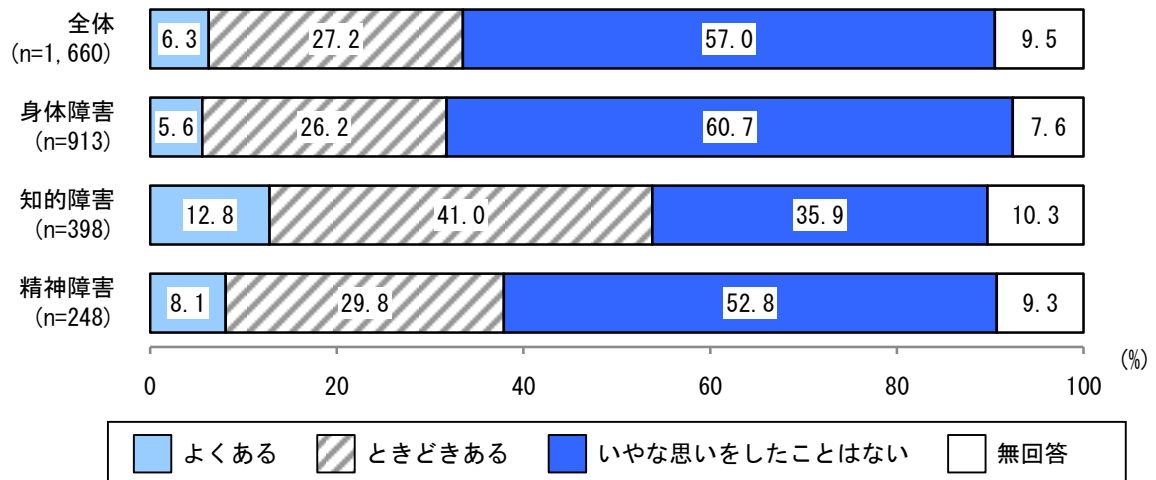
障害種別でみると、身体障害は「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」(25.6%)、知的障害は「ご家族や親せき、友人・知人」(28.9%)、精神障害は「かかりつけの医師や看護師」(23.0%)が最も多くなっている。(図9-3)

10. 権利擁護について

(1) ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたこと

問44 あなたは、障害等があることで、ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。(○は1つだけ)

【図10-1 ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたこと】



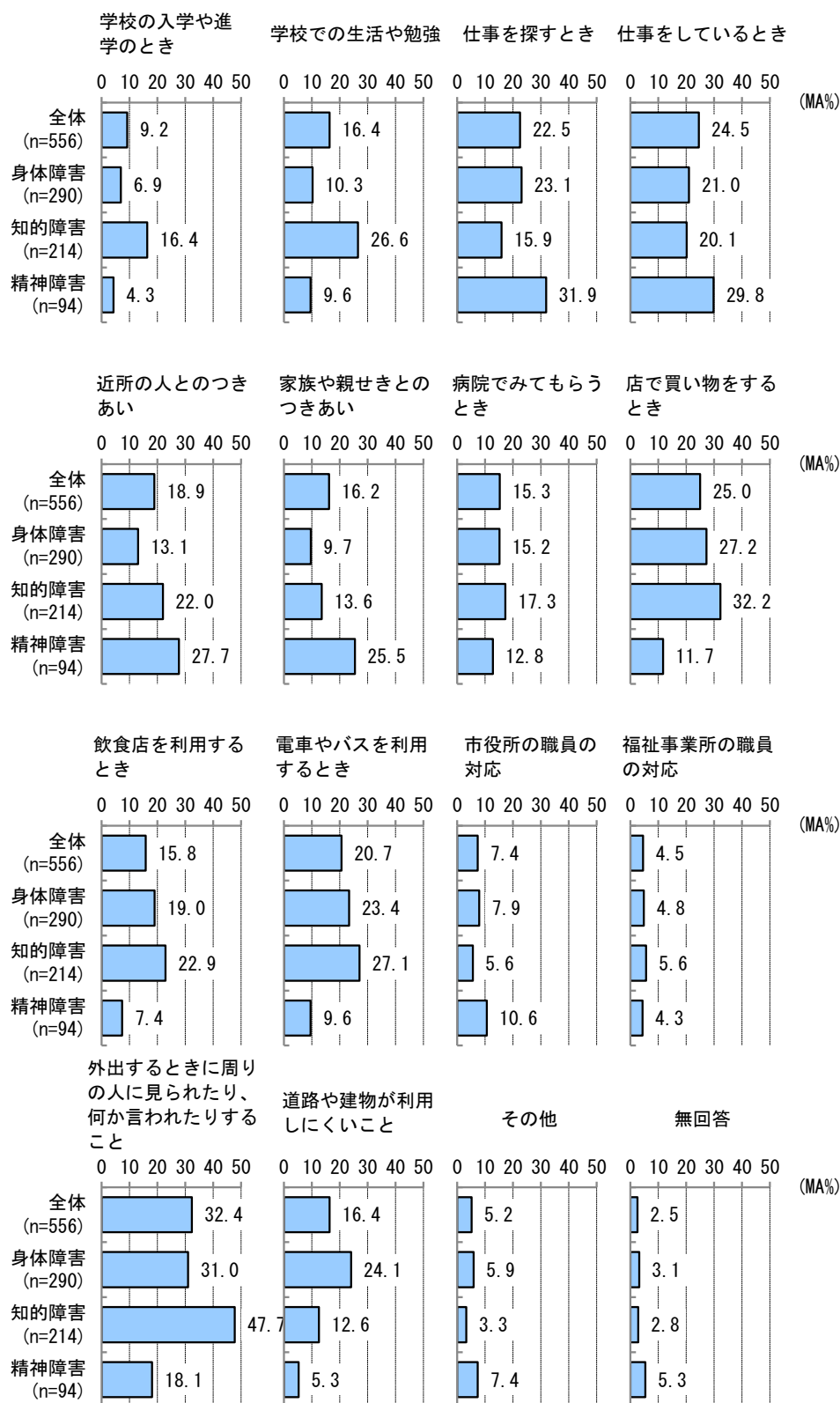
ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたことについては、「いやな思いをしたことはない」が57.0%で最も多く、次いで「ときどきある」が27.2%、「よくある」が6.3%となっており、「よくある」と「ときどきある」をあわせた『ある』は33.5%となっている。

障害種別でみると、『ある』は知的障害が53.8%で最も割合が高く、次いで精神障害が37.9%、身体障害が31.8%となっている。(図10-1)

(2) 差別を受けたりいやな思いをした場面

【問44で、「1. よくある」または「2. ときどきある」を選択した方にお聞きします。】
 問45 あなたは、障害等があることで、どのような場面で差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

【図10-2 差別を受けたりいやな思いをした場面】



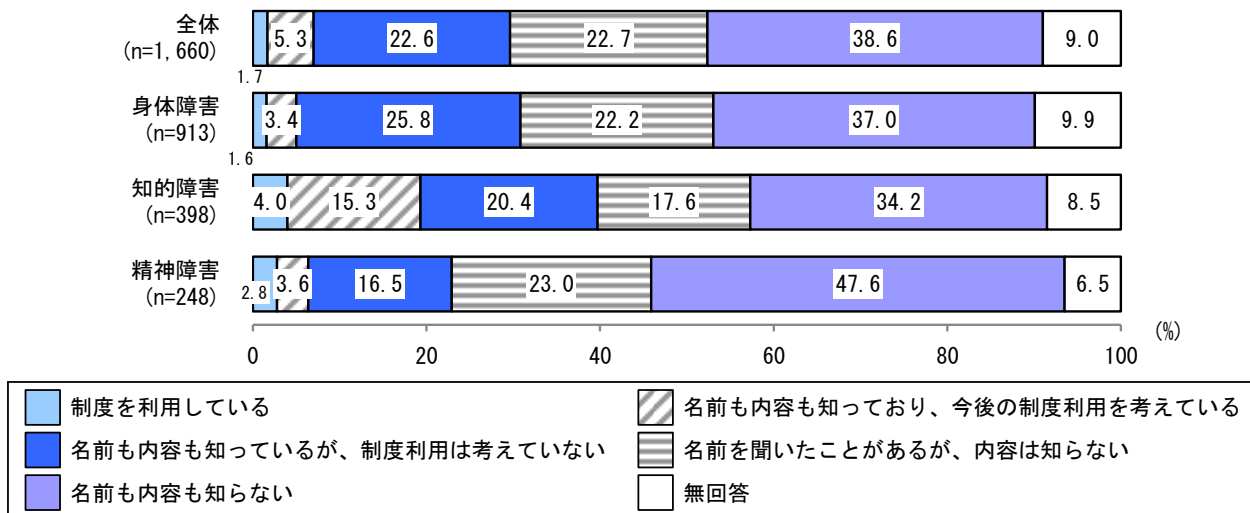
ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたことがあると回答した人に、差別を受けたりいやな思いをした場面についてたずねると、「外出するときに周りの人に見られたり、何か言われたりすること」が32.4%で最も多く、次いで「店で買い物をするとき」が25.0%、「仕事をしているとき」が24.5%となっている。

障害種別でみると、身体障害・知的障害は「外出するときに周りの人に見られたり、何か言われたりすること」(身体31.0%、知的47.7%)、精神障害は「仕事を探すとき」(31.9%)が最も多くなっている。(図10-2)

(3) 成年後見制度の認知度

問46 成年後見制度についてご存じですか。(○は1つだけ)

【図10-3 成年後見制度の認知度】



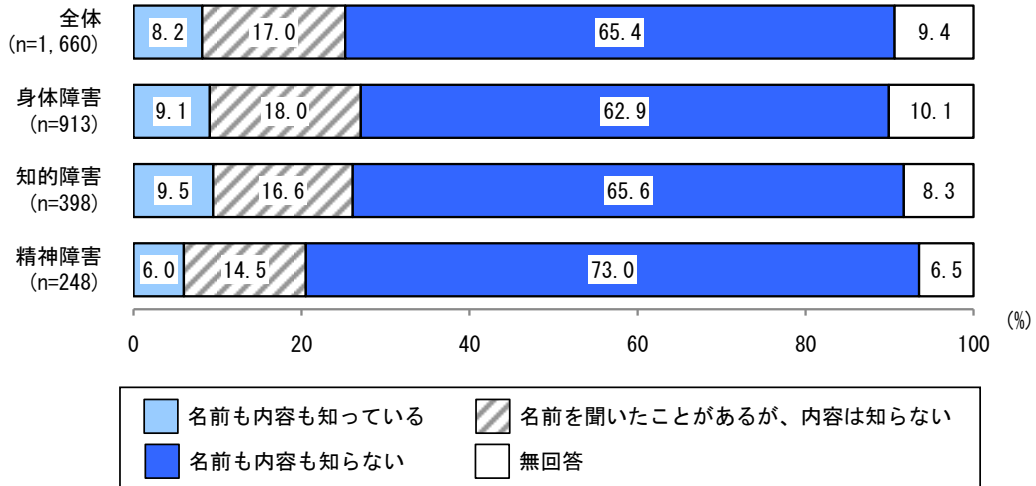
成年後見制度の認知度については、「名前も内容も知らない」が38.6%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が22.7%、「名前も内容も知っているが、制度利用は考えていない」が22.6%となっている。

障害種別でみると、いずれも「名前も内容も知らない」が最も多く、精神障害(47.6%)で最も高い割合となっている。(図10-3)

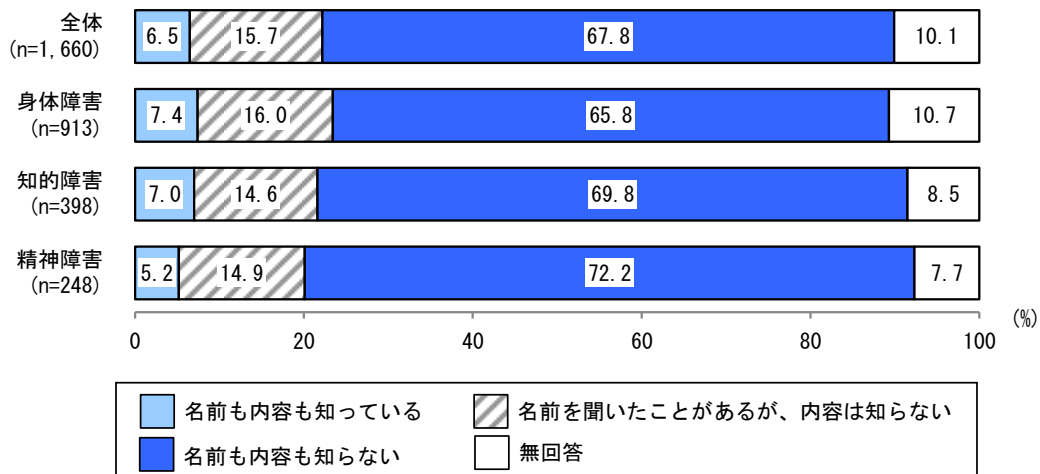
(4) 障害に関する用語の認知度

問47 次の言葉についてご存じですか。①～③のそれぞれについて、あてはまる番号に○をしてください。(①～③のそれぞれに○は1つずつ)

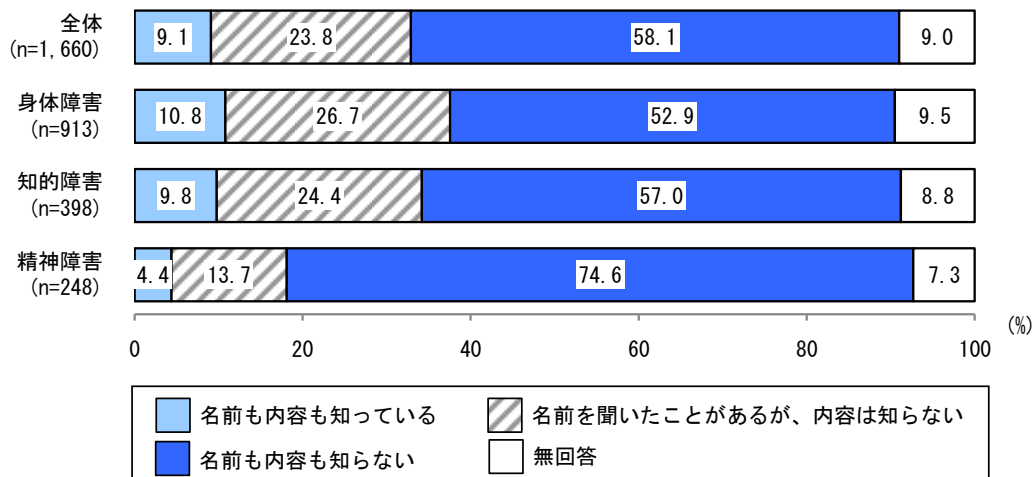
【図10-4-1 障害に関する用語の認知度 ①障害者差別解消法】



【図10-4-2 障害に関する用語の認知度 ②合理的配慮】



【図10-4-3 障害に関する用語の認知度 ③災害時要援護者支援制度】



障害に関する用語の認知度をたずねた。

『①障害者差別解消法』については、「名前も内容も知らない」が65.4%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が17.0%、「名前も内容も知っている」が8.2%となっている。

障害種別でみると、「名前も内容も知らない」は精神障害が73.0%で最も高い割合となっている。(図10-4-1)

『②合理的配慮』については、「名前も内容も知らない」が67.8%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が15.7%、「名前も内容も知っている」が6.5%となっている。

障害種別でみると、「名前も内容も知らない」は精神障害が72.2%で最も高い割合となっている。(図10-4-2)

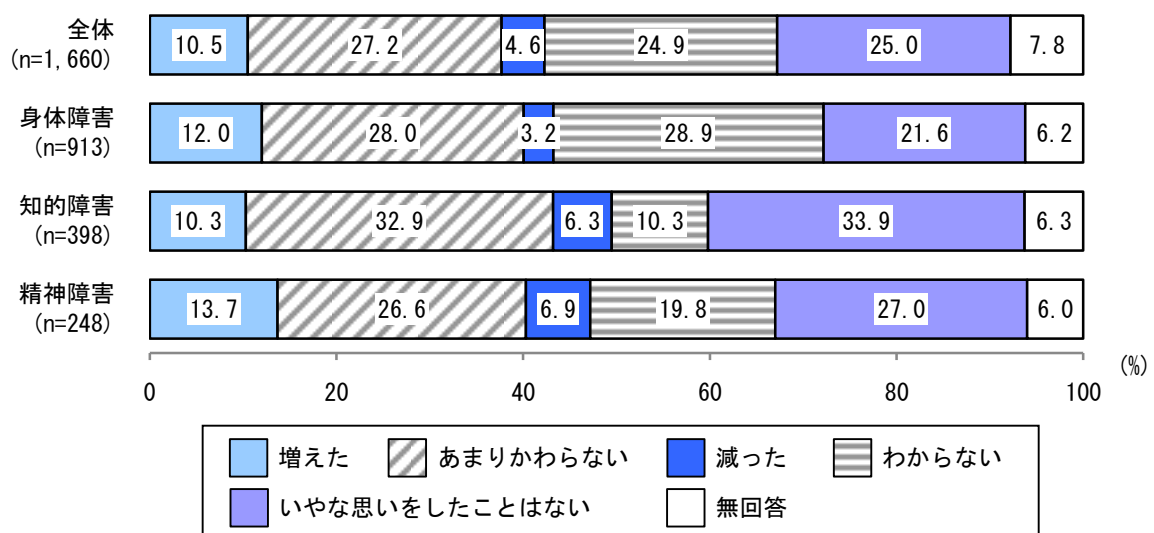
『③災害時要援護者支援制度』については、「名前も内容も知らない」が58.1%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が23.8%、「名前も内容も知っている」が9.1%となっている。

障害種別でみると、「名前も内容も知らない」は精神障害が74.6%で最も高い割合となっている。(図10-4-3)

(5) 障害等があることで、いやな思いをする頻度のこの5年の変化

問48 障害があることで、あなたがふだんの生活でいやな思いをすることは、この5年程度の間には増えましたか、減りましたか。(〇は1つだけ)

【図10-5 障害等があることで、いやな思いをする頻度のこの5年の変化】



障害等があることで、いやな思いをすることは、この5年程度の間には増えたか減ったかについては、「あまりかわらない」が27.2%で最も多く、次いで「いやな思いをしたことはない」が25.0%、「わからない」が24.9%となっている。

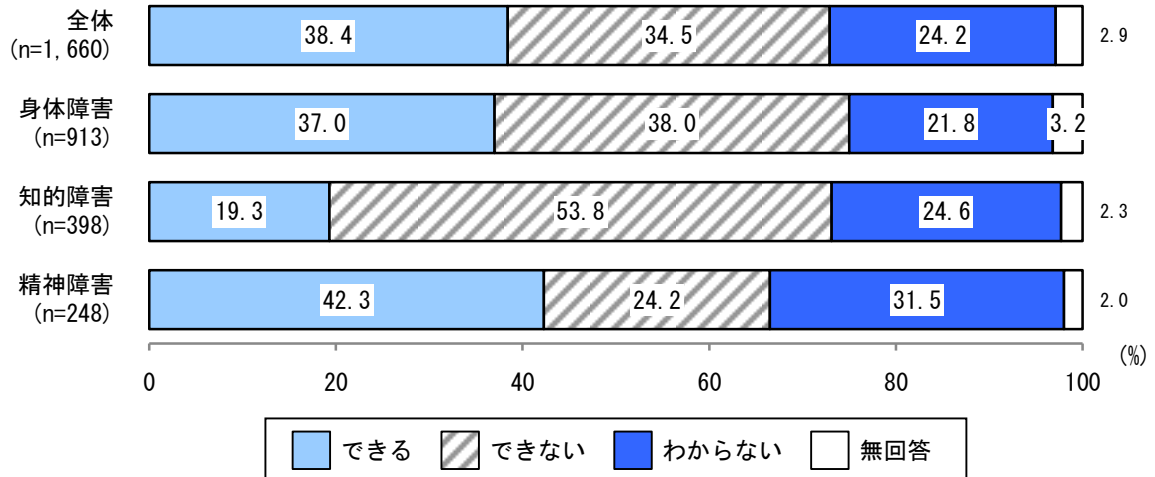
障害種別でみると、身体障害は「わからない」(28.9%)、知的障害・精神障害は「いやな思いをしたことはない」(知的33.9%、精神27.0%)が最も多くなっている。(図10-5)

11. 災害時の避難等について

(1) 災害時の一人での避難

問49 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。(○は1つだけ)

【図11-1 災害時の一人での避難】



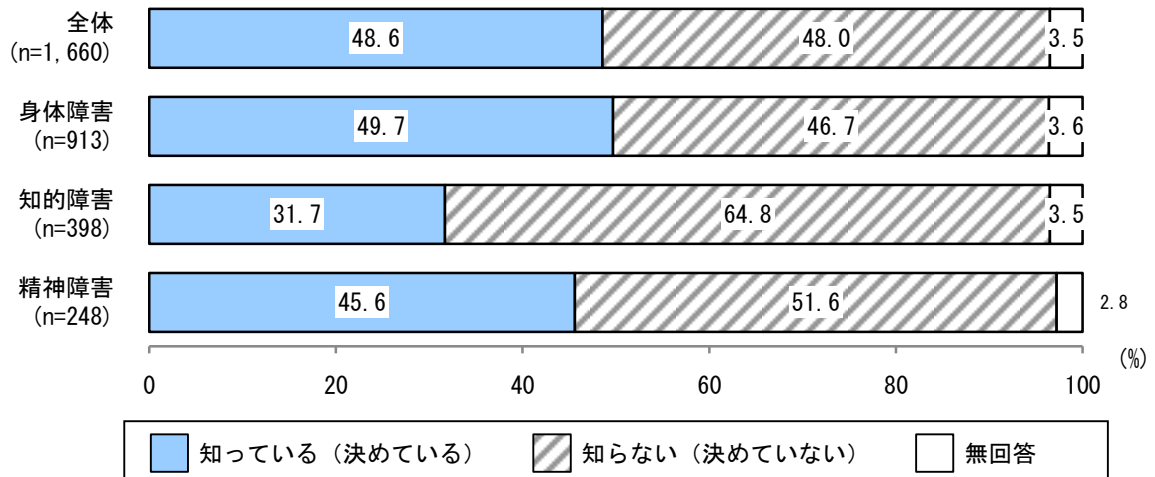
災害時に一人で避難できるかについては、「できる」が38.4%、「できない」が34.5%となっている。

障害種別でみると、「できない」は知的障害が53.8%で最も高い割合となっている。(図11-1)

(2) 避難場所の認知度

問50 あなたは、地震や台風などの災害時に避難する場所を知っていますか。(○は1つだけ)

【図11-2 避難場所の認知度】



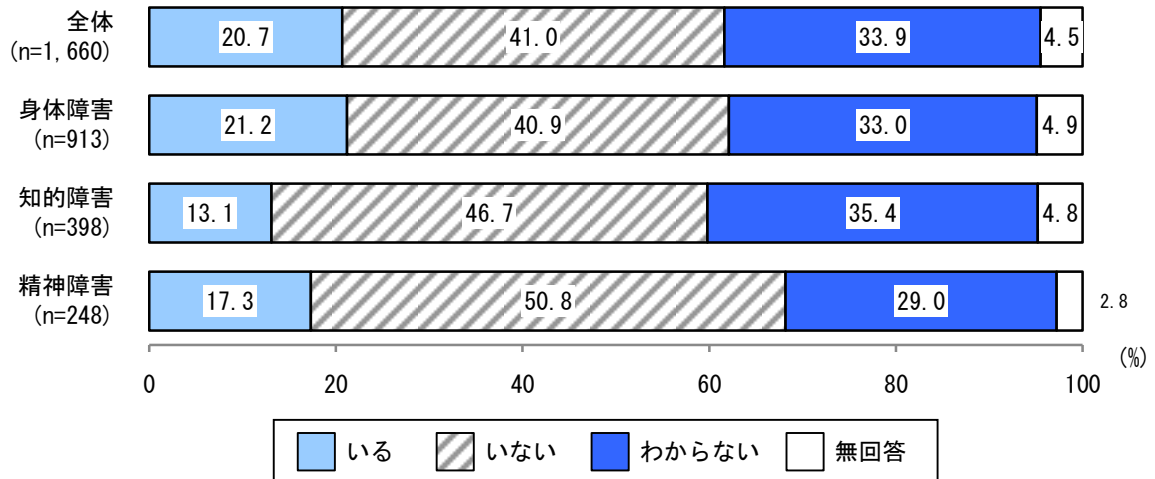
避難場所の認知度については、避難場所を「知っている (決めている)」が48.6%、「知らない (決めていない)」が48.0%となっている。

障害種別でみると、「知らない (決めていない)」は知的障害が64.8%で最も高い割合となっている。(図11-2)

(3) 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所で助けてくれる人の有無

問51 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(〇は1つだけ)

【図11-3 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所で助けてくれる人の有無】



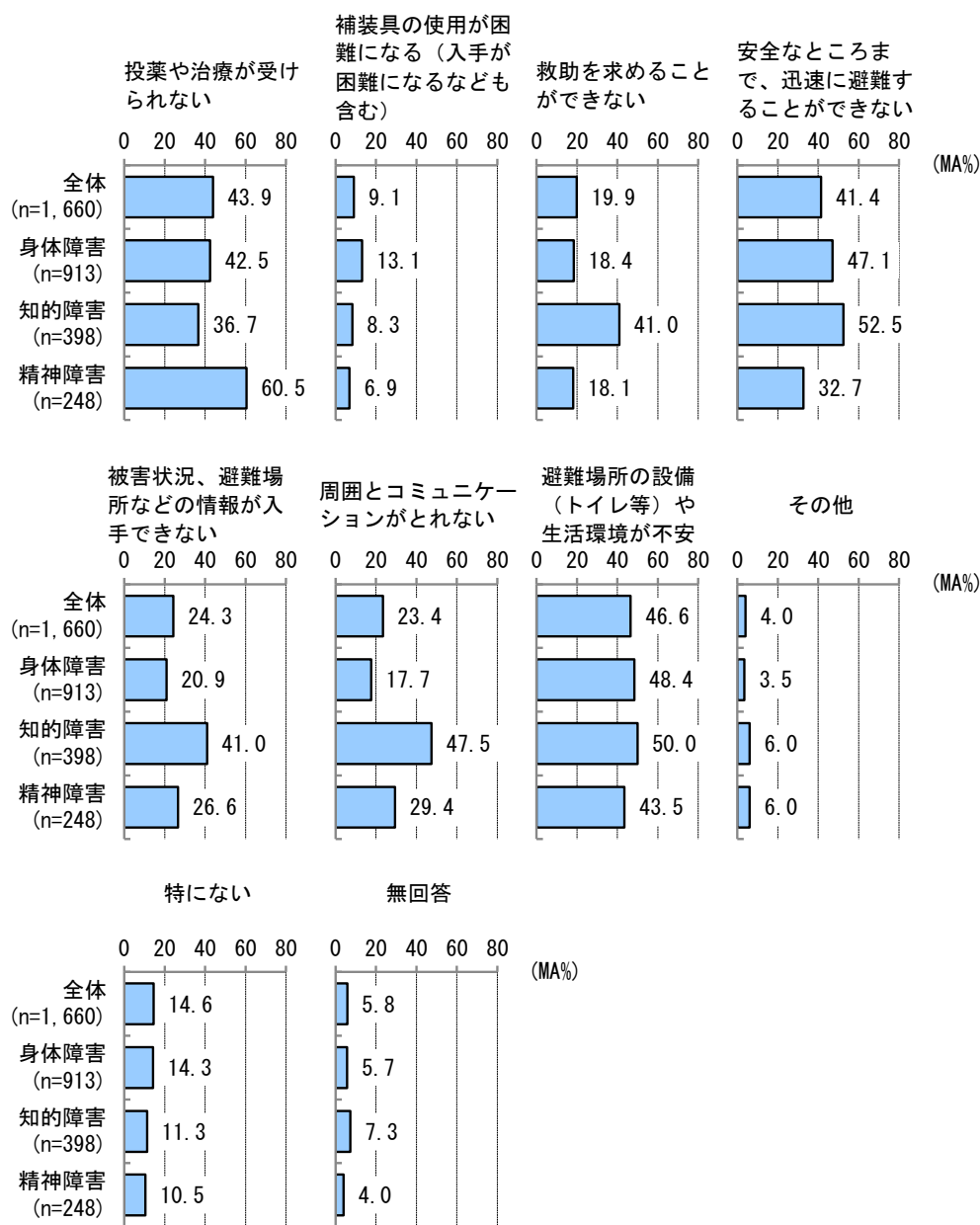
家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所で助けてくれる人の有無については、「いる」が20.7%、「いない」が41.0%、「わからない」が33.9%となっている。

障害種別でみると、「いる」は身体障害（21.2%）で最も割合が高く、「いない」は精神障害（50.8%）で最も高い割合となっている。（図11-3）

(4) 災害時に困ること

問52 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図11-4 災害時に困ること】



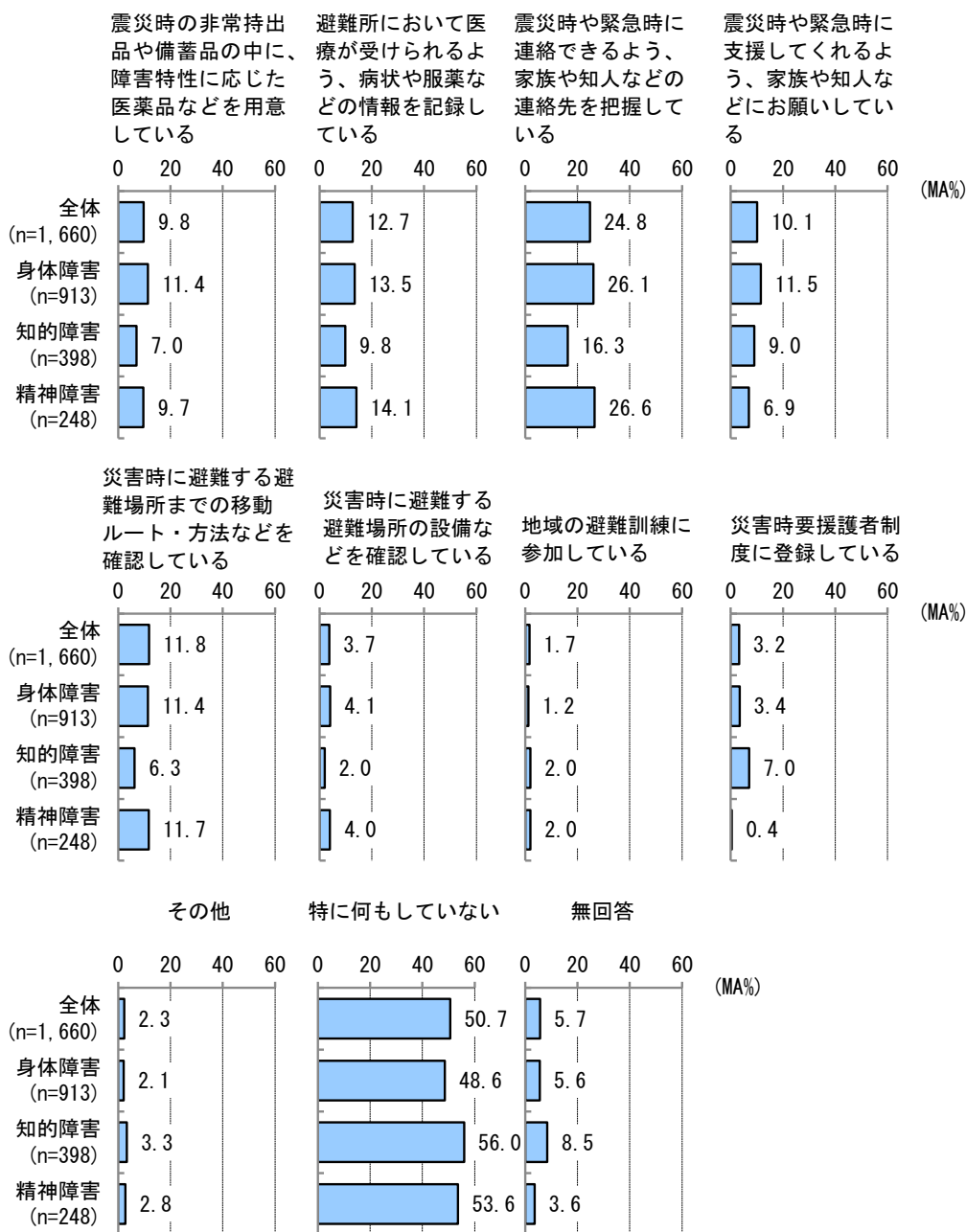
災害時に困ることについては、「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が46.6%で最も多く、次いで「投薬や治療が受けられない」が43.9%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が41.4%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が48.4%で最も多く、次いで「安全なところまで、迅速に避難することができない」が47.1%となっている。知的障害は「安全なところまで、迅速に避難することができない」が52.5%で最も多く、次いで「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が50.0%となっている。精神障害は「投薬や治療が受けられない」が60.5%で最も多く、次いで「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が43.5%となっている。(図11-4)

(5) 災害時に備えて、日ごろから準備していること

問53 あなたは、地震や台風などの災害時に備えて、日ごろから心がけていることや準備していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【図11-5 災害時に備えて、日ごろから準備していること



災害時に備えて、日ごろから準備していることについては、「特に何もしていない」(50.7%)が最も多いが、準備をしている人では、「震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している」が24.8%で最も多く、次いで「避難所において医療が受けられるよう、病状や服薬などの情報を記録している」が12.7%、「災害時に避難する避難場所までの移動ルート・方法などを確認している」が11.8%となっている。

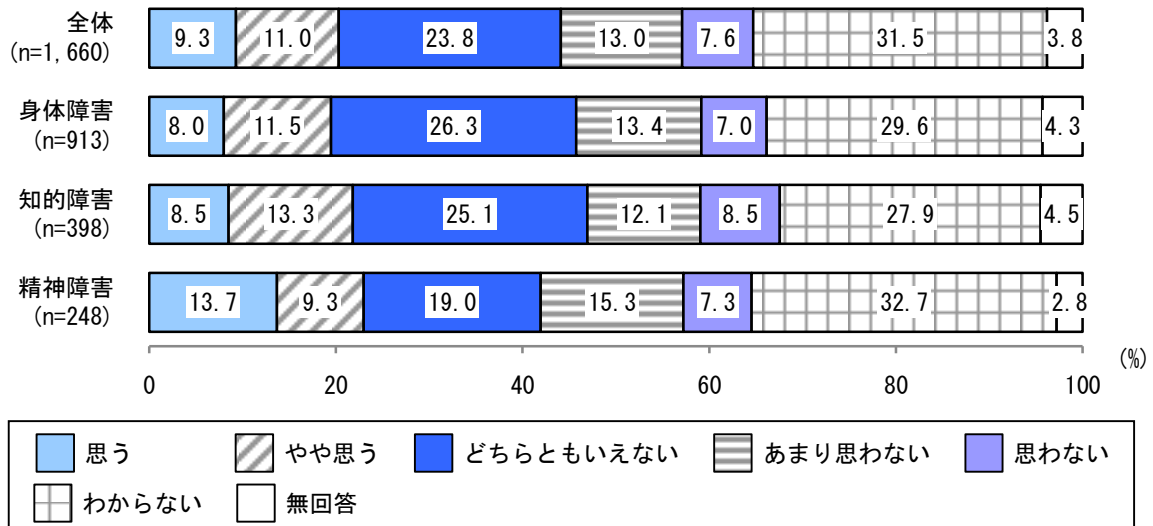
障害種別でも、大きな差はみられない。(図11-5)

12. 障害福祉行政などについて

(1) 羽曳野市の障害のある人にとっての暮らしやすさ

問54 あなたは、羽曳野市が障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(○は1つだけ)

【図12-1 羽曳野市の障害のある人にとっての暮らしやすさ】



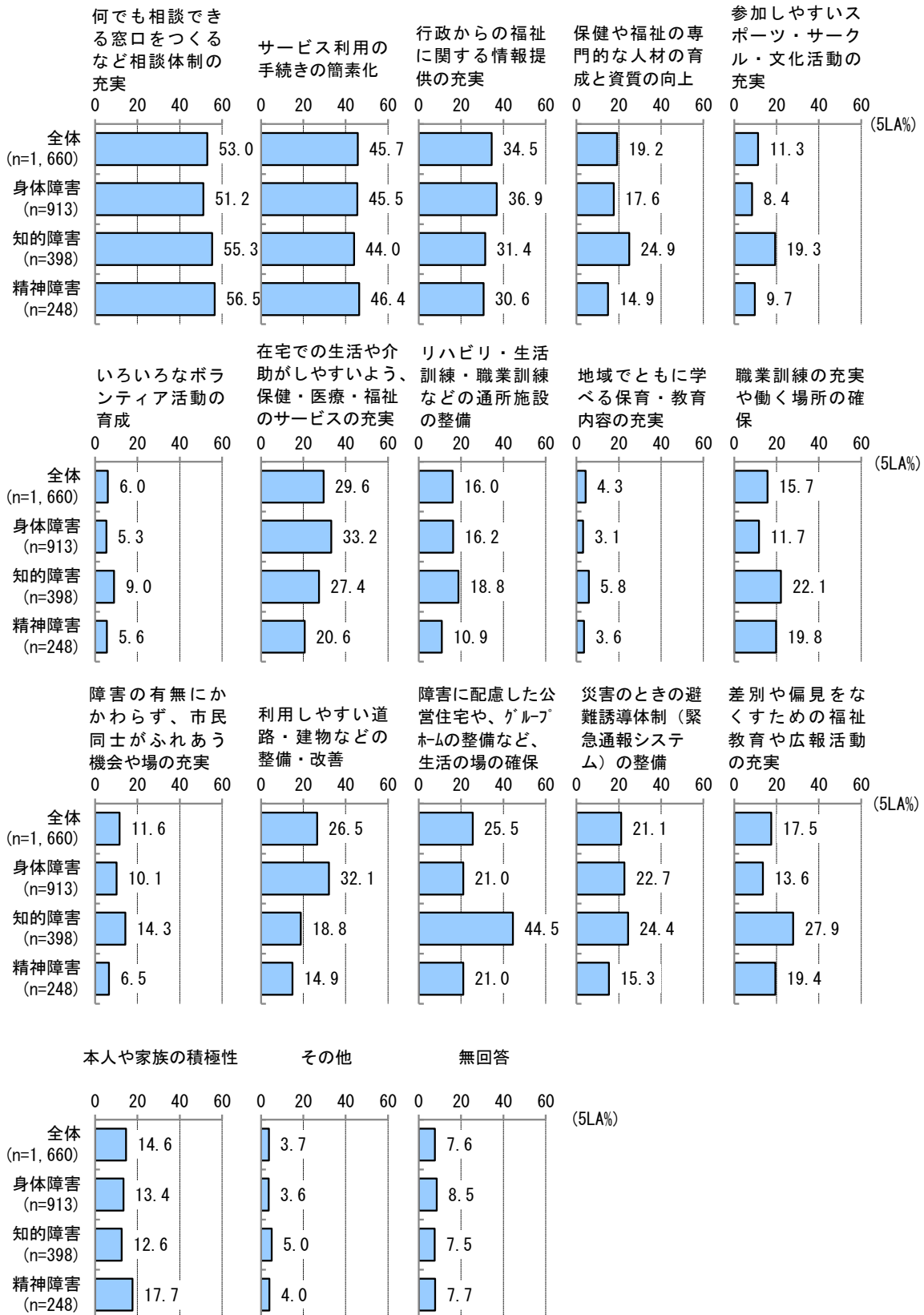
羽曳野市が障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思うかについては、「どちらともいえない」が23.8%で最も多く、次いで「あまり思わない」が13.0%、「やや思う」が11.0%で、「思う」(9.3%)と「やや思う」をあわせた『暮らしやすい』は20.3%、「あまり思わない」と「思わない」(7.6%)をあわせた『暮らしにくい』は20.6%となっている。

障害種別でみると、『暮らしやすい』は精神障害が23.0%で最も高い割合となっている。(図12-1)

(2) 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために必要なこと

問55 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は主なもの5つまで)

【図12-2 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために必要なこと】



障害のある人にとって住みよいまちをつくるために必要なことについては、「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が53.0%で最も多く、次いで「サービス利用の手続きの簡素化」が45.7%、「行政からの福祉に関する情報提供の充実」が34.5%となっている。

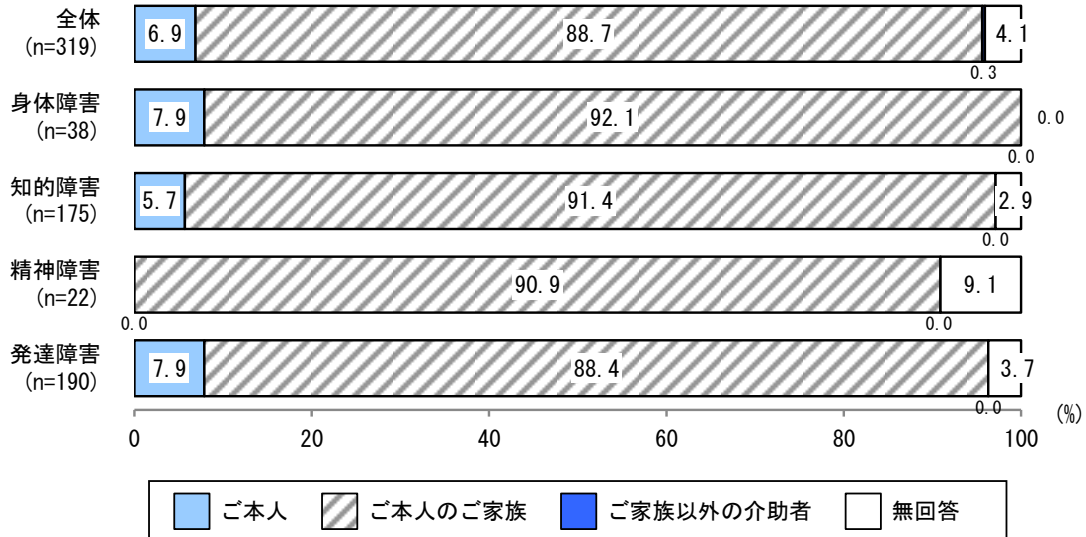
障害種別でみると、いずれも「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が最も多く、次いで身体障害・精神障害は「サービス利用の手続きの簡素化」（身体45.5%、精神46.4%）、知的障害は「障害に配慮した公営住宅や、グループホームの整備など、生活の場の確保」（44.5%）となっている。（図12-2）

Ⅲ 調査結果〔18歳未満の障害のある人に対するアンケート調査〕

1. 回答者の属性

(1) 調査の回答者

【図1-1 調査の回答者】

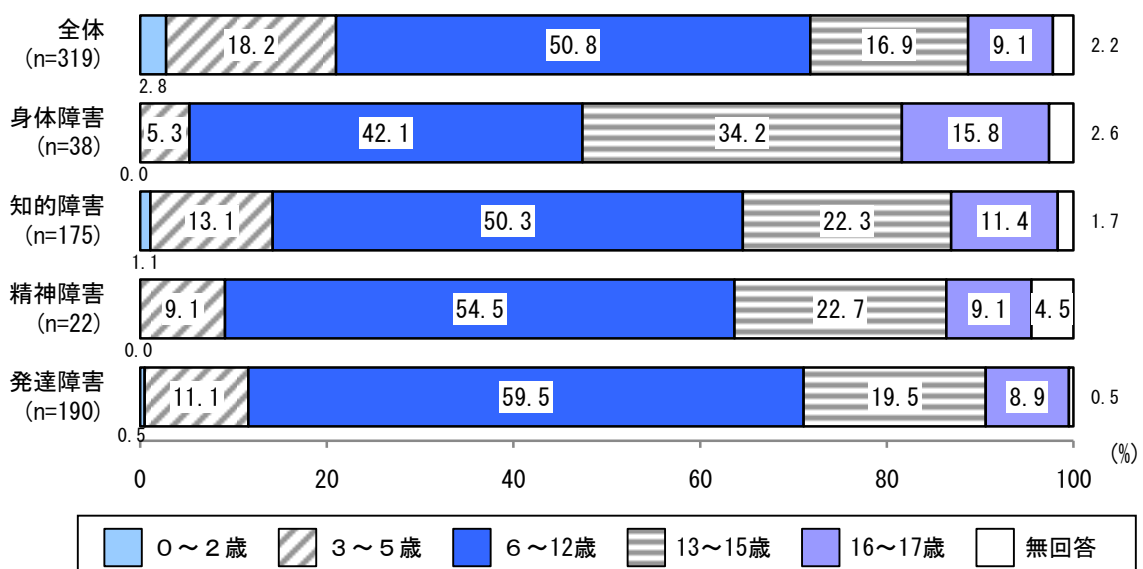


調査の回答者は、「ご本人のご家族」が88.7%で最も多く、次いで「ご本人」が6.9%、「ご家族以外の介助者」が0.3%となっている。

障害種別でも大きな差はみられない。(図1-1)

(2) 年齢

【図1-2 年齢】

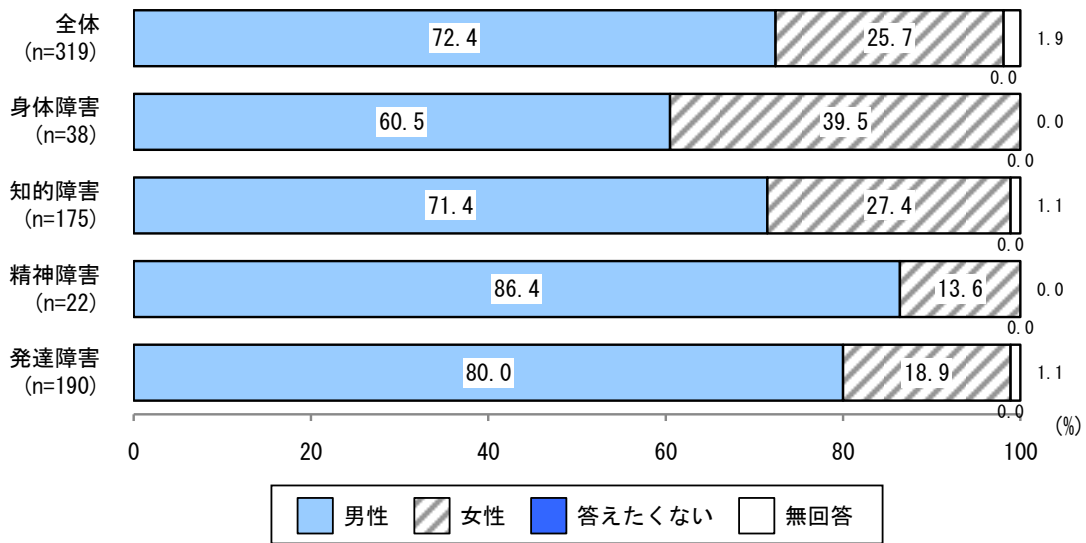


対象者の年齢は、「6~12歳」が50.8%で最も多く、次いで「3~5歳」が18.2%、「13~15歳」が16.9%となっている。

障害種別で見ると、いずれも「6~12歳」が最も多く、次いで「13~15歳」となっている。(図1-2)

(3) 性別

【図1-3 性別】

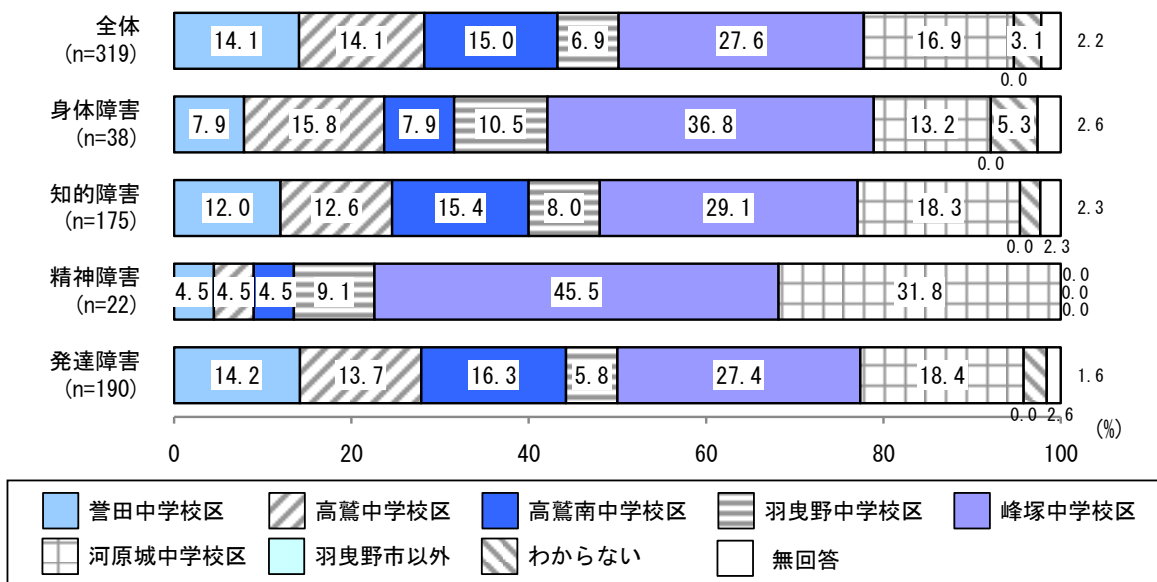


対象者の性別は、「男性」が72.4%、「女性」が25.7%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「男性」が60.5%、「女性」が39.5%となっている。知的障害は「男性」が71.4%、「女性」が27.4%となっている。精神障害は「男性」が86.4%、「女性」が13.6%となっている。発達障害は「男性」が80.0%、「女性」が18.9%となっている。(図1-3)

(4) 居住地

【図1-4 居住地】

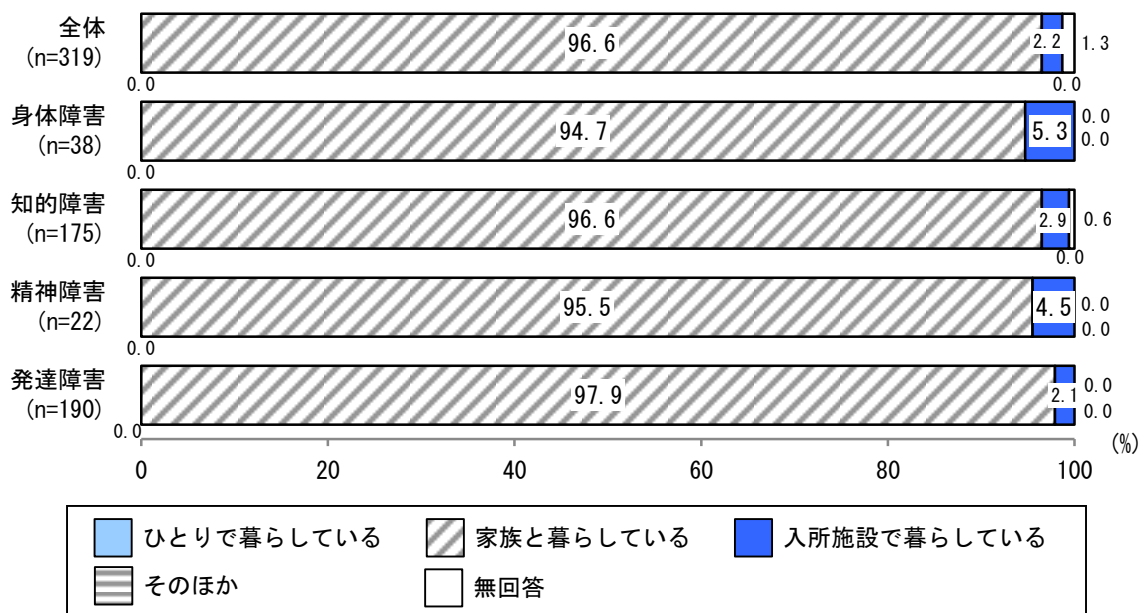


居住地を中学校区でみると、「峰塚中学校区」が27.6%で最も多く、次いで「河原城中学校区」が16.9%、「高鷲南中学校区」が15.0%となっている。

障害種別でみると、いずれも「峰塚中学校区」が最も多く、精神障害が45.5%で最も高い割合となっている。(図1-4)

(5) 現在の暮らし

【図1-5 現在の暮らし】



現在、どのように暮らしているかでは、「家族と暮らしている」が96.6%で最も多く、次いで「入所施設で暮らしている」が2.2%となっている。

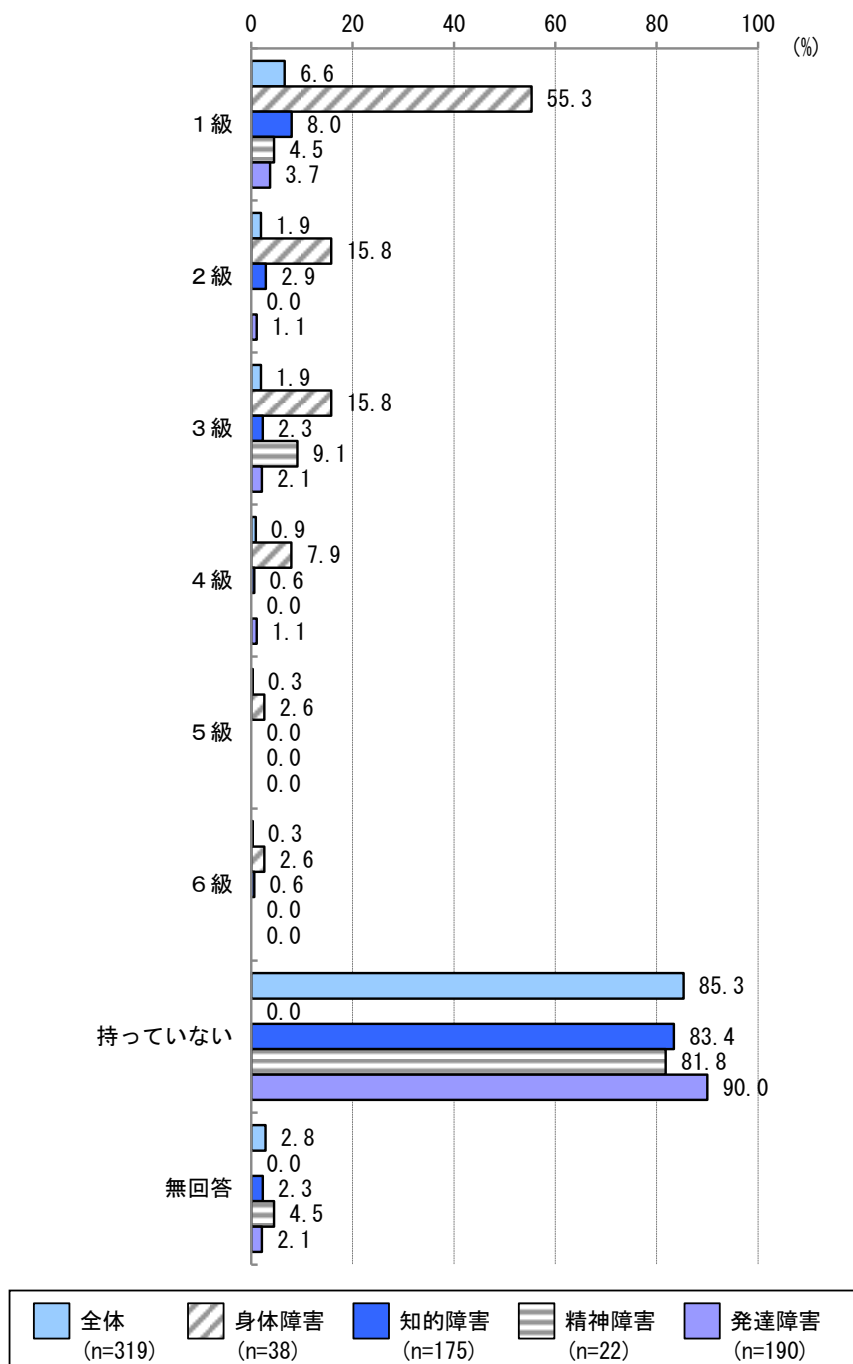
障害種別でも大きな差はみられない。(図1-5)

2. 障害等の状況

(1) 身体障害者手帳の有無

問6 あなた（宛名の方）は身体障害者手帳をお持ちですか。（○は1つだけ）

【図2-1 身体障害者手帳の有無】



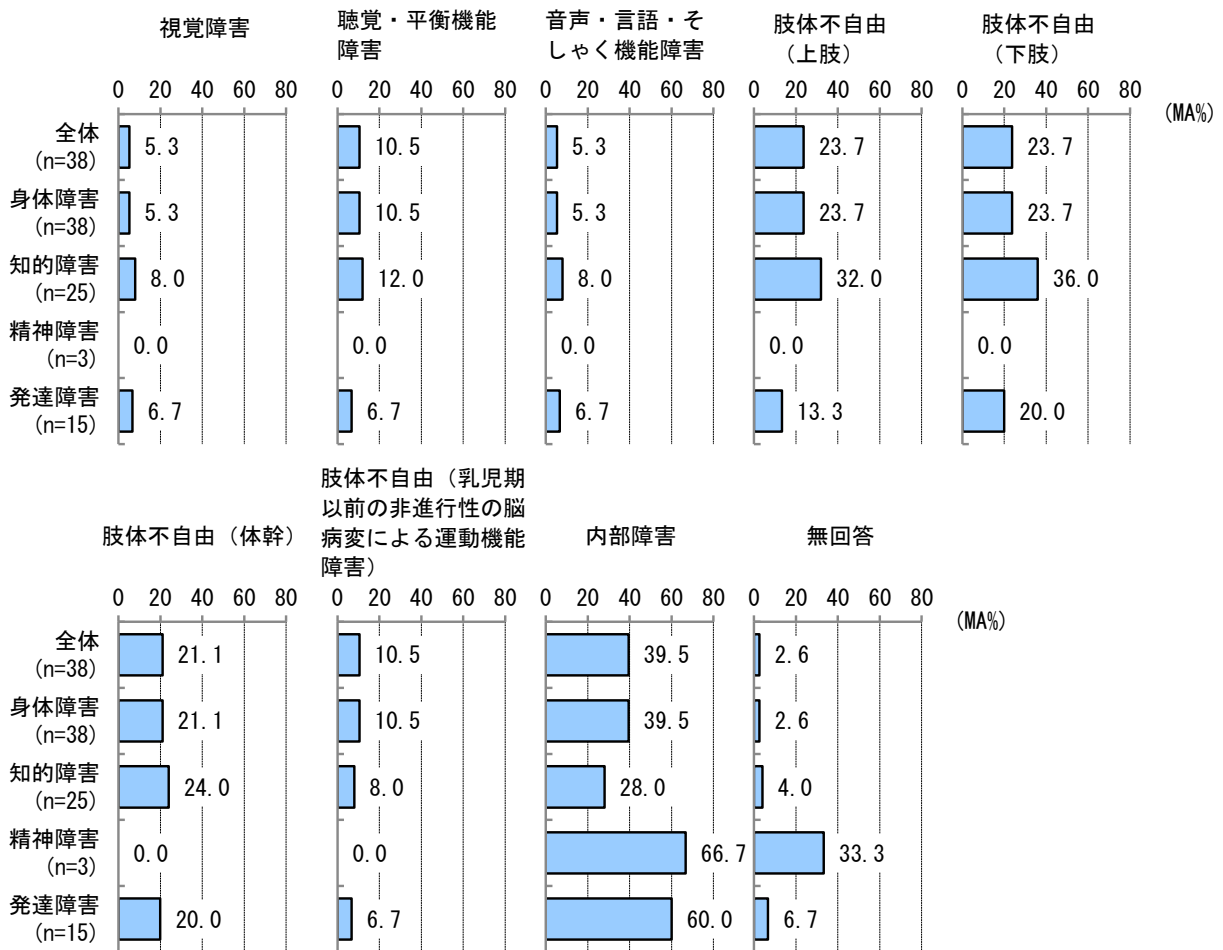
身体障害者手帳の有無については、「持っていない」が85.3%で最も多く、持っている人では「1級」が6.6%で最も多く、「2級」、「3級」がそれぞれ1.9%で続いている。

障害種別でみると、身体障害は「1級」が55.3%で最も多く、次いで「2級」、「3級」がそれぞれ15.8%となっている。（図2-1）

(2) 身体障害の内容

問7 (問6で1.～6.を答えた方) あなた(宛名の方)の身体障害はどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

【図2-2 身体障害の内容】



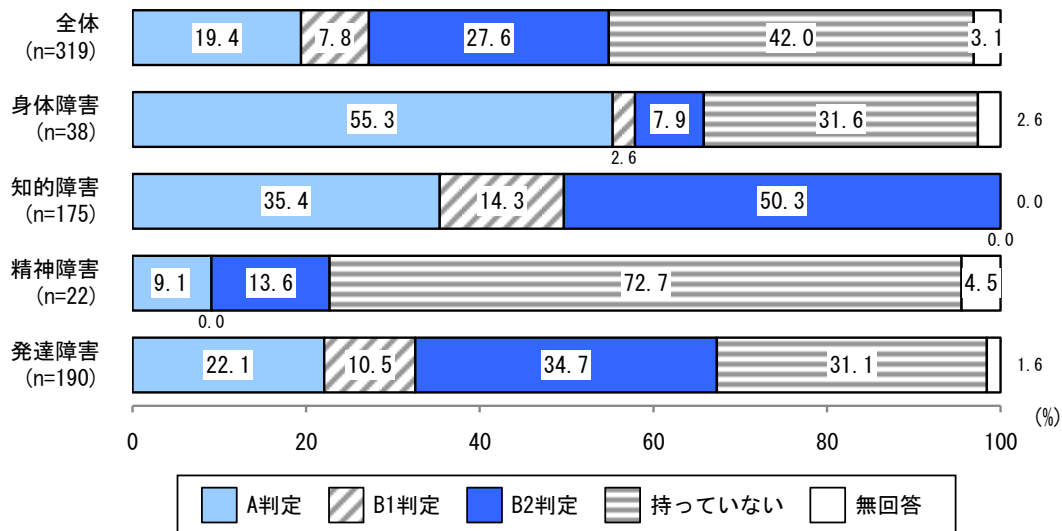
身体障害者手帳を持っていると回答した人に、身体障害の内容についてたずねると、「内部障害」が39.5%で最も多く、次いで「肢体不自由（上肢）」、「肢体不自由（下肢）」がそれぞれ23.7%となっている。

障害種別でみると、知的障害は「肢体不自由（下肢）」が36.0%で最も多く、それ以外の障害では「内部障害」が最も多くなっている。(図2-2)

(3) 療育手帳の有無

問8 あなた（宛名の方）は療育手帳をお持ちですか。（○は1つだけ）

【図2-3 療育手帳の有無】



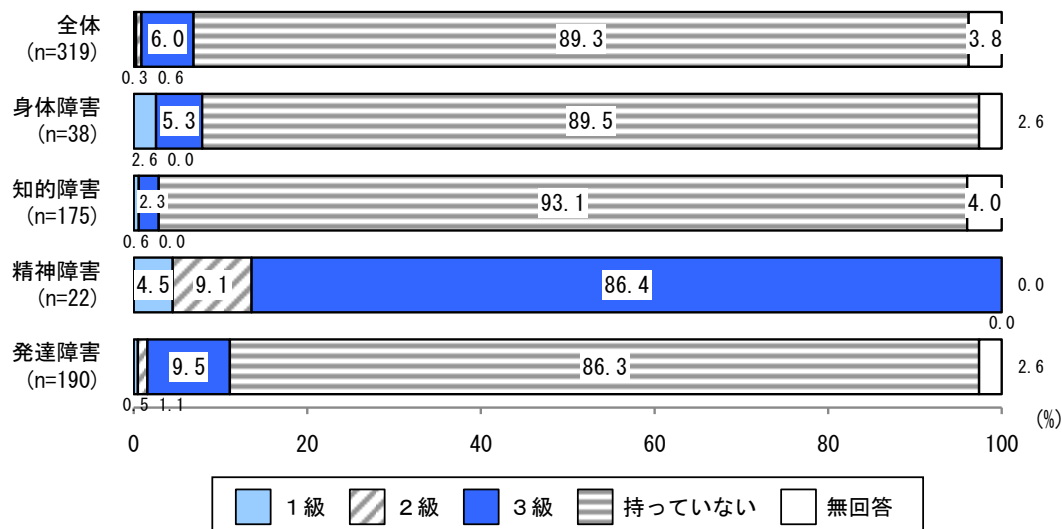
療育手帳の有無については、「持っていない」が42.0%で最も多く、次いで「B2判定」が27.6%、「A判定」が19.4%、「B1判定」が7.8%となっている。

障害種別でみると、知的障害では「B2判定」が50.3%で最も多く、次いで「A判定」が35.4%、「B1判定」が14.3%となっている。(図2-3)

(4) 精神障害者保健福祉手帳の有無

問9 あなた（宛名の方）は精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。（○は1つだけ）

【図2-4 精神障害者保健福祉手帳の有無】



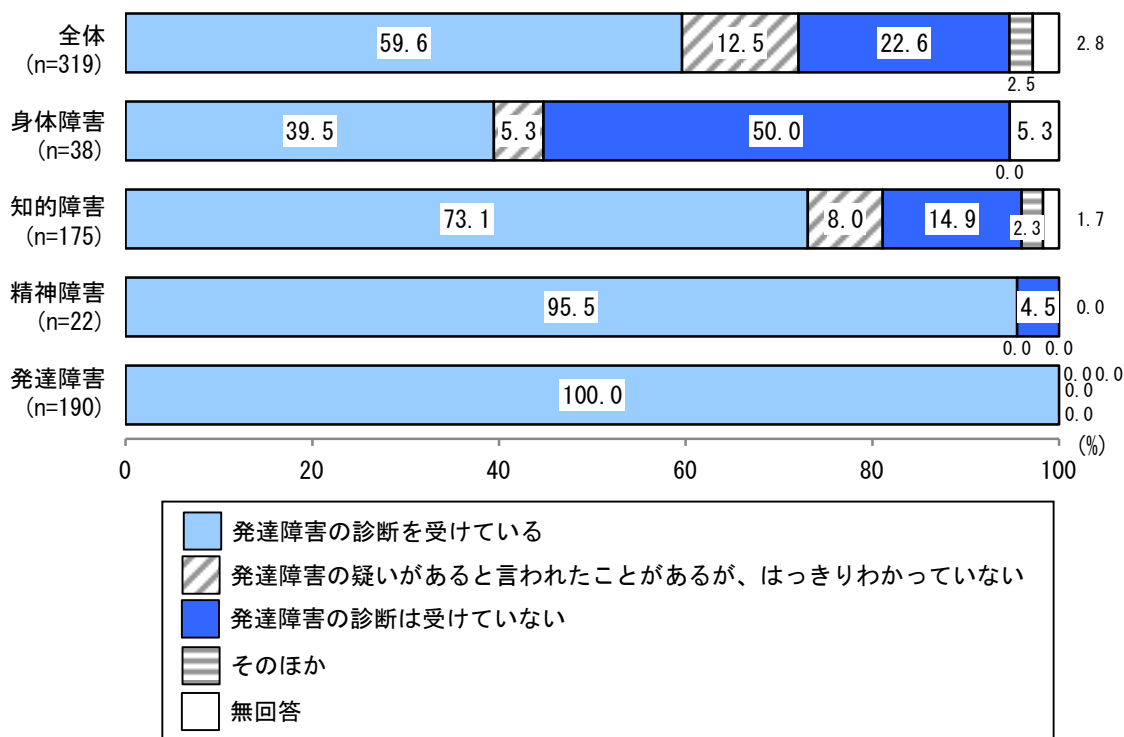
精神障害者保健福祉手帳の有無については、「持っていない」が89.3%で最も多く、次いで「3級」が6.0%、「2級」が0.6%となっている。

障害種別でみると、精神障害は「3級」が86.4%で最も多く、次いで「2級」が9.1%、「1級」が4.5%となっている。(図2-4)

(5) 発達障害の診断

問10 あなた（宛名の方）は発達障害と診断されたことがありますか。（○は1つだけ）

【図2-5 発達障害の診断】



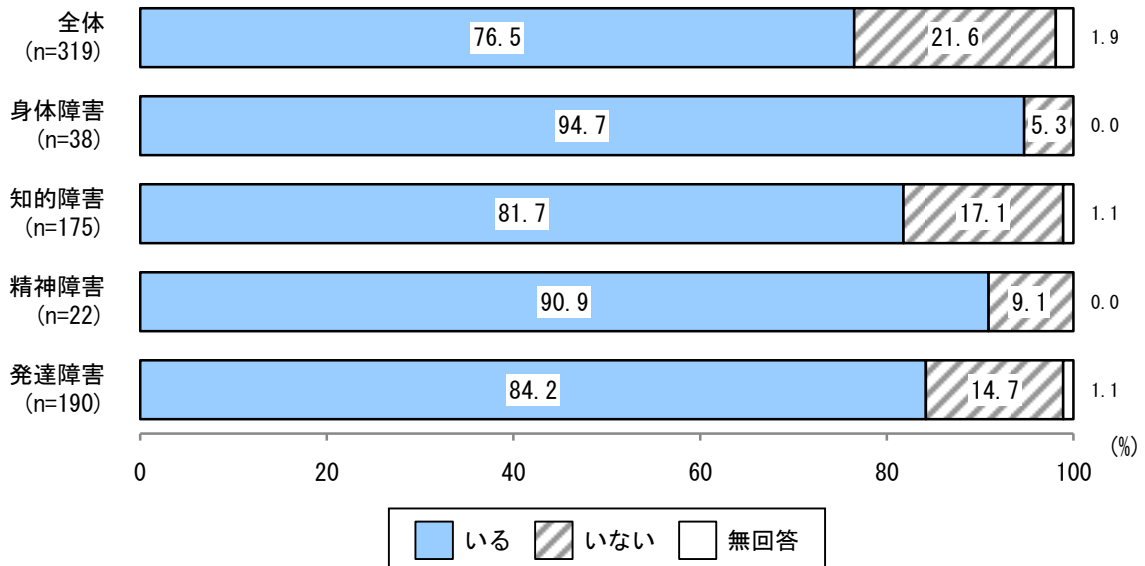
発達障害の診断については、「発達障害の診断を受けている」が59.6%で最も多く、次いで「発達障害の診断は受けていない」が22.6%、「発達障害の疑いがあると言われたことがあるが、はっきりわかっていない」が12.5%となっている。

障害種別でみると、「発達障害の診断を受けている」は精神障害が95.5%、知的障害が73.1%となっている。（図2-5）

(6) かかりつけ医の有無

問11 あなた（宛名の方）には、障害等のことでふだんからみてもらったり、相談したりできる病院や診療所の先生（かかりつけ医）はいますか。（○は1つだけ）

【図2-6 かかりつけ医の有無】

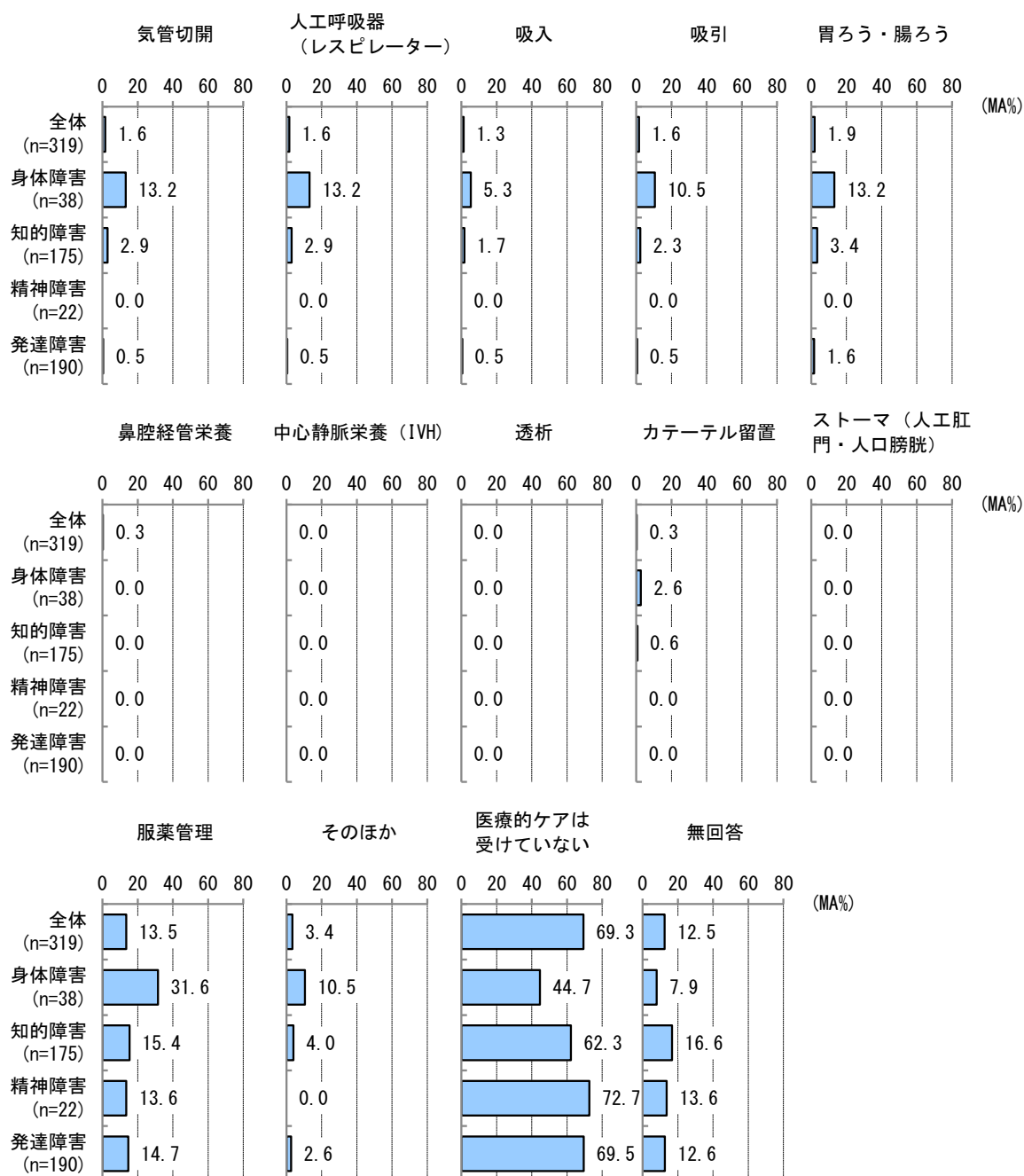


かかりつけ医の有無については、「いる」が76.5%、「いない」が21.6%となっている。障害種別でみると、「いる」は身体障害が94.7%で最も高く、次いで精神障害（90.9%）となっている。（図2-6）

(7) 現在受けている医療的ケア

問12 あなた（宛名の方）が現在受けている医療的ケアをご回答ください。
（あてはまるものすべてに○）

【図2-7 現在受けている医療的ケア】



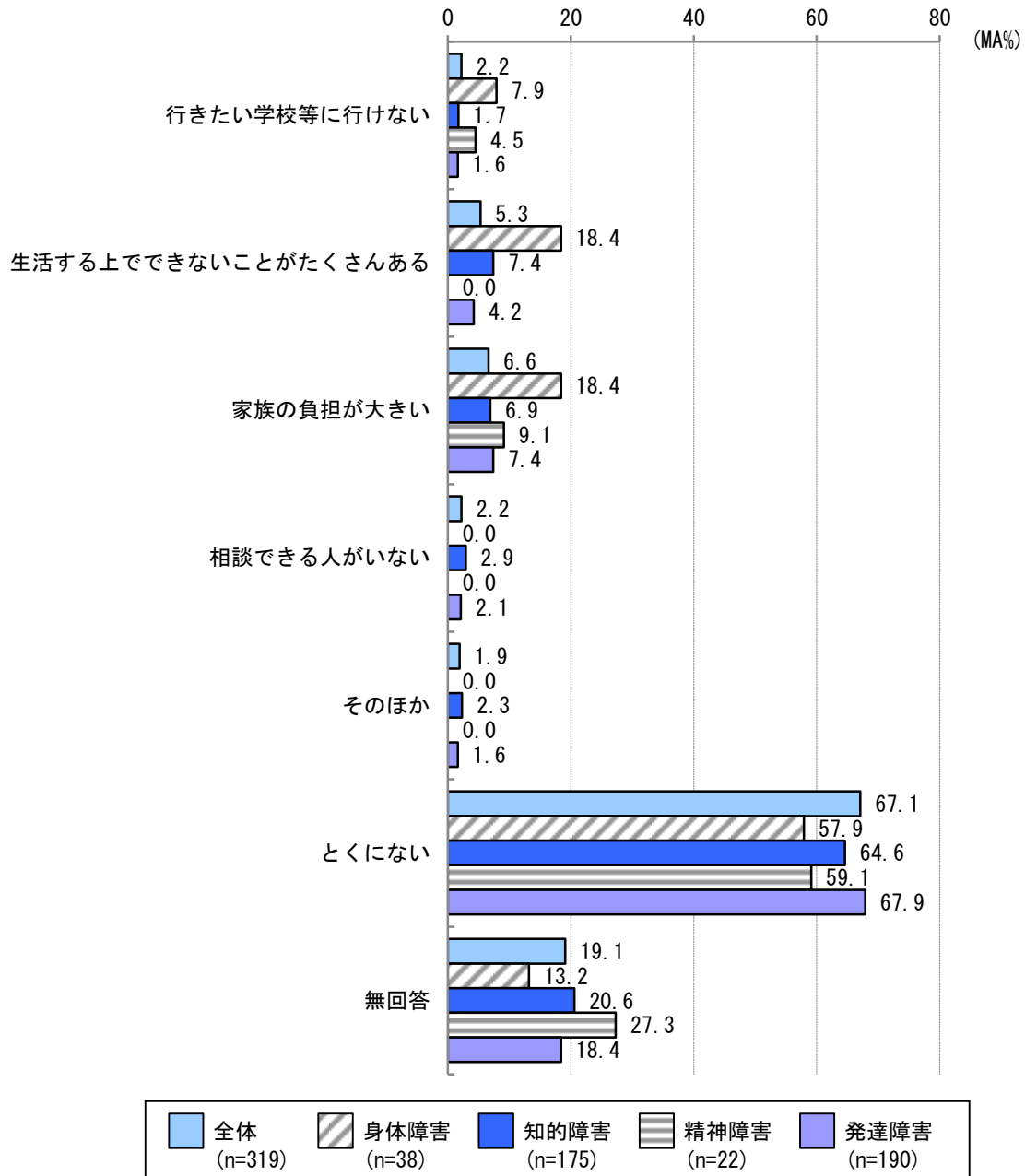
現在受けている医療的ケアについては、「服薬管理」が13.5%で最も多く、次いで「胃ろう・腸ろう」が1.9%となっている。一方、「医療的ケアは受けていない」は69.3%となっている。

障害種別でみると、いずれも「服薬管理」が最も多く、身体障害（31.6%）で最も高い割合となっている。（図2-7）

(8) 医療的ケアが必要なため困ったこと

問13 あなた（宛名の方）は、医療的ケアが必要なために困ったことはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

【図2-8 医療的ケアが必要なため困ったこと】



医療的ケアが必要なため困ったことについては、「とくにない」が67.1%で最も多いが、困ったことがある人では、「家族の負担が大きい」が6.6%で最も多く、次いで「生活する上でできないことがたくさんある」が5.3%となっている。

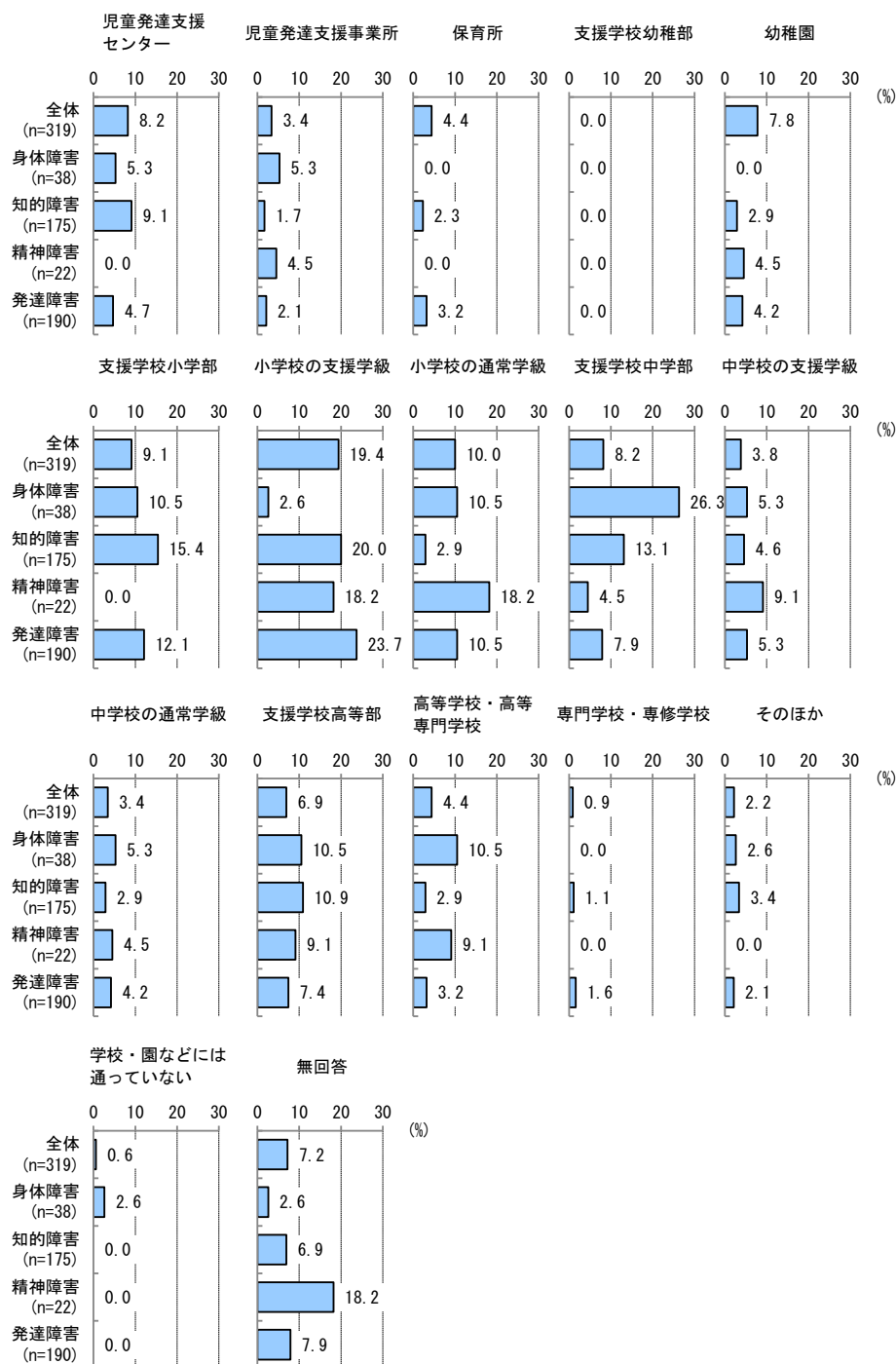
障害種別でみると、身体障害は「生活する上でできないことがたくさんある」、「家族の負担が大きい」がそれぞれ18.4%で最も多く、知的障害は「生活する上でできないことがたくさんある」(7.4%)、精神障害・発達障害は「家族の負担が大きい」(精神9.1%、発達7.4%)が最も多くなっている。(図2-8)

3. 学校のこと、将来のこと

(1) 主に通っている学校・園の種類

問14 あなた（宛名の方）が主に通っている学校・園などの種類はどれですか。
（○は1つだけ）

【図3-1 主に通っている学校・園の種類】



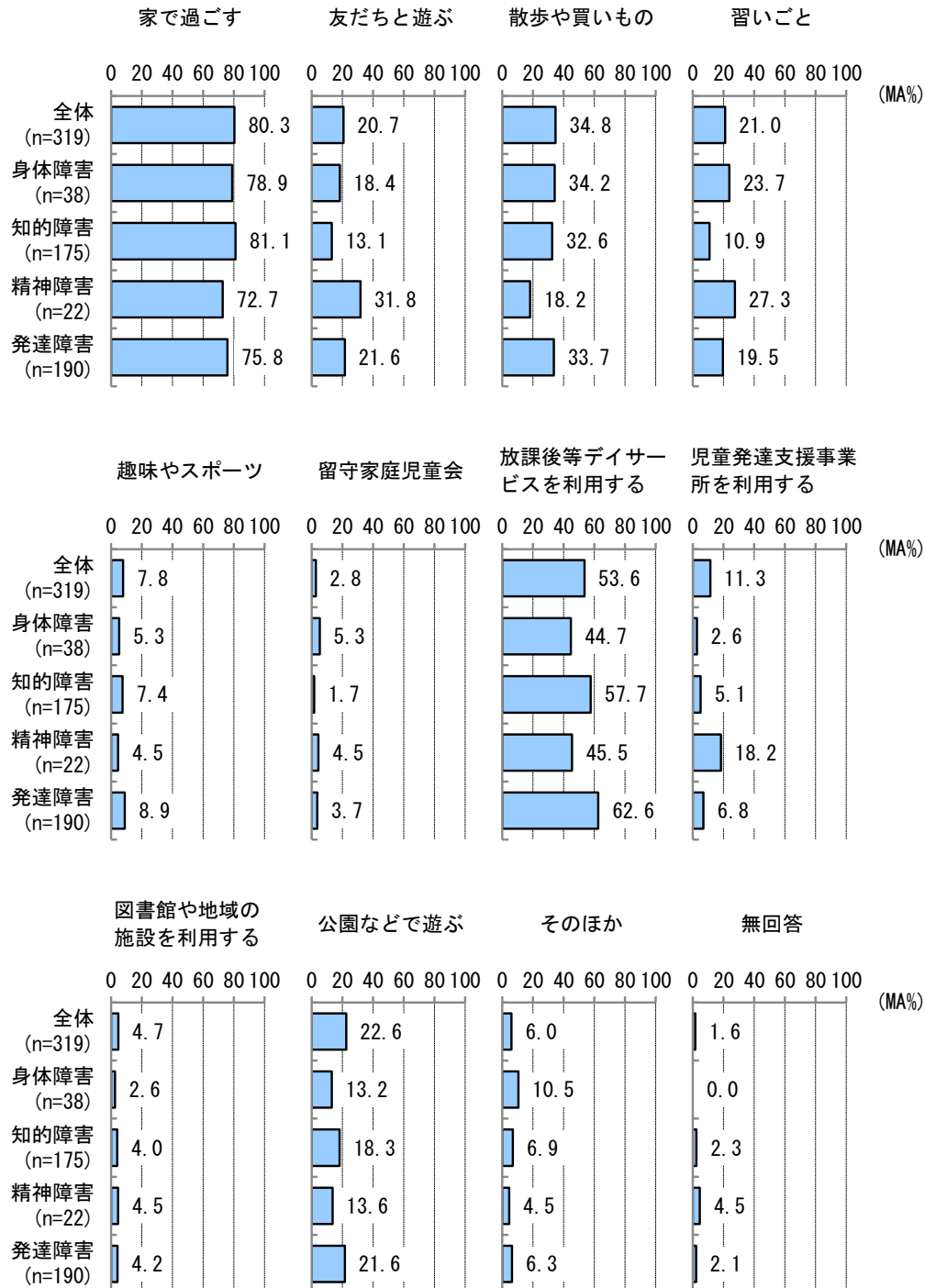
主に通っている学校・園の種類については、「小学校の支援学級」が19.4%で最も多く、次いで「小学校の通常学級」が10.0%、「支援学校小学部」が9.1%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「支援学校中学部」（26.3%）、知的障害・発達障害は「小学校の支援学級」（知的20.0%、発達23.7%）、精神障害は「小学校の支援学級」と「小学校の通常学級」がそれぞれ18.2%で最も多くなっている。（図3-1）

(2) 休みの日や放課後の過ごし方

問15 あなた（宛名の方）は、休みの日や放課後にどんなことをしていますか。週に1回以上していることを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

【図3-2 休みの日や放課後の過ごし方】



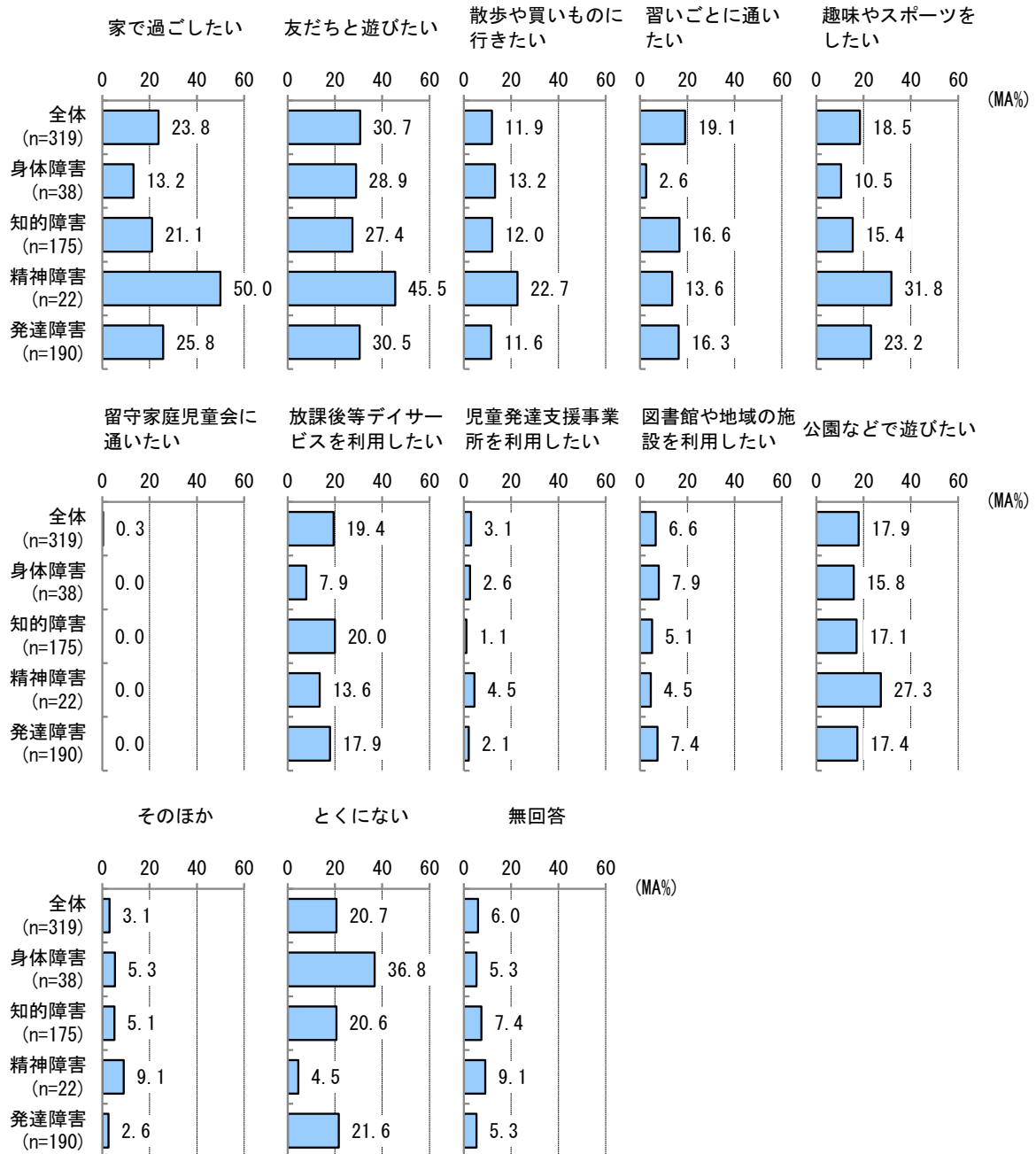
休みの日や放課後の過ごし方については、「家で過ごす」が80.3%で最も多く、次いで「放課後等デイサービスを利用する」が53.6%、「散歩や買いもの」が34.8%となっている。

障害種別でみると、いずれも「家で過ごす」が最も多く、次いで「放課後等デイサービスを利用する」となっている。(図3-2)

(3) 今後、休みの日や放課後にしたいこと

問16 あなた（宛名の方）は今後、休みの日や放課後にしたいことがありますか。今もしていること以外（問15で答えたこと以外）でお答えください。
 （あてはまるものすべてに○）

【図3-3 今後、休みの日や放課後にしたいこと】



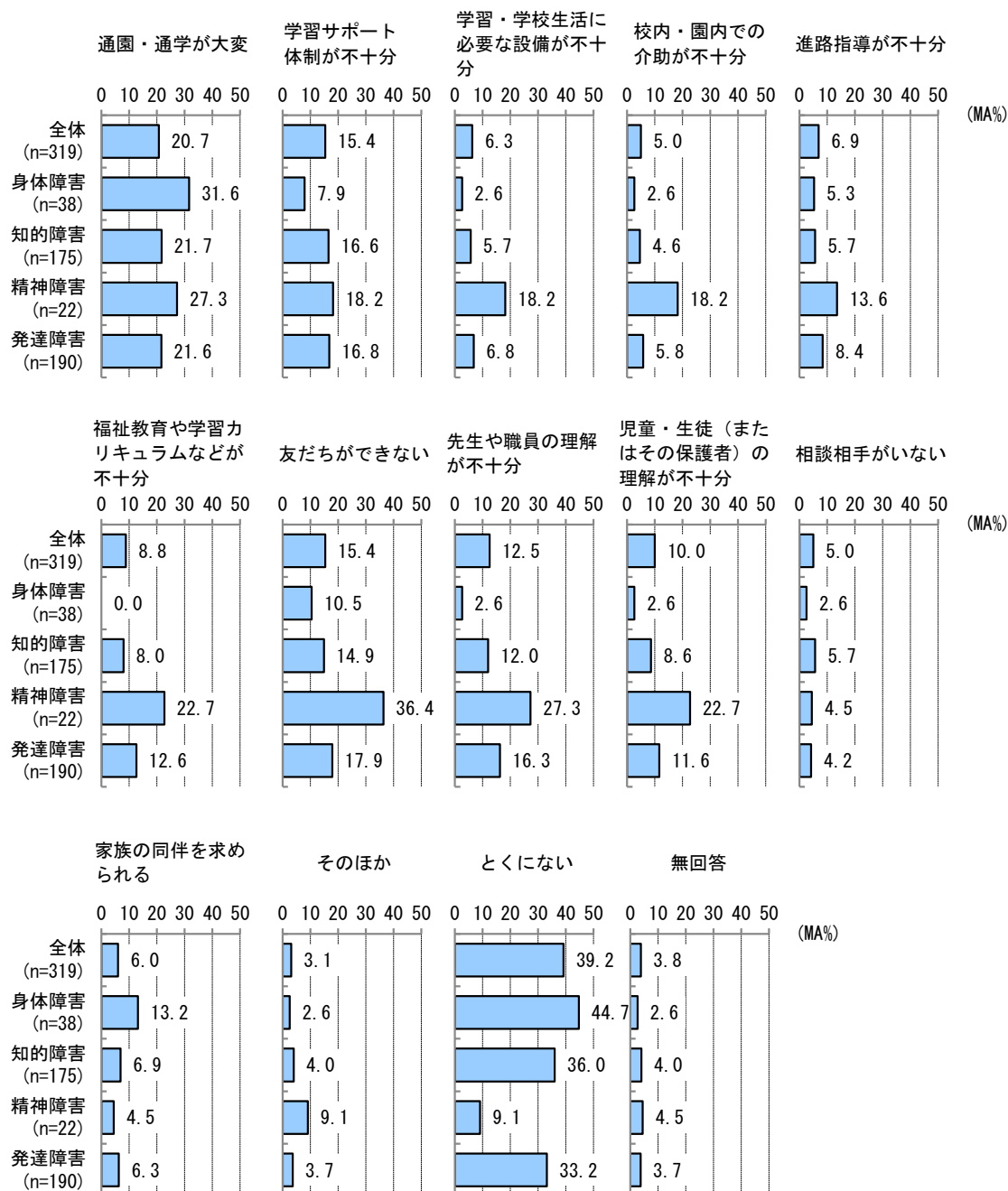
今後、休みの日や放課後にしたいことについては、「友だちと遊びたい」が30.7%で最も多く、次いで「家で過ごしたい」が23.8%、「放課後等デイサービスを利用したい」が19.4%、「習いごとに通いたい」が19.1%となっている。

障害種別でみると、身体障害・知的障害・発達障害は「友だちと遊びたい」（身体28.9%、知的27.4%、発達30.5%）が最も多く、精神障害は「家で過ごしたい」が50.0%で最も多くなっている。（図3-3）

(4) 園・学校生活を送る上での問題点

問17 あなた（宛名の方）が園・学校生活を送る上での問題点は、次のどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

【図3-4 園・学校生活を送る上での問題点】



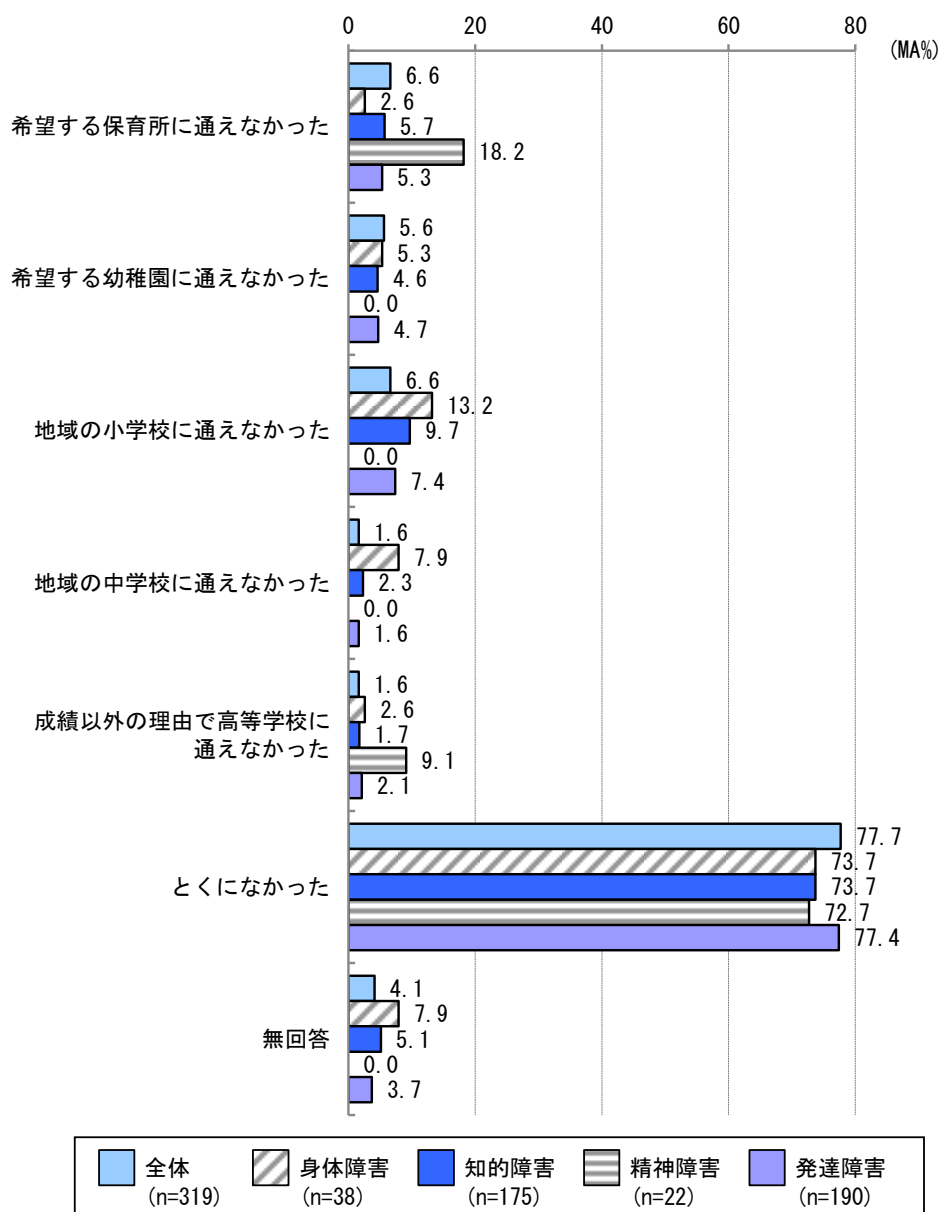
園・学校生活を送る上での問題点については、「とくにない」が39.2%で最も多いが、問題点がある人では「通園・通学が大変」が20.7%で最も多く、次いで「学習サポート体制が不十分」、「友だちができない」がそれぞれ15.4%となっている。

障害種別でみると、問題点がある人では、身体障害・知的障害・発達障害は「通園・通学が大変」（身体31.6%、知的21.7%、発達21.6%）が最も多く、精神障害は「友だちができない」が36.4%で最も多くなっている。（図3-4）

(5) 障害等があるために、希望する園・学校などに通えなかったこと

問18 あなた（宛名の方）はこれまで、障害等があるために、自分や家族が希望する園・学校に通えなかったり、進学できなかったことがありますか。
 （あてはまるものすべてに○）

【図3-5 障害等があるために、希望する園・学校などに通えなかったこと】



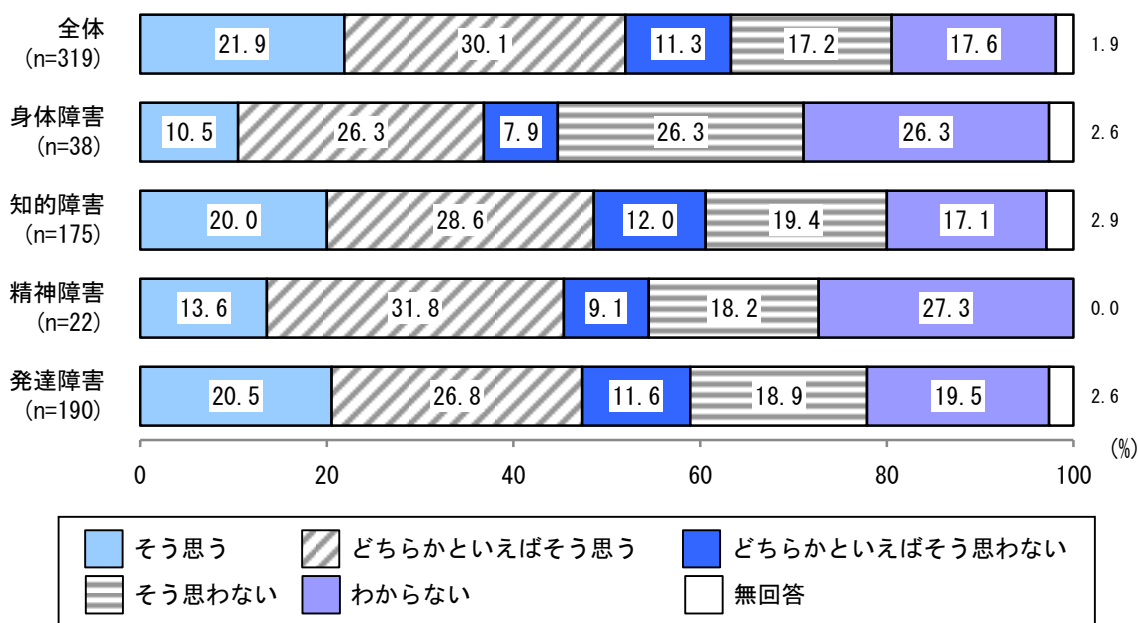
障害等があるために、希望する園・学校などに通えなかったことについては、「とくになかった」が77.7%で最も多いが、あった人では「希望する保育所に通えなかった」、「地域の小学校に通えなかった」がそれぞれ6.6%で最も多く、次いで「希望する幼稚園に通えなかった」が5.6%となっている。

障害種別でみると、あった人では、身体障害・知的障害・発達障害では「地域の小学校に通えなかった」（身体13.2%、知的9.7%、発達7.4%）が最も多く、精神障害は「希望する保育所に通えなかった」が18.2%で最も多くなっている。（図3-5）

(6) 障害等の有無に関わらず、できるだけ同じ学校で教育を受ける方がよいという意見について

問19 あなた（宛名の方）は、障害等があるかないかにかかわらず、できるだけ同じ学校や教室で教育を受ける方がよいという意見について、どう思いますか。
 (○は1つだけ)

【図3-6 障害等の有無に関わらず、できるだけ同じ学校で教育を受ける方がよいという意見について】

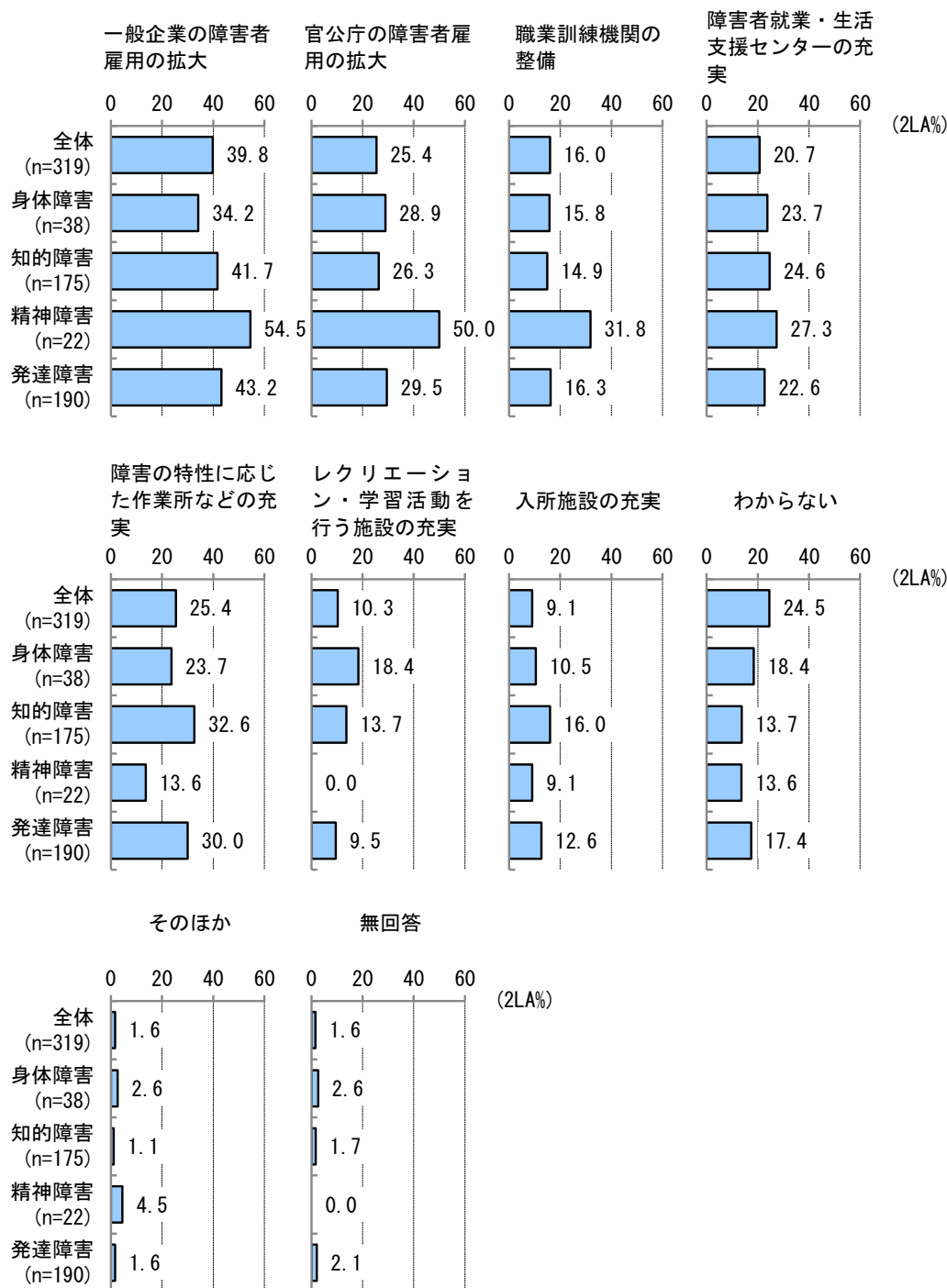


障害等の有無に関わらず、できるだけ同じ学校で教育を受ける方がよいという意見については、「どちらかといえばそう思う」が30.1%で最も多く、次いで「そう思う」が21.9%、「そう思わない」が17.2%、「どちらかといえばそう思わない」が11.3%となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定的意見は52.0%となっている。障害種別でみると、肯定的意見は知的障害（48.6%）で最も高い割合となっている。（図3-6）

(7) 将来就労するにあたって望むこと

問20 あなた（宛名の方）が将来、就労（または日中の活動を）するにあたって、どのようなことを望みますか。（主なもの2つまで○）

【図3-7 将来就労するにあたって望むこと】



将来就労するにあたって望むことについては、「一般企業の障害者雇用の拡大」が39.8%で最も多く、次いで「官公庁の障害者雇用の拡大」、「障害の特性に応じた作業所などの充実」がそれぞれ25.4%、「障害者就業・生活支援センターの充実」が20.7%となっている。

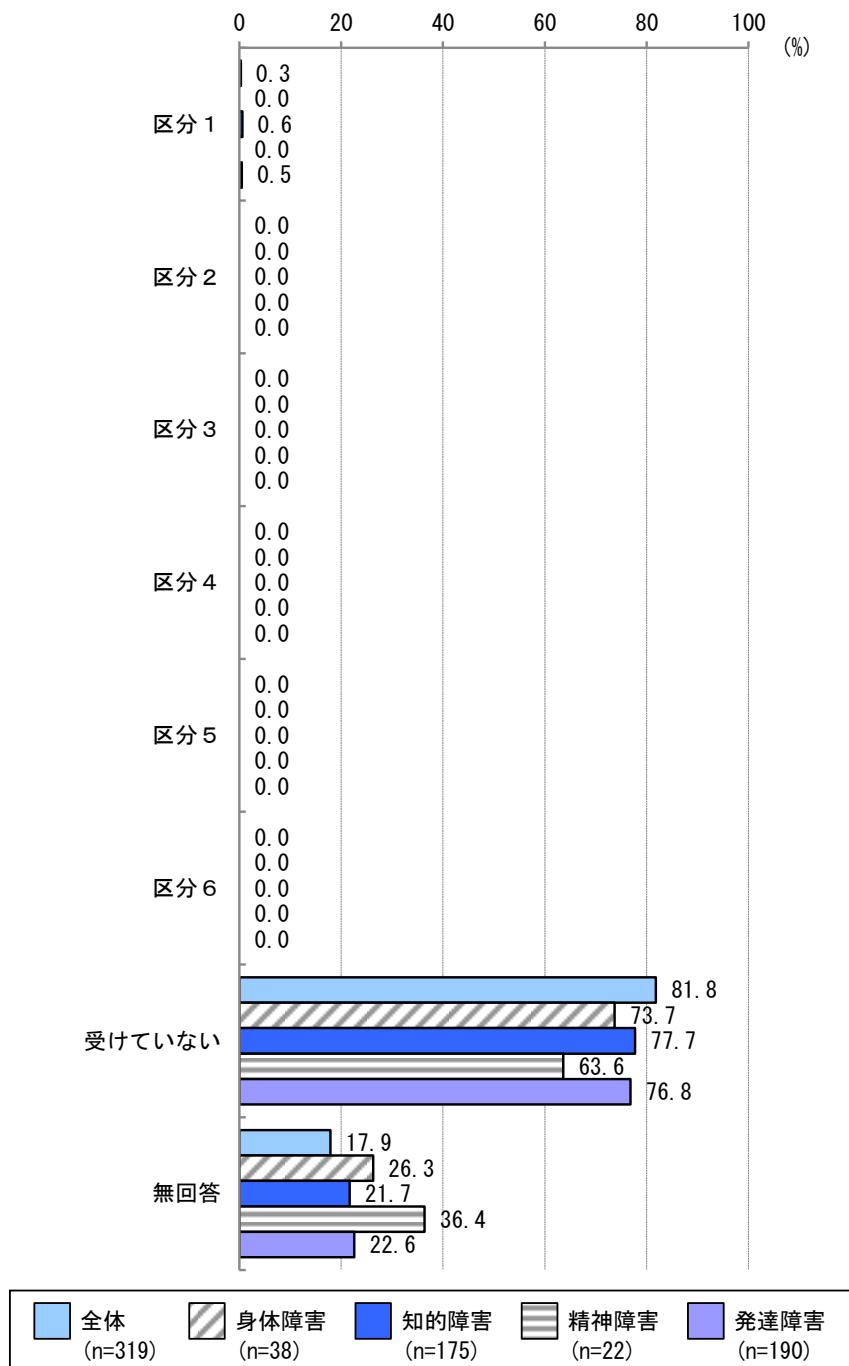
障害種別でみると、いずれも「一般企業の障害者雇用の拡大」が最も多く、精神障害が54.5%で最も高い割合となっている。（図3-7）

4. 福祉サービス等の利用について

(1) 障害支援区分の認定

問21 あなた（宛名の方）は障害支援区分の認定を受けていますか。（○は1つだけ）

【図4-1 障害支援区分の認定】

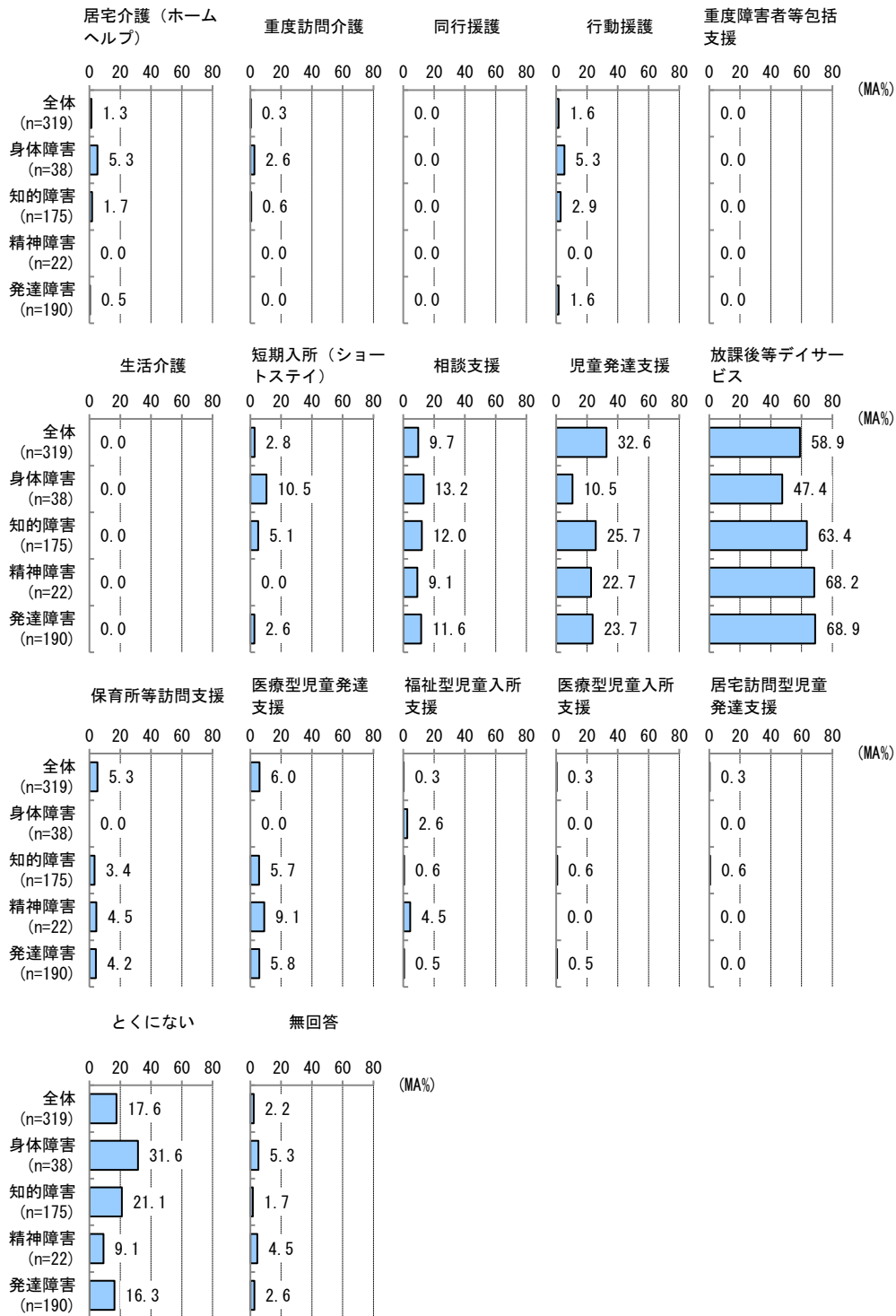


障害支援区分の認定については、「受けていない」が81.8%で最も多くなっている。障害種別でも、大きな差はみられない。（図4-1）

(2) 1年以内に利用したことのあるサービス

問22 あなたは以下の福祉サービスを利用していますか。過去1年以内に利用したことのあるサービスすべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

【図4-2 1年以内に利用したことのあるサービス】



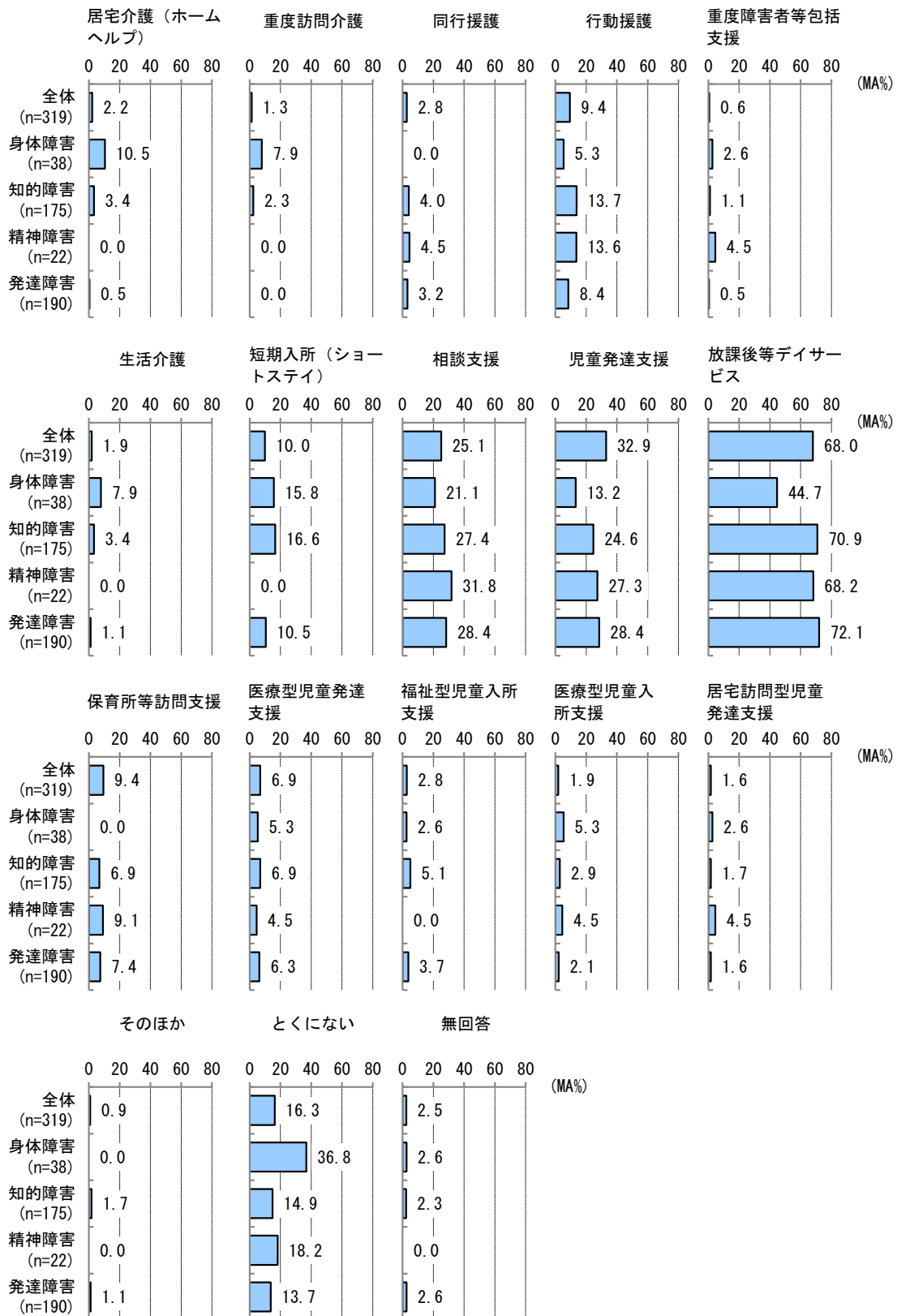
1年以内に利用したことのあるサービスについては、「放課後等デイサービス」が58.9%で最も多く、次いで「児童発達支援」が32.6%、「相談支援」が9.7%となっている。

障害種別でみると、いずれも「放課後等デイサービス」が最も多く、発達障害が68.9%で最も高い割合となっている。(図4-2)

(3) 今後3年間で利用したいサービス

問23 あなた（宛名の方）は以下のサービスを今後3年間で利用したいと思いますか。現在利用しているサービスも含め、これから利用したいと思うサービスすべてに○をしてください。（あてはまるものすべてに○）

【図4-3 今後3年間で利用したいサービス】



Ⅲ 調査結果〔18歳未満の障害のある人に対するアンケート調査〕

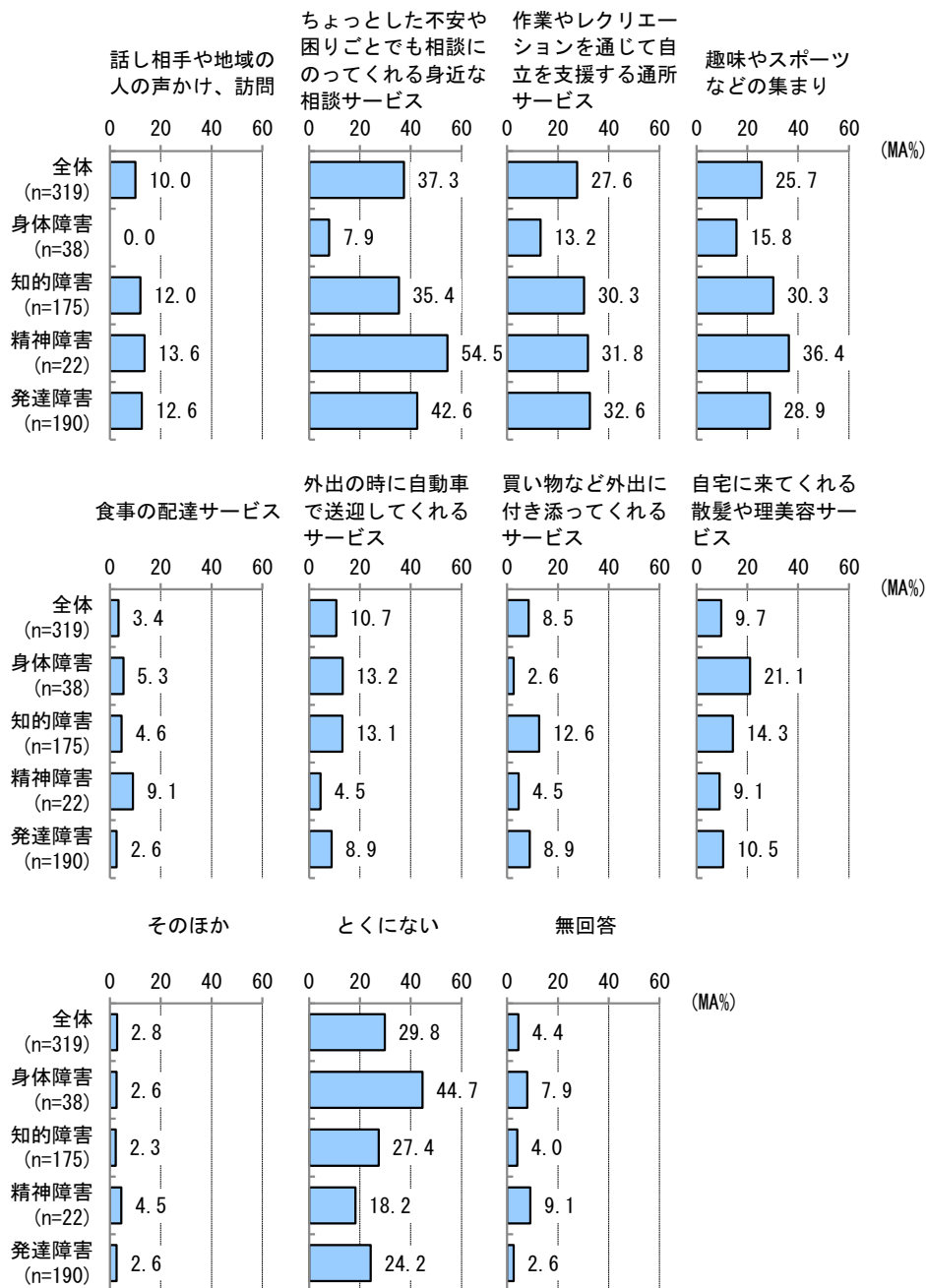
今後3年間で利用したいサービスについては、「放課後等デイサービス」が68.0%で最も多く、次いで「児童発達支援」が32.9%、「相談支援」が25.1%、「短期入所（ショートステイ）」が10.0%となっている。

障害種別でみると、いずれも「放課後等デイサービス」が最も多く、知的障害（70.9%）、精神障害（68.2%）、発達障害（72.1%）では7割前後と高い割合となっている。（図4-3）

(4) 利用したいサービス以外で必要な支援

問24 問23のサービス以外で、必要な支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

【図4-4 利用したいサービス以外で必要な支援】



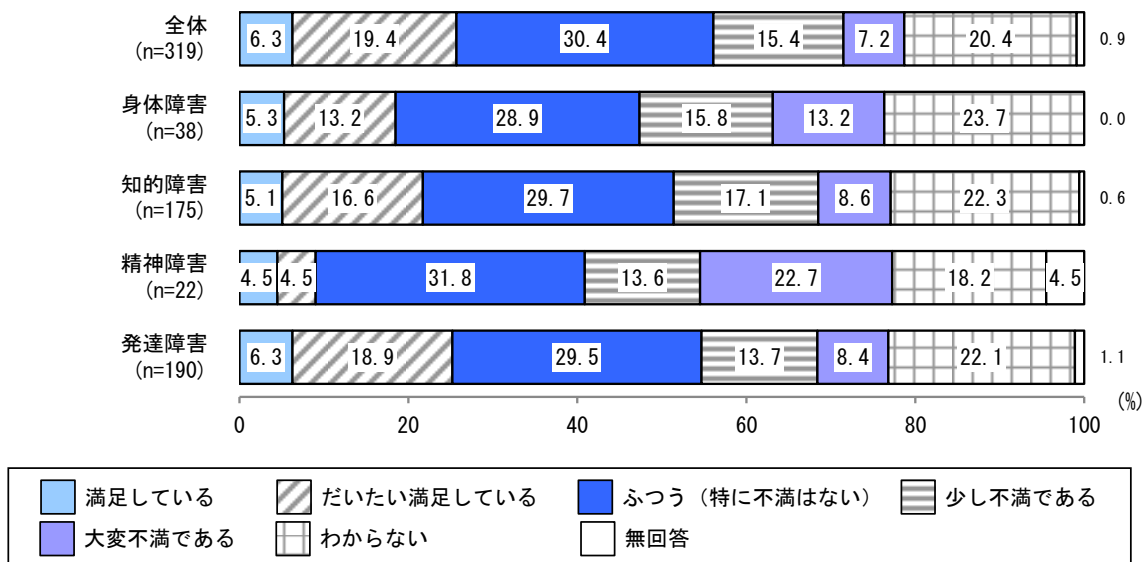
利用したいサービス以外で必要な支援については、「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」が37.3%で最も多く、次いで「作業やレクリエーションを通じて自立を支援する通所サービス」が27.6%、「趣味やスポーツなどの集まり」が25.7%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「自宅に来てくれる散髪や理美容サービス」(21.1%)が最も多く、知的障害・精神障害・発達障害は、「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」(知的35.4%、精神54.5%、発達42.6%)が最も多くなっている。(図4-4)

(5) 羽曳野市の障害福祉サービスの満足度

問25 あなた（宛名の方）は、羽曳野市の障害福祉サービスについて、全体としてどのように感じていますか。（○は1つだけ）

【図4-5 羽曳野市の障害福祉サービスの満足度】



羽曳野市の障害福祉サービスの満足度については、「ふつう（特に不満はない）」が30.4%で最も多く、次いで「だいたい満足している」が19.4%、「少し不満である」が15.4%となっており、「満足している」(6.3%)と「だいたい満足している」をあわせた『満足』は25.7%、「少し不満である」と「大変不満である」をあわせた『不満』は22.6%となっている。

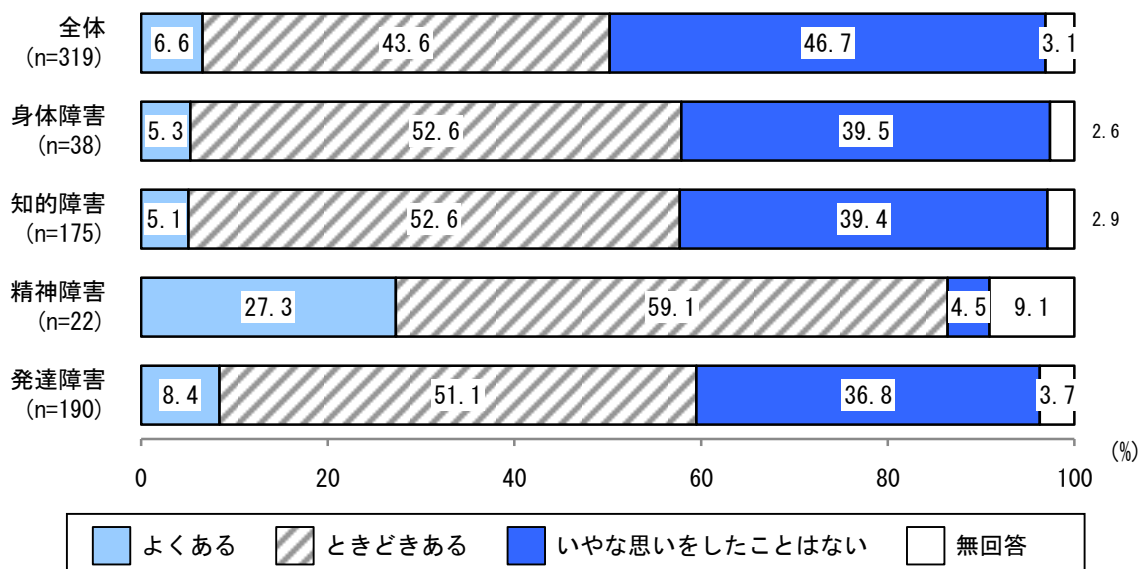
障害種別でみると、『満足』は発達障害(25.2%)が最も高く、『不満』は精神障害(36.3%)が最も高い割合となっている。(図4-5)

5. 権利擁護について

(1) ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたこと

問26 あなた（宛名の方）は、障害等があることで、ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。（○は1つだけ）

【図5-1 ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたこと】



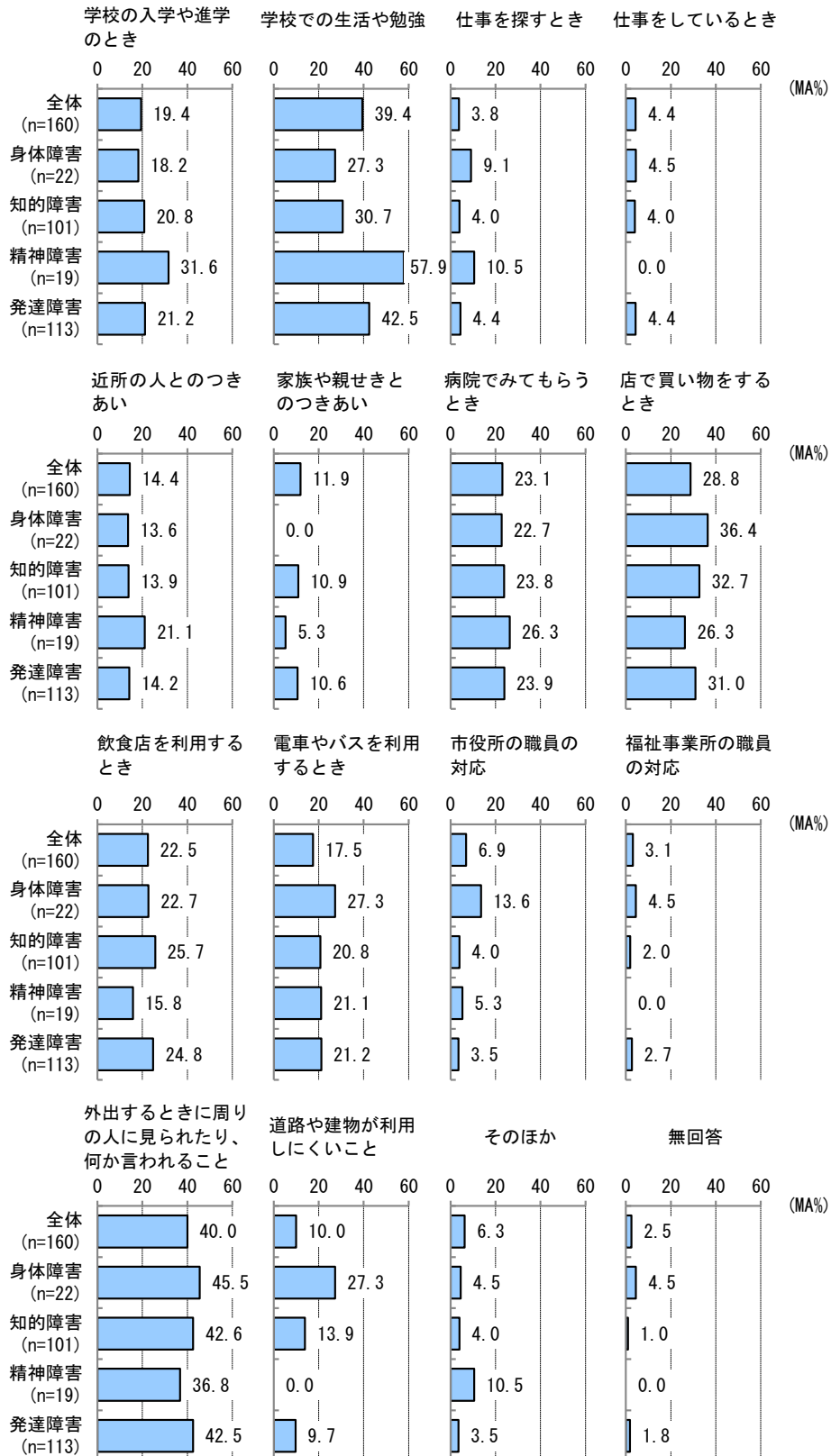
ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたことについては、「いやな思いをしたことはない」が46.7%で最も多く、次いで「ときどきある」が43.6%、「よくある」が6.6%となっており、「よくある」と「ときどきある」をあわせた『ある』は50.2%となっている。

障害種別でみると、『ある』は精神障害が86.4%で最も高い割合となっている。（図5-1）

(2) 差別を受けたりいやな思いをした場面

【問26で、「1. よくある」または「2. ときどきある」を選択した方にお聞きします。】
 問27 あなた（宛名の方）は、障害等があることで、どのような場面で差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

【図5-2 差別を受けたりいやな思いをした場面】



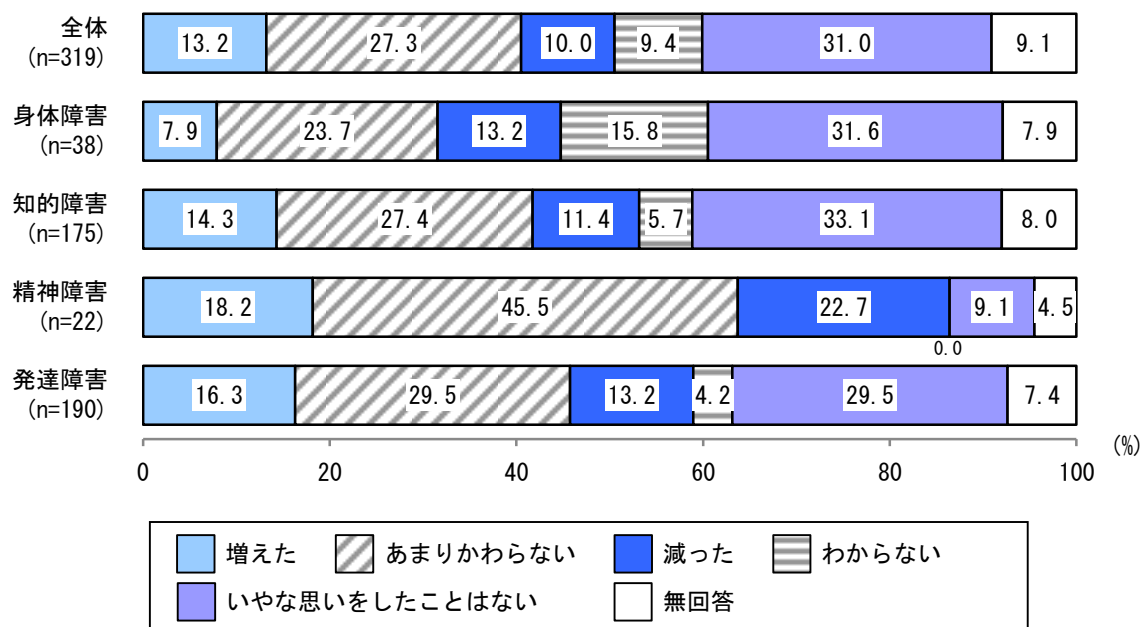
ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたことがあると回答した人に、どのような場面で差別を受けたかをたずねると、「外出するときに周りの人に見られたり、何か言われること」が40.0%で最も多く、次いで「学校での生活や勉強」が39.4%、「店で買い物をするとき」が28.8%となっている。

障害種別でみると、身体障害・知的障害・発達障害は「外出するときに周りの人に見られたり、何か言われること」（身体45.5%、知的42.6%、発達42.5%）、精神障害・発達障害は「学校での生活や勉強」（精神57.9%、発達42.5%）が最も多くなっている。（図5-2）

(3) いやな思いをする頻度のこの5年間の変化

問28 障害等があることで、あなた（宛名の方）がふだんの生活でいやな思いをすることは、この5年程度の間には増えましたか、減りましたか。（○は1つだけ）

【図5-3 いやな思いをする頻度のこの5年間の変化】



ふだんの生活でいやな思いをすることは、この5年程度の間には増えたか減ったかについては、「いやな思いをしたことはない」が31.0%で最も多く、次いで「あまりかわらない」が27.3%、「増えた」が13.2%、「減った」が10.0%となっている。

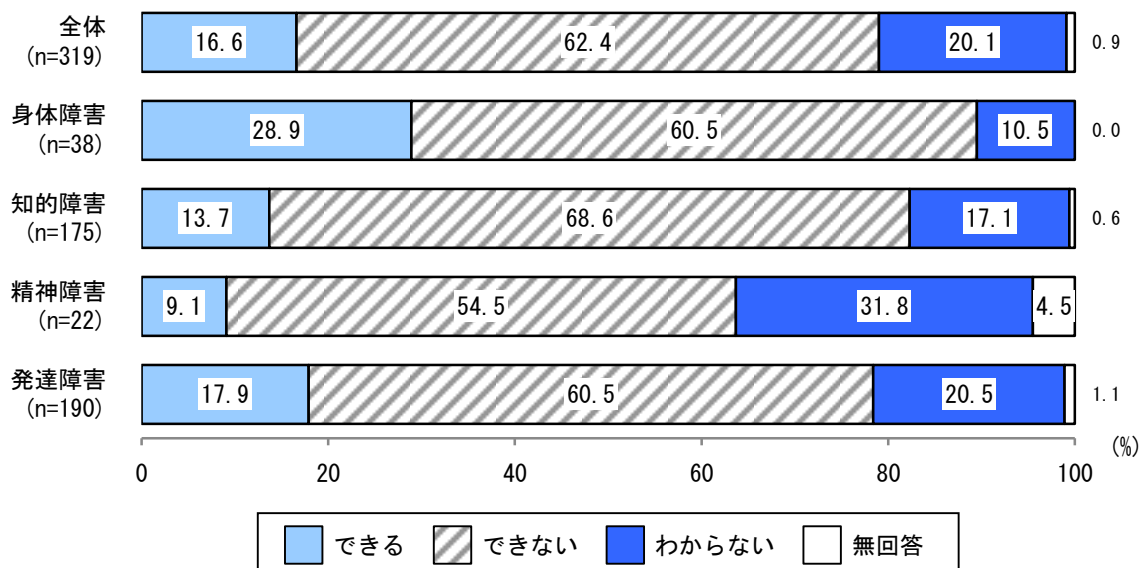
障害種別でみると、「増えた」は精神障害（18.2%）で最も割合が高く、次いで発達障害（16.3%）となっている。（図5-3）

6. 災害時の避難等について

(1) 災害時の一人での避難

問29 あなた（宛名の方）は、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。
 (○は1つだけ)

【図6-1 災害時の一人での避難】



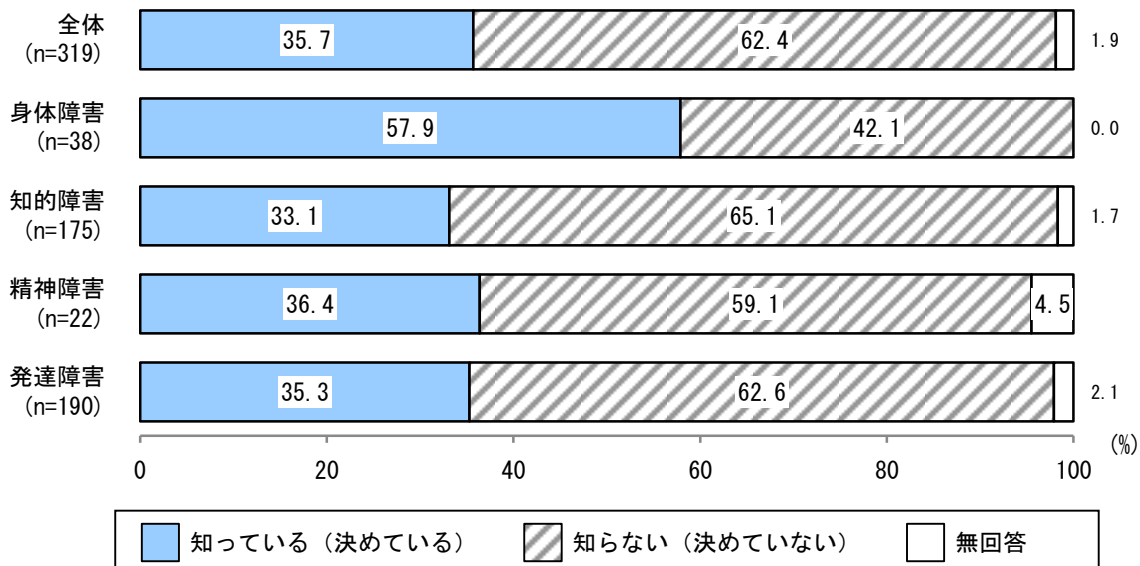
災害時に一人で避難できるかについては、「できる」が16.6%、「できない」が62.4%、「わからない」が20.1%となっている。

障害種別でみると、「できない」は知的障害が68.6%で最も高い割合となっている。(図6-1)

(2) 避難場所の認知度

問30 あなた（宛名の方）は、地震や台風などの災害時に避難する場所を知っていますか。
 (○は1つだけ)

【図6-2 避難場所の認知度】



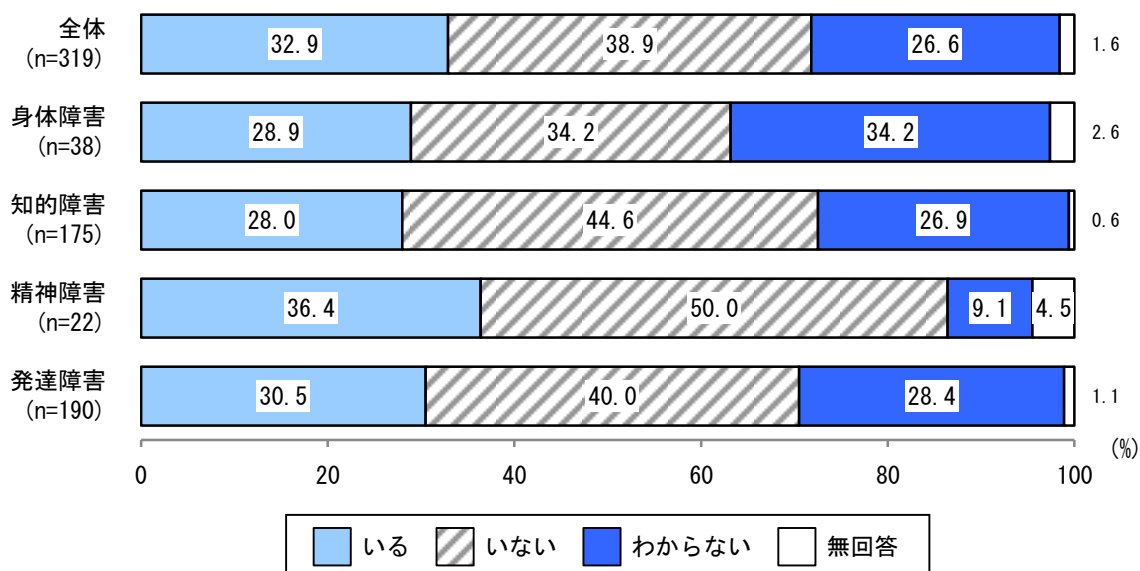
避難場所の認知度については、避難場所を「知っている (決めている)」が35.7%、「知らない (決めていない)」が62.4%となっている。

障害種別でみると、「知らない (決めていない)」は知的障害が65.1%で最も高い割合となっている。(図6-2)

(3) 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所で助けてくれる人の有無

問31 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなた（宛名の方）を助けてくれる人はいますか。（○は1つだけ）

【図6-3 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所で助けてくれる人の有無】



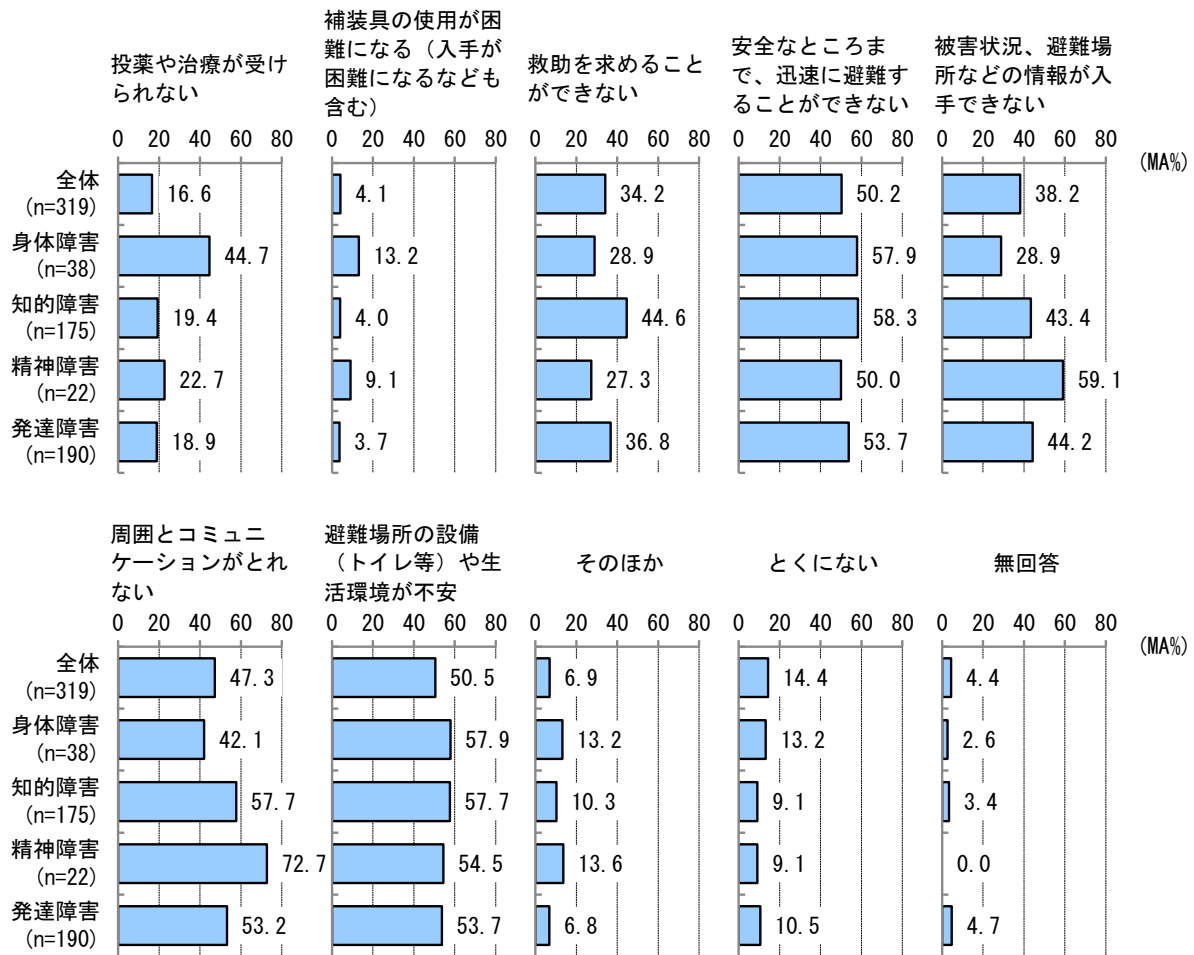
家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所で助けてくれる人の有無については、「いる」が32.9%、「いない」が38.9%、「わからない」が26.6%となっている。

障害種別でみると、「いない」は精神障害（50.0%）で最も高い割合となっている。（図6-3）

(4) 災害時に困ること

問32 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図6-4 災害時に困ること】



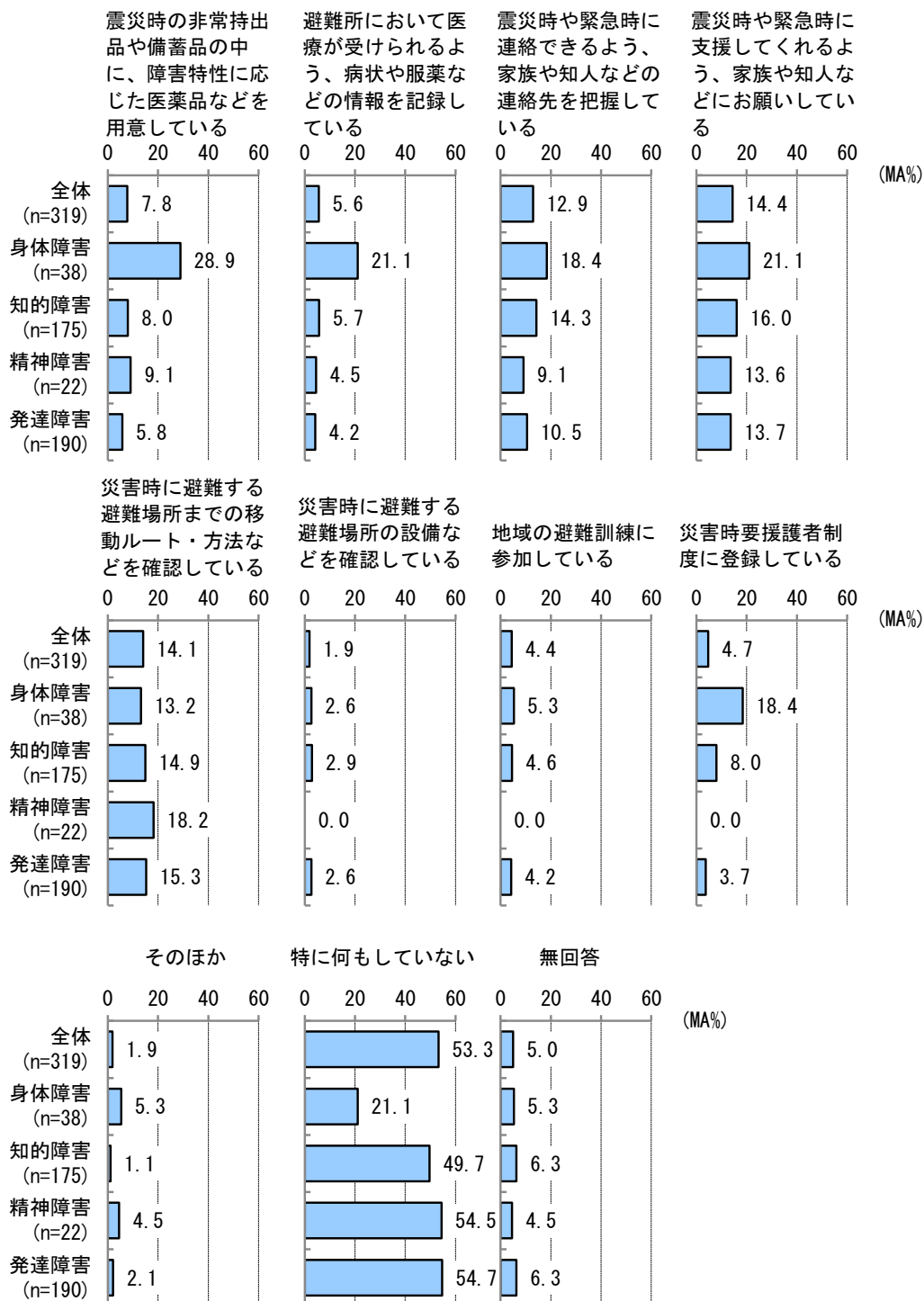
災害時に困ることについては、「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が50.5%で最も多く、次いで「安全なところまで、迅速に避難することができない」が50.2%、「周囲とコミュニケーションがとれない」が47.3%となっている。

障害種別でみると、身体障害・発達障害は「安全なところまで、迅速に避難することができない」、「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」がそれぞれ身体57.9%、発達53.7%で最も多く、知的障害は「安全なところまで、迅速に避難することができない」が58.3%、精神障害は「周囲とコミュニケーションがとれない」が72.7%で最も高い割合となっている。(図6-4)

(5) 災害時に備えて、日ごろから準備していること

問33 あなた（宛名の方）は、地震や台風などの災害時に備えて、日ごろから心がけていることや準備していることはありますか。（あてはまるものすべてに〇）

【図6-5 災害時に備えて、日ごろから準備していること】



災害時に備えて、日ごろから準備していることについては、「特に何もしていない」が53.3%で最も多いが、準備をしている人では、「震災時や緊急時に支援してくれるよう、家族や知人などをお願いしている」が14.4%で最も多く、次いで「災害時に避難する避難場

Ⅲ 調査結果〔18歳未満の障害のある人に対するアンケート調査〕

所までの移動ルート・方法などを確認している」が14.1%、「震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している」が12.9%となっている。

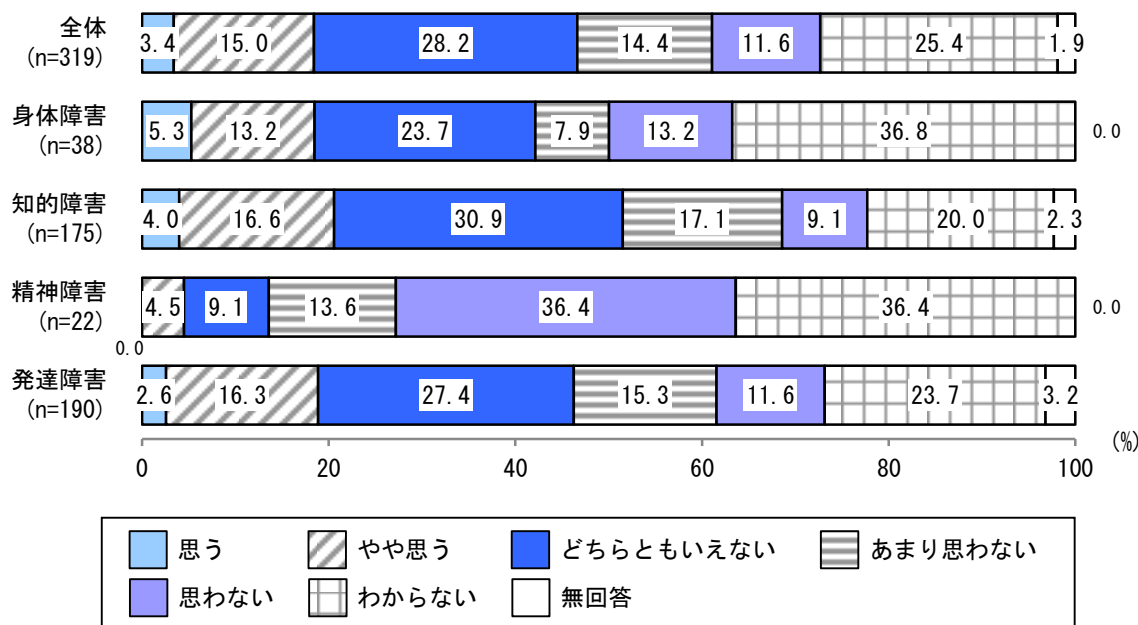
障害種別でみると、「震災時の非常持出品や備蓄品の中に、障害特性に応じた医薬品などを用意している」、「避難所において医療が受けられるよう、病状や服薬などの情報を記録している」、「震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している」、「震災時や緊急時に支援してくれるよう、家族や知人などをお願いしている」、「災害時要援護者制度に登録している」等は身体障害が最も高い割合となっている。(図6-5)

7. 障害福祉行政などについて

(1) 羽曳野市の障害のある人にとっての暮らしやすさ

問34 あなた（宛名の方）は、羽曳野市が障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。（○は1つだけ）

【図7-1 羽曳野市の障害のある人にとっての暮らしやすさ】



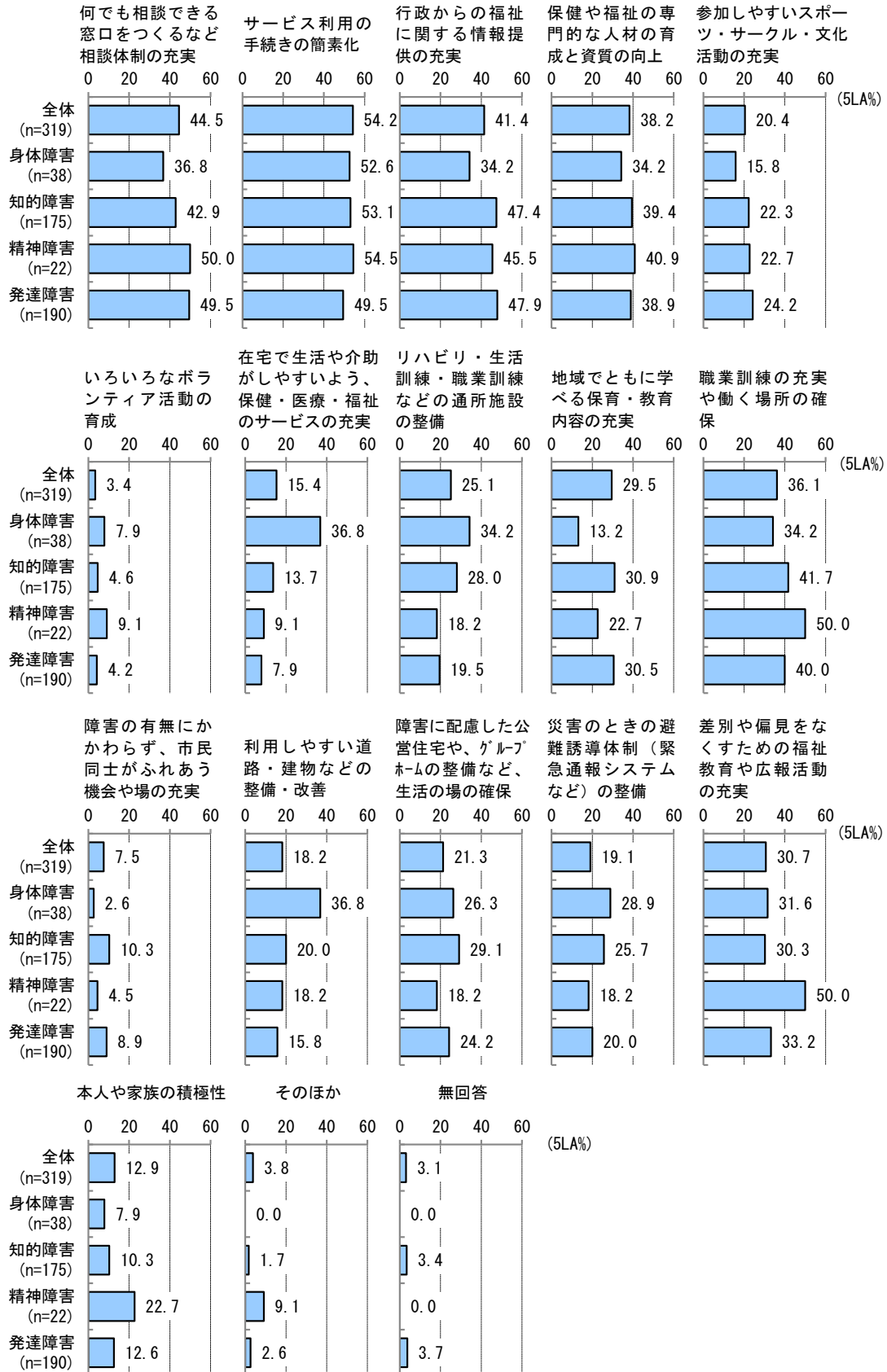
羽曳野市が障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思うかについては、「どちらともいえない」が28.2%で最も多く、次いで「わからない」が25.4%、「やや思う」が15.0%、「あまり思わない」が14.4%となっており、「思う」(3.4%)と「やや思う」をあわせた『暮らしやすい』は18.4%、「あまり思わない」と「思わない」(11.6%)をあわせた『暮らしにくい』は26.0%となっている。

障害種別でみると、『暮らしやすい』は知的障害が20.6%で最も高く、『暮らしにくい』は精神障害が50.0%で最も高い割合となっている。(図7-1)

(2) 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために必要なこと

問35 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は主なもの5つまで)

【図7-2 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために必要なこと】



障害のある人にとって住みよいまちをつくるために必要なことについては、「サービス利用の手続きの簡素化」が54.2%で最も多く、次いで「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が44.5%、「行政からの福祉に関する情報提供の充実」が41.4%となっている。

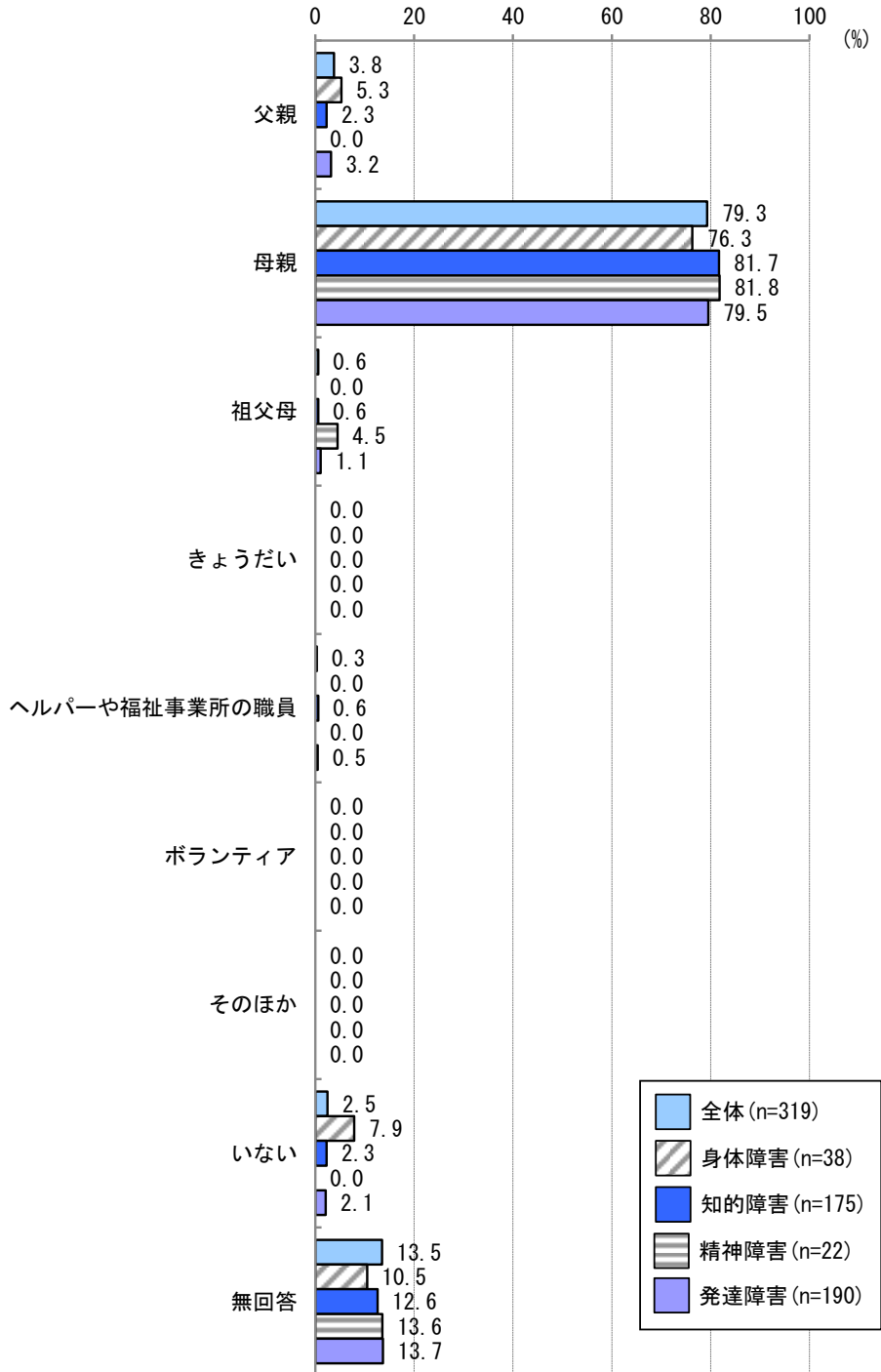
障害種別でみると、いずれも「サービス利用の手続きの簡素化」が最も多く、発達障害は「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」（49.5%）も同率で最も多くなっている。（図7-2）

8. 主に介助・支援している人について

(1) 主な介助者・支援者

問36 あなた（宛名の方）を主に介助・支援しているのは誰ですか。（○は1つだけ）

【図8-1 主な介助者・支援者】



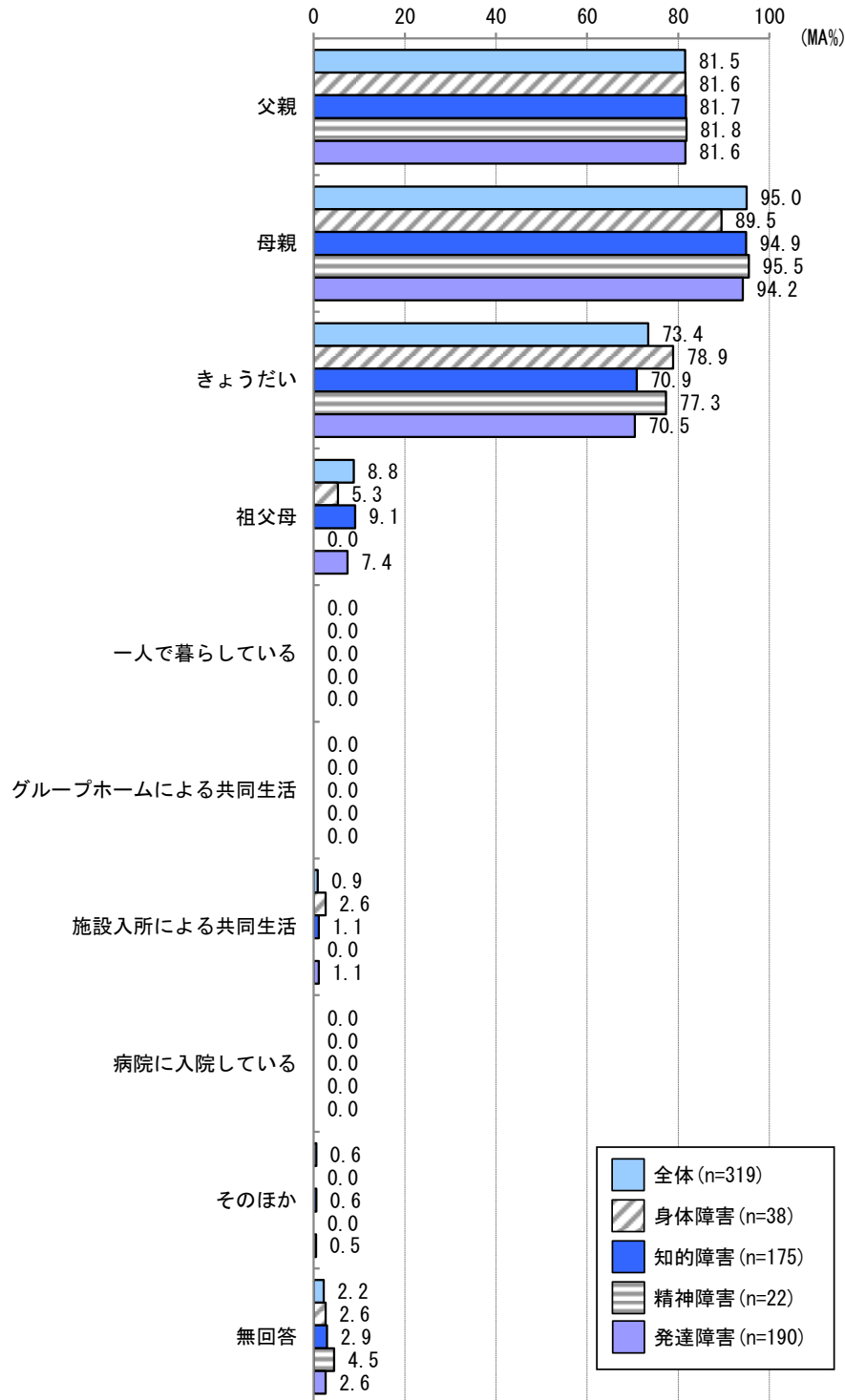
主な介助者・支援者については、「母親」が79.3%で最も多く、次いで「父親」が3.8%、「祖父母」が0.6%となっている。

障害種別でも、大きな差はみられない。(図8-1)

(2) 同居者

問37 現在、あなた（宛名の方）と一緒に暮らしている人は誰ですか。
 （あてはまるものすべてに○）

【図8-2 同居者】



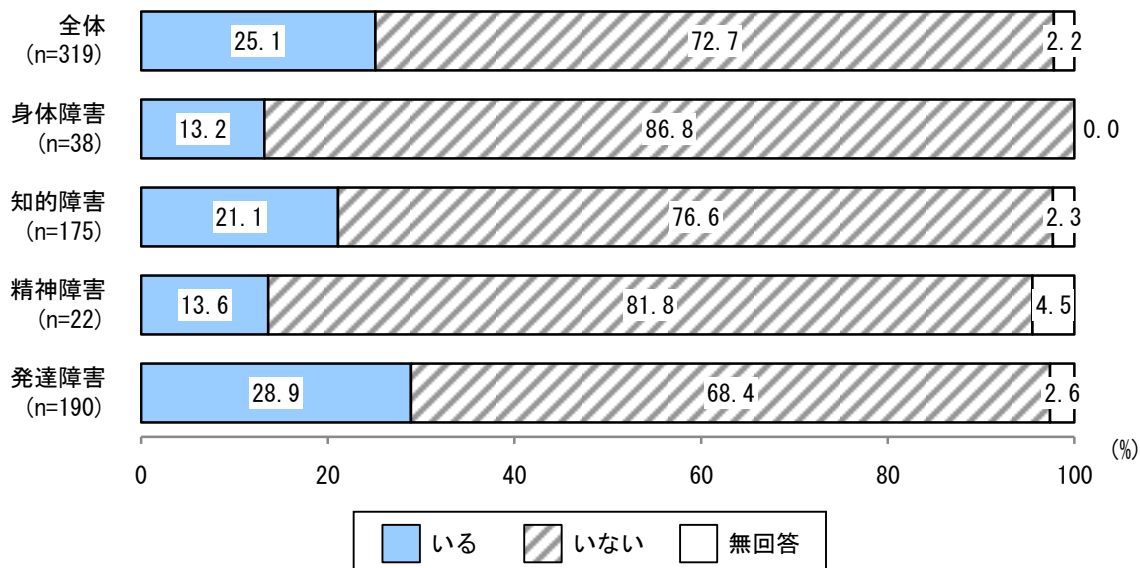
同居者については、「母親」が95.0%で最も多く、次いで「父親」が81.5%、「きょうだい」が73.4%となっている。

障害種別でも、大きな差はみられない。(図8-2)

(3) 同居の家族の中で、本人以外に支援が必要な人の有無

問38 同居の家族の中で、あなた（宛名の方）以外に支援を必要とする方はいますか。
 (○は1つだけ)

【図8-3 同居の家族の中で、本人以外に支援が必要な人の有無】



同居の家族の中で、本人以外に支援が必要な人がいるかについては、「いる」が25.1%、「いない」が72.7%となっている。

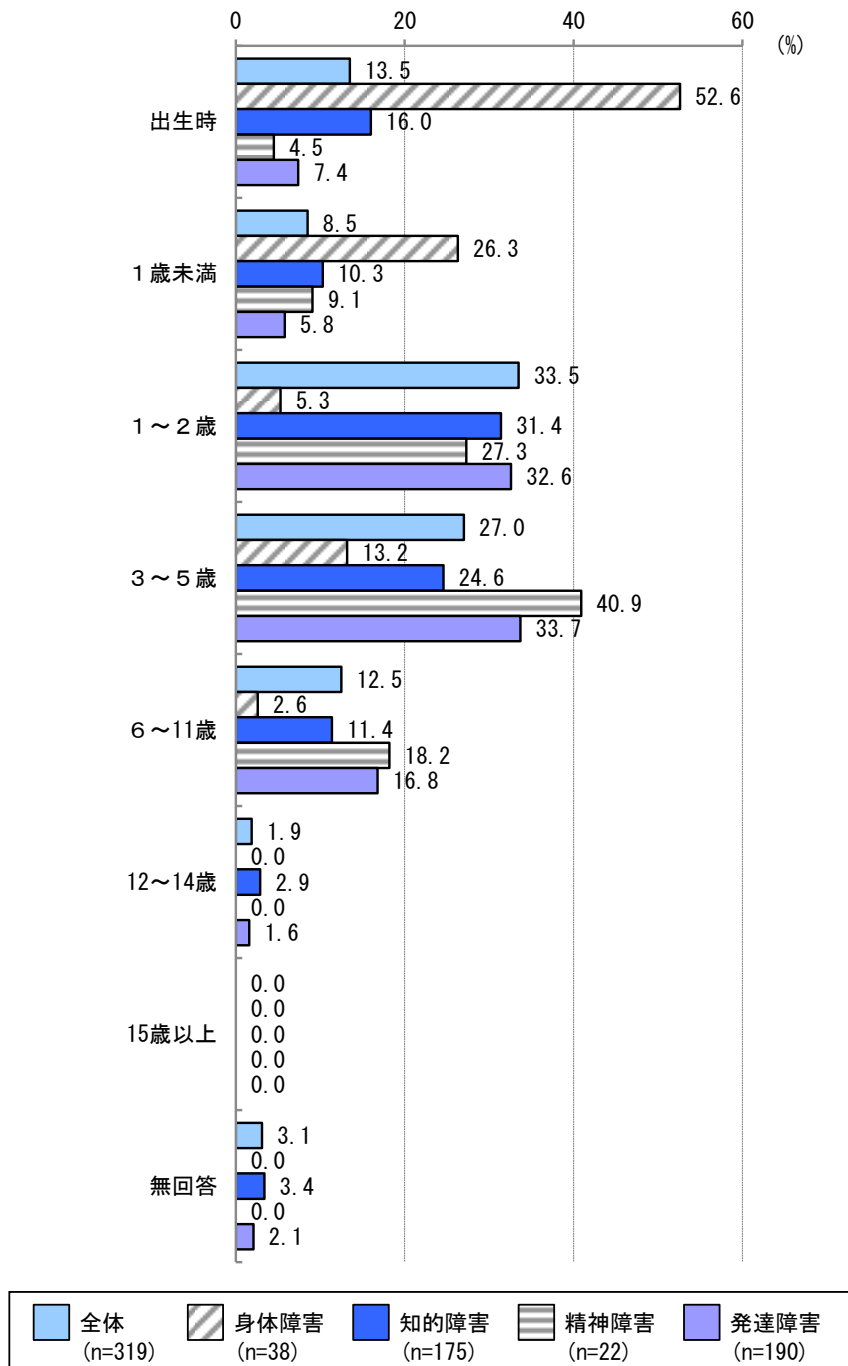
障害種別でみると、「いる」は発達障害が28.9%で最も割合が高く、次いで知的障害が21.1%となっている。(図8-3)

9. 本人の状況と家族について

(1) 障害等が初めてわかった時期

問40 宛名のご本人の障害等が初めてわかった時期は何歳頃ですか。(○は1つだけ)

【図9-1 障害等が初めてわかった時期】



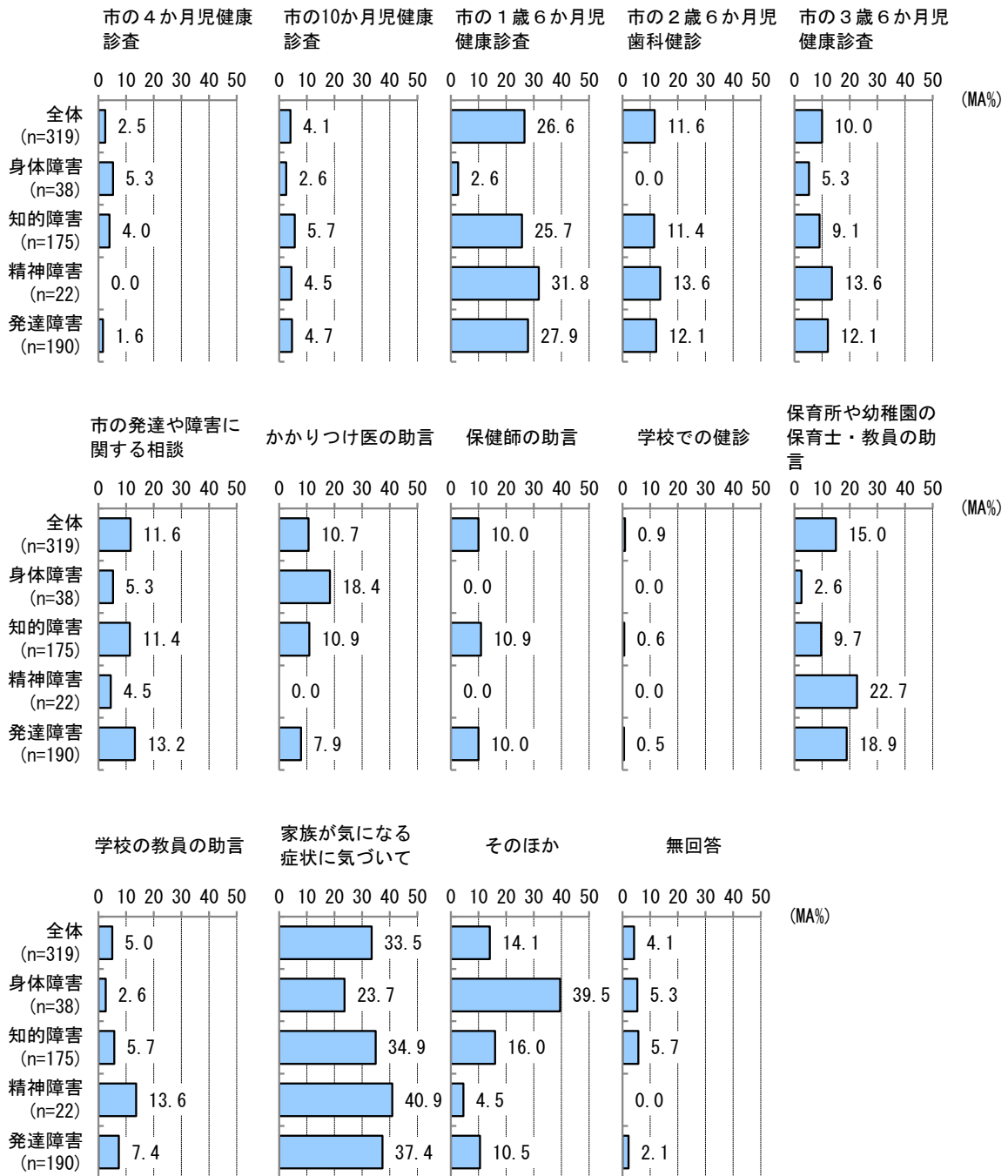
障害等が初めてわかった時期については、「1～2歳」が33.5%で最も多く、次いで「3～5歳」が27.0%、「出生時」が13.5%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「出生時」(52.6%)、知的障害は「1～2歳」(31.4%)、精神障害・発達障害は「3～5歳」(精神40.9%、発達33.7%)が最も多くなっている。(図9-1)

(2) 障害等がある疑いがわかったきっかけ

問41 宛名のご本人の障害等がある疑いがわかったきっかけは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

【図9-2 障害等がある疑いがわかったきっかけ】



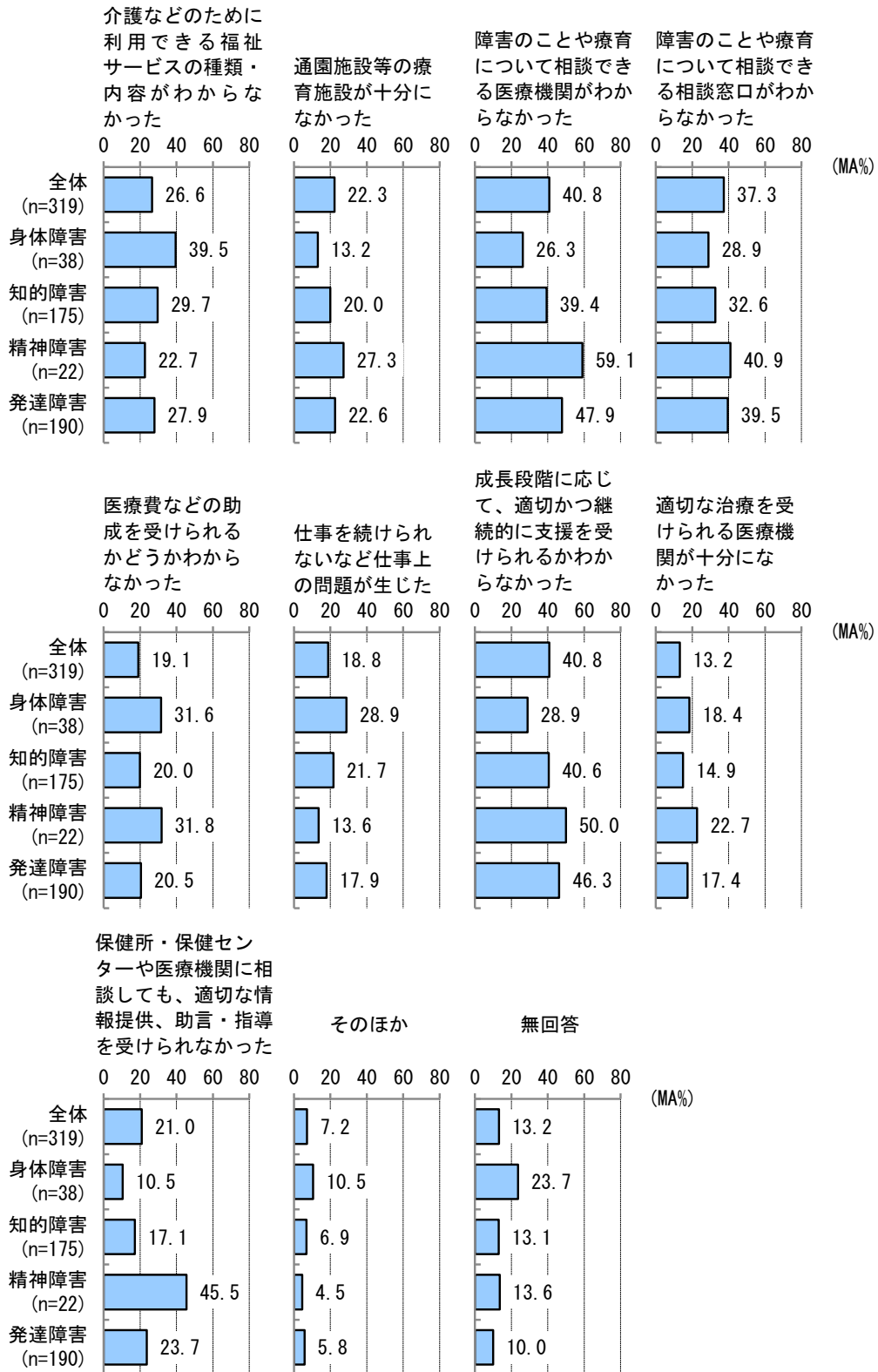
障害等がある疑いがわかったきっかけについては、「家族が気になる症状に気づいて」が33.5%で最も多く、次いで「市の1歳6か月児健康診査」が26.6%、「保育所や幼稚園の保育士・教員の助言」が15.0%となっている。

障害種別でみると、いずれも「家族が気になる症状に気づいて」が最も多く、精神障害が40.9%で最も高い割合となっている。(図9-2)

(3) 障害等について判定を受けた頃の家族の不安や悩み、困りごと

問42 宛名のご本人の障害等について診断・判定を受けた頃、ご家族の方々はどのような不安や悩み、困りごとがありましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図9-3 障害等について判定を受けた頃の家族の不安や悩み、困りごと】



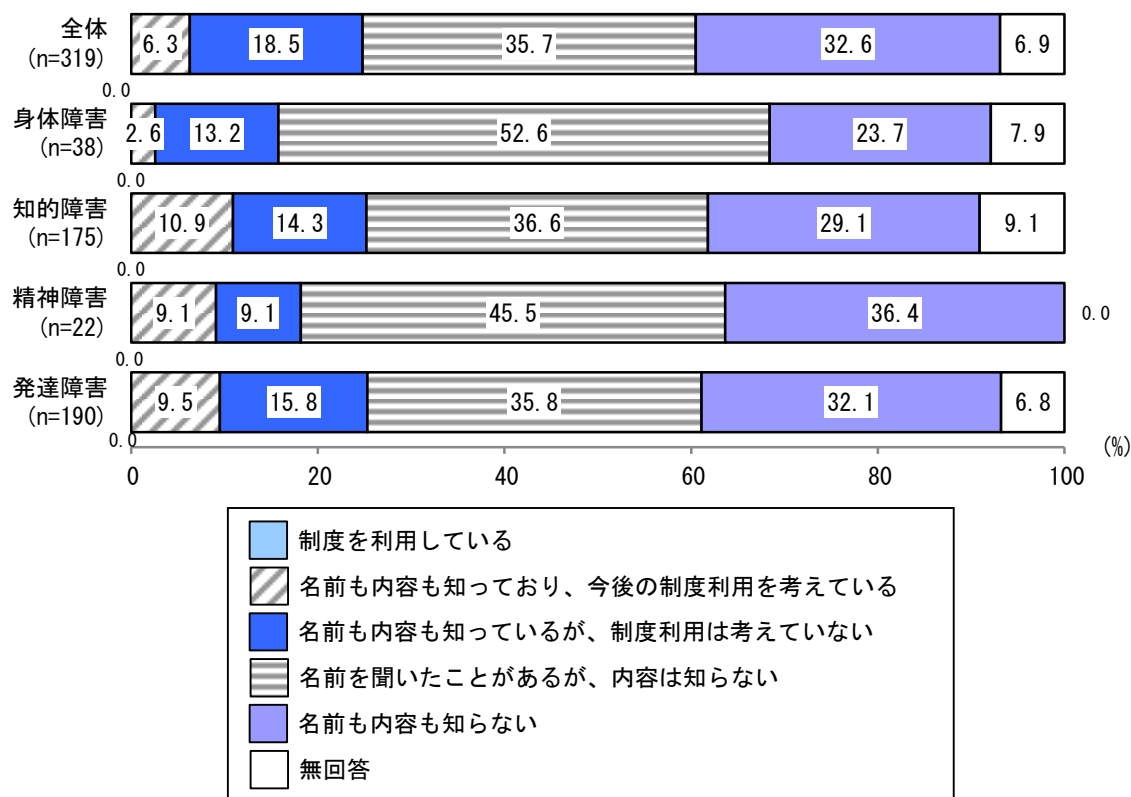
障害等について判定を受けた頃の家族の不安や悩み、困りごとについては、「障害のことや療育について相談できる医療機関がわからなかった」、「成長段階に応じて、適切かつ継続的に支援を受けられるかわからなかった」がそれぞれ40.8%で最も多く、次いで「障害のことや療育について相談できる相談窓口がわからなかった」が37.3%、「介護などのために利用できる福祉サービスの種類・内容がわからなかった」が26.6%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「介護などのために利用できる福祉サービスの種類・内容がわからなかった」(39.5%)、知的障害は「成長段階に応じて、適切かつ継続的に支援を受けられるかわからなかった」(40.6%)、精神障害・発達障害は「障害のことや療育について相談できる医療機関がわからなかった」(精神59.1%、発達47.9%)が最も多くなっている。(図9-3)

(4) 成年後見制度の認知度

問43 成年後見制度についてご存じですか。(○は1つだけ)

【図9-4 成年後見制度の認知度】



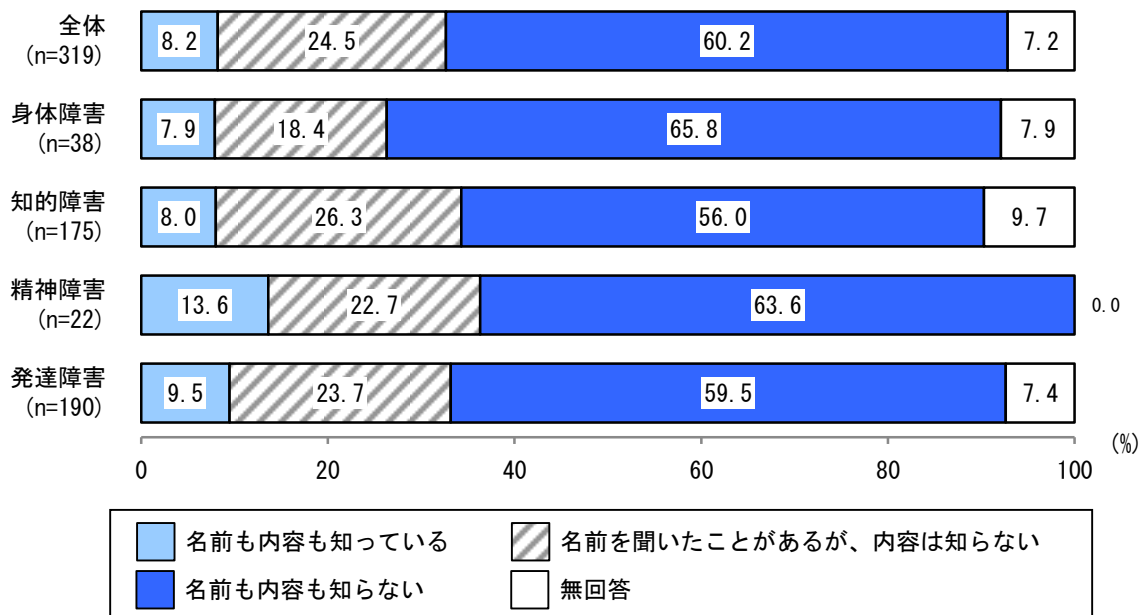
成年後見制度の認知度については、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が35.7%で最も多く、次いで「名前も内容も知らない」が32.6%、「名前も内容も知っているが、制度利用は考えていない」が18.5%となっている。

障害種別で見ると、いずれも「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が最も多く、身体障害（52.6%）で最も高い割合となっている。一方、「名前も内容も知らない」は精神障害が36.4%で最も高い割合となっている。（図9-4）

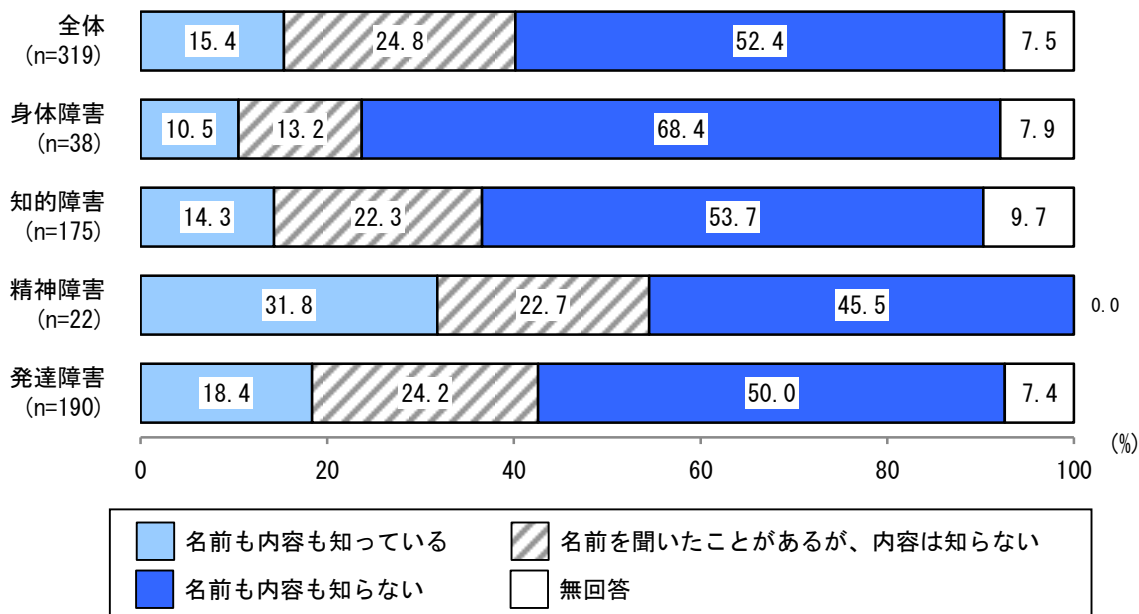
(5) 障害に関する用語の認知度

問44 次の言葉についてご存じですか。①～③のそれぞれについて、あてはまる番号に○をしてください。(①～③のそれぞれに○は1つずつ)

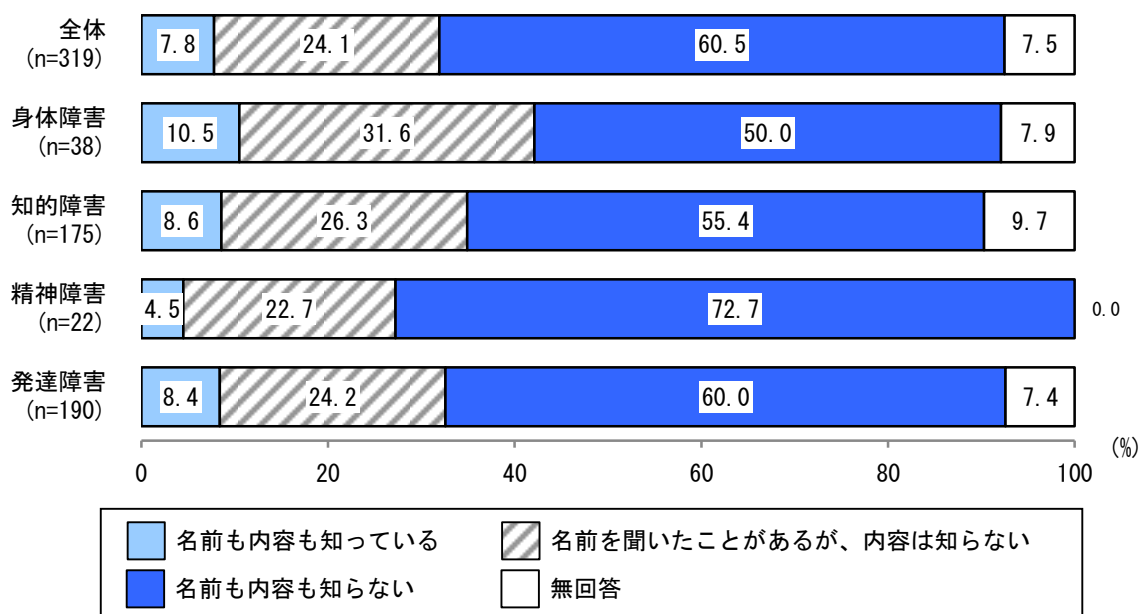
【図9-5-1 障害に関する用語の認知度 ①障害者差別解消法】



【図9-5-2 障害に関する用語の認知度 ②合理的配慮】



【図9-5-3 障害に関する用語の認知度 ③災害時要援護者支援制度】



障害に関する用語の認知度をたずねた。

『①障害者差別解消法』については、「名前も内容も知らない」が60.2%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が24.5%、「名前も内容も知っている」が8.2%となっている。

障害種別でみると、「名前も内容も知らない」は身体障害が65.8%で最も高い割合となっている。(図9-5-1)

『②合理的配慮』については、「名前も内容も知らない」が52.4%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が24.8%、「名前も内容も知っている」が15.4%となっている。

障害種別でみると、「名前も内容も知らない」は身体障害が68.4%で最も高い割合となっている。(図9-5-2)

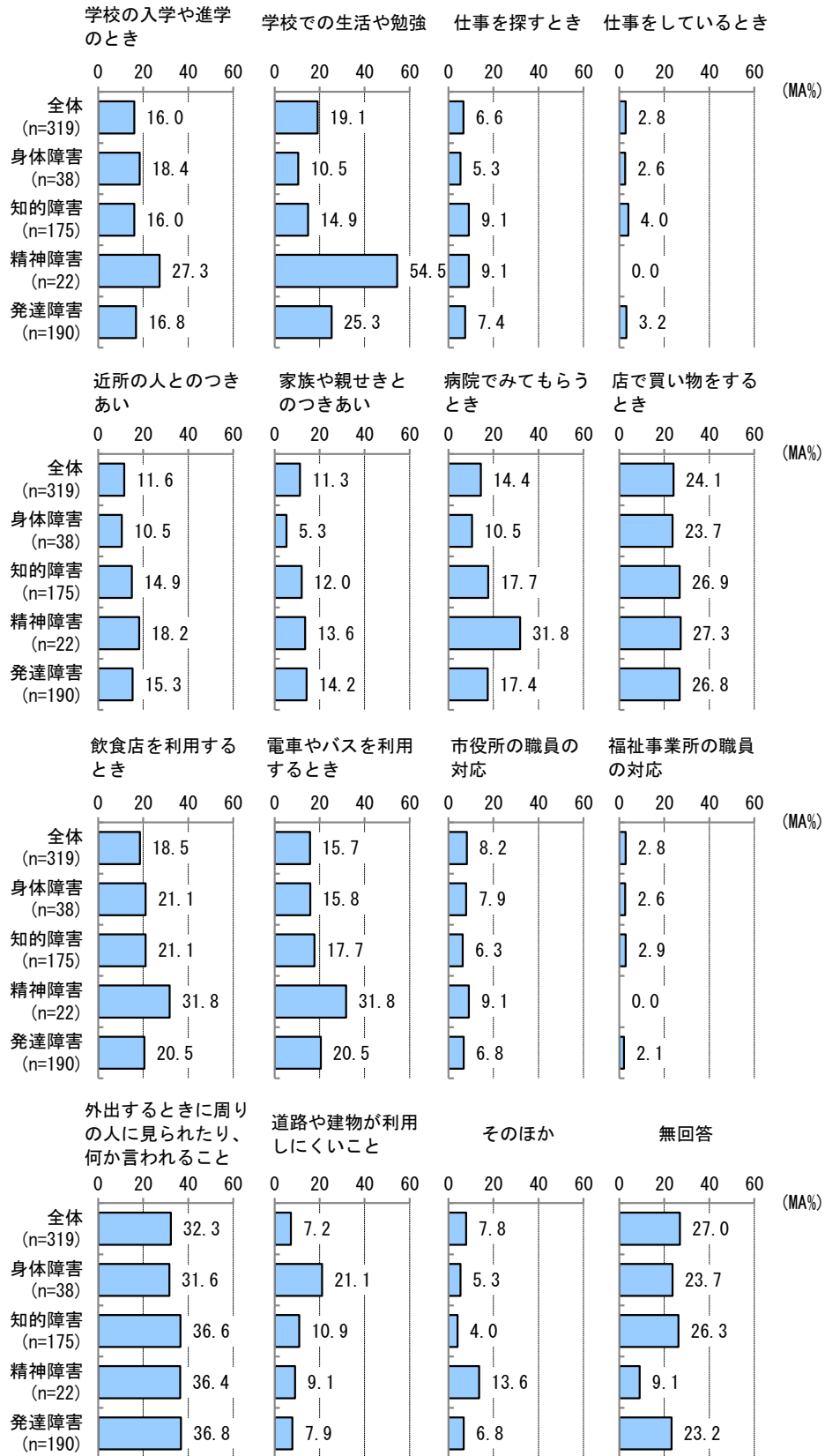
『③災害時要援護者支援制度』については、「名前も内容も知らない」が60.5%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が24.1%、「名前も内容も知っている」が7.8%となっている。

障害種別でみると、「名前も内容も知らない」は精神障害が72.7%で最も高い割合となっている。(図9-5-3)

(6) 本人に障害等があることで、家族が差別を受けたりいやな思いをした場面

問45 宛名のご本人に障害等があることで、ご家族の方々はふだんの生活のどのような場面で差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図9-6 本人に障害等があることで、家族が差別を受けたりいやな思いをした場面】



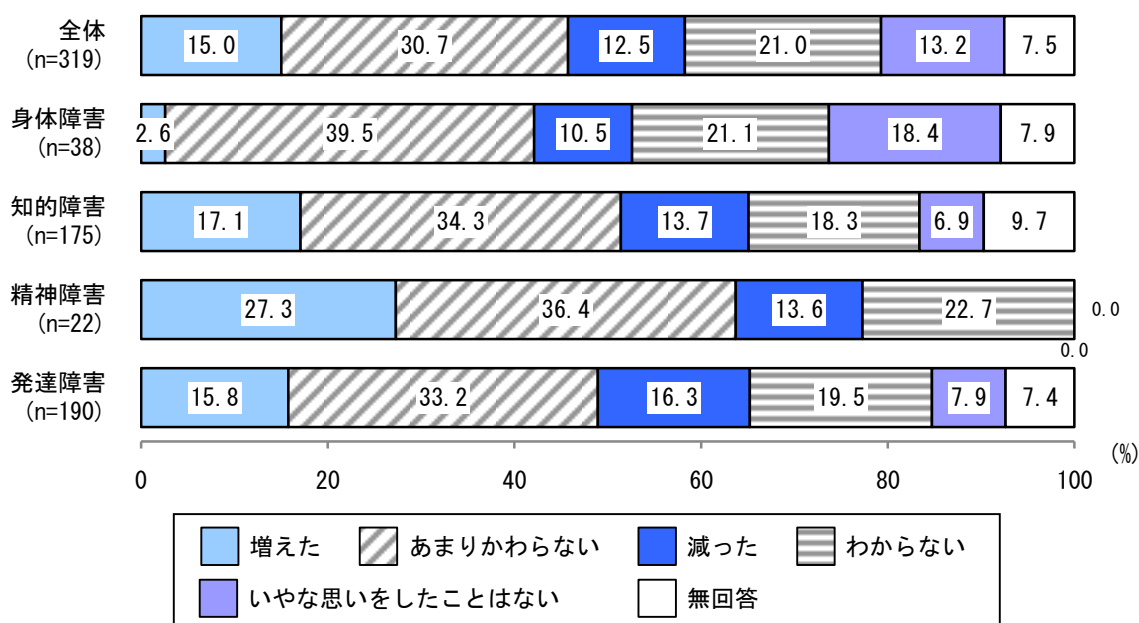
本人に障害等があることで、家族が差別を受けたりいやな思いをした場面については、「外出するときに周りの人に見られたり、何か言われること」が32.3%で最も多く、次いで「店で買い物をするとき」が24.1%、「学校での生活や勉強」が19.1%となっている。

障害種別でみると、身体障害・知的障害・発達障害は「外出するときに周りの人に見られたり、何か言われること」（身体31.6%、知的36.6%、発達36.8%）が最も多く、精神障害は「学校での生活や勉強」（54.5%）が最も多くなっている。（図9-6）

（7）障害等があることで、家族がいやな思いをする頻度のこの5年の変化

問46 宛名のご本人に障害等があることで、ご家族の方々がふだんの生活でいやな思いをすることは、この5年程度の間には増えましたか、減りましたか。（○は1つだけ）

【図9-7 障害等があることで、家族がいやな思いをする頻度のこの5年の変化】



障害等があることで、家族がいやな思いをすることが、この5年程度の間には増えたか減ったかでは、「あまりかわらない」が30.7%で最も多く、次いで「わからない」が21.0%、「増えた」が15.0%、「減った」が12.5%となっている。

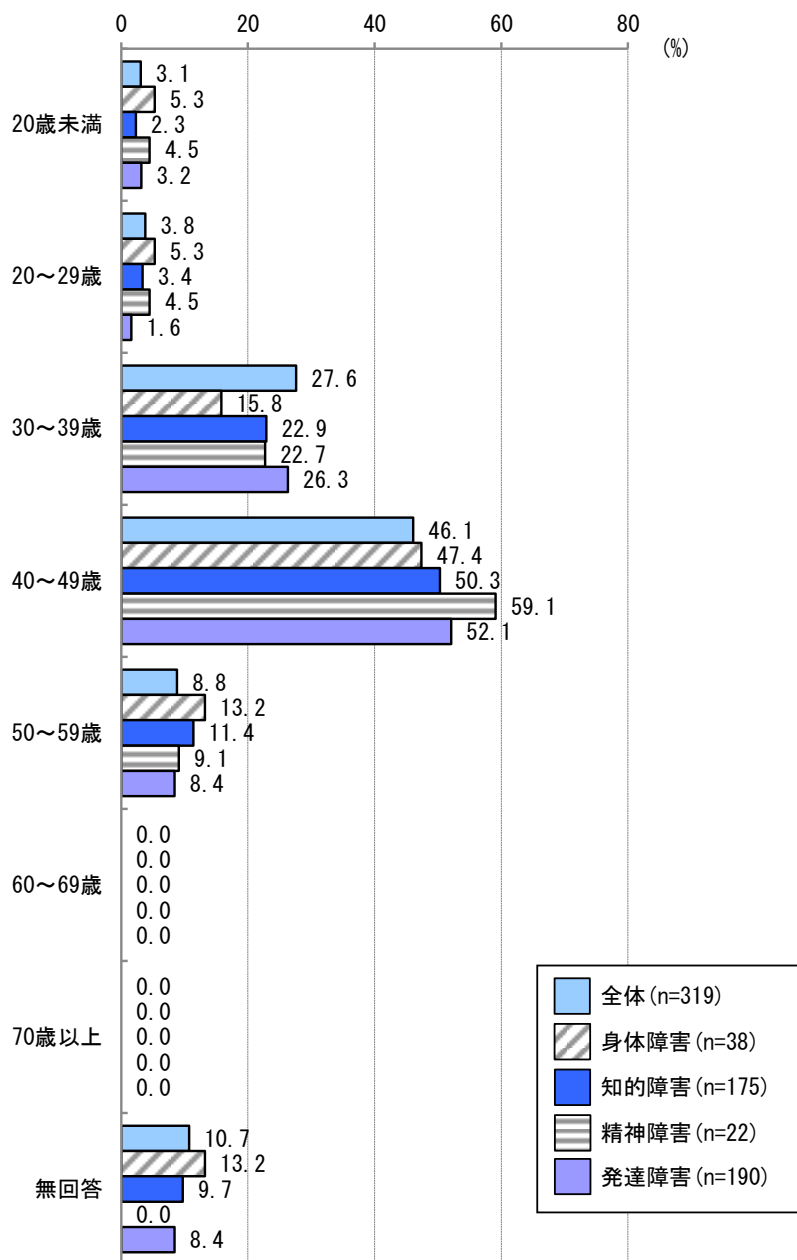
障害種別でみると、「増えた」は精神障害が27.3%で最も高く、次いで知的障害が17.1%となっている。（図9-7）

10. 主な介助者の状況

(1) 主な介助者の年齢

問47 宛名のご本人を主に介助・支援している方の年齢（令和2年9月1日現在）をお答えください。

【図10-1 主な介助者の年齢】



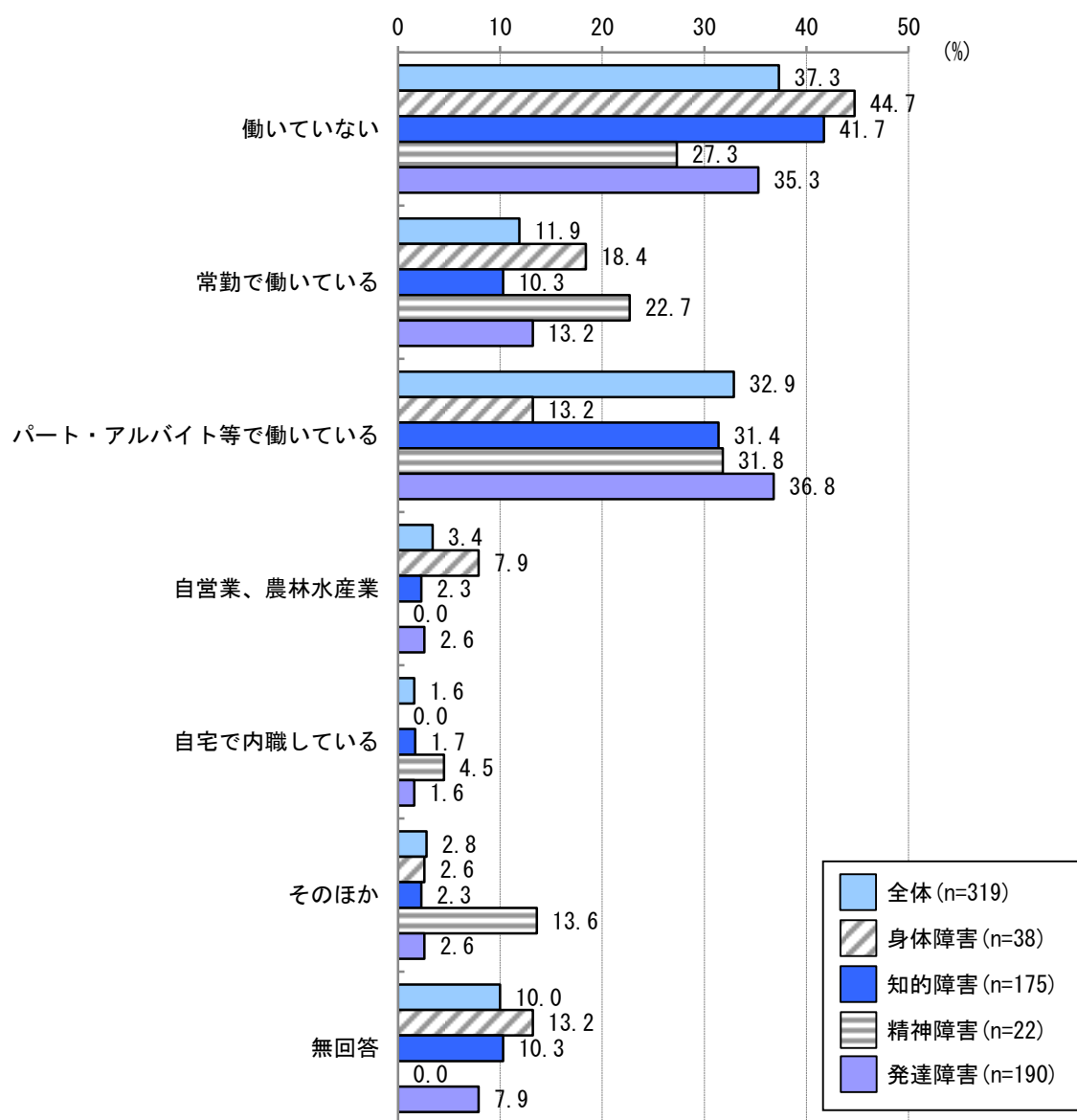
主な介助者の年齢は、「40~49歳」が46.1%で最も多く、次いで「30~39歳」が27.6%、「50~59歳」が8.8%となっている。

障害種別でみると、いずれも「40~49歳」が最も多く、精神障害が59.1%で最も高い割合となっている。(図10-1)

(2) 主な介助者の就労状況

問48 宛名のご本人を主に介助・支援している方は働いていますか。(○は1つだけ)

【図10-2 主な介助者の就労状況】

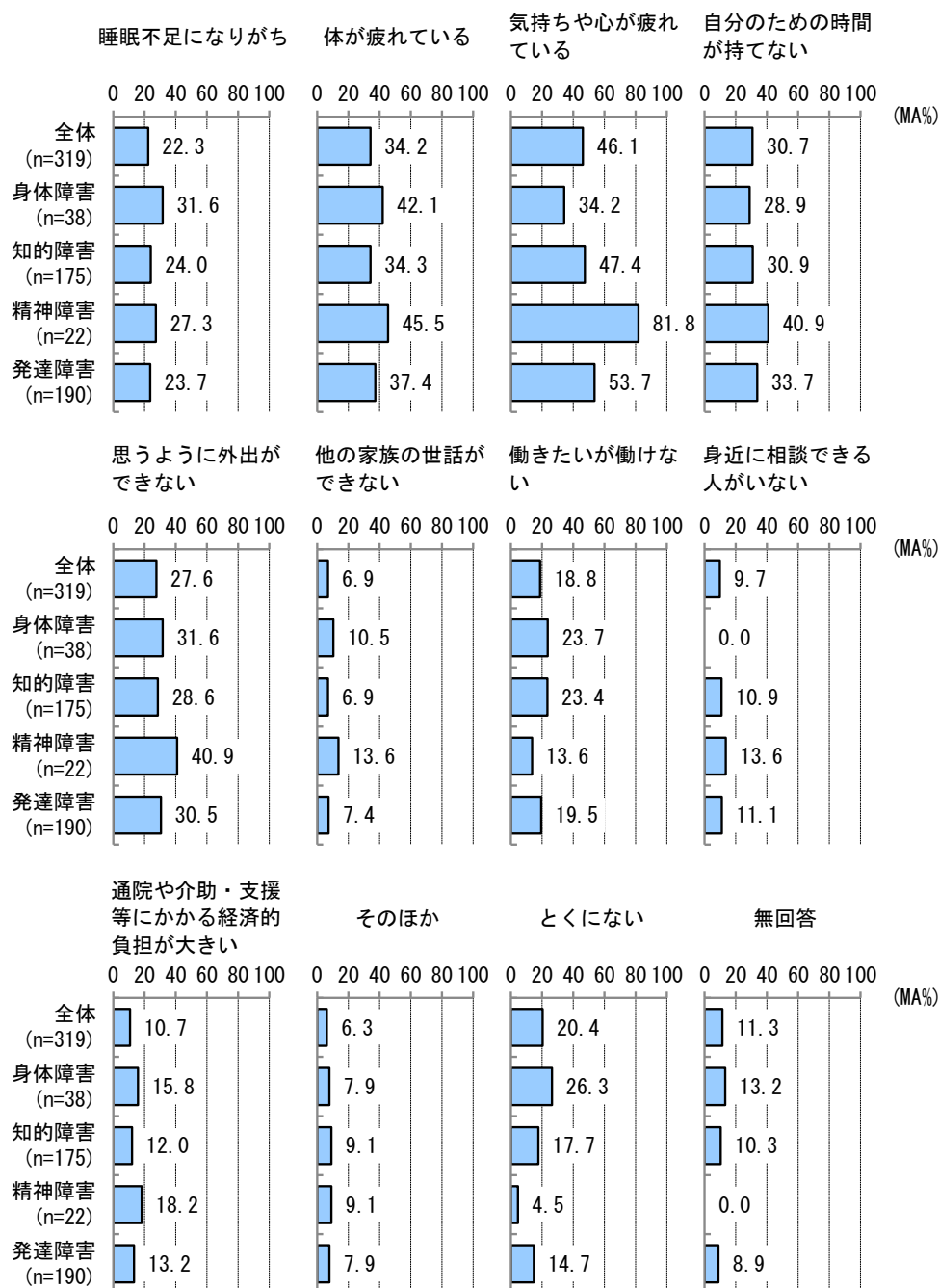


主な介助者の就労状況については、「働いていない」が37.3%で最も多く、次いで「パート・アルバイト等で働いている」が32.9%、「常勤で働いている」が11.9%となっている。障害種別でみると、身体障害・知的障害は「働いていない」(身体44.7%、知的41.7%)、精神障害・発達障害は「パート・アルバイト等で働いている」(精神31.8%、発達36.8%)が最も多くなっている。(図10-2)

(3) 主な介助者が困っていること

問49 宛名のご本人を主に介助・支援している方が困っているのは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

【図10-3 主な介助者が困っていること】



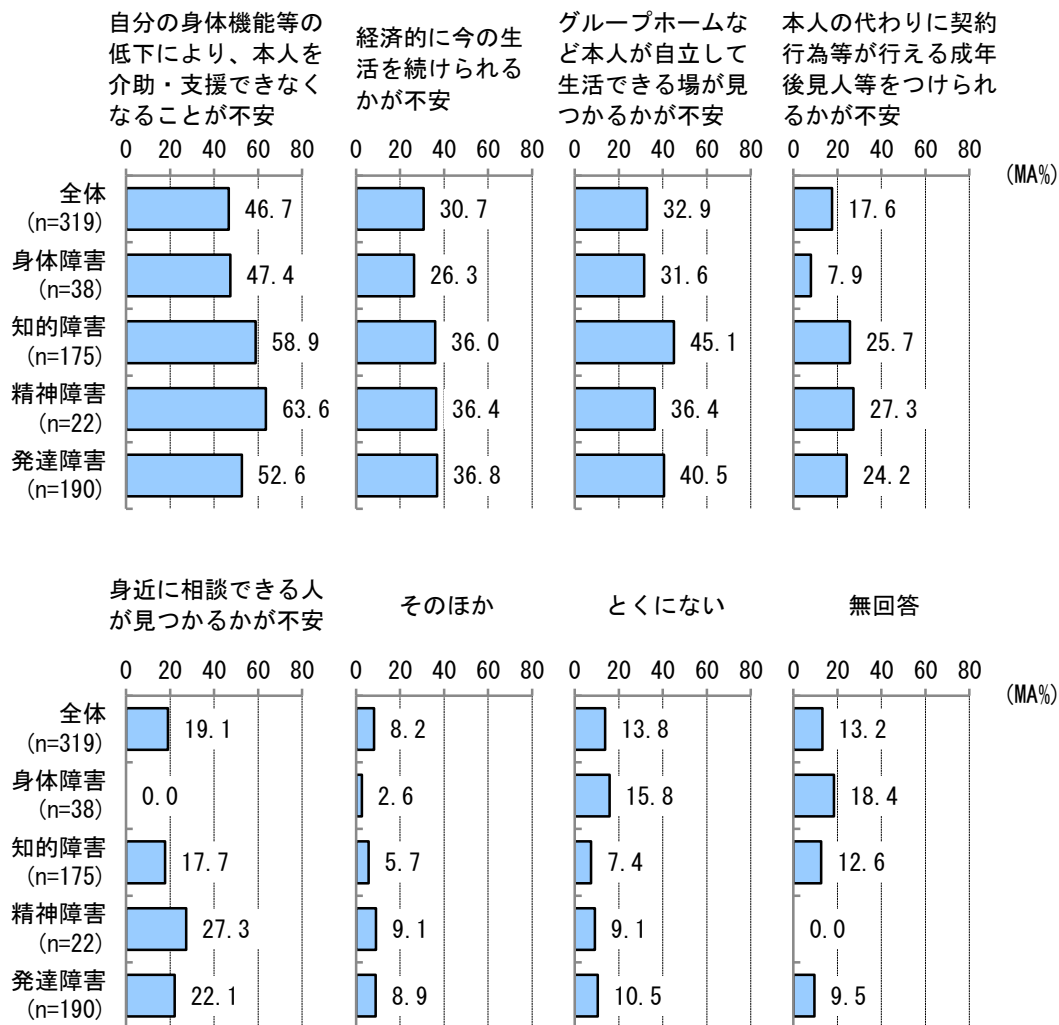
主な介助者が困っていることについては、「気持ちや心が疲れている」が46.1%で最も多く、次いで「体が疲れている」が34.2%、「自分のための時間が持てない」が30.7%となっている。

障害種別でみると、身体障害は「体が疲れている」が42.1%で最も多く、知的障害・精神障害・発達障害は「気持ちや心が疲れている」（知的47.4%、精神81.8%、発達53.7%）が最も多くなっている。（図10-3）

(4) 今後の生活における不安

問50 宛名のご本人を主に介助・支援している方は、今後の生活においてどのような不安がありますか。(あてはまるものすべてに○)

【図10-4 今後の生活における不安】



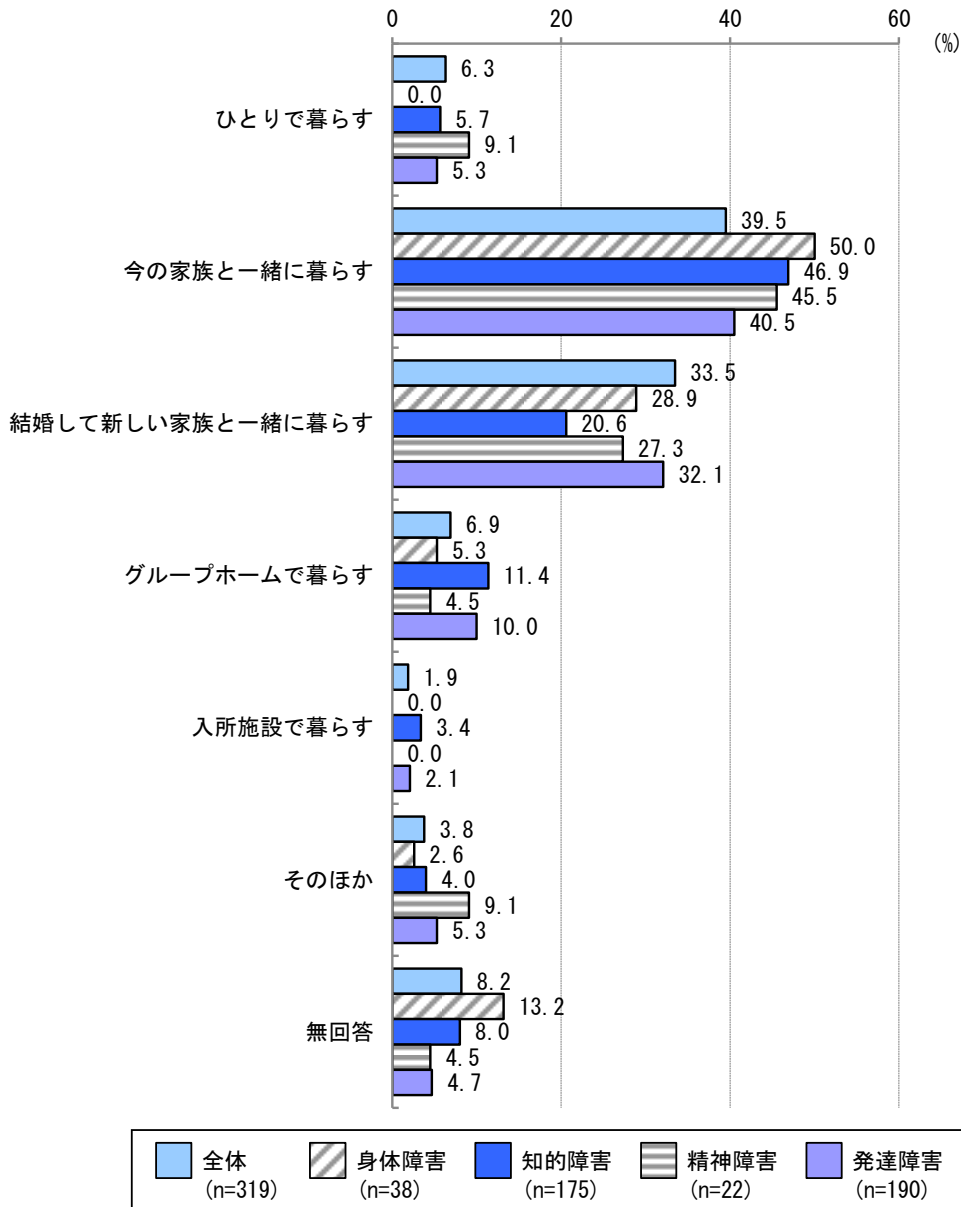
介助者の今後の生活における不安については、「自分の身体機能等の低下により、本人を介助・支援できなくなることが不安」が46.7%で最も多く、次いで「グループホームなど本人が自立して生活できる場が見つかるかが不安」が32.9%、「経済的に今の生活を続けられるかが不安」が30.7%となっている。

障害種別でみると、いずれも「自分の身体機能等の低下により、本人を介助・支援できなくなることが不安」が最も多く、精神障害が63.6%で最も高い割合となっている。(図10-4)

(5) 本人の今後の暮らし方の希望

問51 宛名のご本人を主に介助・支援している方は、ご本人に今後どのような暮らし方を望めますか。(○は1つだけ)

【図10-5 本人の今後の暮らし方の希望】



本人の今後の暮らし方の希望については、「今の家族と一緒に暮らす」が39.5%で最も多く、次いで「結婚して新しい家族と一緒に暮らす」が33.5%、「グループホームで暮らす」が6.9%となっている。

障害種別でみると、いずれも「今の家族と一緒に暮らす」が最も多く、身体障害が50.0%で最も高い割合となっている。(図10-5)

IV 調査結果：自由意見〔障害のある人に対するアンケート調査〕

■障害福祉サービスや行政の取り組みについて、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

障害福祉サービスや行政の取り組みに対する意見について、項目別に主な意見を抜粋している。

【サービスに関すること】
■障害のある人のショートステイの受け入れ施設が少なすぎると思います。入所できる施設の充実も必要だとは思いますが、同居している家族の負担軽減のためにもショートステイ利用ができる施設の拡充をお願いします。
■市としてどんな障害福祉サービスがあるのか不明。何に力を入れてやっているのか、やろうとしているのか、何も分かりません。
■放課後デイサービスなどは増えて来ているが、グループホーム施設など増やしてほしい。
■障害のある人に対する支援は今でも過剰なサービスも多く、軽度な人には減らして重い人に対するサービスにお金をかけるべき。
【障害福祉制度に関すること】
■急な場面でも、泊まり等預けられる場所があれば障害のある人を育てていくうえで大変心強い事になると思います。親亡き後の障害のある人たちが安心して健全に暮らしていただける行政の取り組みをよろしくをお願いします。
■障害のある人卒で就職した後、最終的に正社員になれるような職場が増えてほしいです。
■障害のある人にとって現在から将来に向けて、不安な事が健常者よりもたくさんあります。特に今の障害が重くならないか。また家の事、収入の事等、やっていけるか不安です。とても不安です。障害のある人の支援はそれぞれあって大変だとは思いますが、身近に悩みを聞いて頂け、相談出来る環境づくりの充実をお願いします。
【行政全般に関すること】
■何事も事前に分かりやすい情報提供をいただきたいです。
■バリアフリーをもっと広めてほしいです。
■弱者にやさしい行政をお願いします。
■勉強不足であまり何も知りません。災害時に備えて少しは持ち出す物等用意していこうと思いました。
■他市にない独自の取り組みを考えていただけたら幸いです。自慢できる市になって欲しい。子育て、高齢者、障害、弱い者を大切に安心して暮らせる市であって欲しいと思います。
■医療的ケア（人工呼吸器、吸引、酸素濃縮器に絶対電源が必要）がある方の避難場所はコロセアム、リック等福祉避難場所になっていますが、災害時に避難しても電源等の設備は整っていますか。
■障害のある人も健常者と同等の生活ができること願います。障害があることで行けない場所、できないことがたくさんあります。少しでも改善されることを願います。

V 調査結果〔関係団体アンケート調査〕

1. 団体の活動における課題

コロナによる活動の中止や、個別的・丁寧な相談を実施できない体制が課題として挙げられており、対応として、活動の実施支援や基幹相談支援センター等の設置が求められている。

活動での課題	課題への対応や必要な支援
<p>■ 本年のコロナ禍により、すべての行事が中止になった。来年担当市なので、その実施について考慮中。</p>	<p>■ 行事の実施にあたっては、障害福祉課の全面的な支援をお願いしたい。市のバスなどの提供など以前と同じよう、ぜひお願いしたいと思っています。</p>
<p>■ 委託相談から特定相談へ移行するケースが多く、丁寧な相談体制を行いたいが、限られた支援体制では限りもある。障がいや問題が多様化しているため、その問題に対応できる事業所が少ない。委託費が減算されたことにより経営難。今後委託費の算出根拠に透明性が担保されなければ、今後事業の継続も難しくなってしまう。</p>	<p>■ 基幹相談支援センターの早急な設置。相談支援事業所の増設。</p>

2. 福祉サービス等について

福祉サービス等に対して、リハビリの場や、相談支援・生活介護・グループホーム等の事業所の不足が課題として挙げられている。

障害のある人が利用するサービスや支援で不足していることや充実を望むこと
<p>■ 長期入院や長期服薬によって身体的な機能低下がある人に対して、リハビリする場がほしい。また身体能力の低下から在宅生活を継続するためには福祉用具等の利用ができるようにしてほしい。障害のある人の家族の高齢化に伴い、緊急時の対応へのニーズがある。相談支援事業所が少ない。就労支援事業所、生活介護、グループホーム等、社会資源が少ない。</p>
<p>■ リハビリ等に重点をおいた食事提供や入浴サービスが提供できる日中活動の場の必要性。身体能力に合わせた、福祉用具の利用が可能な体制。相談支援事業所、社会資源の増設。地域生活拠点についての周知。</p>

3. 発達支援、保育、教育（学校生活など）について

家族支援の相談先、支援体制の整備や、グレーゾーンの子どもへの支援の不十分さが指摘され、また、市の連携・情報共有及び手続の簡素化が望まれている。

発達支援や、保育、幼児教育、学校教育などについて困っていること・必要な支援
<p>■家族支援が必要なケースが増えている中で、親への支援はできるが、その子どもへの支援をどこへ相談すれば良いのか、また支援体制の不便さを感じる。受給者証や手帳がない子ども、グレーゾーンの子どもへの支援体制の不備を感じる。市役所内での情報や連携の不便さ、手続きの煩雑から、スムーズにケースが進まない。</p>
<p>■市役所内の手続きの簡素化。療育・保険・医療・教育の市役所課内の連携の必要性。基幹相談支援センターの設置。グレーゾーンの子ども達への支援体制。</p>

4. 就労や社会参加について

就労支援に関する事業所の選択肢が少ないことが課題として挙げられている。

障害のある人の就労や社会参加について困っていること・必要な支援
<p>■この問題については、障害者程度が、千差万別で、一概に決められないところが困ったことだと思っています。</p>
<p>■他市に比べ、就労支援全般の事業所が少ない。利用者は少ない事業所内で選ぶこととなってしまっているように感じる。就労支援へ通所する際の、通所支援が福祉サービスで柔軟に対応してもらえれば、通所のきっかけとなる人も増えるのではないかと思う。また羽曳野市は縦長な地形のため、同市内でもバスや電車の乗り換えが必要である。継続利用するために、通所の利便性を重視される方が多い。</p>
<p>■就労支援全般の増設。支援の質の向上。通所支援のサービス整備。ガイドヘルパーの柔軟な利用ができるようにしてほしい。</p>

5. 地域住民組織による地域福祉活動への参加や協力関係について

施設整備における地域の人々の理解を得ることの困難さが課題として挙げられており、市民の理解促進、普及啓発が望まれている。

地域活動に参加するために取り組んでいることや困っていること・必要な支援
<p>■地域住民の会議への参加は実施しているが、地域住民組織との構築で事業所が主体的に動くことへ難しさを感じる。グループホームや作業所等、福祉施設を開設する場合に、近隣への理解を得ることは難しく、開設が困難となっているように感じる。同法人のグループホームの移転についてもスムーズに話が進んでいない。</p>
<p>■地域住民への普及啓発への取り組み。近隣住民への説明の場で、市役所としても説明の場へ仲介してもらいたい。</p>

6. 相談支援体制について

相談先の周知、相談に対する連携・多様化する問題に十分対応ができる体制が必要とされている。そのためにも、基幹相談支援センターの設置が望まれている。

障害のある人や子どもに関する相談支援体制の充実度・必要な取組
■福祉手引きなど、いろいろ冊子などは充実していますが、これを障害者にどのように届いているか、そこが問題です。
■相談支援の体制は充実しているとは思わない。相談者が相談できる窓口がほしい。市役所課内の連携ができてないこともあり、スムーズにケースが進まないことがある。障害や問題が多様化しているため、その問題に対応できる事業所を増やして欲しい。
■基幹相談支援センターを早急に設置してほしい。相談支援事業所の増設をしてほしい。市役所内の手続きの簡素化。療育・保険・医療・教育の市役所課内の連携。

7. 住まいや生活環境について

地域住民への理解促進、緊急時に対応できる体制、各種サービス事業所の整備の必要性が挙げられている。災害時の対応方法をわかりやすく示すことが望まれている。

障害のある人が羽曳野市で暮らし続けるために、必要な場所やサービス
■地域住民の理解の拡充。普及啓発。グループホーム等の生活できる場は不足している。ショートステイ等の緊急時に対応できる場も不足している。就労支援事業所や、日中の生活の場が増えて欲しい。身体的な機能低下がある人に対して、リハビリする場。
災害や防災に関して、障害のある人や子どもへの対応や支援として望むこと
■いざ、災害が発生した場合、障害者といえども各個人で対応しなければならないと思います。
■災害や防災に関しての、支援のフローチャート。障害のある人への対応や支援の内容をわかりやすい形での提示。

8. 総合的な推進について

相談支援に関する事業所等の増設及び庁内の連携体制の構築が望まれている。

障害に関しての理解の促進のために必要な取り組み
■障害者に対する認識は随分よくなっていると思います。が、いざとなった時は、テレビ等でよく言っているように、自分の命は自分で守るしかないと思います。
行政や市民、企業・事業所などの支援を必要とすること
■基幹相談支援センターの早急な設置、相談支援事業所の増設を希望します。市役所の課内での情報共有や連携の強化。家族支援における、受給者証や手帳がない子ども、今後支援が必要になる可能性があるだろうと思われるグレーゾーンの子どもの支援体制。

VI 調査結果〔事業者アンケート調査〕

1. 療育、保健・医療、教育の充実について

現状や課題（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・障害への理解不足、福祉サービスの認知度が低い。 ・子どもに合った環境やペースでの教育や療育が必要。 ・言語聴覚士を配置する事業所が少ない。 ・受給者証や手帳がない子ども、グレーゾーンの子どもの支援体制の強化が必要。 ・一人一人その子に合った教育が望ましいが実情として難しい。 …等
今後の取組方策や方向性（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携しながら子どもを支援していきたい。 ・各学校（小・中・高）の連携として、学校関係者と接する機会を設けてほしい。 ・他機関との情報共有、他機関（専門家）との連携がより重要となる。 ・子どもを支える機関・学校・相談支援・福祉サービスの垣根のない連携。 ・基幹センター設置に各事業者が参入しない理由を市が真摯に受け止め改善することが必要。 ・相談員の呼びかけではなかなか連携がとりにくいため、行政からの働きかけをお願いしたい。 …等

2. 雇用・就労の支援について

現状や課題（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・工賃が低い。 ・実習先や就職先との連携がうまくとれている事業所ほど結果が出ている。 ・利用者の現状に合っていないのに事業所が受け入れをしている場合が多いように思う。 ・就労移行や定着支援、就労継続支援A型は少ない。地元で働ける・訓練できる場が増えればいい。 ・就労支援全般の事業所が少ない。 …等
今後の取組方策や方向性（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・企業や公共施設、行政との連携による支援サポートの構築や人材派遣を可能とするマッチングサイトの設定が必要。 ・B型は企業と連携を強め効率の良い仕事を増やししながら、独自の仕事を作り、企業に左右されにくい形を作る。 ・法人内での別部門での実習受け入れなどの調整や医療機関での体験の受入。 ・工賃を値上げしたり、低所得者への補助を増額するなど支援。 ・キャリア教育が、職業だけでなく、その人の「生き方」を自分で決定していく機会となれば良い。 …等

3. 福祉サービス等の充実について

現状や課題（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームなどの生活の場や緊急時のショートなどの拡充。 ・家族の高齢化に伴い「親亡き後」ということが現実となりつつある。 ・障害のある人が気軽に外出できるような支援やサービスが不足しているように感じる。 ・問い合わせ等で夜間や土日のサービスが不足しているように感じる。 ・多様な障害種別に対応できる社会資源（事業所）が少ない。 …等
今後の取組方策や方向性（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・自宅で福祉サービスを受けられることが増えればと考える。 ・介護保険が適応されない高齢障害者がリハビリをできるような施設があれば良いと思う。 ・こども課や介護保険、年金、生活保護等、横の連携を密に図り、それぞれの課が最大限関わってもらえること。 ・地域（GH）か施設かという二極論。100か0の選択肢ではなく、もっと規制を緩和して、居住サービスのバリエーションを増やしていく必要があるのではないか。 ・ワンストップでの相談先の拡充（相談者の増員）。 …等

4. 地域住民組織との関係性の構築について

現状や課題（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・組織と地域住民、一人一人の温度差の歪みが事業所に皺寄せとなって現れることがある。 ・制度等を知らない本人・家族からSOSは発信されにくいため、どう周知するか。 ・障がい者は、自らもっと積極的に地域活動に参加していくべきであるし、地域住民も意図的に障がい者の参加を促していく必要があると考える。 ・障害者への偏見もあり、法人もグループホーム設立の際、地域で反対を受け、設立には時間や労力も必要であった。事業所の力だけでは設立を断念せざるをえないケースもある。 …等
今後の取組方策や方向性（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・社会自体で近所づきあいが薄れている中、福祉の領域だけ地域と関わりを深めるのは難しい。 ・地域活動や日常のつながりからニーズを掘り起こすための相談窓口を設ける。 ・障害のある方や地域住民組織などの取り組みや活動が目に見えてわかるようになれば良い。 ・グループホームのニーズが高いが設置数も増えていない。地域への説明など、行政にも仲介してもらえないか。事業所のみでの説明では地域住民の不安も強い。 …等

5. 相談支援の充実について

現状や課題（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所の数が少ない。数を増やす必要がある。 相談支援専門員の存在が周知されていない。 他の相談支援事業所や基幹相談支援センターとのかかわりがほとんどなく、情報共有がなされず、必要な指導・助言が得られない状況。 困難ケースやどこに相談すれば良いのか分からないケースがあり、基幹相談支援センターが設置されていればスムーズにケースが進むのではないかと感じる。 …等
今後の取組方策や方向性（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> 相談員の報酬単価を上げ、もっと活躍できるように環境を整えていく必要がある。 「ワンストップ」を進めるよりも、それぞれの専門性を高め、具体的な対処能力を高めることが重要。 困難ケースや地域移行への働きかけなど障害の包括的基幹型支援センターの設立、24時間の相談支援体制は利用者も家族も望む。 資源が乏しい中でケアマネジメントの真似事をするより、ソーシャルワーク全般に関わる労力を評価できる仕組み作りが重要。 …等

6. 総合的な推進について

現状や課題（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> 地域に一人でも多く障害者が生活することが理解の促進になり、取り組むべき方向性と思う。 障がい者が地域で生活する場合、相談できる場所が少ない、相談できる場所があることも知らないよう感じる。 ボランティアの情報提供をわかりやすくすることで、よりたくさんの方が活動に参加できるのではないか。 地域でどのような参加できるボランティア等があるのかの情報が得られていない。 …等
今後の取組方策や方向性（主な意見の抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> 利用者と大学生の交流があれば、大学生にとっても障害に関する理解に役立つし、利用者にとってもよい刺激になると期待している。 中学校区連絡協議会に福祉関係者も参加等、できるようにしてほしい。 地域に根差したコミュニティー等（民生委員、自治会）に事例を交えて福祉の制度や役割を啓発し、情報収集も行う。 羽曳野市や基幹相談支援センターからの情報発信がなされれば、積極的に対応していきたい。 …等

7. その他、障害者福祉施策全般について

現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性について

- 就労型支援Aやグループホームの整備。
- 現場の現状をよく知っていただきたい。
- グループホームやショートステイの拡充、空き情報の発信。
- 必要なところに、十分な福祉がいきわたるように利用者のニーズを把握できるような専門性の高い窓口、支援者の育成が急務であると考えます。
- 現状に満足しています。
- 基幹相談支援センターの早急な設置、相談支援事業所の増設、社会資源の増設を希望したいです。市役所の課内での情報共有や連携の強化をして頂きたいです。家族支援における、受給者証や手帳がない子ども、今後支援が必要になる可能性があるだろうと思われるグレーゾーンの子どもの支援体制が必要だと思います。

…等

VII 資料編（調査票）

1. 18歳以上の障害のある人に対するアンケート調査

福祉に関するアンケート調査へのご協力のお願い
～18歳以上の方対象～

日頃より羽曳野市の福祉行政にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

羽曳野市では現在、第4期障害者計画および第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の策定に向けた取り組みを進めています。そのため、市民の皆さまの福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるためのアンケート調査を実施することになりました。

調査の対象者は、身体障害者手帳や療育手帳、精神保健福祉手帳を持っている方や自立支援医療を受給している方、福祉サービスを利用している方から選ばせていただきました。

この調査は、無記名でご回答いただけますので、回答された方が特定されたり、個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。調査票は羽曳野市個人情報保護条例にしたがい、適切に管理します。

また、ご回答いただいた内容は、統計的な処理を行い、計画策定及び施策推進のための基礎資料としてのみ使用し、その他の目的で使われることは一切ありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和2年9月 羽曳野市

＜記入要領＞

- ・宛名のご本人が直接回答いただくことが難しい場合には、ご家族や介護者の方などが、ご本人の意向を尊重して記入してください。
- ・質問への回答方法は、それぞれ質問文に記載していますので、質問文をよく読んでお答えください。
- ・記入が終わりましたら、10月2日（金）までに同封の返信用封筒を使ってご返送ください。
- ・このアンケート調査へのご質問などは、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

羽曳野市 保健福祉部 障害福祉課
電話番号：072-958-1111（内線1150）
メールアドレス：syogaifukushi@city.habikino.lg.jp

※あてはまる番号に○をつけ、 に数字を記入してお答えください。

問1 お答えいただくのは、どなたですか。(○は1つだけ)

1. ご本人 (この調査票が郵送された宛名の方) ※支援者による代筆を含みます
2. ご本人のご家族
3. ご家族以外の介助者

※これ以降、この調査票が郵送された宛名の方を「あなた」と呼びますので、ご本人 (この調査票の対象者：障害のある方) の状況などについて、お答えください。

あなた (宛名の方) の性別・年齢・ご家族などについて

問2 あなたの年齢(令和2年9月1日現在)をお答えください。

さい
歳

問3 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

1. 男性
2. 女性
3. 答えたくない

問4 あなたがお住まいの地域はどの中学校の校区ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 誉田中学校区 | 5. 峰塚中学校区 |
| 2. 高鷺中学校区 | 6. 河原城中学校区 |
| 3. 高鷺南中学校区 | 7. 羽曳野市以外 |
| 4. はびきの殖生学園校区 | 8. わからない |
- ⇒お住まいの町名を教えてください
() 町 () 丁目

問5 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 父親 | 7. 一人で暮らしている |
| 2. 母親 | 8. グループホームにおける共同生活 |
| 3. きょうだい | 9. 施設入所における共同生活 |
| 4. 祖父母 | 10. 病院に入院している |
| 5. 配偶者 (夫または妻) | 11. その他 () |
| 6. 子ども | |

問6 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。

(①から⑩それぞれに○を1つずつ)

項目	一人でできる	一部支援が必要	全部支援が必要
① 食事	1	2	3
② トイレ	1	2	3
③ 入浴	1	2	3
④ 衣服の着脱	1	2	3
⑤ 身だしなみ	1	2	3
⑥ 家の中の移動	1	2	3
⑦ 外出	1	2	3
⑧ 家族以外の人との意思疎通	1	2	3
⑨ お金の管理	1	2	3
⑩ 薬の管理	1	2	3

問7 あなたが一人でできないことを支援している方は主に誰ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. 父親 | 7. 施設やグループホームの職員など |
| 2. 母親 | 8. ホームヘルパーなどサービス事業所の人 |
| 3. 祖父母 | 9. その他 () |
| 4. きょうだい | 10. 支援はうけていない |
| 5. 配偶者 (夫または妻) | |
| 6. 子ども | |

問8 (問7で1.～6. を答えた方)あなたを支援している家族で、特に中心となっている方の年齢、健康状態をお答えください。

① あなたを主に支援している家族の令和2年9月1日現在の年齢

 歳

② あなたを主に支援している家族の健康状態(○は1つだけ)

1. よい 2. ふつう 3. よくない

問9 同居の家族の中で、あなた以外に支援を必要とする方はいますか。(○は1つだけ)

1. いる 2. いない

あなたの障害の状況について

問10 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-----------|
| 1. 1級 | 3. 3級 | 5. 5級 | 7. 持っていない |
| 2. 2級 | 4. 4級 | 6. 6級 | |

問11 (問10で1.～6.を答えた方)身体障害者手帳をお持ちの場合、その障害をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1. 視覚障害 | 6. 肢体不自由 (体幹) |
| 2. 聴覚・平衡機能障害 | 7. 肢体不自由 (乳児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害) |
| 3. 音声・言語・そしゃく機能障害 | 8. 内部障害 (1～6以外) |
| 4. 肢体不自由 (上肢) | |
| 5. 肢体不自由 (下肢) | |

問12 あなたは療育手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|--------|---------|---------|-----------|
| 1. A判定 | 2. B1判定 | 3. B2判定 | 4. 持っていない |
|--------|---------|---------|-----------|

問13 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-----------|
| 1. 1級 | 2. 2級 | 3. 3級 | 4. 持っていない |
|-------|-------|-------|-----------|

問14 あなたは自立支援医療(精神通院医療)を受給していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 受給している | 2. 受給していない |
|-----------|------------|

問15 あなたは発達障害と診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

※発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などをいいます。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問16 あなたは高次脳機能障害と診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

※高次脳機能障害とは、一般に、外傷性脳損傷、脳血管障害等により脳に損傷を受けその後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない」等の症状があります。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問17 あなたは障害者総合支援法の対象となる疾病(難病)の認定を受けていますか。

(○は1つだけ)

※この場合の「疾病(難病)」とは筋委縮性側索硬化症(A L S)など治療法が確立していない疾病のうち、障害者総合支援法の対象となっている358疾病を指します。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 受けている | 2. 受けていない |
|----------|-----------|

問18 あなたが現在受けている医療的ケアをご回答ください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 気管切開 | 8. 透析 |
| 2. 人工呼吸器(レスピレーター) | 9. カテーテル留置 |
| 3. 吸入 | 10. ストーマ(人工肛門・人工膀胱) |
| 4. 吸引 | 11. 服薬管理 |
| 5. 胃ろう・腸ろう | 12. その他() |
| 6. 鼻腔経管栄養 | 13. 医療的ケアは受けていない |
| 7. 中心静脈栄養(I V H) | |

住まいや暮らしについて

問19 あなたは将来どのように暮らしたいと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1. 一人で暮らしたい | 5. 福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしたい |
| 2. 父母・祖父母・きょうだいと暮らしたい | 6. その他() |
| 3. 配偶者(夫・妻)や子どもと暮らしたい | |
| 4. グループホームで暮らしたい | |

問20 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること | 6. 困ったときなどに相談できる体制の充実 |
| 2. 障害者に適した住居の確保 | 7. 地域住民等の理解 |
| 3. 必要な在宅サービスが適切に利用できること | 8. コミュニケーションについての支援 |
| 4. 生活訓練等の充実 | 9. その他() |
| 5. 経済的な負担の軽減 | 10. 特になし |

日中活動や就労についてお聞きします。

問21 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 1週間に5日以上外出する | 3. 1週間に1日くらい外出する |
| 2. 1週間に2～4日くらい外出する | 4. めったに外出しない |

問22 あなたは、外出する際に、誰と外出することが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 一人で外出する | 5. グループホームや施設の職員など |
| 2. 父母・祖父母・きょうだい | 6. ホームヘルパーなどサービス事業所の人 |
| 3. 配偶者(夫または妻) | 7. その他() |
| 4. 子ども | |

問23 どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 通勤・通学・通所 | 6. 趣味やスポーツをする |
| 2. 訓練やリハビリに行く | 7. グループ活動に参加する |
| 3. 医療機関への受診 | 8. 散歩に行く |
| 4. 買い物に行く | 9. その他() |
| 5. 友人・知人に会う | |

問24 外出する時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 公共交通機関が少ない(ない) | 6. 介助者が確保できない |
| 2. 電車やバスの乗り降りが困難 | 7. 外出にお金がかかる |
| 3. 道路や駅に階段や段差が多い | 8. 周囲の目が気になる |
| 4. 切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい | 9. 発作など突然の身体の変化が心配 |
| 5. 外出先の建物の設備が不便 | 10. 困った時にどうすればいいの心配 |
| (通路、トイレ、エレベーターなど) | 11. その他() |
| | 12. 特にない |

問25 あなたは、平日の^{へいじつ}日中を^{おも}主にどのように^す過ごしていますか。(〇は1つだけ)

1. 会社^{かいしゃ}勤めや、自営^{じえい}業、家業^{かぎょう}などで^{しゅうにゅう}収入を得て^え仕事^{しごと}をしている
2. ボランティア^{ほうらんていあ}など、^{しゅうにゅう}収入を得ない^え仕事^{しごと}をしている
3. 専業主婦^{せんぎょうしゆふ} (主夫^{しゆふ}) をしている
4. 福祉^{ふくし}施設^{しせつ}、作業^{さぎょう}所等^{じょうとう}に通^{かよ}っている (就^{しゅう}労^{ろう}継^{けい}続^{ぞく}支^し援^{えん}A^あ型^{がた}も含^{ふく}む)
5. 病院^{びやういん}などの^{てい}デイケア^{けあ}に通^{かよ}っている
6. リハビリ^{りはびり}テ-ション^{てしよん}を受^うけている
7. 自宅^{じたく}で^す過ごしている
8. 入所^{にゅうじょ}している^{しせつ}施設^{しせつ}や^{びやういん}病院^{びやういん}等^{とう}で^す過ごしている
9. 大学^{だいがく}、専^{せん}門^{もん}学^{がく}校^{こう}、職^{しよく}業^{ぎょう}訓^{くん}練^{れん}校^{こう}などに通^{かよ}っている
10. 高^{こう}校^{こう} (全^{ぜん}日^{にち}制^{せい}、定^{てい}時^じ制^{せい}、通^{つう}信^{しん}制^{せい}) に通^{かよ}っている
11. その他 ()

問26 あなたは、どのような^{きんむけいたい}勤務^{はたら}形態^{がた}で働^{はたら}いていますか。(〇は1つだけ)

1. 働^{はたら}いていない
2. 正^{せい}職^{しよく}員^{いん}で^た他^たの^{しよく}職^{しよく}員^{いん}と^{きんむけいたい}勤務^{はたら}条^{じょう}件^{けん}等^{とう}に^{ちが}違^{ちが}いはない
3. 正^{せい}職^{しよく}員^{いん}で^{たんじかん}短^{たん}時^{じかん}勤^{きん}務^むな^どの^{しょうがい}障^{しょう}害^{がい}者^{しや}配^{はい}慮^{りょ}が^ある
4. パ-ト・ア^{ぱーと}ル^{ある}バ^{ばい}イ^{いと}ト^と等^{とう}の^{ひじょう}非^ひ常^{じょう}勤^{きん}職^{しよく}員^{いん}、^{はけん}派^は遣^{けん}職^{しよく}員^{いん}
5. 自^じ営^{えい}業^{ぎょう}、^{のうりん}農^{のう}林^{りん}水^{すい}産^{さん}業^{ぎょう}など
6. 福^{ふく}祉^し施^し設^{せつ}、^{さぎょう}作^さ業^{ぎょう}所^{じょう}等^{とう}で、^{ちんぜん}い^ちら^かの^{ちんぜん}賃^{ちん}金^{ぜん}を^もら^って^いる
7. その他 ()

問27 あなたは^{こんご}今^{こん}後^ご、^{しゅうにゅう}収^{しゅう}入^{にゅう}を^え得^える^{しごと}仕^{おも}事^{おも}を^{おも}し^{たい}たい^{おも}と思^{おも}いますか。(〇は1つだけ)

1. 仕^し事^{ごと}を^した^い (続^つけ^{たい})
2. 仕^し事^{ごと}は^した^くな^い、^{また}は、^{でき}な^い

問28 ^{しゅうにゅう}収^{しゅう}入^{にゅう}を^え得^える^{しごと}仕^{おも}事^{おも}を^{おも}し^{たい}たい^{おも}と思^{おも}いますか。
(〇は1つだけ)

1. ^{しよく}すでに^{しよく}職^{しよく}業^{ぎょう}訓^{くん}練^{れん}を受^うけて^いる
2. ^{しよく}職^{しよく}業^{ぎょう}訓^{くん}練^{れん}を受^うけ^{たい}
3. ^{しよく}職^{しよく}業^{ぎょう}訓^{くん}練^{れん}を受^うけ^{たく}な^い、^う受^うけ^る必^{ひつ}要^{よう}は^ない

問29 あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思えますか。
 (あてはまるものすべてに○)

1. 通勤手段の確保
2. 勤務場所におけるバリアフリー等の配慮
3. 短時間勤務や勤務日数等の配慮
4. 在宅勤務の拡充
5. 職場の上司や同僚に障害の理解があること
6. 職場で介助や援助等が受けられること
7. 就労後のフォローなど職場と支援機関の連携 (ジョブコーチなど)
8. 企業ニーズに合った就労訓練 (能力向上のための取り組み)
9. 仕事についての職場外での相談対応、支援
10. ご家族の理解、協力
11. その他 ()

障害福祉サービス等の利用についてお聞きします。

問30 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|------------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない ⇒問32へ |
|-----------|------------------|

【問30で、「1. 利用している」を選択した方にお聞きします。】

問31 該当する要介護度はどれですか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1. 要支援 1 | 3. 要介護 1 | 5. 要介護 3 | 7. 要介護 5 |
| 2. 要支援 2 | 4. 要介護 2 | 6. 要介護 4 | |

【すべての方にお聞きします。】

問32 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|---------|---------|---------|-----------|
| 1. 区分 1 | 3. 区分 3 | 5. 区分 5 | 7. 受けていない |
| 2. 区分 2 | 4. 区分 4 | 6. 区分 6 | |

問33 あなたは以下の福祉サービスを利用していますか。過去1年以内に利用したことのあるサービスすべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 居宅介護 (ホームヘルプ) | 10. 療養介護 |
| 2. 重度訪問介護 | 11. 短期入所 (ショートステイ) |
| 3. 同行援護 | 12. 共同生活援助 (グループホーム) |
| 4. 行動援護 | 13. 施設入所支援 |
| 5. 重度障害者等包括支援 | 14. 相談支援 |
| 6. 生活介護 | 15. 就労定着支援 |
| 7. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練) | 16. 自立生活援助 |
| 8. 就労移行支援 | 17. 利用していない |
| 9. 就労継続支援 (A型、B型) | |

※別紙にそれぞれのサービス内容の説明があります。

問34 あなたは以下のサービスを今後3年間で利用したいと思いますか。現在利用しているサービスも含め、これから利用したいと思うサービスすべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 居宅介護 (ホームヘルプ) | 10. 療養介護 |
| 2. 重度訪問介護 | 11. 短期入所 (ショートステイ) |
| 3. 同行援護 | 12. 共同生活援助 (グループホーム) |
| 4. 行動援護 | 13. 施設入所支援 |
| 5. 重度障害者等包括支援 | 14. 相談支援 |
| 6. 生活介護 | 15. 就労定着支援 |
| 7. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練) | 16. 自立生活援助 |
| 8. 就労移行支援 | 17. 特にない |
| 9. 就労継続支援 (A型、B型) | |

※別紙にそれぞれのサービス内容の説明があります。

問35 問34のサービス以外で、必要な支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 話し相手や地域の人の声かけ、訪問
2. ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス
3. 作業やレクリエーションを通じて自立生活を支援する通所サービス
4. 趣味やスポーツなどの集まり
5. 食事の配達サービス
6. 外出の時に自動車で送迎してくれるサービス
7. 買い物など外出に付き添ってくれるサービス
8. 自宅に来てくれる散髪や理美容サービス
9. その他 ()
10. 特にない

問36 羽曳野市の障害福祉サービスについて、全体としてどのように感じていますか。
(○は1つだけ)

- | | | |
|---------------|------------------|------------|
| 1. 満足している | 3. ぶつう (特に不満はない) | 5. 大変不満である |
| 2. だいたい満足している | 4. 少し不満である | 6. わからない |

通院についてお聞きします。

問37 あなたの現在の通院状況(リハビリを含む)は次のどれですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|---------------|---------------|
| 1. 1か月に2回以上 | 4. 半年に1回 | 6. 入院中 |
| 2. 1か月に1回程度 | 5. 年に1回または数年に | 7. 定期的な通院はしてい |
| 3. 2～3か月に1回 | 1回 | ない |

問38 医療を受けるうえで困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 医療費の負担が大きい | 7. 障害が理由で治療が受けにくい |
| 2. 通院費(交通費)の負担が大きい | 8. 意思の疎通ができない(手話、要約筆記など) |
| 3. 通院(病院までの移動)が困難である | 9. 診察の内容がわかりにくく、一人だと |
| 4. 入院時の付き添いがいない | 理解が難しい |
| 5. 専門的な治療をする病院が近くにない | 10. その他 () |
| 6. 往診を頼める医師がいない | 11. 特にない |

ちいきかつどう さんか き
地域活動への参加についてお聞きします。

とひ さいきん ねんかん ちいき ぎょうじ かつどう さんか
問39 最近1年間に、あなたは、地域の行事や活動に参加しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. スポーツ・レクリエーション事業 | 6. 学校の行事 |
| 2. セミナー・講演会等の学習活動 | 7. 福祉・ボランティア活動 |
| 3. 障害者団体の集会・活動 | 8. その他 |
| 4. 自治会活動・祭りなど地域の行事 | () |
| 5. 趣味などのサークル活動 | 9. どれにも参加していない |

とひ こんご ちいき ぎょうじ かつどう さんか
問40 今後、あなたは、どのような地域の行事や活動に参加したいですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. スポーツ・レクリエーション事業 | 6. 学校の行事 |
| 2. セミナー・講演会等の学習活動 | 7. 福祉・ボランティア活動 |
| 3. 障害者団体の集会・活動 | 8. その他 |
| 4. 自治会活動・祭りなど地域の行事 | () |
| 5. 趣味などのサークル活動 | 9. どれにも参加したくない |

なや そうだんあいて き
悩みや相談相手についてお聞きします。

とひ げんざい せいかつ こま ふあん おも
問41 あなたは、現在の生活で困っていることや不安に思っていることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1. 身の回りの介助や支援をしてくれる人がいない | 9. 同居の家族との関係 |
| 2. 一緒に暮らす人がいない | 10. 隣人などとの関係 |
| 3. 働くところがない | 11. 必要な保健・福祉・医療サービスが受けられない |
| 4. 十分な収入が得られない | 12. 将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安 |
| 5. 趣味や生きがいが見つけれない | 13. その他 |
| 6. 生活をするうえで必要な情報が得られ | () |
| 7. 自分の健康や体力に自信がない | 14. 特に困っていることはない |
| 8. 家族など介助者の健康状態が不安 | |

問42 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 1. 家族や親せき | 9. 病院のソーシャルワーカーや介護保険のケアマネージャー |
| 2. 友人・知人 | 10. 民生委員・児童委員 |
| 3. 近所の人 | 11. 区長など自治会の役員 |
| 4. 職場の上司や同僚 | 12. 学校の先生 |
| 5. グループホームや施設の職員など | 13. 相談支援事業所などの民間の相談窓口 |
| 6. ヘルパーなどサービス事業所の人 | 14. 行政機関の相談窓口 |
| 7. 障害者団体や家族会 | 15. その他 () |
| 8. かかりつけの医師や看護師 | 16. 特にない |

問43 あなたは障害のことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1. 本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース | 8. 病院のソーシャルワーカーや介護保険のケアマネージャー |
| 2. 行政機関の広報誌 | 9. 民生委員・児童委員 |
| 3. インターネット | 10. 通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生 |
| 4. ご家族や親せき、友人・知人 | 11. 相談支援事業所などの民間の相談窓口 |
| 5. サービス事業所の人や施設職員 | 12. 行政機関の相談窓口 |
| 6. 障害者団体や家族会 (団体の機関誌など) | 13. その他 () |
| 7. かかりつけの医師や看護師 | 14. 特にない |

権利擁護についてお聞きします。

問44 あなたは、障害等があることで、ふだんの生活の中で差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|------------------|
| 1. よくある | 3. いやな思いをしたことはない |
| 2. ときどきある | |

→問45にお進みください。

【問44で、「1. よくある」または「2. ときどきある」を選択した方にお聞きします。】

問45 あなたは、障害等があることで、どのような場面で差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 学校の入学や進学するとき	9. 飲食店を利用するとき
2. 学校での生活や勉強	10. 電車やバスを利用するとき
3. 仕事を探すとき	11. 市役所の職員の対応
4. 仕事をしているとき	12. 福祉事業所の職員の対応
5. 近所の人とのつきあい	13. 外出するときに周りの人に見られ
6. 家族や親せきとのつきあい	たり、何か言われたりすること
7. 病院でみてもらうとき	14. 道路や建物が利用しにくいこと
8. 店で買い物をするとき	15. その他 ()

問46 成年後見制度についてご存じですか。(○は1つだけ)

1. 制度利用している
2. 名前も内容も知っており、今後の制度利用を考えている
3. 名前も内容も知っているが、制度利用は考えていない
4. 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
5. 名前も内容も知らない

問47 次の言葉についてご存じですか。①～③のそれぞれについて、あてはまる番号に○をしてください。(①～③のそれぞれに○は1つずつ)

	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない
① 障害者差別解消法	1	2	3
② 合理的配慮	1	2	3
③ 災害時要援護者支援制度	1	2	3

問48 障害があることで、あなたがふだんの生活でいやな思いをすることは、この5年程度の間増えましたか、減りましたか。(○は1つだけ)

1. 増えた	4. いやな思いをしたことはない
2. あまりかわらない	5. わからない
3. 減った	

さいがいじ ひなんとう き
 災害時の避難等についてお聞きします。

と
 問49 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。(〇は1つだけ)

1. できる 2. できない 3. わからない

と
 問50 あなたは、地震や台風などの災害時に避難する場所を知っていますか。
 (〇は1つだけ)

1. 知っている (決めている) 2. 知らない (決めていない)

と
 問51 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなただけを助けてくれる人はいますか。
 (〇は1つだけ)

1. いる 2. いない 3. わからない

と
 問52 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|------------------------------------|--------------------------|
| 1. 投薬や治療が受けられない | 5. 被害状況、避難場所などの情報が入手できない |
| 2. 補装具の使用が困難になる
(入手が困難になるなども含む) | 6. 周囲とコミュニケーションがとれない |
| 3. 救助を求めることができない | 7. 避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安 |
| 4. 安全なところまで、迅速に避難することができない | 8. その他() |
| | 9. 特にな |

と
 問53 あなたは、地震や台風などの災害時に備えて、日ごろから心がけていることや準備していることはありますか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 震災時の非常持出品や備蓄品の中に、障害特性に応じた医薬品などを用意している
2. 避難所において医療が受けられるよう、病状や服薬などの情報を記録している
3. 震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している
4. 震災時や緊急時に支援してくれるよう、家族や知人などをお願いしている
5. 災害時に避難する避難場所までの移動ルート・方法などを確認している
6. 災害時に避難する避難場所の設備などを確認している
7. 地域の避難訓練に参加している
8. 災害時要援護者制度に登録している
9. その他()
10. 特に何もしてない

さいごに

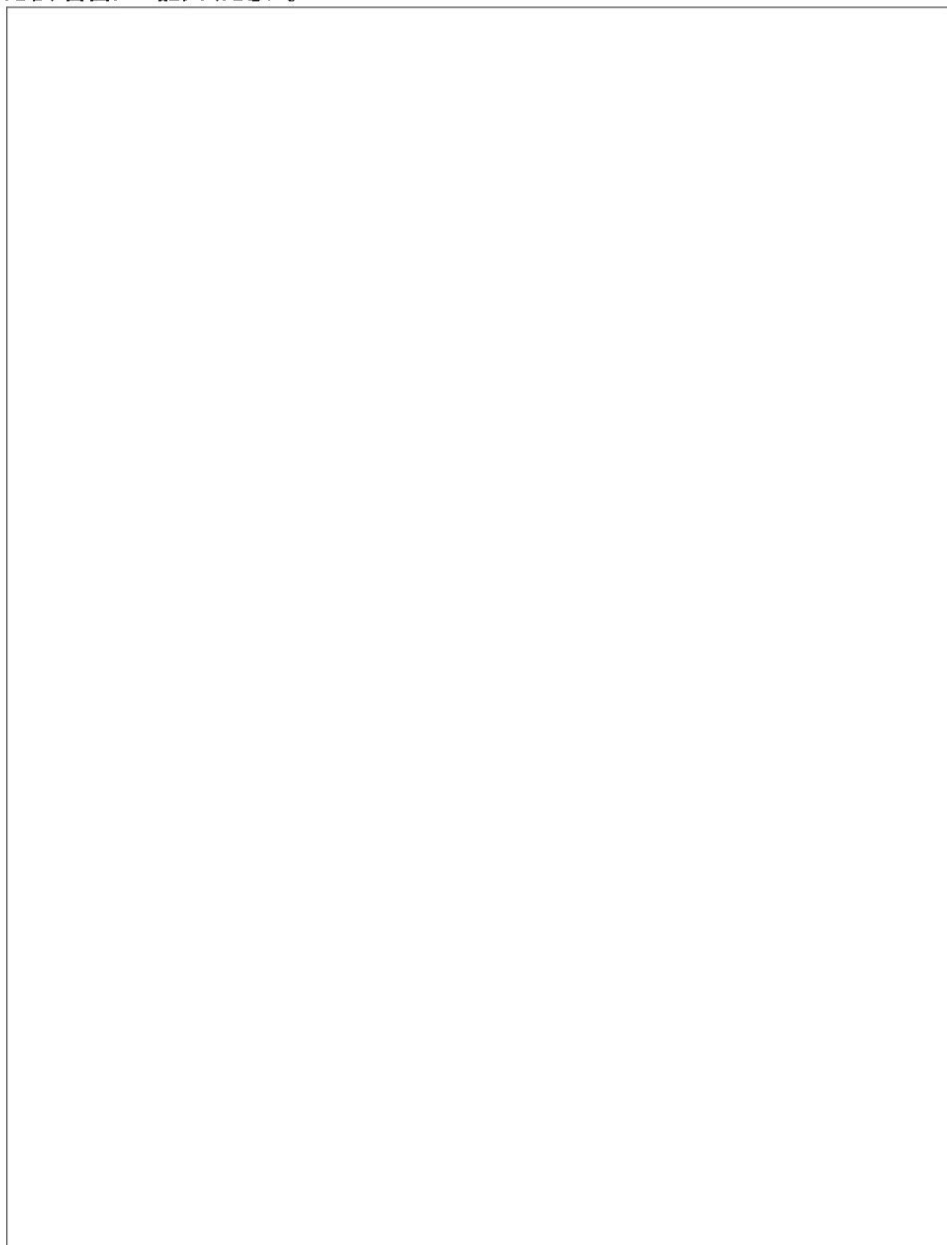
問54 あなたは、羽曳野市が障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。
(〇は1つだけ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 慧う | 4. あまり慧わない |
| 2. やや慧う | 5. 慧わない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

問55 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は主なもの5つまで)

1. 何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実
2. サービス利用の手続きの簡素化
3. 行政からの福祉に関する情報提供の充実
4. 保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上
5. 参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動の充実
6. いろいろなボランティア活動の育成
7. 在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉のサービスの充実
8. リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備
9. 地域でともに学べる保育・教育内容の充実
10. 職業訓練の充実や働く場所の確保
11. 障害の有無にかかわらず、市民同士がふれあう機会や場の充実
12. 利用しやすい道路・建物などの整備・改善
13. 障害に配慮した公営住宅や、グループホームの整備など、生活の場の確保
14. 災害のときの避難誘導體制（緊急通報システムなど）の整備
15. 差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実
16. 本人や家族の積極性
17. その他 ()

しつもん いじょう さいご しょうがいふくしきサービス ぎょうせい とく なに いけん
質問は以上です。最後に、障害福祉サービスや行政の取り組みについて、何かご意見がありま
したら、自由にご記入ください。



ご協力ありがとうございました。

10月2日（金）までに同封の返信用封筒を使ってご返送ください。

2. 18歳未満の障害のある人に対するアンケート調査

福祉に関するアンケート調査へのご協力をお願い
 ～17歳以下の方対象～

日頃より羽曳野市の福祉行政にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

羽曳野市では現在、第4期障害者計画および第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の策定に向けた取り組みを進めています。そのため、障害などで支援が必要な児童のふだんの生活の様子、困っていることや希望することなどについて、意見をお聞きし、計画策定の参考にするために、「福祉に関するアンケート調査」を行うことになりました。

この調査票は、羽曳野市に住んでいる身体障害者手帳や療育手帳等を持っている方や福祉サービスを利用している方のうち、17歳までの人全員を対象に送っています。答えるときに名前を書く必要はありませんし、結果は統計的にまとめますので、答えた人の名前や回答が他の人に知られたりすることはありません。また、調査票は羽曳野市個人情報保護条例にしたがい、適切に管理します。

皆さんの回答をまとめた調査の結果は計画の策定や羽曳野市の福祉の取り組みを推進するためだけに使われ、それ以外の目的で使われることは一切ありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和2年9月 羽曳野市

<記入要領>

- ・宛名のご本人が直接回答いただくことが難しい場合には、ご家族や介護者の方などが、ご本人の意向を尊重して記入してください。
- ・質問への回答方法は、それぞれ質問文に記載していますので、質問文をよく読んでお答えください。
- ・記入が終わりましたら、10月2日(金)までに同封の返信用封筒を使ってご返送ください。
- ・このアンケート調査へのご質問などは、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

羽曳野市 保健福祉部 障害福祉課
 電話番号：072-958-1111 (内線1150)
 メールアドレス：syogaifukushi@city.habikino.lg.jp

※あてはまる番号に○をつけ、に数字を記入してお答えください。

問1 お答えいただくのは、どなたですか。(○は1つだけ)

1. ご本人 (この調査票が郵送された宛名の方) ※支援者による代筆を含みます。
2. ご本人のご家族
3. ご家族以外の介助者

※これ以降、この調査票が郵送された宛名の方を「あなた」とお呼びしますので、ご本人 (この調査票の対象者：障害等のある方) の状況などについて、お答えください。

あなた (宛名の方) の性別・年齢・ご家族などについて

問2 あなた (宛名の方) の年齢 (令和2年9月1日現在) をお答えください。

歳

問3 あなた (宛名の方) の性別をお答えください。(○は1つだけ)

1. 男性
2. 女性
3. 答えたくない

問4 あなた (宛名の方) がお住まいの地域のどの中学校の校区ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 簗田中学校区 | 5. 峰塚中学校区 |
| 2. 高鷲中学校区 | 6. 河原城中学校区 |
| 3. 高鷲南中学校区 | 7. 羽曳野市以外 |
| 4. はびきの殖生学園校区 | 8. わからない |

⇒お住まいの町名を教えてください
() 町 () 丁目

問5 あなた (宛名の方) は現在、どのように暮らしていますか。(○は1つだけ)

1. ひとりで暮らしている
2. 家族と暮らしている
3. 入所施設 (障害児入所施設、児童養護施設など) で暮らしている
4. そのほか ()

あなた(宛名の方)の障害等の状況について

問6 あなた(宛名の方)は身体障害者手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-----------|
| 1. 1級 | 3. 3級 | 5. 5級 | 7. 持っていない |
| 2. 2級 | 4. 4級 | 6. 6級 | |

問7 (問6で1.～6.を答えた方)あなた(宛名の方)の身体障害はどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1. 視覚障害 | 6. 肢体不自由 (体幹) |
| 2. 聴覚・平衡機能障害 | 7. 肢体不自由 (乳児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害) |
| 3. 音声・言語・そしゃく機能障害 | 8. 内部障害 (1～6以外) |
| 4. 肢体不自由 (上肢) | |
| 5. 肢体不自由 (下肢) | |

問8 あなた(宛名の方)は療育手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|--------|---------|---------|-----------|
| 1. A判定 | 2. B1判定 | 3. B2判定 | 4. 持っていない |
|--------|---------|---------|-----------|

問9 あなた(宛名の方)は精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-----------|
| 1. 1級 | 2. 2級 | 3. 3級 | 4. 持っていない |
|-------|-------|-------|-----------|

問10 あなた(宛名の方)は発達障害と診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

※発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などをいいます。

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 発達障害の診断を受けている |
| 2. 発達障害の疑いがあると言われたことがあるが、はっきりわかっていない |
| 3. 発達障害の診断は受けていない |
| 4. そのほか () |

問11 あなた(宛名の方)には、障害等のことでふだんからみてもらったり、相談したりできる病院や診療所の先生(かかりつけ医)はいますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問12 あなた(宛名の方)が現在受けている医療的ケアをご回答ください。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 気管切開 | 8. 透析 |
| 2. 人工呼吸器 (レスピレーター) | 9. カテーテル留置 |
| 3. 吸入 | 10. ストーマ (人工肛門・人工膀胱) |
| 4. 吸引 | 11. 服薬管理 |
| 5. 胃ろう・腸ろう | 12. そのほか () |
| 6. 鼻腔経管栄養 | 13. 医療的ケアは受けていない |
| 7. 中心静脈栄養 (I V H) | |

問13 あなた(宛名の方)は、医療的ケアが必要なために困ったことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|--|
| 1. 行きたい学校等に行けない | |
| 2. 生活する上でできないことがたくさんある | |
| 3. 家族の負担が大きい | |
| 4. 相談できる人がいない | |
| 5. そのほか () | |
| 6. とくにない | |

学校のこと、将来のことについてお聞きします。

問14 あなた(宛名の方)が主に通っている学校・園などの種類はどれですか。

(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. 児童発達支援センター | 9. 支援学校 中学部 |
| 2. 児童発達支援事業所 | 10. 中学校の支援学級 |
| 3. 保育所 | 11. 中学校の通常学級 |
| 4. 支援学校 幼稚部 | 12. 支援学校 高等部 |
| 5. 幼稚園 | 13. 高等学校・高等専門学校 |
| 6. 支援学校 小学部 | 14. 専門学校・専修学校 |
| 7. 小学校の支援学級 | 15. そのほか () |
| 8. 小学校の通常学級 | 16. 学校・園などには通っていない |

問15 あなた(宛名の方)は、休みの日や放課後にどんなことをしていますか。週に1回以上していることを答えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 家ですぐす | 7. 放課後等デイサービスを利用する |
| 2. 友だちと遊ぶ | 8. 児童発達支援事業所を利用する |
| 3. 散歩や買いもの | 9. 図書館や地域の施設を利用する |
| 4. 習いごと | 10. 公園などで遊ぶ |
| 5. 趣味やスポーツ | 11. そのほか () |
| 6. 留守家庭児童会 (学童保育) | |

問16 あなた(宛名の方)は今後、休みの日や放課後にしたいことがありますか。今もしていること以外(問15で答えたこと以外)でお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 家ですぐしたい | 7. 放課後等デイサービスを利用したい |
| 2. 友だちと遊びたい | 8. 児童発達支援事業所を利用したい |
| 3. 散歩や買いものに行きたい | 9. 図書館や地域の施設を利用したい |
| 4. 習いごとに通いたい | 10. 公園などで遊びたい |
| 5. 趣味やスポーツをしたい | 11. そのほか () |
| 6. 留守家庭児童会 (学童保育) に通いたい | 12. とくにない |

問17 あなた(宛名の方)が園・学校生活を送る上での問題点は、次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1. 通園・通学が大変 | 7. 友だちができない |
| 2. 学習サポート体制が不十分 | 8. 先生や職員の理解が不十分 |
| 3. 学習・学校生活に必要な設備が不十分 | 9. 児童・生徒 (またはその保護者) の理解が不十分 |
| 4. 校内・園内での介助が不十分 | 10. 相談相手がない |
| 5. 進路指導が不十分 | 11. 家族の同伴を求められる |
| 6. 福祉教育や学習カリキュラムなどが不十分 | 12. そのほか () |
| | 13. とくにない |

問18 あなた(宛名の方)はこれまで、障害等があるために、自分や家族が希望する園・学校に通えなかったり、進学できなかったことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 希望する保育所に通えなかった | 5. 成績以外の理由で高等学校に通えなかった |
| 2. 希望する幼稚園に通えなかった | 6. とくになかった |
| 3. 地域の小学校に通えなかった | |
| 4. 地域の中学校に通えなかった | |

問19 あなた(宛名の方)は、障害等があるかにかかわらず、できるだけ同じ学校や教室で教育を受ける方がよいという意見について、どう思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. そう思う | 4. そう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. わからない |
| 3. どちらかといえばそう思わない | |

問20 あなた(宛名の方)が将来、就労(または日中の活動)をするにあたって、どのようなことを望みますか。(主なものを2つまで○)

- | |
|--------------------------|
| 1. 一般企業(会社など)の障害者雇用の拡大 |
| 2. 官公庁(市役所など)の障害者雇用の拡大 |
| 3. 職業訓練機関※1の整備 |
| 4. 障害者就業・生活支援センター※2の充実 |
| 5. 障害の特性に応じた作業所などの充実 |
| 6. レクリエーション・学習活動を行う施設の充実 |
| 7. 入所施設の充実 |
| 8. わからない |
| 9. そのほか() |

- ※1 職業訓練機関：就労移行支援事業所などをはじめとして、障害のある人が数ヶ月から1年の訓練期間の間で、専門的な知識やスキルを学び、一般就労を目指す機関のこと。
- ※2 障害者就業・生活支援センター：障害者の雇用促進等に関する法律に規定される事業で、障害のある人の生活と仕事の両方の相談ができる機関のこと。

福祉サービス等の利用についてお聞きします。

問21 あなた(宛名の方)は障害支援区分の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|--------|--------|--------|-----------|
| 1. 区分1 | 3. 区分3 | 5. 区分5 | 7. 受けていない |
| 2. 区分2 | 4. 区分4 | 6. 区分6 | |

問22 あなたは以下の福祉サービスを利用していますか。過去1年以内に利用したことのあるサービスすべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 居宅介護 (ホームヘルプ) | 9. 児童発達支援 |
| 2. 重度訪問介護 | 10. 放課後等デイサービス |
| 3. 同行援護 | 11. 保育所等訪問支援 |
| 4. 行動援護 | 12. 医療型児童発達支援 |
| 5. 重度障害者等包括支援 | 13. 福祉型児童入所支援 |
| 6. 生活介護 | 14. 医療型児童入所支援 |
| 7. 短期入所 (ショートステイ) | 15. 居宅訪問型児童発達支援 |
| 8. 相談支援 | 16. とくにない |

問23 あなた(宛名の方)は以下のサービスを今後3年間で利用したいと思いますか。現在利用しているサービスも含め、これから利用したいと思うサービスすべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 居宅介護 (ホームヘルプ) | 10. 放課後等デイサービス |
| 2. 重度訪問介護 | 11. 保育所等訪問支援 |
| 3. 同行援護 | 12. 医療型児童発達支援 |
| 4. 行動援護 | 13. 福祉型児童入所支援 |
| 5. 重度障害者等包括支援 | 14. 医療型児童入所支援 |
| 6. 生活介護 | 15. 居宅訪問型児童発達支援 |
| 7. 短期入所 (ショートステイ) | 16. そのほか () |
| 8. 相談支援 | 17. とくにない |
| 9. 児童発達支援 | |

※別紙にそれぞれのサービス内容の説明があります。

問24 問23のサービス以外で、必要な支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 話し相手や地域の人の声かけ、訪問
2. ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス
3. 作業やレクリエーションを通じて自立を支援する通所サービス
4. 趣味やスポーツなどの集まり
5. 食事の配達サービス
6. 外出の時に自動車で送迎してくれるサービス
7. 買い物など外出に付き添ってくれるサービス
8. 自宅に来てくれる散髪や理美容サービス
9. そのほか ()
10. とくにない

問25 あなた(宛名の方)は、羽曳野市の障害福祉サービスについて、全体としてどのよう
に感じていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|------------|
| 1. 満足している | 4. 少し不満である |
| 2. だいたい満足している | 5. 大変不満である |
| 3. ふつう (特に不満はない) | 6. わからない |

権利擁護についてお聞きします。

問26 あなた(宛名の方)は、障害等があることで、ふだんの生活の中で差別を受けたりい
やな思いをしたことがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|------------------|
| 1. よくある | 3. いやな思いをしたことはない |
| 2. ときどきある | |

→ 問27にお進みください。

【問26で、「1. よくある」または「2. ときどきある」を選択した方にお聞きします。】

問27 あなた(宛名の方)は、障害等があることで、どのような場面で差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------|------------------------------------|
| 1. 学校の入学や進学するとき | 9. 飲食店を利用するとき |
| 2. 学校での生活や勉強 | 10. 電車やバスを利用するとき |
| 3. 仕事を探するとき | 11. 市役所の職員の対応 |
| 4. 仕事をしているとき | 12. 福祉事業所の職員の対応 |
| 5. 近所の人とのつきあい | 13. 外出するときに周りの人に見られ
たり、何か言われること |
| 6. 家族や親せきとのつきあい | 14. 道路や建物が利用しにくいこと |
| 7. 病院でみてもらうとき | 15. そのほか () |
| 8. 店で買い物をするとき | |

問28 障害等があることで、あなた(宛名の方)がふだんの生活でいやな思いをすることは、この5年程度の間に増えましたか、減りましたか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 増えた | 4. いやな思いをしたことはない |
| 2. あまりかわらない | 5. わからない |
| 3. 減った | |

災害時の避難等についてお聞きします。

問29 あなた(宛名の方)は、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------|---------|----------|
| 1. できる | 2. できない | 3. わからない |
|--------|---------|----------|

問30 あなた(宛名の方)は、地震や台風などの災害時に避難する場所を知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 知っている(決めている) | 2. 知らない(決めていない) |
|-----------------|-----------------|

問31 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所あなた(宛名の方)を助けてくれる人はいますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. いる | 2. いない | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

問32 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 投薬や治療が受けられない
2. 補装具の使用が困難になる (入手が困難になるなども含む)
3. 救助を求めることができない
4. 安全なところまで、迅速に避難することができない
5. 被害状況、避難場所などの情報が入手できない
6. 周囲とコミュニケーションがとれない
7. 避難場所の設備 (トイレ等) や生活環境が不安
8. そのほか ()
9. とくにない

問33 あなた(宛名の方)は、地震や台風などの災害時に備えて、日ごろから心がけていることや準備していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 震災時の非常持出品や備蓄品の中に、障害特性に応じた医薬品などを用意している
2. 避難所において医療が受けられるよう、病状や服薬などの情報を記録している
3. 震災時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人などの連絡先を把握している
4. 震災時や緊急時に支援してくれるよう、家族や知人などをお願いしている
5. 災害時に避難する避難場所までの移動ルート・方法などを確認している
6. 災害時に避難する避難場所の設備などを確認している
7. 地域の避難訓練に参加している
8. 災害時要援護者制度に登録している
9. そのほか ()
10. とくに何もしていない

障害福祉行政などについてお聞きします。

問34 あなた(宛名の方)は、羽曳野市が障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 思う | 4. あまり思わない |
| 2. やや思う | 5. 思わない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

問35 障害のある人にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は主なもの5つまで)

1. 何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実
2. サービス利用の手続きの簡素化
3. 行政からの福祉に関する情報提供の充実
4. 保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上
5. 参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動の充実
6. いろいろなボランティア活動の育成
7. 在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉のサービスの充実
8. リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備
9. 地域でともに学べる保育・教育内容の充実
10. 職業訓練の充実や働く場所の確保
11. 障害の有無にかかわらず、市民同士がふれあう機会や場の充実
12. 利用しやすい道路・建物などの整備・改善
13. 障害に配慮した公営住宅や、グループホームの整備など、生活の場の確保
14. 災害のときの避難誘導體制(緊急通報システムなど)の整備
15. 差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実
16. 本人や家族の積極性
17. そのほか ()

あなた(宛名の方)を主に介助・支援している人について

問36 あなた(宛名の方)を主に介助・支援しているのは誰ですか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------|------------------|
| 1. 父親 | 5. ヘルパーや福祉事業所の職員 |
| 2. 母親 | 6. ボランティア |
| 3. 祖父母 | 7. そのほか () |
| 4. きょうだい | 8. いない |

問37 現在、あなた(宛名の方)と一緒に暮らしている人は誰ですか。

(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 父親 | 6. グループホームにおける共同生活 |
| 2. 母親 | 7. 施設入所における共同生活 |
| 3. きょうだい | 8. 病院に入院している |
| 4. 祖父母 | 9. そのほか () |
| 5. 一人で暮らしている | |

問38 同居の家族の中で、あなた(宛名の方)以外に支援を必要とする方はいますか。

(〇は1つだけ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問39 羽曳野市の取り組みについて、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

あなたへの質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

次のページからは、あなたの家族への質問があります。

ちょうさひょう あてな かた かぞく き
調査票の宛名の方のご家族にお聞きします。

とい あてな ほんにん しょうがいとう はじ じ き なんさいごろ
問40 宛名のご本人の障害等が初めてわかった時期は何歳頃ですか。(〇は1つだけ)

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 出生時 | 5. 6～11歳 |
| 2. 1歳未満 | 6. 12～14歳 |
| 3. 1～2歳 | 7. 15歳以上 |
| 4. 3～5歳 | |

とい あてな ほんにん しょうがいとう うたが なん
問41 宛名のご本人の障害等がある疑いがわかったきっかけは何ですか。

(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 市の4か月児健康診査 | 8. 保健師の助言 |
| 2. 市の10か月児健康診査 | 9. 学校での健診 |
| 3. 市の1歳6か月児健康診査 | 10. 保育所や幼稚園の保育士・教員の助言 |
| 4. 市の2歳6か月児歯科健診 | 11. 学校の教員の助言 |
| 5. 市の3歳6か月児健康診査 | 12. 家族が気になる症状に気づいて |
| 6. 市の発達や障害に関する相談 | 13. そのほか () |
| 7. かかりつけ医の助言 | |

とい あてな ほんにん しょうがいとう しんだん はんてい う こころ かぞく かたがた
問42 宛名のご本人の障害等について診断・判定を受けた頃、ご家族の方々はどのような不安や悩み、困りごとがありましたか。(あてはまるものすべてに〇)

- | |
|---|
| 1. 介護などのために利用できる福祉サービスの種類・内容がわからなかった |
| 2. 通園施設等の療育施設が十分になかった |
| 3. 障害のことや療育について相談できる医療機関がわからなかった |
| 4. 障害のことや療育について相談できる相談窓口がわからなかった |
| 5. 医療費などの助成を受けられるかどうかわからなかった |
| 6. 仕事を続けられないなど仕事上の問題が生じた |
| 7. 成長段階に応じて、適切かつ継続的に支援を受けられるかわからなかった |
| 8. 適切な治療を受けられる医療機関が十分になかった |
| 9. 保健所・保健センターや医療機関に相談しても、適切な情報提供、助言・指導を受けられなかった |
| 10. そのほか () |

問43 成年後見制度についてご存じですか。(〇は1つだけ)

1. 制度利用している
2. 名前も内容も知っており、今後の制度利用を考えている
3. 名前も内容も知っているが、制度利用は考えていない
4. 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
5. 名前も内容も知らない

問44 次の言葉についてご存じですか。①～③のそれぞれについて、あてはまる番号に〇をしてください。(①～③のそれぞれに〇は1つずつ)

	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない
① 障害者差別解消法	1	2	3
② 合理的配慮	1	2	3
③ 災害時要援護者支援制度	1	2	3

問45 宛名のご本人に障害等があることで、ご家族の方々はふだんの生活のどのような場面で差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|-----------------|--------------------------------|
| 1. 学校の入学や進学するとき | 9. 飲食店を利用するとき |
| 2. 学校での生活や勉強 | 10. 電車やバスを利用するとき |
| 3. 仕事を探するとき | 11. 市役所の職員の対応 |
| 4. 仕事をしているとき | 12. 福祉事業所の職員の対応 |
| 5. 近所の人とのつきあい | 13. 外出するときに周りの人に見られたり、何か言われること |
| 6. 家族や親せきとのつきあい | 14. 道路や建物が利用しにくいこと |
| 7. 病院でみてもらうとき | 15. そのほか () |
| 8. 店で買い物をするとき | |

問46 宛名のご本人に障害等があることで、ご家族の方々がふだんの生活でいやな思いをすることは、この5年程度の間に増えましたか、減りましたか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|-------------|----------|------------------|
| 1. 増えた | 3. 減った | 5. いやな思いをしたことはない |
| 2. あまりかわらない | 4. わからない | |

以下の質問は、主な介助者が家族である場合にお答えください。

問47 宛名のご本人を主に介助・支援している方の年齢(令和2年9月1日現在)をお答えください。

さい
歳

問48 宛名のご本人を主に介助・支援している方は働いていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 働いていない | 4. 自営業、農林水産業 |
| 2. 常勤で働いている | 5. 自宅で内職している |
| 3. パート・アルバイト等で働いている | 6. そのほか () |

問49 宛名のご本人を主に介助・支援している方が困っているのは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 睡眠不足になりがち | 7. 働きたいが働けない |
| 2. 体が疲れている | 8. 身近に相談できる人がいない |
| 3. 気持ちや心が疲れている | 9. 通院や介助・支援等にかかる経済的 |
| 4. 自分のための時間が持てない | 負担が大きい |
| 5. 思うように外出ができない | 10. そのほか () |
| 6. 他の家族の世話ができない | 11. とくにない |

問50 宛名のご本人を主に介助・支援している方は、今後の生活においてどのような不安がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 自分の身体機能等の低下により、本人を介助・支援できなくなることが不安 |
| 2. 経済的に今の生活を続けられるかが不安 |
| 3. グループホームなど本人が自立して生活できる場が見つかるかが不安 |
| 4. 本人の代わりに契約行為等が行える成年後見人等をつけられるかが不安 |
| 5. 身近に相談できる人が見つかるかが不安 |
| 6. そのほか () |
| 7. とくにない |

問51 宛名のご本人を主に介助・支援している方は、ご本人に今後どのような暮らし方を望まれますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. ひとりで暮らす | 4. グループホームで暮らす |
| 2. 今の家族と一緒に暮らす | 5. 入所施設で暮らす |
| 3. 結婚して新しい家族と一緒に暮らす | 6. そのほか () |

問52 羽曳野市の今後の障害福祉施策の方向性やあり方に関するご意見や考えのほか、悩みや不安、心配事などがあれば、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

10月2日(金)までに同封の返信用封筒を使ってご返送ください。

3. 関係団体アンケート調査

羽曳野市障害福祉に関する アンケート調査（団体用）

羽曳野市では、現在、「第4期羽曳野市障害者計画」及び「第6期羽曳野市障害福祉計画・第2期羽曳野市障害児福祉計画」の策定作業を行っています。

つきましては、その一環として、関係する事業所等の皆さまの事業・活動の状況や、羽曳野市の障害福祉サービスに対するご意見、策定中の「第4期羽曳野市障害者計画」及び「第6期羽曳野市障害福祉計画・第2期羽曳野市障害児福祉計画」に生かすべき点などをお聞きするため、アンケート調査を実施させていただきたいと考えております。

大変お忙しい中、誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

羽曳野市

－ ご記入にあたって －

- それぞれ該当する項目に、簡潔にご記入ください。
- 質問に対するご意見がない場合は、その欄は空白のままにしてくださいか、「なし」とお書きください。
- 付属資料として既存の資料がある場合、添付してください。
- 本調査票は、マイクロソフト Word で作成しています。データ入力の方が都合のよい場合は、様式データを提供いたしますので、ご連絡ください。
- ご回答は、**11月5日(木)まで**に返信用封筒にて投函、またはメールにて送信してください。
データの場合は・・・Eメール：syogaifukushi@city.habikino.lg.jp

【問い合わせ先】

羽曳野市 保健福祉部 障害福祉課
電話番号：072-958-1111（内線1150）
メールアドレス：syogaifukushi@city.habikino.lg.jp

◎貴団体の名称とご記入者の氏名等についてお教えてください。

貴団体の名称		設立	年
ご記入者の氏名		電話番号	

I 貴団体の概要についてご記入ください。

1. 貴団体の主な活動をご記入ください。

主な活動内容	
--------	--

2. 貴団体における会員数をご記入ください。(令和2年10月1日現在)

会員数		人
-----	--	---

3. 貴団体が活動で現在課題になっていることはありますか。

4. その課題のために、今後貴団体が行いたいことや、周囲からの必要な支援を教えてください。

Ⅱ 福祉サービス等について

5. 障害のある人や子どもが利用するサービスや支援について、不足していることや今後充実を望むことを教えてください。
(〇〇のサービスを使いたい、〇〇があればよい…など)

6. 羽曳野市では、障害のある人や子どものニーズに対応した障害福祉サービス等の提供が充分されていると思いますか。充分でないと思う場合の原因は何と思いますか。(事業所の不足、利用手続き上の問題…など)

Ⅲ 発達支援、保育、教育（学校生活など）について

7. 障害のある子どもの発達支援や、保育、幼児教育、学校教育などについて困っていることはありますか？

- ↑困っていることについて、どのような支援が必要と思いますか？

Ⅳ 就労や社会参加について

8. 障害のある人の就労や社会参加について、困っていることはありますか。

↑困っていることについて、どのような支援が必要だと思いますか。

Ⅴ 地域住民組織による地域福祉活動への参加や協力関係について

9. 障害のある人が、地域の一員として地域活動に参加していくための支援に関し、具体的に取組まれていることや困っていることはありますか。

↑困っていることについて、どのような支援が必要だと思いますか。

Ⅵ 相談支援体制について

10. 障害のある人や子どもに関する相談支援の体制は充実していると思いますか。

11. 相談支援事業の充実のためにどういった取り組みが必要だと思えますか。

Ⅶ 住まいや生活環境について

12. 障害のある人や子どもが羽曳野市で暮らし続けるために、必要な場所やサービスで不足していることや、改善してほしい点、良い点がありましたら教えてください。

13. 災害や防災に関して、障害のある人や子どもへの対応や支援として、望むことを教えてください。

18. その他ご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒により、11月5日(木)までにご投函(またはメール送信)ください。

4. 事業者アンケート調査

羽曳野市障害福祉に関する アンケート調査（事業所用）

羽曳野市では、現在、「第4期羽曳野市障害者計画」及び「第6期羽曳野市障害福祉計画・第2期羽曳野市障害児福祉計画」の策定作業を行っています。

つきましては、その一環として、関係する事業所等の皆さまの事業・活動の状況や、羽曳野市の障害福祉サービスに対するご意見、策定中の「第4期羽曳野市障害者計画」及び「第6期羽曳野市障害福祉計画・第2期羽曳野市障害児福祉計画」に生かすべき点などをお聞きするため、アンケート調査を実施させていただきたいと考えております。

大変お忙しい中、誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

羽曳野市

－ ご記入にあたって －

- それぞれ該当する項目に、簡潔にご記入ください。
- 質問に対するご意見がない場合は、その欄は空白のままにしてください、「なし」とお書きください。
- 付属資料として既存の資料がある場合、添付してください。
- 本調査票は、マイクロソフト Word で作成しています。データ入力の方が都合のよい場合は、様式データを提供いたしますので、ご連絡ください。
- ご回答は、**11月5日（木）まで**に返信用封筒にて投函、またはメールにて送信してください。
データの場合は・・・Eメール：syogaifukushi@city.habikino.lg.jp

【問い合わせ先】

羽曳野市 保健福祉部 障害福祉課

電話番号：072-958-1111（内線1150）

メールアドレス：syogaifukushi@city.habikino.lg.jp

◎貴事業所の名称とご記入者の氏名等についてお教えてください。

貴事業所の名称		設立	年
ご記入者の氏名		電話番号	

1. 貴事業所の概要についてご記入ください。

(1) 貴事業所が提供されているサービスの種別と利用者の定員、実際の登録人数（令和2年10月1日現在）をお教えてください。

サービスの種別	定員 (人)	実際の登録数 (人)

(2) 貴事業所の職員数（役員を除く）をお教えてください。

常勤職員		非常勤職員（パート・契約職員など）	
(人)		(人)	
有資格者の資格名とその人数 (上記の内数)		有資格者の資格名とその人数 (上記の内数)	
資格名	人数	資格名	人数
	人		人
	人		人
	人		人

(3) 就労継続支援（A型）、就労移行支援の事業所様におうかがいします。今後3年間で、就労の可能性のある方の人数をお聞かせください（見込みで可）。

おおよそ	人程度
------	-----

(4) 施設入所支援、地域移行支援の事業者様におうかがいします。今後3年間で地域生活に移行する可能性のある方の人数をお聞かせください（見込みで可）。

おおよそ	人程度
------	-----

2. 貴事業所の利用者様の状況についてご記入ください。

■利用者様の人数がどのように変化すると見込んでいますか。 (○は1つ)

1. 増加すると見込んでいる 3. 減少すると見込んでいる
2. 横ばいであると見込んでいる 4. わからない

■上記のようにお考えの理由を教えてください。

■利用者様のお困りごと、よくある要望・相談内容等を教えてください。

【利用者様のお困りごと】

【よくある要望・相談内容】

■上記に対し、特に配慮されていることがあれば、ご記入ください。

3. 貴事業所の運営・経営についてご記入ください。

■日常のサービス提供上の課題・改善すべき点・お困りごと等。

■事業所の経営上の課題・お困りごと等。

■新規事業所・新規サービスの展開、定員拡大等の予定について
(いつごろ、どんな事業を)

- ・なし
- ・あり (⇒具体的に：

)

4. 以下の分野について、ご意見をお聞きます。

(1) 療育、保健・医療、教育の充実

障害のある人（子ども）の療育、保健・医療、教育について

■上記に関する現状や課題についてお聞かせください。また、それら現状や課題を踏まえた、今後望まれる取組方策や方向性についてお聞かせください。

【現状や課題】

【今後の取組方策や方向性】

(2) 雇用・就労の支援

就労支援全般（就労継続支援A・B、就労定着支援、就労移行支援等）のあり方について

■上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性についてお聞かせください。

【現状や課題】

【今後の取組方策や方向性】

■障害のある人が働くにあたり、障害のある人が、事業所や一緒に働く人に希望することは何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|-------------------------------|
| 1. 給料・工賃の向上 | 9. 職場での人間関係の構築 |
| 2. 身分の保証 | 10. 職場での障害者差別・偏見の解消 |
| 3. 障害者にあった仕事内容 | 11. 職場での障害に対する理解 |
| 4. 休みの取りやすさ | 12. 在宅勤務の拡充 |
| 5. 通勤の利便性 | 13. 就労支援機関と職場の連携
(就労後フォロー) |
| 6. 短時間勤務や勤務日数等の配慮 | 14. その他() |
| 7. バリアフリー設備 | 15. 特にない |
| 8. 仕事を教えてくれる人の存在 | |

（３）福祉サービス等の充実

障害のある人とその家族の地域生活を支援する福祉サービスのあり方や、障害のある人の福祉サービスに対するニーズの動向などについて

■上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方や方向性についてお聞かせください。

【現状や課題】

【今後の取組方や方向性】

（４）地域住民組織との関係性の構築

地域住民組織による地域福祉活動に障害のある方が参加していけるように取り組まれている（取り組みたいと考える）地域住民組織への協力や地域活動への参加について

■上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方や方向性についてお聞かせください。

【現状や課題】

【今後の取組方や方向性】

（５）相談支援の充実

相談支援体制全般（相談支援事業所、基幹相談支援センターなど）のあり方について

■上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性についてお聞かせください。

【現状や課題】

【今後の取組方策や方向性】

（６）総合的な推進

障害に関する理解の促進や障害のある人へのボランティア活動の推進、障害のある人の地域社会への参加、情報提供・相談支援について

■上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性についてお聞かせください。

【現状や課題】

【今後の取組方策や方向性】

（7）その他、障害者福祉施策全般について

■上記に関する現状や課題、今後望まれる取組方策や方向性についてお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒により、11月5日（木）までにご投函（またはメール送信）ください。

羽曳野市
障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画の
策定等にかかるアンケート調査結果報告書
令和3年3月

発行 羽曳野市保健福祉部障害福祉課
〒583-8585 大阪府羽曳野市誉田4-1-1
電話：072-958-1111
FAX：072-957-1238
